

履修要項・シラバス

2021

目 次

I 履修要項

I-1 本学の教育理念	2
I-2 本学の教育目的	2
I-3 看護学科の教育目的	2
I-4 栄養学科の教育目的	2
I-5 本学の教育目標	2
I-6 札幌保健医療大学の三方針	
1) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	3
2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の基本方針）	4
3) アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）	5
I-7 履修について	
1) 学期	6
2) 修業年限・在学年限	6
3) 単位制・学年制	6
4) 授業科目	6
5) 科目の履修および登録	7
I-8 授業について	
1) 授業時間	8
2) 休講・補講・集中講義	8
3) 欠席の取扱い	9
4) 天候による非常事態への対応	10
5) 授業アンケート	10
I-9 試験について	
1) 試験の種類・手続き	11
2) 受験資格	12
3) 試験の方法	12
4) 試験時間	12
5) 受験心得	12
6) 不正行為	13
I-10 単位・成績について	
1) 単位について	13
2) 単位修得に関する事項	14
3) 成績通知	15

II 看護学科

II-1 看護学科の履修要件（先修条件）

1) 実習の先修条件	18
2) 臨地実習における追実習と再実習について	19
3) 実習以外の科目の先修条件	20
4) その他の履修要件について	20

II-2 看護学科の卒業要件・進級要件

1) 卒業要件	21
2) 進級要件	21

II-3 看護学科の資格の取得

1) 看護師国家試験受験資格	22
2) 保健師国家試験受験資格（選抜制）	22
3) 養護教諭二種免許	23

II-4 教育課程表（卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧）

II-5 科目配置表

II-6 オフィスアワー

II-7 2021年度学事暦

III シラバス

授業科目名と担当者一覧	32
1年次	34
2年次	109
3年次	173
4年次	219

IV 規程（学則・教務に関する諸規程）

札幌保健医療大学学則	260
札幌保健医療大学保健医療学部履修規程	273
札幌保健医療大学保健医療学部履修に関する細則	282
札幌保健医療大学試験規程	287
札幌保健医療大学における成績評価の異議申し立てに関する規程	289
札幌保健医療大学既修得単位認定規程	293

I 履修要項

I-1 本学の教育理念

本学は、吉田学園の建学の精神に込められた「豊かな人間性」と「職業人としての基礎能力」をもつ人財を育成する伝統を継承しています。

本学は、学生一人ひとりの人間力として、「豊かな感性」「高潔な精神」「確かな知力」を養い、これらの人間的調和と自己成長をはかるとともに、「他者と共存」できる医療人を育成します。

この教育理念の実現によって、社会から必要とされる人財を地域に輩出することで、保健医療福祉の充実・向上に貢献します。

◆本学の教育がめざす、人間力とは、

- ・豊かな感性：人の心に寄り添い、他者との思いや苦悩を汲み取る力
- ・高潔な精神：真・善を追求し、公共の使命と責任を全うする意志力
- ・確かな知力：人間的な判断と行動の知的拠り所となる力
- ・他者との共存：多様な文化や社会、個性ある互いを認め合い、他者と共に生きる力

I-2 本学の教育目的

本学の教育理念である「人間力教育」を根幹に、「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」を培い、「他者との共存」ができる人間力を有し、多様化する保健医療の進展と地域のニーズに対応できる実践力を備えるとともに、将来にわたり保健医療の専門性を追求し続ける保健医療専門職者を育成する。

I-3 看護学科の教育目的

看護学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、看護学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、看護を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する看護専門職者を育成する。

I-4 栄養学科の教育目的

栄養学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、栄養学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、栄養の管理・指導を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する栄養専門職者を育成する。

I-5 本学の教育目標

- (1) 人間力を涵養し、社会の一員としての社会的態度と行動をとることができる人材を育成する。
- (2) 生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳と多様な価値観を尊重できる人材を育成する。
- (3) 人間と環境と健康の相互作用を理解し、健康を社会的視点から捉えることができる人材を育成する。
- (4) 保健医療の専門職として求められる知識・技術・態度を有し、実践力のある人材を育成する。
- (5) 社会生活や保健医療福祉で関わる人々との連携および協働できる人材を育成する。
- (6) 保健医療福祉の諸課題への探求心を持ち、将来にわたり学修し、成長し続ける人材を育成する。

I-6 札幌保健医療大学の三方針

1) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学において卒業時に修得できる学位の名称は、次のとおりです。

学科	学位
看護学科	学士（看護学）
栄養学科	学士（栄養学）

本学の保健医療学部看護学科・栄養学科は、教育理念・目的をふまえ、学部教育目的の「人間と自然、多様な文化や社会に関する知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「専門分野の基礎知識・技術・態度」「多職種との連携協働力」「生涯学習力」の6つの資質・能力のもと、下記の到達目標に応じた看護師、管理栄養士の専門職業人としての人間的基盤の形成および、各専門的能力を修得するとともに各国家試験受験資格の要件となる単位を含む124単位以上の修得を求めます。これらの方針を満たした者は、看護学科においては学士（看護学）、栄養学科においては学士（栄養学）の学位を授与します。

【看護学科】

- (1) 職業人として、日本語および英語の運用能力、ならびに情報リテラシーの基礎を身につけ、これらを用いて論理的な分析と思考・判断および表現する能力を有している。
- (2) 自己の良心と社会規範に従い、社会の一員としての責任感のもとに自己を統制し行動できるとともに、社会のために積極的に関与できる態度を有している。
- (3) 生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための倫理的態度を有している。
- (4) 人間と生活、心身の健康、社会の直面する諸課題についての基礎知識を習得し、人間・健康・社会の関係を体系的に理解する能力を有している。
- (5) 看護の目的と対象となる個人・家族・集団の特性を理解し、健康課題の特定と解決に必要な看護実践ができる基礎的能力を有している。
- (6) 保健医療福祉体制のもとで、看護職と他職種の役割について認識し、多職種とチーム連携・協働するために必要な基礎的能力を有している。
- (7) 自己の看護能力の向上のために、最新の知識・技術を学び続ける学修態度と看護の課題を発見し、課題を解決する能力を有している。

【栄養学科】

- (1) 職業人として、日本語および英語の運用能力、ならびに情報リテラシーの基礎を身につけ、これらを用いて論理的な分析と思考・判断および表現する能力を有している。
- (2) 自己の良心と社会規範に従い、社会の一員としての責任感のもとに自己を統制し行動できるとともに、社会のために積極的に関与できる態度を有している。
- (3) 生命への畏敬の念と人間の尊厳を守るための倫理的態度を有している。
- (4) 社会や環境の人間への影響、および健康との相互関係について基礎的な知識を有し、人間の生活の機構、環境の変化に対する機構、ならびに疾患の成因から治療、保健医療福祉体制について基礎的な知識を有している。
- (5) 栄養学、食品学の基礎的な知識・技術を有し、あらゆる健康レベルおよび全てのライフステージにある人々を対象に、栄養と食生活に関する課題を評価・判定し、適切な栄養・食事管理を総合的にマネジメントする基礎的な能力を有している。
- (6) 地域社会や職域等における健康・栄養問題とその要因を総合的に評価および判定し、効果的な教育や支援活動を実践できる基礎的な能力を有している。
- (7) 望ましい栄養状態、食生活の改善・管理を目的に、関連職種と連携・協働する基礎的な能力を有している。
- (8) 生涯にわたって自ら専門知識や技術の向上をめざして、自己研鑽する能力を有している。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の基本方針）

人間は常に環境の影響を受け、健康はその相互作用によって変化します。「保健医療活動」は、健康の保持・増進、病気の予防、健康の回復を目的に人と環境に働きかけることで、最適な健康状態で生活が維持できるように特定専門分野の知識と技術をもって支援することです。

本学の教育課程は、保健医療における共通概念「人間」「環境」「健康」「保健医療活動」とその関係性を枠組みに、「看護」「栄養と食」に係る専門職業人の育成をめざしています。



本学は、教育課程の基本方針のもと、社会人としての基盤を形成する「基礎教育科目」群からなる基礎教育と看護職あるいは管理栄養士職としての専門職業人の基盤となる「専門基礎科目」「専門科目」群による専門教育で編成されています。

【看護学科】

●基礎教育

基礎教育は、本学部の共通教育課程として、看護学科と栄養学科において共通科目（一部除く）をもって構成されています。基礎教育課程は保健医療の共通概念である「人間」と「環境」を中心に、「学習と思考力」「言語と表現力」「人間と社会」の科目群から構成されています。

●専門教育

看護職としての基盤形成となる「専門基礎科目」および「専門科目」から編成されています。

- (1) 専門基礎科目では、基礎教育科目の学修を活用しながら、看護学の理論と実践の支持基盤として「人間」「環境」「健康」の観点から保健医療福祉に関する学修をします。「個人と健康」「社会と健康」の科目群から構成されています。
- (2) 専門科目では、基礎教育科目と専門基礎科目を基盤にして、看護学の理論と実践を体系的かつ系統的に学修します。「看護の基本」「人間の発達段階と看護活動」「看護の統合と探究」および「公衆衛生看護学」の科目群から構成されています。

【栄養学科】

●基礎教育

基礎教育は、本学部の共通教育課程として、看護学科と栄養学科において共通科目（一部除く）をもって構成されています。基礎教育課程は保健医療の共通概念である「人間」と「環境」を中心に、「学習と思考力」「言語と表現力」「人間と社会」の科目群から構成されています。

●専門教育

管理栄養士職としての基盤形成となる「専門基礎科目」および「専門科目」から編成されています。

- (1) 専門基礎科目では、基礎教育科目の学修を活用しながら、専門科目を修得するうえでの基礎となる知識・技術の修得を目的として系統的に学修します。「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」の科目群から構成されています。
- (2) 専門科目では、基礎教育科目と専門基礎科目を基盤として、管理栄養士に求められる能力を身につけるために、体系的・実践的に学修します。「管理栄養士論」「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」「総合演習」「統合科目」「臨地実習」の科目群から構成されています。

3) アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）

本学は、保健医療（看護学、栄養学）の分野における学修と実践活動への意欲ならびに、それらを実現できる適性と能力を備え、特に本学への入学を希望する人を求めます。

- （１）確かな学力
基礎的な知識をもち、学習意欲が旺盛で、積極的に課題解決に取り組む人。
- （２）保健医療への関心
人々の健康と生活を支える保健医療への興味・関心をもっている人。
- （３）豊かな社会性
社会の一員として責任をもち、相手の立場になって考え、様々な人と協力し合いながら行動できる人。
- （４）強い向上心
保健医療に携わる専門職業人を通して社会の役に立ちたいという意欲をもち、生涯にわたり自己の向上に努力する人。

I-7 履修について

1) 学期

学年を分けて、次の2学期とします。

前期	後期
4月1日～9月30日	10月1日～3月31日

2) 修業年限・在学年限

●修業年限：4年（学則第14条）

卒業に必要な単位数を修得しても4年以上在学しなければ卒業できません。

●在学年限：8年（学則第15条）

8年を超えて在学することができません。8年で卒業できない場合は、除籍となります。

●休学期間：1年（学則第34条）

ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができます。通算して4年を超えることができません。

3) 単位制・学年制

単位制の入学生	2015年度（平成27年度）以前入学生
学年制の入学生	2016年度（平成28年度）以降入学生

4) 授業科目

授業科目は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目および教職に関する科目になります。また、所定の単位数と授業回数が定められており、以下のとおり区分されています。

●必修科目：

卒業までに単位を修得しなければならない科目です。

●選択科目：

卒業までに定められた各区分の必要単位数以上を修得しなければならない科目です。

●選択必修科目：（栄養学科のみ）

選択必修科目として指定された科目の中から、必要単位数を修得しなければならない科目です。

5) 科目の履修および登録

●履修登録について

- (1) 履修をする科目は、履修登録をしなければなりません。各年次4月の履修登録期間内に1年分を本人が登録します。
- (2) 期間内に履修登録しなかった場合の履修は認められません。
- (3) 各学期の履修訂正期間に履修科目の変更（追加・取消）を行うことができます。
- (4) 在学する学年より上位学年に配当されている科目を履修登録することはできません。
- (5) 休学中または学費未納の学生は、履修登録および受講、試験の受験はできません。
- (6) 同一曜日で同一時限に2科目以上を重複して履修登録することはできません。
- (7) 前年度までに履修し、単位を修得した科目を再度履修登録することはできません。
- (8) 1年間で履修登録可能な単位数には、上限があります（CAP制）。
- (9) 当該年度に単位を修得できず、翌年度以降に再度履修することを再履修といいます。

●CAP制について

大学で学修する講義・演習・実習・実験などの各授業科目には単位数が定められており、単位を修得するためには、大学における授業に加えて予習・復習からなる自己学習が必要です（p.13を参照）。

本学では、学修すべき授業科目を精選して十分な学修時間を確保し、授業内容を深く修得できることを目的にCAP制を導入しています。CAP制とは、各学年が履修できる一年間の総単位数に上限を設定することで、各学科のディプロマ・ポリシーを達成するための学修を計画的に進められるよう適切に授業科目を履修できることを目的とした制度です。1年間の履修科目登録単位の上限は、学科により異なります。また、4月に履修相談会を実施します。

なお、再履修科目はCAP制の対象外となります。

項目	看護学科	栄養学科
履修科目登録単位の上限 (1年間)	40 単位	45 単位
CAP制対象外の科目	・情報管理論 ・スポーツ理論 ・再履修科目	・栄養教諭一種免許取得に必要な科目 ・再履修科目
卒業要件単位に含まれない科目	・情報管理論 ・スポーツ理論	・栄養教諭一種免許取得に必要な科目

※編入生、転学科した学生は、「CAP制」の対象外になります。

I-8 授業について

1) 授業時間

授業時間は、1 時限 90 分を原則としています。

時 限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
授業時間	9:30～11:00	11:10～12:40	13:30～15:00	15:10～16:40	16:50～18:20

2) 休講・補講・集中講義

休講、補講、講義変更等の連絡は、掲示板でお知らせします。

休 講	担当教員等の都合により予定されていた授業が行われないことを「休講」といいます。
補 講	休講等により授業時間が不足した場合、授業回数を補うために「補講」が行われます。
授業振替	授業時間数確保のために、例えば月曜日の時間割が平日の他の曜日に行われる場合があります。これを「授業振替」といいます。
集中講義	科目によっては、通常の時間割以外のある一定期間（長期休業日等）に集中して授業を行います。これを「集中講義」といいます。

3) 欠席の取扱い

- (1) 欠席により、授業への出席回数不足が生じると、失格となります。
- (2) 授業を欠席した場合は、欠席日を含めた原則 5 日以内に授業欠席届を学務課に提出してください。
- (3) 遅刻、早退などにより授業を 60 分以上受講しない場合は、欠席として取り扱います。
- (4) 下記の欠席事由に該当し、かつ必要な手続きを行った場合は、「大学が認める特段の理由」による欠席として扱われ、補講等の配慮を受けることができます。その際は、理由を明確にする証明書類を授業欠席届に添付のうえ、欠席日を含めた原則 5 日以内に学務課に提出してください。
- (5) 試験を欠席した場合は、p. 11 を確認してください。
- (6) 実習を欠席した場合は、p. 19 を確認してください。
- (7) その他、疾病等のやむを得ない事由で長期欠席（連続 7 日以上欠席）する場合は、長期欠席届を学務課へ提出してください。
- (8) 「大学が認める特段の理由」以外の授業の欠席については、特段の指示がない限り病院等の診断書は不要です。

大学が認める特段の理由による欠席の適用範囲

欠席事由	許可日数		必要添付書類等
災害、公共交通機関の障害	当該日のみ		・被災（罹災）証明書 ・事故証明書 ・遅延証明書
忌引き	配偶者	7 日以内	・新聞の死亡欄又は葬儀礼状等 ・保護者による証明書（要押印）
	一親等 父母、子	7 日以内	
	二親等 祖父母、兄弟姉妹	3 日以内	
インフルエンザ等の感染症による出席停止 （学生便覧参照）	医師の診断書により、出席停止を必要とされた期間に限る		・医師の診断書 ※病名、受診日および出席停止期間（自宅療養に要する日数または出席停止解除日）の記載が必要。 ・登校許可証明書（感染症用）等
その他教務委員会が認めた事由	欠席事由を証明できる書類等から判断できる期間に限る		・欠席事由を証明できる書類等
【提出期限】			
① 授業の場合：欠席日を含めた原則 5 日以内に「授業欠席届」に必要書類を添付し、学務課に提出してください。			
② 試験の場合：指定された日時までに「追試験受験願」に必要書類を添付し、学務課に提出してください。			

※新型コロナウイルス感染予防に関わる欠席は、大学 HP「新型コロナウイルス感染症への本学における対応について」を確認してください。

4) 天候による非常事態への対応

悪天候が予想される場合は、必ず下記の時刻に天気予報を確認してください。なお、休講措置については、確認の意味から学生緊急メールに一斉送信します。メールが受信できない学生は、必ず事前に設定を行っておいてください。

(1) 学生の休講措置の条件

午前7時および午前11時の時点で石狩中部（札幌市、江別市）または石狩全域に次のいずれかの特別警報または警報が発令された場合は、午前および午後の授業を休講にします。

確認時刻	休講する時限
午前7時	1・2時限の授業を休講にします。
午前11時	3・4・5時限の授業を休講にします。

(2) 発令警報の種類

- ①「暴風特別警報」または「大雨特別警報」が発令されている場合
- ②「暴風警報」と「大雨警報」が同時発令されている場合
- ③「大雪特別警報」または「大雪警報」が発令されている場合
- ④「暴風雪特別警報」または「暴風雪警報」が発令されている場合

※1. 注意報は該当しません。

※2. 日本気象協会では、石狩全域を次の3つに分類しています。

- ・石狩北部【石狩市、当別町、新篠津村】
- ・石狩中部【札幌市、江別市】
- ・石狩南部【千歳市、恵庭市、北広島市】

(3) 地震等の災害が発生した時に一斉に緊急メールを送信するので、その指示に従ってください。

5) 授業アンケート

履修しているすべての科目について、授業アンケートを行います。アンケートの結果は、データ化して記述式回答とともに各科目担当者へフィードバックし、今後の授業改善および組織的教育改善に活用します。集計結果は、掲示および図書館にて開示します。

I-9 試験について

1) 試験の種類・手続き

(1) 定期試験

原則として、学期末（前期末と後期末）の指定された期間に実施する試験です。ただし、学期途中で終了した科目については、学期末以外の時期に実施することがあります。

(2) 追試験

正当な理由によって、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）を欠席した場合に実施する試験です。

評点の上限は、定期試験と同様の扱いとします。届け出をし、教務委員会に認められた場合、各科目1回限り受験することができます。

【追試験受験手続きの流れ】

①「大学が認める特段の理由」による欠席（p. 9の欠席事由に該当）

理由を明らかにする証明書類を「追試験受験願」に添付のうえ、指定された日時までに本人が学務課に提出		教務委員会で認められた場合	<u>無料</u> で受験できます
		教務委員会で認められなかった場合	追試験を受験できません

②「やむを得ない事由」による欠席

理由を明らかにする証明書類を「追試験受験願」に添付のうえ、指定された日時までに本人が学務課に提出		教務委員会で認められた場合	<u>1科目 300円</u> で受験できます
		教務委員会で認められなかった場合	追試験を受験できません

※体調不良で定期試験を欠席した場合は、必ず病院等を受診し、診断書を追試験受験願に添付のうえ、学務課へ届け出てください。

診断書には、病名のほか、受診日および出席停止期間（自宅療養に要する日数または出席停止解除日）の記載が必要です。

受診日と診断結果、病名のみ診断書、また病院等を受診せず、市販薬の領収書等を添付しても証明書としては認められません。

(3) 再試験

定期試験において不合格となり、再試験の該当となった場合は、指定された日時までに学務課窓口にて、本人が受験手続きを行ってください。

受験料は1科目 2,000円です。

再試験は、原則として各科目1回限り受験することができます。

なお、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）を正当な理由なく欠席した場合は、再試験を受験することはできません。

2) 受験資格

以下のすべてに該当しなければ試験を受けることはできません。受験資格のない者が試験を受けても単位は与えられません。

- (1) 履修登録をしていること。
- (2) 講義、演習、実習および実技における授業出席時間数が、その授業実施時間数の3分の2以上であること。

授業で失格になる欠席回数	
8回実施科目の場合	4回の欠席で受験資格を失います。
15回実施科目の場合	6回の欠席で受験資格を失います。
30回実施科目の場合	11回の欠席で受験資格を失います。

- (3) 授業料その他納付金を納めていること。また、追・再試験の場合は、必要な手続きをしていること。
- (4) 学生証を提示していること。また、追・再試験の場合は、受験許可書または受験票とともに提示すること。

3) 試験の方法

試験は、以下のいずれかの方法で行います。

試験形式	①筆記試験、②口述試験、③レポート試験、④実技試験 ※各科目の試験方法は、シラバスの「評価方法・基準」にて確認してください。
------	---

4) 試験時間

試験の時間割は、必ず掲示で確認してください。

試験時間は、原則1時限60分ですが、科目によっては90分の場合もあります。なお、天候等により試験時間の開始時間が遅くなる場合があります。

時 限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
試験時間	9:30～10:30	11:00～12:00	13:00～14:00	14:30～15:30	16:00～17:00

5) 受験心得

受験にあたっては、下記の注意事項に十分留意のうえ、試験に臨んでください。

また、体調管理を行い、早めに登校するよう心がけてください。特に冬は交通機関の乱れが予想されますので注意が必要です。

- (1) 受験者は、必ず学生証を携行し、試験の際は、試験監督者の見やすい通路側の机の上に提示しなければなりません。
また、追・再試験の場合は、それぞれの受験許可書または受験票も必ず提示してください。
- (2) 学生証を紛失または忘れた場合は、学務課で仮学生証を発行します。仮学生証は、発行当日のみ有効で発行手数料は、300円です。

- (3) 指定された座席で受験してください。教室に座席表が貼られるので確認のうえ着席してください。
- (4) 試験開始10分前には着席してください。
- (5) 試験開始後20分以上遅刻した者は、受験を認めません。遅刻による試験時間の延長も行いません。
- (6) 試験開始後30分が経過するまでは、退室を認めません。
- (7) 試験場における物品の貸借および私語を禁じます。
- (8) 答案用紙は、原則として再配付しません。
- (9) 机上には、学生証(追・再試験受験票)、シャープペンシル、鉛筆、消しゴム、時計(時計機能だけのもの)、ハンカチ、目薬、特に持ち込みを許可されたもの置くことができ、ティッシュペーパーの使用は、申し出があった場合のみ、中身だけを机の上に置くことができる。それ以外の持ち物は、すべて椅子の下に置いてください。
※それ以外に必要なものがある場合は必ず申し出ること。
- (10) 携帯電話や音の出る機器は、電源を切り、かばんに入れてください。
- (11) 答案用紙を提出する場合は、試験監督者の指示する場所に提出してください。
- (12) 体調不良、トイレに行きたい場合などは、挙手をして試験監督者に申し出てください。ただし、原則再入室はできません。
- (13) その他、試験場においては、すべて試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は、不正行為と同様に扱います。
- (14) 解答用紙には、必ず学籍番号と氏名を記載してください。

6) 不正行為

不正行為または疑わしい行為(試験監督者の指示に従わない者も含む)は、即時退室を命じ、それ以降の受験を停止するとともに、当該学期の履修科目のすべてを不合格とし、かつ学則第46条により、懲戒処分を行います。

I-10 単位・成績について

1) 単位について

単位とは、科目を修得するために必要な学習量を示すもので、単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとしています。例えば、1単位の講義の単位を修得するためには、大学における15時間の講義に加えて30時間の予習・復習の自己学習が伴った45時間の学修をし、授業実施時間数の3分の2以上出席して試験等の評価を受けて合格した場合に授与されます。本学では90分の授業で2時間相当の授業時間とみなしており、90分の講義に対して2時間の予習と2時間の復習が必要です。授業時間だけではなく、自学自習時間として、予習・復習を行う必要がありますので、以下に例を記載します。

(1) 授業形態ごとの単位の計算方法

単位数は、各授業科目に定められており、授業形態によって必要な学習時間が異なります。本学では、次の基準により計算しています(学則第24条)。

講義・演習	講義と演習は、15時間から30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とします。
実験・実習・実技	実験・実習および実技は、45時間をもって1単位とします。
卒業研究等	卒業研究等の授業科目は、その学修の成果を考慮して単位数を定めます。

(2) 単位と自学自習時間について

区分	具体例	必要学修時間	授業時間	授業時間以外の 自学自習時間
講義	2単位の講義科目を修得するための学修時間	90時間 (45時間×2)	30時間 (2時間×15回)	60時間 (4時間×15回)
演習	1単位の演習科目を修得するための学修時間	45時間 (45時間×1)	30時間 (2時間×15回)	15時間 (1時間×15回)
実習	1単位の実習科目を修得するための学修時間	45時間 (45時間×1)	45時間 (3時間×15回)	—

2) 単位修得に関する事項

(1) 成績評価

- ① 成績評点は100点満点とし、60点以上を合格、60点未満を不合格とします。
- ② 成績は、秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(60点未満)で表示され、可以上を合格とします。
- ③ 追試験の評価は100点満点とし、再試験の評価上限は60点とします。
- ④ 修得した科目(単位)の成績評価は、成績表に記載されます。成績表には、過去に修得したすべての科目の成績が記載されています。

(2) GPA制度

本学はGPA制度を導入しています。GPA制度とは、学生が履修登録した全科目の成績評価、評定に対して点数(グレード・ポイント(以下GP))を設定し、履修登録科目単位数を基に平均値を算出し、履修計画や学修指導、保健師国家試験受験資格希望者選抜、就職活動の際の学校推薦者選抜などに役立てるものです。

GPAの最高値は「4.00」、最低値は「0.00」となります。

① 成績評価とGP

評価区分	評定(英語表記)	付加するGP
100～90点	秀(S)	4
89～80点	優(A)	3
79～70点	良(B)	2
69～60点	可(C)	1
60点未満(59～0点)	不可(D)	0
出席時間数の 2/3に満たない者	失格(P)	0
学期途中での休学、退学	評定不能(W)	0
既修得単位認定科目	認定(N)	GPAの対象としない

② GPAの算出方法

上表の「付加するGP」を基に計算を行います。

$$GPA = \frac{(\text{「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1)}{\text{総履修登録単位数}}$$

※算出された数値の小数点第3位以下は切り捨てる。

③ GPAに関する注意事項

- a) 転学科（栄養学科）については、単位認定した科目の成績は「認定」となることから、GPA算出の対象になりません。
- b) 履修訂正期間内に取り消し手続きを行わなかった場合や履修放棄した場合などは、不合格科目もGPAの算出に含まれます。履修をやめた科目や不必要な科目は、必ず履修登録の訂正期間に取り消しの手続きを行ってください。
- c) 累積成績に基づくGPAを算出する際に、再履修科目が合格した場合は、当該科目を履修する以前に不合格となった科目（単位数）は計算式（分母）から除きます。
- d) 入学前に修得した単位のうち、本学で既修得単位と認定した科目は、GPAの対象にはなりません。

(3) 他大学等における科目の履修等（学則第26条参照）

- ① 教育上有益と認める時は、他大学等との協議に基づき、当該他大学等の科目を履修することができます。修得した単位は、60単位を限度として卒業要件単位として認められる場合があります。

② 入学前の既修得単位の認定（学則第28条参照）

入学する前の大学または短期大学等において修得した単位について、審査を受け承認されると本学の科目として単位が認定されます。なお、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えることはできません。詳細は、「既修得単位認定規程」をご覧ください。

(4) 転学科における科目の履修等

転学科前に在籍していた学科で履修した科目の単位認定は、該当科目において行われます。2年次以降の科目の履修については、担任または学務課で相談してください。

3) 成績通知

最終評価が記載された成績表は、学期末の試験終了後に学生および保護者に通知します。

保護者への送付時期

- 前期：9月下旬
- 後期：3月下旬

Ⅱ 看護学科

Ⅱ-1 看護学科の履修要件（先修条件）

1) 実習の先修条件

臨地実習に係る科目を履修するためには、あらかじめ単位を修得しておかなければならない科目があり、『先修条件』として次のとおり細則で定めています。

臨地実習を受講する際は、各実習のオリエンテーションで「実習要項」を配付しますので、熟読して臨んでください。臨地実習先（病院など）や時期は、科目によって異なります。

【2013 年度及び 2014 年度入学生に適用】

科 目	先 修 条 件
看護基礎実習Ⅱ	看護基礎実習Ⅰ及び看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している成人看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅱ	
高齢者看護実習	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している高齢者看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
小児看護実習	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している小児看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している母性看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
精神看護実習	4年次前期までに開講している精神看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
在宅看護実習	4年次前期までに開講している在宅看護論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	成人看護実習、高齢者看護実習、小児看護実習、母性看護実習の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ	精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び4年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅱ	
公衆衛生看護実習Ⅲ	

【2015 年度以降入学生に適用】

先修条件のほか、専門基礎科目の必修科目については、その科目の開講年度に単位を修得していなければ、次年度開講科目の履修ができません。

科 目	先 修 条 件
看護基礎実習Ⅱ	2年次前期までに開講している専門基礎科目の必修科目すべての単位を修得していること。 看護基礎実習Ⅰ及び看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、援助関係論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。 3年次前期に開講している成人看護活動論Ⅲの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅱ	
高齢者看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。 3年次前期に開講している高齢者看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。

科 目	先 修 条 件
小児看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。 3年次前期に開講している小児看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。 3年次前期に開講している母性看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
精神看護実習	4年次前期までに開講している精神看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
在宅看護実習	3年次の臨地実習すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。 4年次前期までに開講している在宅看護論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	3年次の臨地実習すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ	精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び4年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅱ	
公衆衛生看護実習Ⅲ	

2) 臨地実習における追実習と再実習について

(追実習)

臨地実習における追実習とは、「大学が認める特段の理由による欠席」等により、やむを得ず実習を欠席した場合、当該科目を修得するために行う実習をいいます。

- ・追実習を受けようとする学生は、「授業欠席届」と「欠席理由を明らかにする証明書類」を当該科目の実習終了後5日以内に学務課に提出する。
- ・所定の手続きにより教務委員会で認められた場合、各科目1回限り実習することができる。
- ・追実習は原則として履修登録した年度内の全実習終了後、実習施設との調整可能な期間に実施する。ただし、調整が不可能な場合は次年度に実施する。
- ・追実習の期間および日程、内容は当該科目欠席日数および学習状況により決定する。
- ・単位認定のためには、原則3分の2以上の出席が必要である。
- ・評価は、通常の単位認定評価と同様とする。

(再実習)

臨地実習における再実習とは、不合格(60点未満)となった実習科目について当該科目を修得するために行う実習をいいます。

- ・再実習は、原則履修登録した当該年度内に行うことはできない。
- ・当該年度内に単位が修得できなかった実習科目は、次年度に再履修登録を行い実習に臨まなければならない。
- ・単位認定のためには、原則3分の2以上の出席が必要である。
- ・評価は、通常の単位認定評価と同様とする。

3) 実習以外の科目の先修条件

また、下記の科目の履修については、次表の先修条件となっている科目の単位を修得していなければならない。

科 目	先修条件 (単位を修得していなければならない科目)
成人看護活動論Ⅰ	成人看護学概論
成人看護活動論Ⅱ	
成人看護活動論Ⅲ	成人看護活動論Ⅰ
	成人看護活動論Ⅱ
高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護学概論
高齢者看護活動論Ⅱ	高齢者看護活動論Ⅰ
小児看護活動論Ⅰ	小児看護学概論
小児看護活動論Ⅱ	小児看護活動論Ⅰ
母性看護活動論Ⅰ	母性看護学概論
母性看護活動論Ⅱ	母性看護活動論Ⅰ
精神看護活動論Ⅰ	精神看護学概論
精神看護活動論Ⅱ	精神看護活動論Ⅰ
公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護活動論Ⅱ	
公衆衛生看護管理論	
公衆衛生看護活動論Ⅲ	公衆衛生看護活動論Ⅰ
	公衆衛生看護活動論Ⅱ
	公衆衛生看護管理論
看護課題研究	看護学研究法

4) その他の履修要件について

- (1) 「実践総合演習」の履修は、看護総合実習が不合格または未履修の場合、履修することができない。
- (2) 2013年度および2014年度入学生の「看護課題研究」の履修は、3年次の領域別実習を7単位以上不合格になった場合、当該実習科目の単位修得後でなければ履修することができない。
- (3) 2013年度および2014年度入学生の「看護総合実習」の履修は、3年次の領域別実習を7単位以上不合格になった場合、次年度以降の履修となる。
- (4) 2015年度入学生の「看護総合実習」の履修は、3年次の領域別実習不合格科目と追実習科目を合算して7単位以上になった場合、次年度以降となる。

Ⅱ-2 看護学科の卒業要件・進級要件

1) 卒業要件

4年以上在学し、卒業に必要な単位数を修得していることが必要です。

科目区分	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目	小計
必修単位	14 単位	23 単位	67 単位	104 単位
選択単位	10 単位以上	4 単位以上	6 単位以上	20 単位以上
小 計	24 単位以上	27 単位以上	73 単位以上	124 単位以上
合 計	124 単位以上			

※養護教諭二種免許状取得申請に必要な科目（情報管理論とスポーツ理論）は、卒業要件に含まれません。

2) 進級要件

2016 年度入学生から学年制を採用しています。

上級学年に進級するためには、次の要件を満たしていることが必要です。

2015 年度以前の入学生には適用しません。

● 2 年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
1 年以上	—	1 年次に配当されている必修科目のすべてを修得	1 年次に配当されている必修科目のすべてを修得

● 3 年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
2 年以上	配当されている必修科目のすべてを修得	2 年次に配当されている必修科目のすべてを修得	2 年次に配当されている必修科目のすべてを修得
	選択科目 7 単位以上		

● 4 年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
3 年以上	—	—	3 年次に配当されている必修科目を 22 単位以上修得

Ⅱ-3 看護学科の資格の取得

1) 看護師国家試験受験資格

本学保健医療学部看護学科を卒業した者は、看護師の国家試験受験資格を取得することができます。

(1) 国家試験申請手続きの流れ

時期 (予定)	内 容
11月中旬	国家試験ガイダンスの実施
12月上旬	大学から願書を一括提出
2月上旬	受験票配付と免許申請ガイダンスの実施
2月中～下旬	保健師・看護師国家試験
2月下旬	卒業判定会議で卒業の認定
3月下旬	国家試験合格発表

(2) 免許申請について

国家試験合格後の免許の申請は、各自で行ってください。

2) 保健師国家試験受験資格 (選抜制)

本学保健医療学部看護学科が指定する科目を修得して卒業した者は、保健師の国家試験受験資格を取得することができます。定員は20名です。

保健師国家試験受験資格取得を希望する者は、公衆衛生看護学履修生審査会の審査が必要なため、次の選考基準をすべて満たしたうえで、申請してください。

(1) 選抜基準

- ① 保健師への興味・関心および学習意欲が認められること。
- ② 2年次までの必修科目の全ての単位を修得していること。
- ③ 2年次までの専門科目 (必修) の全科目成績評価において、GPAが原則2.5以上であること。
- ④ 学業生活が全般に安定し、成業の見込みがあること。

(2) 手続きの流れ

選抜方法については、1年次の入学ガイダンスから説明を開始します。

年 次	時期 (予定)	内 容
2年次	2年次後期～	履修申請書、志望理由書配布
3年次	4月中旬	一次審査：履修申請書、志望理由書提出
	5月中旬	二次審査：申請者への面接実施 (成績確認)
	5月下旬	最終審査：審査会による総合審査
	6月上旬	審査結果の通知 (学内公表)
	10月～	対象科目受講

(3) 保健師国家試験受験資格取得要件

卒業要件とあわせて次表の科目を修得していることが必要です。

科目区分	科目名	単位数
専門基礎科目	疫学	2 単位
	保健医療福祉行政論Ⅱ	2 単位
	保健統計学Ⅱ	1 単位
専門科目	慢性看護論	2 単位
	家族看護論	1 単位
	国際看護論	1 単位
	公衆衛生看護学概論	1 単位
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2 単位
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2 単位
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	1 単位
	公衆衛生看護管理論	1 単位
	公衆衛生看護実習Ⅰ	2 単位
	公衆衛生看護実習Ⅱ	2 単位
	公衆衛生看護実習Ⅲ	1 単位

3) 養護教諭二種免許

下記の科目の必要単位数を修得し、かつ保健師免許を取得したうえで、各都道府県教育委員会に申請することによって、養護教諭二種免許を取得することができます。

保健師免許を取得する予定で、養護教諭二種免許も申請しようとする場合は、下記の必要科目の単位を修得してください。養護教諭二種免許取得申請に必要な科目は、次表のとおりです。

なお、※の科目の修得単位は、卒業に必要な単位数および1年間の履修科目の登録上限（40単位）には含みません。

教職免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目		本学の授業科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
日本国憲法	2 単位	法と人権	2 単位
体育	2 単位	スポーツ科学と運動	1 単位
		※スポーツ理論	1 単位
外国語コミュニケーション	2 単位	英語Ⅰ（基礎）	1 単位
		英語Ⅱ（会話）	1 単位
情報機器の操作	2 単位	情報処理	1 単位
		※情報管理論	1 単位

●免許状申請について

卒業後、保健師免許を取得したうえで、養護教諭二種免許の申請をする場合は、本学で「学力に関する証明書」（上記科目単位の取得を証明するもの）の発行を受けてください。1通300円になります。

北海道で申請する場合は、北海道教育委員会に確認し、各自で申請してください。

必要書類等は、北海道教育委員会のホームページで確認できます。

Ⅱ－４ 教育課程表

(卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧)

看護学科

●看護師・保健師国家試験受験資格および養護教諭二種免許希望者必修科目

科目区分		授業科目の名称	授業 形態	単位数		開講年次・時間数								卒業認定に必要な科目		養護教諭	卒業必要単位数
				必修	選択	1年		2年		3年		4年		看護師 のみ	保健師 希望者	二種免許 希望者	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	履修	履修	履修	
基礎 教育 科目	学習と思考力	学びの理解	講義	1		15								●	●	●	【基礎教育科目】 必修科目14単位 選択科目10単位 以上 計24単位以上修得
		生物学	講義		1	15											
		化学	講義		1	15											
		論理的思考	講義	2		30							●	●	●		
		情報処理	演習	1		30							●	●	●		
		統計分析法	演習	1			30						●	●	●		
	言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）	演習	1		30							●	●	●		
		英語Ⅱ（会話）	演習	1			30						●	●	●		
		英語Ⅲ（読解）	演習		1			30									
		英語Ⅳ（総合）	演習		1						30						
		表現技法Ⅰ（読解・分析）	演習	1		30						●	●	●			
		表現技法Ⅱ（討議・発表）	演習	1			30					●	●	●			
	人間と社会	心理学	講義	2		30							●	●	●		
		倫理学	講義	1		15							●	●	●		
		現代社会論	講義	2		30							●	●	●		
		生態学	講義		1	15											
		生活環境論	講義		2			30									
		教育学	講義	1				15									
		文学と人間	講義		1						15						
		スポーツ科学と運動	演習		1		30								●		
		法と人権	講義		2		30								●		
		地域社会文化論	講義		2		30										
		国際社会論	講義		1							15					
		社会貢献と活動	演習		1			30									
	小 計（24科目）			14	16												
専門 基礎 科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	講義	2		30							●	●	●	【専門基礎科目】 必修科目23単位 選択科目4単位 以上 計27単位以上修得	
		形態機能学Ⅱ	講義	2			30						●	●	●		
		感染免疫学	講義	2			30						●	●	●		
		病態学	講義	2			30						●	●	●		
		薬理学	講義	2				30					●	●	●		
		栄養代謝学	講義	2				30					●	●	●		
		生涯発達論	講義	1			15						●	●	●		
		臨床心理学	講義	1				15					●	●	●		
		疾病治療論Ⅰ	講義	2				30					●	●	●		
		疾病治療論Ⅱ	講義	2					30				●	●	●		
	社会と健康	環境保健論	講義	1			15						●	●	●		
		社会福祉論	講義	2					30				●	●	●		
		疫学	講義		2					30				●	●		
		保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	1							15		●	●	●		
		保健医療福祉行政論Ⅱ	講義		2							30		●	●		
		保健統計学Ⅰ	演習	1						30			●	●	●		
		保健統計学Ⅱ	演習		1						30			●	●		
		生命倫理	講義		1			15									
	小 計（18科目）			23	6												
専門 科目	看護の基本	看護学概論	講義	2		30							●	●	●		
		看護技術総論	演習	1		30							●	●	●		
		援助関係論	演習	1		30							●	●	●		
		看護技術論Ⅰ	演習	2			60						●	●	●		
		看護技術論Ⅱ	演習	2				60					●	●	●		
		看護技術論Ⅲ	演習	1					30				●	●	●		
		健康教育論	講義	2					30				●	●	●		
		地域保健医療看護論	演習	1				30					●	●	●		
		看護倫理	講義	1					15				●	●	●		
		看護理論	講義	1					15				●	●	●		
		看護基礎実習Ⅰ	実習	1		45							●	●	●		
		看護基礎実習Ⅱ	実習	2				90					●	●	●		

教育課程表

(卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧)

●看護師・保健師国家試験受験資格および養護教諭二種免許希望者必修科目

科目区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								卒業認定に必要な科目		養護教諭二種免許希望者	卒業必要単位数	
				必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年		看護師のみ	保健師希望者			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	履修	履修	履修		
専門科目	人間の発達段階と看護活動	成人看護学概論	講義	1		15								●	●	●	【専門科目】 必修科目67単位 選択科目6単位以上 計73単位以上修得	
		成人看護活動論Ⅰ	講義	2			30							●	●	●		
		成人看護活動論Ⅱ	演習	1				30						●	●	●		
		成人看護活動論Ⅲ	講義	1					15					●	●	●		
		成人看護実習Ⅰ	実習	3					135					●	●	●		
		成人看護実習Ⅱ	実習	3					135					●	●	●		
		高齢者看護学概論	講義	1			15							●	●	●		
		高齢者看護活動論Ⅰ	演習	1				30						●	●	●		
		高齢者看護活動論Ⅱ	講義	1					15					●	●	●		
		高齢者看護実習	実習	4					180					●	●	●		
		小児看護学概論	講義	2			30							●	●	●		
		小児看護活動論Ⅰ	演習	1				30						●	●	●		
		小児看護活動論Ⅱ	講義	1					15					●	●	●		
		小児看護実習	実習	2					90					●	●	●		
		母性看護学概論	講義	2			30							●	●	●		
		母性看護活動論Ⅰ	演習	1				30						●	●	●		
		母性看護活動論Ⅱ	講義	1					15					●	●	●		
		母性看護実習	実習	2					90					●	●	●		
	看護の統合と探究	精神看護学概論	講義	2					30					●	●	●		
		精神看護活動論Ⅰ	演習	1						30				●	●	●		
		精神看護活動論Ⅱ	講義	1							15			●	●	●		
		精神看護実習	実習	2							90			●	●	●		
		在宅看護論Ⅰ	講義	2						30				●	●	●		
		在宅看護論Ⅱ	演習	1							30			●	●	●		
		医療安全論	講義	2					30					●	●	●		
		看護学研究法	講義	2						30				●	●	●		
		看護課題研究	演習	2							60			●	●	●		
		リハビリテーション看護論	講義		2						30							
		がん看護論	講義		2							30						
		クリティカル看護論	講義		2							30						
		慢性看護論	講義		2						30			●	●	●		
		終末期看護論	講義		1						15							
		家族看護論	講義		1			15						●	●	●		
		国際看護論	講義		1							15		●	●	●		
		看護管理論	講義		1					15								
		看護教育論	講義		1							15						
		在宅看護実習	実習	2								90		●	●	●		
		看護総合実習	実習	2								90		●	●	●		
		実践総合演習	演習	1								30		●	●	●		
		公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	講義		1				15					●	●	●	
		公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動論Ⅰ	講義		2					30				●	●	●	※保健師国家試験 受験資格取得 希望者のみ履修可
			公衆衛生看護活動論Ⅱ	演習		2					60				●	●	●	
			公衆衛生看護活動論Ⅲ	講義		1						15			●	●	●	
			公衆衛生看護管理論	講義		1					15				●	●	●	
			公衆衛生看護実習Ⅰ	実習		2						90			●	●	●	
			公衆衛生看護実習Ⅱ	実習		2						90			●	●	●	
			公衆衛生看護実習Ⅲ	実習		1						45			●	●	●	
小 計 (59科目)				67	25													
合 計 (101科目)				104	47													
養護教諭二種免許取得申請に必要な科目	情報管理論	講義		1		15									●			
	スポーツ理論	講義		1		15									●			
合 計 (2科目)				0	2													

卒業要件及び履修方法
【卒業要件】 基礎教育科目では24単位以上(必修14単位および選択科目10単位以上)、専門基礎科目27単位以上(必修23単位および選択科目4単位以上)、専門科目73単位以上(必修67単位および選択科目6単位以上)を履修し、合計124単位以上を修得していること。 ※原則、基礎教育科目のうち選択科目の履修は開講年次とするが、当該科目の単位修得状況により下級年次配当科目の履修を認める。 【資格取得要件及び履修方法】 1年間の履修科目の登録の上限は、40単位とする。 【保健師国家試験受験資格取得に必要な要件】 卒業要件(124単位)の他に、公衆衛生看護学科目の全て(12単位)を修得すること。なお、専門基礎科目及び専門科目の選択科目のうち、「疫学」「保健医療福祉行政論Ⅱ」「保健統計学Ⅱ」「慢性看護論」「家族看護論」「国際看護論」の単位は必ず修得することとし、合計137単位以上を修得していること。 【養護教諭二種免許取得に必要な要件】 保健師国家試験受験資格取得に必要な科目のほかに養護教諭二種免許取得申請に必要な科目の全てを修得すること。なお、基礎教育科目の選択科目のうち、「法と人権」「スポーツ科学と運動」の単位は必ず修得していること。なお、「情報管理論」「スポーツ理論」の単位数は、卒業要件および履修科目の登録の上限40単位には含まない。 【過年度の開講科目学期変更】 平成26年度：①「成人看護活動論Ⅰ」後期⇒通年、②「小児看護学概論」後期⇒前期、③「母性看護学概論」後期⇒前期 平成27年度：①「保健統計学Ⅰ」前期⇒後期、②「成人看護学概論」2年前期⇒1年後期 平成28年度：①「看護技術論Ⅲ」前期⇒後期

Ⅱ－５ 科目配置表

看護学科

区分		1 年次				2 年次			
		前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位
基礎 教育 科目	学習と思考力	学びの理解	1	統計分析法	1				
		生物学	(1)						
		化学	(1)						
		論理的思考	2						
		情報処理	1						
	言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）	1	英語Ⅱ（会話）	1	英語Ⅲ（読解）	(1)		
		表現技法Ⅰ（読解・分析）	1	表現技法Ⅱ（討議・発表）	1				
	人間と社会	心理学	2	スポーツ科学と運動	(1)	生活環境論	(2)	教育学	(1)
		倫理学	1	地域社会文化論	(2)	社会貢献と活動	(1)		
生態学		(1)	法と人権	(2)					
現代社会論		2							
基礎教育科目 小計 （内選択科目計）		11科目 （選択3科目）	14	6科目 （選択3科目）	8	3科目 （選択3科目）	4	1科目 （選択1科目）	1
専門 基礎 科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	2	形態機能学Ⅱ	2	薬理学	2	疾病治療論Ⅱ	2
				感染免疫学	2	栄養代謝学	2		
				病態学	2	臨床心理学	1		
				生涯発達論	1	疾病治療論Ⅰ	2		
社会と健康			環境保健論	1	生命倫理	(1)	社会福祉論	2	
専門基礎科目 小計 （内選択科目計）		1科目	2	5科目	8	5科目 （選択1科目）	8	2科目	4
専門 科目	看護の基本	看護学概論	2	看護技術論Ⅰ	2	看護技術論Ⅱ	2	看護技術論Ⅲ	1
		看護技術総論	1			地域保健医療看護論	1	健康教育論	2
		援助関係論	1					看護倫理	1
		看護基礎実習Ⅰ	1					看護理論	1
							看護基礎実習Ⅱ	2	
	人間の 発達段階 と看護活動			成人看護学概論	1	成人看護活動論Ⅰ（通年）	1	成人看護活動論Ⅰ（通年）	1
						高齢者看護学概論	1	成人看護活動論Ⅱ	1
						小児看護学概論	2	高齢者看護活動論Ⅰ	1
						母性看護学概論	2	小児看護活動論Ⅰ	1
								母性看護活動論Ⅰ	1
看護の統合 と探究							家族看護論	(1)	
公衆衛生看護学									
専門科目 小計 （内選択科目計）		4科目	5	2科目	3	6科目	9	11科目 （選択1科目）	13
合計 （内選択科目計）		16科目 （選択3科目）	21	13科目 （選択3科目）	19	14科目 （選択4科目）	21	14科目 （選択3科目）	18
養護教諭二種免許 取得申請に必要な科目				情報管理論	(1)				
				スポーツ理論	(1)				
合計 （内選択科目計）				2科目 （選択2科目）	(2)				

※単位数の（数字）は選択科目、その他は必修科目である。表中の通年科目の単位数は、前期、後期各半分でカウント。

※平成26年度以降開講科目学期変更 「成人看護活動論Ⅰ」：後期→通年、「小児看護学概論」：後期→前期、「母性看護学概論」：後期→前期

※平成27年度以降開講科目学期変更 「保健統計学Ⅰ」：前期→後期、「成人看護学概論」：2年前期→1年後期

※平成28年度以降開講科目学期変更 「看護技術論Ⅲ」：前期→後期

科目配置表

区分		3年次				4年次				単位計 (内選択計)
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	
基礎 教育 科目	学習と思考力									7 (選択2)
	言語と表現力							英語Ⅳ（総合）	(1)	6 (選択2)
	人間と社会							文学と人間 国際社会論	(1) (1)	17 (選択12)
基礎教育科目 小計 (内選択科目計)								3科目 (選択1科目)	3	30 (選択16)
専門 基礎 科目	個人と健康									18
	社会と健康	疫学	(2)	保健医療福祉行政論Ⅰ 保健統計学Ⅰ	1 1	保健医療福祉行政論Ⅱ 保健統計学Ⅱ	(2) (1)			11 (選択6)
専門基礎科目 小計 (内選択科目計)		1科目	2	2科目	2	2科目 (選択2科目)	3			29 (選択6)
専門 科目	看護の基本									17
	人間の 発達段階 と看護活動	成人看護実習Ⅰ（通年） 成人看護実習Ⅱ（通年） 高齢者看護実習（通年） 小児看護実習（通年） 母性看護実習（通年） 成人看護活動論Ⅲ 高齢者看護活動論Ⅱ 小児看護活動論Ⅱ 母性看護活動論Ⅱ 精神看護学概論	1.5 1.5 2 1 1 1 1 1 1 1 2	成人看護実習Ⅰ（通年） 成人看護実習Ⅱ（通年） 高齢者看護実習（通年） 小児看護実習（通年） 母性看護実習（通年） 精神看護活動論Ⅰ	1.5 1.5 2 1 1 1 1	精神看護活動論Ⅱ 精神看護実習	1 2			36
	看護の統合 と探究	医療安全論 看護学研究法（通年）	2 1	在宅看護論Ⅰ 在宅看護論Ⅱ 看護学研究法（通年） 看護管理論	2 1 1 (1)	看護課題研究（通年） 看護総合実習 リハビリテーション看護論 がん看護論 クリティカル看護論 慢性看護論 終末期看護論 在宅看護実習	1 2 (2) (2) (2) (1) 2	看護課題研究（通年） 国際看護論 看護教育論 実践総合演習	(1) (1) (1) 1	27 (選択13)
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	(1)	公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護管理論	(2) (2) (1)	公衆衛生看護活動論Ⅲ	(1)	公衆衛生看護実習Ⅰ 公衆衛生看護実習Ⅱ 公衆衛生看護実習Ⅲ	(2) (2) (1)	12 (選択25)
	専門科目 小計 (内選択科目計)	13科目	17	13科目	18	11科目	18	7科目 (選択1科目)	9	92 (選択6)
合計 (内選択科目計)		14科目 (選択3科目)	19	15科目 (選択3科目)	20	13科目 (選択4科目)	21	10科目 (選択3科目)	12	151 (選択47)
養護教諭二種免許 取得申請に必要な科目										2 (選択2)
合計 (内選択科目計)										2 (選択2)

Ⅱ-6 オフィスアワー

看護学科

教員が特定の曜日・時間を定め、学生からの授業や学生生活全般に関する質問、相談に応じるシステムです。

面接を希望する学生は、各教員の実施方法を確認のうえ、面談希望教員と連絡を取り面談日を調整してください。

未決定の教員は、決定後、掲示にてお知らせします。

時間帯（①②方式）

① 1週間のうち、一定期間を教員の個々のスケジュールにより決定しています。

② 特に時間を設定していません。

面談方式（ab方式）

a オープン方式：学生は自由に教員を訪問することができます。

b アポイント方式：学生が各教員とアポイントを取ったうえで訪問することができます。

（メールアドレスを参考にしてください。）

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
専門基礎分野	教授 (学長)	コバヤシ セイイチ 小林 清一	月～金	②	b	koba @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1213
							学長室 4101
基礎教育分野	教授 (図書館長)	マツオ フミコ 松尾 文子	月～金	②	b	fmatsuo @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1221
	教授	スエミツ アツオ 末光 厚夫	月～金	②	a	sue @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1314
基礎看護学 分野	教授	コジマ エツコ 小島 悦子	月～金	②	a	e_kojima @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1216
	講師	モトヨシ アケミ 本吉 明美	月～金	②	a	a-motoyoshi @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1215
	講師	ソノダ ノリコ 園田 典子	月～金	②	b	sonoda @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1214
	助教	カシワクラ ダイサク 柏倉 大作	月・火・金	10:00 ～16:00	a	kashiwakura @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
	助教	ヨコヤマ ケイコ 横山 桂子	月～金	②	a	yokoyama @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
成人看護学 分野	教授	サトウ イクエ 佐藤 郁恵	月～金	②	a	ikue_sato @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1315
	准教授	オノ ヨシアキ 小野 善昭	月～金	②	b	ono-y @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1321
	講師	カトウ タカトシ 加藤 剛寿	月～金	②	a	kato-t @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1322
	講師	イトウ マドカ 伊藤 円	月～金	②	a	m-ito @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1323
	助教	オオハシ カズキ 大橋 和貴	月～金	②	b	ohashi @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室

オフィスアワー

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
高齢者看護学 分野	教授	ハギノ エツコ 萩野 悦子	月～金	②	a	hagino @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1318
	准教授	ナカタ マイ 中田 真依	月～金	②	ab	mainakata @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1319
	助手	マツウラ エイコ 松浦 詠子	月～金	②	b	matsuura @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
小児看護学 分野	教授	カワサキ カズコ 河崎 和子	月	16:00 ～17:30	b	kawasaki @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1313
	助教	ササキ メグミ 佐々木 めぐみ	月～金	②	a	sasaki @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
母性看護学 分野	教授	サイトウ サカエ 齋藤 早香枝	月～金	②	a	sasai @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1218
	准教授	サワダ ユウミ 澤田 優美	月～金	②	a	sawada @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1217
	助教	ノザキ ユキコ 野崎 由希子	月～金	②	a	nozaki @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
精神看護学 分野	講師	ハラダ ユカ 原田 由香	月～金	②	a	harada @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1312
	助手	タカハシ マサキ 高橋 正樹	月～金	②	b	masaki-ta @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
総合看護学 分野	教授	キヅ ユミコ 木津 由美子	月	12:40 ～13:30	a	kizu @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1316
	講師	ヨシダ ユウコ 吉田 祐子	月～金	②	b	yuko-y @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1317
在宅看護学 分野	教授 (看護学科長)	ハリガネ カヨコ 針金 佳代子	月	12:30 ～13:30	a	harigane @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1311
	講師	イシムラ タマミ 石村 珠美	月～金	②	a	ishimura @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1320
公衆衛生 看護学 分野	教授	コンドウ アキヨ 近藤 明代	月～金	②	a	kondoh @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1220
	講師	アンドウ ヨウコ 安藤 陽子	月～金	②	b	ando @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1219
	講師	オガワ カツコ 小川 克子	月～金	②	a	k.ogawa @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1222

Ⅱ－７ 2021年度学事暦

	日	月	火	水	木	金	土	行 事 内 容				全学行事
								看護学科 1 年次	看護学科 2 年次	看護学科 3 年次	看護学科 4 年次	
4 月					1	2	3	4/5～9 新入生ガイダンス	4/1 前期ガイダンス	4/1 前期ガイダンス	4/1 前期ガイダンス	4/3 入学式
	4	5	6	7	8	9	10	4/12 前期授業開始	4/1 前期授業開始	4/1 前期授業開始	4/1 前期授業開始	
	11	12	13	14	15	16	17	4/12 健康診断	4/13 健康診断	4/12 健康診断	4/13 健康診断	
	18	19	20	21	22	23	24					
5 月	25	26	27	28	29	30						
							1			5/24～10/29 領域別臨地実習	5/17～10/15 領域別臨地実習	5/1 創立記念日
	2	3	4	5	6	7	8					5/14 体育大会
	9	10	11	12	13	14	15					
6 月	16	17	18	19	20	21	22					
	23	24	25	26	27	28	29					
	30	31										
			1	2	3	4	5					
7 月	6	7	8	9	10	11	12					
	13	14	15	16	17	18	19					
	20	21	22	23	24	25	26					
	27	28	29	30								
8 月					1	2	3	①7/19～21 看護基礎実習Ⅰ	7/21 前期授業終了			
	4	5	6	7	8	9	10	②7/26～30 看護基礎実習Ⅰ	7/26～29 前期定期試験			
	11	12	13	14	15	16	17					
	18	19	20	21	22	23	24					
9 月	25	26	27	28	29	30	31					
	1	2	3	4	5	6	7	8/16 前期授業終了	8/4～6 前期追試験			
	8	9	10	11	12	13	14	8/17～20 前期定期試験	8/10～12 前期再試験			
	15	16	17	18	19	20	21	8/26～27 前期追試験	8/16～9/29 夏期休業			
10 月	22	23	24	25	26	27	28	8/30～9/1 前期再試験				
	29	30	31									
				1	2	3	4	9/6～29 夏期休業	9/30 後期ガイダンス			9/25 前期学位授与式
	5	6	7	8	9	10	11	9/30 後期ガイダンス				
11 月	12	13	14	15	16	17	18					
	19	20	21	22	23	24	25					
	26	27	28	29	30							
						1	2	10/1 後期授業開始	10/1 後期授業開始		10/18 後期ガイダンス	10/8 大学祭準備
12 月	3	4	5	6	7	8	9				10/18 後期授業開始	10/9～10 大学祭
	10	11	12	13	14	15	16					
	17	18	19	20	21	22	23					
	24	25	26	27	28	29	30					
1 月	31											
		1	2	3	4	5	6		11/6 グロアップ セレモニー	11/1 後期ガイダンス		11/6 グロアップ セレモニー
	7	8	9	10	11	12	13		11/1 後期授業開始			
	14	15	16	17	18	19	20		11/22～12/3 看護基礎実習Ⅱ			
2 月	21	22	23	24	25	26	27					
	28	29	30									
				1	2	3	4	12/27～1/7 冬期休業	12/27～1/7 冬期休業	12/27～1/7 冬期休業	12/27～1/7 冬期休業	
	5	6	7	8	9	10	11					
3 月	12	13	14	15	16	17	18					
	19	20	21	22	23	24	25					
	26	27	28	29	30	31						
							1	2/14～17 後期定期試験			1/11～12 後期定期試験	
4 月	2	3	4	5	6	7	8				1/17 後期追再試験	
	9	10	11	12	13	14	15					
	16	17	18	19	20	21	22					
	23	24	25	26	27	28	29					
5 月	30	31										
			1	2	3	4	5	2/24～25 後期追試験	2/21,22,24,25 後期定期試験	2/21,22,24,25 後期定期試験		2/4 入学試験
	6	7	8	9	10	11	12	2/28,3/1～2 後期再試験				
	13	14	15	16	17	18	19					
6 月	20	21	22	23	24	25	26					
	27	28										
7 月			1	2	3	4	5	3/3～3/31 春期休業	3/2～3 後期追試験	3/2～3 後期追試験	3/8 学位記授与式	3/4 入学試験
	6	7	8	9	10	11	12		3/9～11 後期再試験	3/9～11 後期再試験		3/8 学位記授与式
	13	14	15	16	17	18	19		3/12～3/31 春期休業	3/12～3/31 春期休業		
	20	21	22	23	24	25	26					
8 月	27	28	29	30	31							

この他に全学行事として避難訓練

Ⅲ シラバス

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
学びの理解	講義	1	前	1		久保 ちづる、○木津 由美子、飯田 直弘	34
生物学A・B	講義	1	前		1	津久井 隆行	36
						松川 典子	
化学	講義	1	前		1	森山 隆則	38
論理的思考	講義	1	前	2		崔 昌鳳	40
情報処理	演習	1	前	1		末光 厚夫	42
統計分析法	演習	1	後	1		末光 厚夫	44
英語Ⅰ（基礎）A	演習	1	前	1		松尾 文子	46
英語Ⅰ（基礎）B	演習	1	前	1		大西 三佳子	48
英語Ⅰ（基礎）C	演習	1	前	1		大西 三佳子	50
英語Ⅰ（基礎）D	演習	1	前	1		松尾 文子	52
英語Ⅱ（会話）	演習	1	後	1		David Flenner	54
						Peter Reemst	
表現技法Ⅰ（読解・分析）A・C	演習	1	前	1		高木 維	56
表現技法Ⅰ（読解・分析）B・D	演習	1	前	1		安永 立子	58
表現技法Ⅱ（討議・発表）A・C	演習	1	後	1		高木 維	60
表現技法Ⅱ（討議・発表）B・D	演習	1	後	1		安永 立子	62
心理学	講義	1	前	2		小島 康次	65
倫理学	講義	1	前	1		村上 友一	67
現代社会論	講義	1	前	2		翁 康健	69
生態学	講義	1	前		1	立澤 史郎	72
スポーツ科学と運動	演習	1	後		1	岡野 なお子	74
法と人権	講義	1	後		2	神元 隆賢	76
地域社会文化論	講義	1	後		2	澤井 玄	78
形態機能学Ⅰ	講義	1	前	2		○小林 清一	80
形態機能学Ⅱ	講義	1	後	2		○千葉 仁志	82
感染免疫学	講義	1	後	2		○小林 清一	84
病態学	講義	1	後	2		○小林 清一	86
生涯発達論	講義	1	後	1		小島 康次	88
環境保健論	講義	1	後	1		濱岡 直裕、森田 直樹	90
看護学概論	講義	1	前	2		○小島 悦子	91
看護技術総論	演習	1	前	1		○本吉 明美、○園田 典子、○柏倉 大作、○横山 桂子、○小島 悦子	93
援助関係論	演習	1	前	1		○木津 由美子、○石村 珠美、○吉田 祐子	96
看護技術論Ⅰ	演習	1	後	2		○園田 典子、○本吉 明美、○柏倉 大作、○横山 桂子、○小島 悦子	98
看護基礎実習Ⅰ	実習	1	前	1		○小島 悦子、○本吉 明美、○園田 典子、○柏倉 大作、○横山 桂子	102
成人看護学概論	講義	1	後	1		○佐藤 郁恵	103
情報管理論	講義	1	後		1	末光 厚夫	105
スポーツ理論	講義	1	後		1	平間 康允	107
英語Ⅲ（読解）	演習	2	前		1	松尾 文子	109
生活環境論	講義	2	前		2	江本 匡	111
教育学	講義	2	後		1	所 伸一	113
社会貢献と活動	演習	2	前		1	神内 秀之介	114
薬理学	講義	2	前	2		町田 拓自	116
栄養代謝学	講義	2	前	2		渡辺 いつみ、金高 有理、岡本 智子	119
臨床心理学	講義	2	前	1		松岡 紘史	121
疾病治療論Ⅰ	講義	2	前	2		○千葉 仁志、○小林 清一	123
疾病治療論Ⅱ	講義	2	後	2		深井 原	126
社会福祉論	講義	2	後	2		吉田 竜平	128
生命倫理	講義	2	前		1	森口 真衣	130
看護技術論Ⅱ	演習	2	前	2		○小島 悦子、○本吉 明美、○園田 典子、○横山 桂子、○柏倉 大作	132
看護技術論Ⅲ	演習	2	後	1		○小島 悦子、○本吉 明美、○園田 典子、○横山 桂子、○柏倉 大作	136
健康教育論	講義	2	後	2		○近藤 明代、○安藤 陽子、小川 克子	139
地域保健医療看護論	演習	2	前	1		○近藤 明代、○石村 珠美、越膳 杏子	141
看護倫理	講義	2	後	1		○木津 由美子、○園田 典子、○吉田 祐子	143
看護理論	講義	2	後	1		○萩野 悦子、○木津 由美子	145
看護基礎実習Ⅱ	実習	2	後	2		○小島 悦子、○本吉 明美、○園田 典子、○柏倉 大作、○横山 桂子、他	147

科目名	授業 形態	受講 年次	学期	単位		科目担当者	
				必修	選択		
成人看護活動論Ⅰ	講義	2	通年	2		○佐藤 郁恵、○小野 善昭、○加藤 剛寿、○伊藤 円	148
成人看護活動論Ⅱ	演習	2	後	1		○小野 善昭、○加藤 剛寿、○伊藤 円、○大橋 和貴、 ○佐藤 郁恵	151
高齢者看護学概論	講義	2	前	1		○萩野 悦子	154
高齢者看護活動論Ⅰ	演習	2	後	1		○中田 真依、○萩野 悦子	156
小児看護学概論	講義	2	前	2		○河崎 和子、香川 敦子、松木 由理	159
小児看護活動論Ⅰ	演習	2	後	1		○河崎 和子、○佐々木 めぐみ	162
母性看護学概論	講義	2	前	2		○齋藤 早香枝	165
母性看護活動論Ⅰ	演習	2	後	1		○澤田 優美、○齋藤 早香枝、○野崎 由希子	167
家族看護論	講義	2	後		1	○針金 佳代子	170
疫学	講義	3	前		2	濱岡 直裕、福士 勝	173
保健医療福祉行政論Ⅰ	講義	3	後	1		○小川 克子、○近藤 明代、槌本 浩司	175
保健統計学Ⅰ	演習	3	後	1		志渡 晃一、米田 龍大	177
成人看護活動論Ⅲ	講義	3	前	1		○佐藤 郁恵、○加藤 剛寿、○伊藤 円、○小野 善昭、 ○大橋 和貴	179
成人看護実習Ⅰ	実習	3	通年	3		○小野 善昭、○佐藤 郁恵、○大橋 和貴、○加藤 剛寿、 ○伊藤 円	181
成人看護実習Ⅱ	実習	3	通年	3		○小野 善昭、○加藤 剛寿、○伊藤 円、○大橋 和貴、 ○佐藤 郁恵	182
高齢者看護活動論Ⅱ	講義	3	前	1		○中田 真依、○萩野 悦子	183
高齢者看護実習	実習	3	通年	4		○萩野 悦子、○中田 真依	185
小児看護活動論Ⅱ	講義	3	前	1		○河崎 和子、○佐々木 めぐみ	186
小児看護実習	実習	3	通年	2		○河崎 和子、○佐々木 めぐみ	188
母性看護活動論Ⅱ	講義	3	前	1		○澤田 優美、○齋藤 早香枝、○野崎 由希子	189
母性看護実習	実習	3	通年	2		○齋藤 早香枝、○澤田 優美、○野崎 由希子	191
精神看護学概論	講義	3	前	2		佐藤 登代子、○原田 由香	192
精神看護活動論Ⅰ	演習	3	後	1		○原田 由香	194
在宅看護論Ⅰ	講義	3	後	2		○針金 佳代子、○石村 珠美	196
在宅看護論Ⅱ	演習	3	後	1		○石村 珠美、○針金 佳代子、他	199
医療安全論	講義	3	前	2		○相馬 幸恵、福岡 啓子、葛西 陽子	201
看護学研究法	講義	3	通年	2		○木津 由美子、末光 厚夫、○吉田 祐子	204
看護管理論	講義	3	後		1	○相馬 幸恵、浪岡 まさみ	206
公衆衛生看護学概論	講義	3	前		1	○近藤 明代	208
公衆衛生看護活動論Ⅰ	講義	3	後		2	○安藤 陽子、○近藤 明代、○小川 克子	210
公衆衛生看護活動論Ⅱ	演習	3	後		2	○小川 克子、○近藤 明代、○安藤 陽子、宮崎 由美子、 渡辺 千鶴	212
公衆衛生看護管理論	講義	3	後		1	○安藤 陽子、○近藤 明代	216
英語Ⅳ（総合）	演習	4	後		1	松尾 文子	219
文学と人間	講義	4	後		1	畠山 瑞樹	221
国際社会論	講義	4	後		1	翁 康健	223
保健医療福祉行政論Ⅱ	講義	4	前		2	○近藤 明代、○安藤 陽子、○小川 克子	224
保健統計学Ⅱ	演習	4	前		1	志渡 晃一、米田 龍大	226
精神看護活動論Ⅱ	講義	4	前	1		○原田 由香	228
精神看護実習	実習	4	前	2		○原田 由香	230
看護課題研究	演習	4	通年	2		○木津 由美子 他	231
リハビリテーション看護論	講義	4	前		2	○小野 善昭、佐藤 由佳子、村井 昌子、○大橋 和貴	233
がん看護論	講義	4	前		2	○小島 悦子、大串 祐美子、渡辺 一代	236
クリティカル看護論	講義	4	前		2	○小野 善昭、春名 純平、村中 沙織	238
慢性看護論	講義	4	前		2	○佐藤 郁恵、○加藤 剛寿、渡辺 美和、長尾 麻由美	241
終末期看護論	講義	4	前		1	○小島 悦子、○伊藤 円、青田 美穂、田中 ひとみ	243
国際看護論	講義	4	後		1	大野 夏代、鈴木 幹子	245
看護教育論	講義	4	後		1	稲葉 佳江	247
在宅看護実習	実習	4	前	2		○針金 佳代子、○石村 珠美、他	249
看護総合実習	実習	4	前	2		○木津 由美子 他	250
実践総合演習	演習	4	後	1		○木津 由美子 他全看護教員	251
公衆衛生看護活動論Ⅲ	講義	4	前		1	○小川 克子、○安藤 陽子、○近藤 明代	254
公衆衛生看護実習Ⅰ	実習	4	後		2	○近藤 明代、○安藤 陽子、○小川 克子	256
公衆衛生看護実習Ⅱ	実習	4	後		2	○近藤 明代、○安藤 陽子、○小川 克子	257
公衆衛生看護実習Ⅲ	実習	4	後		1	○近藤 明代、○安藤 陽子、○小川 克子	258

(注) 1. 各科目の責任者は科目担当者の先頭記載者

2. ○印は学科所属の専任教員で医師、看護師、保健師を経験している実務経験者

授業科目	学びの理解 Understanding of Study at Tertiary Level		担当教員	久保 ちづる、木津 由美子、飯田 直弘
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	大学（高等教育）での学びの出発点として、学士力「文化・社会に関する知識・理解」「社会人に必要な汎用的技能」「態度・志向性」「創造的思考力」を修得する意義、および専門職業人としての学習態度や倫理観、職業観を身につける重要性を認識する。			
到達目標	1. 学業を中心とした大学生活全般の自己管理能力と自律的な学習態度を培う。 2. 社会人として、医療人として求められる社会的責任と行動、職業観の形成を促す。 3. 現代の保健医療に係る課題と医療人としての社会的貢献のあり方について考える。 4. 医療人としての看護職と管理栄養士の役割と連携を理解し、共同体意識を形成する。 5. 4年間の大学生活での目標を確認し、自己の課題と学習計画を考える。 6. コミュニケーション・スキル、論理的思考と問題解決力を修得する意義を理解する。 7. 社会人・職業人としての汎用的スキルの意味と活用するための基礎を理解する。			
テキスト	なし			
参考書	なし			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		目標の到達状況を提出物および授業参加態度等により総合的に評価する。 最終の評価点数は、各教員の評定を総合して行う。	
	レポート	80%		
	小テスト			
	提出物	20%		
	その他			
履修上の留意事項	参考文献は随時、提示する。 レポートの課題と提出方法は、各教員の講義最終時に提示する。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (木津)	学習の主題	ガイダンス 本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項についての説明 大学での学び方	
		授業内容	1. 大学（高等教育）教育の目的と共通能力「学士力」の育成 2. 自律的学習の実践：「学習活動の手引き」	
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。	
	2 (木津)	学習の主題	学士力と本学教育理念「人間力」	
		授業内容	・人間力とは ・社会人・医療人に求められる資質・能力とは ・学ぶ力とは：「感じる」「表現する」「伝える」「共有する」	
		事前・事後学習	受講後、「本学で学ぶ意義」について A6 版用紙 250 字程度にまとめる。	
	3 (木津)	学習の主題	学ぶ力の体験学習「いのち」「人が社会で生きること」	
		授業内容	・DVD「赤ちゃんの運命を決めるもの」の視聴 ・個別学習：・DVD 内容について「感じたこと」「考えたこと」 ・グループ学習：「表現する」「伝える」「共有する」	
		事前・事後学習	「いのち」「人が社会で生きること」に関して、自己の学びを指定用紙にまとめる。	
	4 (飯田)	学習の主題	大学（高等教育）で学ぶこと（1）	
		授業内容	・コミュニケーション・スキルとは ・論理的思考力とは ・問題解決力とは	
		事前・事後学習	高校と大学の学びはどのような点が違うのかを考える。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5 (飯田)	学習の主題	大学（高等教育）で学ぶこと（2）
		授業内容	・汎用的スキルの活用について
		事前・事後学習	前回の授業で学んだことを復習し、将来汎用的スキルを活用する場面をシミュレーションする。
	6 (久保)	学習の主題	医療職と大学教育（1）
		授業内容	・保健医療に係る現代の課題と医療職の役割 ・管理栄養士の役割
		事前・事後学習	医療職が大学で学ぶ意義について、自分の考えをまとめる。
	7 (木津) (久保)	学習の主題	医療職と大学教育（2）
		授業内容	・看護職の役割 ・グループ学習：看護職と管理栄養士の役割の共通性と相違性、同じ大学で学ぶ意義 ・グループ発表
		事前・事後学習	医療職が大学で学ぶ意義について、自分の考えをまとめる。
	8 (木津) (久保)	学習の主題	大学で学ぶ目標と課題の共有
		授業内容	グループ学習 ・学びの目標をもつ：どんな看護職・管理栄養士になりたいか ・目標実現のためにすべきこと、大切にすること グループ発表
		事前・事後学習	グループ学習からの学びをまとめる。

授業科目	生物学 A・B Biology	担当教員	津久井 隆行、松川 典子 ※担当教員は、クラス別
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	生命体の特性、生殖と発生、外部からの刺激の受容や内部環境の維持について理解し、広く生命現象に関する知識を修得する。特に、ヒトの体の構造および機能に関して学び、体の各部分の機能の低下と病気との関係について理解する。また、栄養素について学び、どのように体内で利用されているのかについて理解する。		
到達目標	1. 生物の基本単位である細胞の構造や機能、および、細胞が集まって形成される組織や器官について理解する。 2. 生命活動に必要な栄養素や、体内で起こる物質代謝について理解する。 3. 生物が受精によって遺伝物質を親から子に伝えるしくみや、受精卵が分化する過程について理解する。 4. 再生医療とはどのような医療なのかについて理解する。		
テキスト	「新体系看護学全書 基礎科目 生物学」（メヂカルフレンド社）		
参考書	「レーヴン／ジョンソン 生物学」上・下（培風館）		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	70%	目標の到達状況を小テストおよび定期試験により総合的に評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	
	提出物		
	その他		
履修上の 留意事項	重要な内容については配布資料やスライドで解説するが、その他の内容についてもテキストの十分な読み込みが必要。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容
	1	学習の主題	細胞に関する基礎知識
		授業内容	ガイダンス 本科目の目的・目標、学習の内容、評価方法と基準、履修上の留意点の説明 生物を構成する最小の単位である細胞について以下の点から理解する。 ・細胞の構造と機能 ・細胞の増殖（細胞分裂） 細胞に水が出入りするしくみについて理解する。 ・浸透圧とそれに伴う様々な現象
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。 授業内容の予習・復習をする。
	2	学習の主題	個体の成り立ち－分化 生体内の物質の流れと働き（1）
		授業内容	分化した細胞が多数集まって形成される組織について特徴を理解する。 生命活動における同化のしくみについて以下の点から理解する。 ・物質代謝と酵素 ・栄養素 ・消化のみちすじ
		事前・事後学習	授業内容の予習・復習をし、次回までにレポートを完成させる。
	3	学習の主題	生体内の物質の流れと働き（2）
		授業内容	生命活動における異化のしくみについて以下の点から理解する。 ・肺によるガス交換 ・腎臓の構造と働き（尿の生成）
		事前・事後学習	授業内容の予習・復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	4	学習の主題	からだの恒常性の維持（1）
		授業内容	内部環境としての体液の働きについて理解する。
		事前・事後学習	授業内容の予習・復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	からだの恒常性の維持 (2)
		授業内容	生物はどのようにして体内の環境を一定の状態に維持しているのかについて以下の点から理解する。 ・神経系とその働き ・内分泌系とその働き
		事前・事後学習	授業内容の予習・復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	6	学習の主題	外的刺激の受容
		授業内容	生物が環境の変化を受け取り、それに反応するしくみについて以下の点から理解する。 ・刺激と反応 ・感覚器とその働き (視覚と聴覚)
		事前・事後学習	授業内容の予習・復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	7	学習の主題	生殖と発生
		授業内容	生物が受精のために配偶子を形成するしくみについて理解する。 ・配偶子の形成－減数分裂 ヒトの発生と再生医療について理解する。
		事前・事後学習	授業内容の予習・復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	8	学習の主題	遺伝
		授業内容	遺伝物質とはどのようなものなのか、遺伝物質によって何がつくられ、生命活動ではどのように利用されているのかを以下の点から理解する。 ・遺伝物質の所在 ・DNAの構造 ・たんぱく質の合成 ヒトの遺伝と、それに伴って生じる病気について理解する。 ・遺伝性疾患と酵素 ・伴性遺伝 ・染色体異常
		事前・事後学習	授業内容の復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

授業科目	化学 Chemistry		担当教員	森山 隆則
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1 年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1 単位
授業目的	化学は、全ての自然科学の中心にありそれらを学ぶ基礎となるが、本講ではとりわけ看護学に不可欠な化学的基礎知識を抽出し学修する。具体的には国際単位の表示方法、水溶液の様々な濃度の表示方法と換算方法と浸透圧の考え方、pH の考え方と血液の pH、大気圧と血圧の単位、生体（食品）成分である糖質・脂質・蛋白質・核酸などについて学修する。また、尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について学修する。			
到達目標	1. 化学に不可欠な国際単位系について理解し単位換算ができる。 2. 水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）を説明でき単位換算ができる。 3. pH の定義が理解でき血液の pH の恒常性について説明できる。 4. 血圧の意味を知り表示単位と大気圧の単位との関連性について説明できる。 5. 糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分についての概略について説明できる。 6. 尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。			
テキスト	教員が作成する配布資料			
参考書	平田雅子「ベッドサイドを科学する－看護に生かす物理学」（学研） 松野一彦、他「一目でわかる臨床検査」（メディカル・サイエンス・インターナショナル）			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	70%	目標の到達状況を定期試験（70%）、その他（30%）で評価する。 その他：授業時の発表、取組み姿勢	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他	30%		
履修上の 留意事項	講義後、必ず復習して下さい。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	基礎化学に不可欠な国際単位について説明でき単位換算できる。	
		授業内容	様々な国際単位について説明し単位換算について解説する。	
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。	
	2	学習の主題	水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）を説明でき単位換算ができる。	
		授業内容	水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）と考え方について解説する。	
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。	
	3	学習の主題	pH の定義が理解でき血液の pH について説明できる。	
		授業内容	酸とアルカリを決める pH の定義を解説し血液の pH の恒常性について解説する。	
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。	
	4	学習の主題	血圧の意味を知り表示単位と大気圧の単位との関連性について説明できる。	
		授業内容	血圧について概略を説明し表示単位の意味するところを解説する。	
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。	
	5	学習の主題	糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分について概略を解説できる。	
		授業内容	糖質と脂質の成り立ちと代謝の概略について解説する。	
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。	
	6	学習の主題	糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分について概略を解説できる。	
		授業内容	糖質と脂質の成り立ちと代謝の概略について解説する。	
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。
		授業内容	臨床検査の検体条件と尿検査、血球検査、生化学検査の項目を示しそれらの臨床的意義について解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。
	8	学習の主題	尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。
		授業内容	肝機能検査を中心とした生化学検査の項目を示し臨床的意義について解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。

授業科目	論理的思考 Introduction to Logic		担当教員	崔 昌鳳
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1 年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2 単位
授業目的	本科目は、学生諸君に人間の日常的活動のひとつである推論という営みについて理解を深めてもらい、それを通じて、各自が様々な問題に対し論理的・批判的に考えるスキル及び、それを適切に表現する術を身につけることを目的とする。			
到達目標	1. 様々な文章中に、どのような推論が含まれているかを見出し、明示的に書き換える技術を身につける。 2. 様々な推論事例について、批判的に考察する技術を身につける。 3. 論理的に正しい推論を自ら構成できるようになる。			
テキスト	必要に応じて資料を配付する。			
参考書	戸田山和久「論文の教室：レポートから卒論まで」(NHK 出版) 野矢茂樹「新版 論理トレーニング」(産業図書)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	70％	目標の到達状況を提出物と定期試験結果により総合的に評価する	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	30％		
	その他			
履修上の 留意事項	授業中に課題演習を課す。演習に取り組む際には、与えられた課題について自分で考えることが要求される。課題演習の「解答」を単に覚えるだけではほとんど学習効果は得られないものと心得ておいていただきたい。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	授業概要 - 「論理的思考とはなにか」	
		授業内容	授業内容及び成績評価法について概説する。	
		事前・事後学習	講義内容をノートにまとめておくこと。	
	2	学習の主題	主張と根拠---情報の取捨選択	
		授業内容	資料に基づいて文章を作成する演習を行う。配布する資料には、種々雑多な情報を載せているが、指定した内容の文章を書くために、自ら情報を取捨選択する必要がある。	
		事前・事後学習	講義時間内に課題文章を作成できなかった場合、次回までに書き上げてくること。	
	3	学習の主題	主張と根拠---論理的に正しい文章の書き方	
		授業内容	第 2 回で作成した文章を題材に、論理的に正しい文章を書くために必要な事柄について講義する。	
		事前・事後学習	講義内容をふまえて、次回までに課題文章を修正し、書きあげてくること。	
	4	学習の主題	論理パズル その 1	
		授業内容	講義冒頭で演習問題を提示し、その解答をレポート用紙に記入してもらう。解答には、答えだけではなく、なぜその答えが正しいのかについての考察を含める必要がある。	
		事前・事後学習	演習問題の解答を作成し、次回講義時に持参してくること。	
	5	学習の主題	論理パズル その 2	
		授業内容	第 4 回で提示した演習問題を題材に、複雑な状況を表を用いて明晰化する手法について解説する。	
		事前・事後学習	講義内容をふまえて、演習問題への解答を再度、作成し、次回提出すること。	
	6	学習の主題	規範的規則と法則	
		授業内容	規範的規則と法則の違いについて詳説する。	
		事前・事後学習	この回はなし。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	規範言明を含む推論
		授業内容	「～は良い」、「～すべきである」、「～してはならない」といった形の文を用いた推論について詳説する。
		事前・事後学習	練習問題を配布するので、解答を記入したうえで次回、持参すること。
	8	学習の主題	事実と意見
		授業内容	事実と意見の違いとこれらの関係について講義する。
		事前・事後学習	練習問題とその解答を配布するので、各自で問題に取り組むこと。
	9	学習の主題	事実と意見 その2
		授業内容	事実と意見を混在させることの危険性について、具体例をもとに講義する。
		事前・事後学習	練習問題とその解答を配布するので、各自で問題に取り組むこと。
	10	学習の主題	演繹詳論 その1 - 意味・真理値・真理表
		授業内容	論理定項（「かつ」、「または」、「ならば」等）の意味について、真理表を用いて規定する。
		事前・事後学習	この回はなし。
	11	学習の主題	演繹詳論 その2 - 推論規則
		授業内容	代表的な推論規則を取り上げ、真理表を用いてそれらの妥当性を確認する。
		事前・事後学習	練習問題を配布するので、解答を記入したうえで次回、持参すること。
	12	学習の主題	演繹詳論 その3 - 量化論理
		授業内容	量化論理の重要性について、日常的な推論をもとに解説する。
		事前・事後学習	練習問題とその解答を配布するので、各自で問題に取り組むこと。
	13	学習の主題	演繹と推測
		授業内容	仮説形成とその検証について概説し、演繹と推測の関連性について講義する。
		事前・事後学習	講義後、仮説形成型の推測事例をひとつ自分で構成してみること。
	14	学習の主題	知識と論理
		授業内容	以下のトピックについて講義を行う。 1. 「真であることを信じること」と「知っていること」の違い 2. 知識論理パズル
		事前・事後学習	この回はなし。
	15	学習の主題	総合演習
		授業内容	第1回から第14回までの講義内容に関して理解を深めてもらうための課題演習を課す。
		事前・事後学習	この回はなし。

授業科目	情報処理 Information Processing		担当教員	末光 厚夫
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	本科目では、基礎的なコンピュータリテラシーを習得し、専門科目に適用できることを目指す。演習を通じて、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方とインターネットを活用した情報収集やコミュニケーションの方法を学ぶ。			
到達目標	1. PCの基礎的な使い方、電子メールやインターネットの活用法を習得する。 2. Word、Excel、PowerPointの基本的操作を習得する。			
テキスト	授業時に資料を配付する。			
参考書	富士通エフ・オー・エム「よくわかる Word2019 & Excel2019 & PowerPoint2019」(FOM 出版)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	4回のレポート(40%)でPCの基礎的な使い方と、Word、Excel、PowerPointの基本的操作が身についているか評価する。定期試験(60%)では、PCを使用した実技試験を通して、Word、Excel、PowerPointの習熟度を評価する。	
	試験	60%		
	レポート	40%		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	事前学習は特に必要ないが、授業で習った内容については、次週までに習得できるように復習しておくこと。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	PCの基礎的な使い方	
		授業内容	本科目の目的と構成について理解し、各回の位置づけを確認する。 授業で使用するPCの基礎的な操作方法(PCの起動と終了、マウス・キーボードの操作、ファイルの保存など)を学ぶ。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	2	学習の主題	電子メールの利用とタイピング	
		授業内容	1. 電子メールの利用方法を習得する。 2. タイピングの方法を学ぶ。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	3	学習の主題	インターネットの活用とマナー	
		授業内容	1. ブラウザを利用したインターネット検索の方法を学ぶ。 2. インターネットを使用する際のマナーを理解する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。	
	4	学習の主題	Wordの基本(1)	
		授業内容	1. Wordの基礎知識を習得する。 2. 文字入力の仕方を理解する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	5	学習の主題	Wordの基本(2)	
		授業内容	文書作成における基本的操作(文字のコピー・移動、配置、装飾、書式)を理解する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	6	学習の主題	Wordの基本(3)	
		授業内容	グラフィック機能(オンライン画像、図、図形、ワードアート)を使用した文書作成の仕方を理解する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	7	学習の主題	Wordの基本(4)	
		授業内容	1. 表を使用した文書作成の仕方を理解する。 2. 学習したWordの機能を活用して文書を作成する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	8	学習の主題	Excel の基本（１）
		授業内容	1. Excel の基礎知識を習得する。 2. データ入力の方法を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	9	学習の主題	Excel の基本（２）
		授業内容	1. 表の作成の方法を理解する。 2. 表計算機能（四則計算、関数など）を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	10	学習の主題	Excel の基本（３）
		授業内容	グラフ（棒グラフ、円グラフなど）の作成の方法を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	11	学習の主題	Excel の基本（４）
		授業内容	1. データベース機能を理解する。 2. 学習した Excel の機能を活用してデータ処理を行う。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。
	12	学習の主題	PowerPoint の基本（１）
		授業内容	1. PowerPoint の基礎知識を習得する。 2. スライド作成の基礎を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	13	学習の主題	PowerPoint の基本（２）
		授業内容	テキスト、オンライン画像、図、図形、表、SmartArt を使用したスライドの作成の方法を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	14	学習の主題	PowerPoint の基本（３）
		授業内容	画面切り替え、アニメーション、スライドショーの機能を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	15	学習の主題	PowerPoint の基本（４）
		授業内容	1. プレゼンテーションのやり方の基本を理解する。 2. 学習した PowerPoint の機能を活用して、プレゼンテーション用の資料を作成する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。

授業科目	統計分析法 Statistical-analytical Method		担当教員	末光 厚夫
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	収集したデータの特徴を明らかにするための統計分析の手法について学ぶとともに、コンピュータを使用して統計分析を実行する方法を学ぶ。演習を通じて、特徴の数値化、各種データのグラフ化、統計的推定・統計的検定などの統計処理、調査データの処理方法などについて習得する。			
到達目標	1. 統計学の体系について理解し、データの種類と特性について理解する。 2. 記述統計学の基礎を理解し、Excelを使用した統計処理方法を習得する。 3. 推測統計学の基礎を理解し、Excelを使用した統計処理方法を習得する。 4. 調査データの処理方法の基礎を習得する。			
テキスト	授業時に資料を配付する。			
参考書	1. 白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」（日本評論社） 2. 菅民郎「Excelで学ぶ統計解析入門」（オーム社） 3. 石村園子「すぐわかる確率・統計」（東京図書） 4. 上田拓治「44の例題で学ぶ統計的検定と推定の解き方」（オーム社）			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	60％	毎回の講義において、講義内容の理解度を評価するために、提出物（40％）として、演習課題を課す。定期試験（60％）では、統計学の基礎知識の理解度を評価するとともに、一部実技試験を通して、Excelを使用した統計処理方法の習熟度も評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	40％		
その他				
履修上の 留意事項	統計分析法の学習と Excel を使用したデータ処理方法の修得は表裏一体であることから、繰り返し練習すること。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	統計学とは	
		授業内容	本科目の構成と指針について説明し、統計学発展の歴史、目的と有用性、統計分析手法の体系などを概説したうえで、各回の位置づけを確認する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	2	学習の主題	記述統計学の基礎（1）	
		授業内容	各種調査で収集したデータの種類を理解し、それらの性質について学ぶ。Excel を使用してデータから度数分布表やヒストグラムを作成する方法などを習得する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	3	学習の主題	記述統計学の基礎（2）	
		授業内容	分布の中心を表す代表値、ばらつきを表す四分位範囲、箱ひげ図と異常値の識別、偏差、分散、標準偏差などの考え方について理解し、Excel を使用した計算方法も習得する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	4	学習の主題	記述統計学の基礎（3）	
		授業内容	変動係数、Zスコア、偏差値、分布の歪度、尖度などについて学び、Excel の分析ツールを使用して記述統計量を算出する方法も習得する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	5	学習の主題	推測統計学への準備（1）	
		授業内容	統計的推定・検定のための準備として、確率の考え方を理解する。確率、確率変数、確率分布、確率変数の平均値、分散、確率変数の標準化などの考え方を理解し、Excel を使用した計算方法を習得する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	推測統計学への準備（２）
		授業内容	重要な確率分布（二項分布、正規分布、標準正規分布、t分布、 χ^2 分布、F分布など）の特徴と適用する分析手法、計算方法を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	7	学習の主題	推測統計学への準備（３）
		授業内容	母集団と標本、母数と統計量の理解、さらに標本を得るための標本抽出について学ぶ。正規母集団、母数、統計量と標本分布、推定量と推定値、中心極限定理などの概念を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	8	学習の主題	統計的推定の基礎（１）
		授業内容	統計量から母数を統計的に推定する方法を学ぶ。推定のための用語、点推定と区間推定、信頼係数と信頼区間の考え方、推定方法などについて理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	9	学習の主題	統計的推定の基礎（２）
		授業内容	正規母集団の母平均の推定（母分散既知／未知）、小標本における母平均の推定、母分散の推定、母比率の推定などについて理解し、Excelを使用した推定の計算方法を習得する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	10	学習の主題	統計的検定の基礎（１）
		授業内容	ある仮説が正しいか否かを無作為抽出した標本に基づいて統計的に判断する検定の考え方を学ぶ。帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域、臨界値、p値、仮説の採択および棄却、片側検定と両側検定などについて理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	11	学習の主題	統計的検定の基礎（２）
		授業内容	第Ⅰ種の過誤と第Ⅱ種の過誤の考え方を学ぶ。母平均の検定、母平均の差の検定、母分散の検定などについて理解し、Excelを使用した検定の計算方法を習得する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	12	学習の主題	統計的検定の基礎（３）
		授業内容	等分散の検定、母比率の検定、母比率の差の検定などについて理解し、Excelを使用した検定の計算方法を習得する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	13	学習の主題	相関分析
		授業内容	2変数間の関係を分析する手法を学ぶ。相関図、相関係数、クラメル連関係数、順位相関係数、無相関の検定、独立性の検定などについて理解し、それぞれの統計処理の手順を習得する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	14	学習の主題	調査データの集計と分析
		授業内容	Excelを使用した調査データの入力方法、ピボットテーブルによるクロス集計表の作成の手順を学ぶ。また、作成したデータを用いて、グラフ化や検定などの統計処理を行い、統計分析の手法の一連の手順を確認する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	15	学習の主題	SPSS統計パッケージの活用
		授業内容	Excelに入力されたデータをSPSS統計パッケージで活用し分析するための基本的な手順と出力結果の見方について学ぶ。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。

授業科目	英語Ⅰ（基礎）A EnglishⅠ		担当教員	松尾 文子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。			
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。			
テキスト	Healthy Habits for a Better Life John McConnell, Kiyoshi Yamauchi（成美堂 2021）			
参考書	必要に応じて紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	70％	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験で70%、授業で行うリスニング小テストで20%、授業の取り組み姿勢の10%で評価する。 中間・期末試験を未受験の場合は、評価の対象としない。	
	レポート			
	小テスト	20％		
	提出物			
	その他	10％		
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス / Chapter 1: Sleep Is Important ①②	
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等について説明する。/ ① vocabulary ② listening	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。	
	2	学習の主題	Chapter 1: Sleep Is Important ③～⑤	
		授業内容	③ reading ④ grammar, writing ⑤ slash reading	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。	
	3	学習の主題	Chapter 2: Is Salt Bad for Us? ①～③	
		授業内容	① vocabulary ② listening ③ reading	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：語彙表現を復習する。	
	4	学習の主題	Chapter 2: Is Salt Bad for Us? ④⑤ / Chapter 3: Water Is Wonderful ①②	
		授業内容	④ grammar, writing ⑤ slash reading / ① vocabulary ② listening	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項と語彙表現を復習する。	
	5	学習の主題	Chapter 3: Water Is Wonderful ③～⑤	
		授業内容	③ reading ④ grammar, writing ⑤ slash reading	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。	
	6	学習の主題	Chapter 4: Hot Springs: A Miracle of Nature ①～③	
		授業内容	① vocabulary ② listening ③ reading	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：語彙表現を復習する。	
	7	学習の主題	Chapter 4: Hot Springs: A Miracle of Nature ④⑤ / 中間試験準備	
		授業内容	④ grammar, writing ⑤ slash reading / 中間試験に備えての質疑応答	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	8	学習の主題	中間試験
		授業内容	これまでに学んだ内容の理解度チェック
		事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を復習する。 事後：可能な範囲で自分の解答の正誤を確認する。
	9	学習の主題	Chapter 5: Healthy Lessons from the Blue Zones ①～③
		授業内容	① vocabulary ② listening ③ reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：語彙表現を復習する。
	10	学習の主題	Chapter 5: Healthy Lessons from the Blue Zones ④⑤ / Chapter 6: Unhealthy Habits ①②
		授業内容	④ grammar, writing ⑤ slash reading / ① vocabulary ② listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項と語彙表現を復習する。
	11	学習の主題	Chapter 6: Unhealthy Habits ③～⑤
		授業内容	③ reading ④ grammar, writing ⑤ slash reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。
	12	学習の主題	Chapter 7: Let's Dance! ①～③
		授業内容	① vocabulary ② listening ③ reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：語彙表現を復習する。
	13	学習の主題	Chapter 7: Let's Dance! ④⑤ / Chapter 8: The Story of Sugar ①②
		授業内容	④ grammar, writing ⑤ slash reading / ① vocabulary ② listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項と語彙表現を復習する。
	14	学習の主題	Chapter 8: The Story of Sugar ③～⑤
		授業内容	③ reading ④ grammar, writing ⑤ slash reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。
	15	学習の主題	これまでの授業の振り返り
		授業内容	これまで学んだ内容の確認
		事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を復習する。 事後：期末試験の勉強をする。

授業科目	英語Ⅰ（基礎）B EnglishⅠ		担当教員	大西 三佳子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。			
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。			
テキスト	M. Edmunds, P. Price, S. Ohtaki and T. Hikichi 「English for Nursing Students」(NAN'UN-DO,2020)			
参考書	必要に応じて紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	60％	授業時の態度や活動状況、提出物、小テスト、その他（以上で40％）及び定期試験等のテスト（60％）の結果から総合的に判断する。 その他：授業時の発表・ペアワークやグループ活動の取り組みの姿勢等を評価する。	
	レポート			
	小テスト	20％		
	提出物	10％		
	その他	10％		
履修上の 留意事項	授業時は必ず辞書と教科書を持参し、小テストや提出物の準備を忘れない事。			
実務経験を 活かした教育内容	加・米・英の国々で生活した者として、これらの国々の医療の様子などを講義に織り交ぜながら教科書の内容がより理解し易いように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス	
		授業内容	本科目の目的・目標・学習内容、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。	
		事前・事後学習	事前：テキストの内容を確認 事後：テキスト次週分の予習	
	2	学習の主題	Unit 1 WHAT IS A NURSE?	
		授業内容	1. reading（看護の仕事） 2. grammar（接続詞） 3. writing（基本的な重要構文）	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備	
	3	学習の主題	Unit 2 THE HISTORY OF NURSING	
		授業内容	1. reading（看護の仕事） 2. grammar（関係詞） 3. writing（基本的な重要構文）	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備	
	4	学習の主題	Unit 3 PATIENT-NURSE RELATIONSHIP	
		授業内容	1. reading（患者さんと看護師の関係） 2. grammar（副詞節） 3. writing（基本的な重要構文）	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備	
	5	学習の主題	Unit 4 COMMUNICATION WITH A PATIENT	
		授業内容	1. reading（患者さんとの良好な会話） 2. grammar（使役を表す動詞など） 3. writing（基本的な重要構文）	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	Unit 5 INTERCULTURAL COMMUNICATION WITH A PATIENT
		授業内容	1. reading (患者さんとの異文化コミュニケーション) 2. grammar (疑問代名詞や接続詞など) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストとグループ発表の準備
	7	学習の主題	PRESENTATION 1
		授業内容	グループで学習した表現を使ってスキットを作成し、発表する。
		事前・事後学習	事前：グループ発表の準備 事後：中間振り返りテストの準備
	8	学習の主題	中間振り返りテスト (Unit1～Unit5)
		授業内容	これまでに学習した内容の定着度をチェックする。
		事前・事後学習	事前：前半の授業内容を復習し、中間振り返りテストの準備 事後：次の課の準備
	9	学習の主題	Unit 6 DOCTOR-NURSE RELATIONSHIP
		授業内容	1. reading (医者と看護師の関係) 2. grammar (動詞句) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	10	学習の主題	Unit 7 RELATED PROFESSIONALS
		授業内容	1. reading (関連ある職種の人たち) 2. grammar (動詞の形) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	11	学習の主題	Unit 8 NURSES AND THE HOSPITAL
		授業内容	1. reading (看護師と病院) 2. grammar (前置詞) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	12	学習の主題	Unit 9 NURSES IN THE COMMUNITY
		授業内容	1. reading (地域における看護師) 2. grammar (助動詞) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	13	学習の主題	Unit 10 NURSING IN THE FUTURE
		授業内容	1. reading (未来の看護) 2. grammar (時制) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストとグループ発表の準備
	14	学習の主題	PRESENTATION 2
		授業内容	グループで学習した表現を使ってスキットを作成し、発表する。
		事前・事後学習	事前：グループ毎に発表の準備 事後：期末振り返りテストの準備
	15	学習の主題	期末振り返りテスト (Unit 6～Unit10)
		授業内容	これまで学習した内容の定着度をチェックする。
		事前・事後学習	事前：後半の授業内容を復習し、期末振り返りテストの学習 事後：今まで学習したことを復習し、期末考査への準備

授業科目	英語Ⅰ（基礎）C EnglishⅠ		担当教員	大西 三佳子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。			
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。			
テキスト	M. Edmunds, P. Price, S. Ohtaki and T. Hikichi 「English for Nursing Students」(NAN'UN-DO, 2020)			
参考書	必要に応じて紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	60％	授業時の態度や活動状況、提出物、小テスト、その他（以上で40％）及び定期試験等のテスト（60％）の結果から総合的に判断します。 その他：授業時の発表・ペアワークやグループ活動の取り組みの姿勢などを評価します。	
	レポート			
	小テスト	20％		
	提出物	10％		
	その他	10％		
履修上の 留意事項	授業時は必ず辞書と教科書を持参し、小テストや提出物の準備を忘れない事。			
実務経験を 活かした教育内容	加・米・英の国々で生活した者として、これらの国々の医療の様子などを講義に織り交ぜながら教科書の内容がより理解し易いように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス	
		授業内容	本科目の目的・目標・学習内容、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。	
		事前・事後学習	事前：テキストの内容を確認 事後：テキスト次週分の予習	
	2	学習の主題	Unit 1 WHAT IS A NURSE?	
		授業内容	1. reading（看護の仕事） 2. grammar（接続詞） 3. writing（基本的な重要構文）	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備	
	3	学習の主題	Unit 2 THE HISTORY OF NURSING	
		授業内容	1. reading（看護の歴史） 2. grammar（関係詞） 3. writing（基本的な重要構文）	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備	
	4	学習の主題	Unit 3 PATIENT-NURSE RELATIONSHIP	
		授業内容	1. reading（患者さんと看護師の関係） 2. grammar（副詞節） 3. writing（基本的な重要構文）	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備	
	5	学習の主題	Unit 4 COMMUNICATION WITH A PATIENT	
		授業内容	1. reading（患者さんとの良好な会話） 2. grammar（使役を表す動詞など） 3. writing（基本的な重要構文）	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	Unit 5 INTERCULTURAL COMMUNICATION WITH A PATIENT
		授業内容	1. reading (患者さんとの異文化コミュニケーション) 2. grammar (疑問代名詞や接続詞など) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストとグループ発表の準備
	7	学習の主題	PRESENTATION 1
		授業内容	グループで学習した表現を使ってスキットを作成し、発表する。
		事前・事後学習	事前：グループ発表の準備 事後：中間振り返りテストの準備
	8	学習の主題	中間振り返りテスト (Unit1～Unit5)
		授業内容	これまでに学習した内容の定着度をチェックする。
		事前・事後学習	事前：前半の授業内容を復習し、中間振り返りテストの準備 事後：次の課の準備
	9	学習の主題	Unit 6 DOCTOR-NURSE RELATIONSHIP
		授業内容	1. reading (医者と看護師の関係) 2. grammar (動詞句) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	10	学習の主題	Unit 7 RELATED PROFESSIONALS
		授業内容	1. reading (関連ある職種の人たち) 2. grammar (動詞の形) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	11	学習の主題	Unit 8 NURSES AND THE HOSPITAL
		授業内容	1. reading (看護師と病院) 2. grammar (前置詞) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	12	学習の主題	Unit 9 NURSES IN THE COMMUNITY
		授業内容	1. reading (地域における看護師) 2. grammar (助動詞) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	13	学習の主題	Unit 10 NURSING IN THE FUTURE
		授業内容	1. reading (未来の看護) 2. grammar (時制) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストとグループ発表の準備
	14	学習の主題	PRESENTATION 2
		授業内容	グループで学習した表現を使ってスキットを作成し、発表する。
		事前・事後学習	事前：グループ毎に発表の準備 事後：期末振り返りテストの準備
	15	学習の主題	期末振り返りテスト (Unit 6～Unit10)
		授業内容	これまで学習した内容の定着度をチェックする。
		事前・事後学習	事前：後半の授業内容を復習し、期末振り返りテストの学習 事後：今まで学習したことを復習し、期末考査への準備

授業科目	英語Ⅰ（基礎）D EnglishⅠ		担当教員	松尾 文子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。			
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。			
テキスト	English Booster! Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa（金星堂, 2021）			
参考書	必要に応じて紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験で70%、授業で行うリスニング小テストで20%、需要の取り組み姿勢の10%で評価する。 中間・定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。	
	試験	70％		
	レポート			
	小テスト	20％		
	提出物			
	その他	10％		
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス / Unit 1: On My Way to Silicon Valley pp.12～14	
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。 / listening, word check, conversation, grammar（現在時制）	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。	
	2	学習の主題	Unit 1: On My Way to Silicon Valley pp.15～17 / Unit 2: Welcome to San Francisco p.18	
		授業内容	grammar（現在時制）, reading, writing / listening, word check	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。	
	3	学習の主題	Unit 2: Welcome to San Francisco pp.19～23	
		授業内容	conversation, grammar（代名詞）, reading, writing	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。	
	4	学習の主題	Unit 3: First Day of Internship	
		授業内容	listening, conversation, grammar（前置詞）, reading, writing	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。	
	5	学習の主題	Unit 4: Fun Times, but …	
		授業内容	listening, conversation, grammar（過去時制）, reading, writing	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。	
	6	学習の主題	Unit 5: They Look Good on You	
		授業内容	listening, conversation, grammar（可算・不可算名詞）, reading, writing	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	Unit 6: Tech Talk
		授業内容	listening, conversation, grammar (Wh 疑問文), reading, writing
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	8	学習の主題	中間試験
		授業内容	これまでに学んだ内容の理解度チェック
		事前・事後学習	事前: これまでの授業内容を復習する。 事後: 可能な範囲で自分の解答の正誤を確認する。
	9	学習の主題	Unit 7: You're Sitting on It …
		授業内容	listening, conversation, grammar (進行形), reading, writing
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	10	学習の主題	Unit 8: Going Green
		授業内容	listening, conversation, grammar (助動詞), reading, writing
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	11	学習の主題	Unit 9: Time to Work
		授業内容	listening, conversation, grammar (will & be going to), reading, writing
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	12	学習の主題	Unit 10: Know Your Business
		授業内容	listening, conversation, grammar (比較級・最上級), reading, writing
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	13	学習の主題	Unit 11: The Job Interview
		授業内容	listening, conversation, grammar (現在完了), reading, writing
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	14	学習の主題	Unit 12: Is Your Company Right for You ?
		授業内容	listening, conversation, grammar (接続詞), reading, writing
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	15	学習の主題	これまでの授業振り返り
		授業内容	これまで学んだ内容の確認
		事前・事後学習	事前: これまでの授業内容を復習する。 事後: 期末試験の勉強をする。

授業科目	英語Ⅱ（会話） EnglishⅡ（Conversation）		担当教員	David Flenner / Peter Reemst ※担当教員は、クラス別
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	The purpose of this course is to build basic and intermediate communicative skills for a clinical setting.			
到達目標	1. Building confidence in order to communicate with patients in English 2. Improving students' knowledge of language used in a clinical setting 3. Building an awareness of the needs of English speaking patients			
テキスト	Simon Capper 「Bedside Manner Beginner (New Edition)」（Perceptia Press）			
参考書	なし			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		1. Worksheets 30% 2. Class Participation (Attendance and Question Response) 10% 3. Mid-Term Test 30% 4. Final Test 30%	
	レポート			
	小テスト	60％		
	提出物	30％		
	その他	10％		
履修上の 留意事項	Students are expected to participate in conversation and exercises.			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	Orientation	
		授業内容	Classroom Language and Instruction	
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 1	
	2	学習の主題	Unit 1	
		授業内容	Meeting a New Patient	
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 2	
	3	学習の主題	Unit 2	
		授業内容	Talking About Symptoms	
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 3	
	4	学習の主題	Unit 3	
		授業内容	In-Patient Orientation	
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 4	
	5	学習の主題	Unit 4	
		授業内容	Doing the Rounds	
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 5	
	6	学習の主題	Unit 5	
		授業内容	Explaining Medication	
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 6	
	7	学習の主題	Unit 6	
		授業内容	More Symptoms	
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 7	
	8	学習の主題	Unit 7	
		授業内容	Review / Test 1: Units 1-6	
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 8	
	9	学習の主題	Unit 8	
		授業内容	Accidents and Injuries	
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 9	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	10	学習の主題	Unit 9
		授業内容	Patient Examination
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 10
	11	学習の主題	Unit 10
		授業内容	Taking a Medical History
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 11
	12	学習の主題	Unit 11
		授業内容	Lifestyle and Diet
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 12
	13	学習の主題	Unit 12
		授業内容	Explaining Hospital Tests
		事前・事後学習	Homework-Review Sheet
	14	学習の主題	Unit 13
		授業内容	Review
		事前・事後学習	Study for Review Test
	15	学習の主題	Review/Test 2
		授業内容	Units 8-12
		事前・事後学習	Not Applicable

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）A・C Presentation SkillsⅠ (Reading Comprehension and Analyses)		担当教員	高木 維
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	本科目は、大学および社会において求められる一般的な作文技術の習得を目的とする。文章表現の面では、いわゆる文学作品的な美文ではなく、学術的表現を用いて、文法ミスのない平易な文を書くことを目指す。内容構成の面では、三部構成に則り、論拠・出典を明確にしたレポートの作成を目指す。			
到達目標	1. レポートにふさわしい表現で、文法ミスのない文を書く技能を身に付ける。 2. 他人発の情報を的確に利用し、出典を明示する技能を身に付ける。 3. 三部構成の重要性を理解し、レポートの構成を考える能力を身に付ける。 4. レポートを作成するための全体的なプロセスを把握する。			
テキスト	なし			
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共著「読みやすく考えて調べて書く」（学術図書出版） 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」（慶應義塾大学出版会）			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート・その他の提出物・授業態度により総合的に評価する。 ・レポート（50％）：中間レポート・期末レポートの得点 ・提出物（30％）：課題①・課題②の取り組み ・授業態度（20％）：講義内活動への取り組みの姿勢	
	レポート	50％		
	小テスト			
	提出物	30％		
	その他	20％		
履修上の 留意事項	講義内活動を踏まえてレポートを執筆していくため、一度の欠席によって課題への取り組みが困難になることが予想される。そのため、欠席した場合は、教員にメールを送って講義資料・講義スライドをPCで受け取る、というフォローアップが不可欠である。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス／文体	
		授業内容	・本科目の目的、評価基準 ・レポート（論説文）にふさわしい文体	
		事前・事後学習	・宿題に取り組む	
	2	学習の主題	段落構成①／論説文の語彙	
		授業内容	・段落構成の概要と、例示・対比の段落 ・レポートにおいて避けるべき表現	
		事前・事後学習	・宿題に取り組む	
	3	学習の主題	段落構成②／文法ミス	
		授業内容	・意見・論述の段落 ・レポートにおいて頻出する文法ミス	
		事前・事後学習	・課題①（レポートらしい文体の段落をPCで執筆）に取り組む	
	4	学習の主題	引用文①	
		授業内容	・引用文献欄の書きかた ・引用文の示しかた	
		事前・事後学習	・課題①を提出する	
	5	学習の主題	引用文②	
		授業内容	・文献の内容を短くまとめる方法 ・複数の資料を、1つの段落にまとめる活動	
		事前・事後学習	・課題②（引用文を含む段落をPCで執筆）に取り組む	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	報告型レポート／読解
		授業内容	・文献の内容紹介が目的となるレポートの構成 ・資料読解と引用文の作成
		事前・事後学習	・課題②を提出する
	7	学習の主題	アウトライン／表記
		授業内容	・レポート執筆の準備に必要なアウトラインの作成 ・レポートにおいて避けるべき文字遣い（漢字・数字・記号）
		事前・事後学習	・アウトラインを完成させ、中間レポートを執筆する
	8	学習の主題	論述型レポート／文献調査
		授業内容	・事実に基づいて意見を提示するレポートの構成 ・期末レポートのテーマ告知と文献調査の方法
		事前・事後学習	・中間レポートを提出する
	9	学習の主題	論点整理
		授業内容	・論点（何について論じるのか）の説明に必要となるもの
		事前・事後学習	・ワークノートを用いて、文献調査・論点整理を進める
	10	学習の主題	考察
		授業内容	・自説の正しさを論証するために必要となるもの
		事前・事後学習	・引き続き、ワークノートを用いて考察を進める
	11	学習の主題	個人相談①／結論
		授業内容	・アウトラインにかんする個人相談・教員のチェック ・レポートの結論の書きかた
		事前・事後学習	・アウトラインを完成させ、持参する
	12	学習の主題	個人相談②／序論
		授業内容	・アウトラインにかんする個人相談・教員のチェック ・レポートの序論の書きかた
		事前・事後学習	・アウトラインを完成させ、持参する。また、期末レポートの執筆に取り組む
	13	学習の主題	推敲
		授業内容	・批判的にレポートを読むための演習 ・期末レポート（初稿）の推敲
		事前・事後学習	・期末レポート（初稿）を書き上げ、持参する
	14	学習の主題	さまざまな構成
		授業内容	・投稿規定から、レポート全体の構成を想定するグループワーク
		事前・事後学習	・期末レポート（最終稿）を2部印刷し、提出する
	15	学習の主題	総括
		授業内容	・期末レポート（最終稿）の読み合い ・後期に執筆するレポートのテーマ発表
		事前・事後学習	・後期に向け、告知されたテーマについて情報を集める

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）B・D Presentation SkillsⅠ （Reading Comprehension and Analyses）		担当教員	安永 立子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	言語表現とは何か、という理論的な側面を学び、日本語表現に関する学術的な基礎知識を習得する。そのうえで、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる実践的な日本語の運用能力を身につける。			
到達目標	1. 言語表現に関する基本的な学術用語を理解する。 2. 日本語による文章作成の基本的な能力を身につける。 3. 文章を書く際の発想力、構成力を学習し、適宜応用できる。			
テキスト	なし			
参考書	授業時間内にその都度紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。	
	レポート	40%	毎回の講義で提出を課す小課題に対して、4点満点で採点し、60点満点として評価する（3分の1以上の欠席は評価の対象外）。授業に対する取り組み姿勢についても、採点に適宜加味する。授業内、また事後学習として課す実作レポートをその都度採点し、合計を40点満点に換算して、100点満点	
	小テスト		で上記の目標の達成度を評価する。なお、授業内で課す3回の実作レポートを2回以上提出できなかった場合は評価の対象としない。	
	提出物	30%		
	その他	30%		
履修上の 留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	オリエンテーション／本科目の説明と履修上の注意 レポートについて／適切な文を書くためのエクササイズ	
		授業内容	本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 表現方法を学ぶにあたって、レポートを書くとはどういうことか、概略を学ぶ。 「非文」「悪文」の例を学生各自が添削し、正しい文についての理解を深める。	
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、本科目履修についての疑問等を明らかにしておく。 授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。	
	2	学習の主題	論文の文体を理解する	
		授業内容	間違いやすい語彙の知識を確認する。話し言葉と書き言葉の違いについて判断できる能力を身につける。論述に適した文体について学ぶ。	
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。	
	3	学習の主題	説明的文章の方法（1）	
		授業内容	知識や情報を伝えるためには、何が重要か理解する。読者をどのように想定するかについて学ぶ。	
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。	
	4	学習の主題	説明的文章の方法（2）／説明文の製作	
		授業内容	言語の抽象化能力とカテゴリー理論について学ぶ。講義をもとに説明文を書く。	
		事前・事後学習	授業時間内に書き上げられなかった場合は次週に提出すること（評価は下がるが、採点対象とする）。	
	5	学習の主題	レポートの基本的構成／発想から文章へ（1）	
		授業内容	レポートの基本構成とレポートの種類について学ぶ。	
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6	学習の主題	資料の集め方／引用書誌情報の記し方／「問題提起のある文章」を組み立てる
		授業内容	レポート作成に当たって、どのように資料を収集するか学ぶ。また、レポート内に引用する資料について、その引用の方法や書誌情報の記し方について学ぶ。さらに、「問題提起のある文章」の構成を理解する。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
	7	学習の主題	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けての個人指導
		授業内容	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けて、個人指導を行う。 * 情報処理室で授業実施予定
		事前・事後学習	次回授業開始時間までに、レポート実作②「問題提起のある文章」を提出する。
	8	学習の主題	レポート実作②「問題提起のある文章」の提出／発想から文章へ（２）／賛否両論を想定する
		授業内容	様々なところから発想した観点を文章に発展させる技法を身につける。賛否両論が可能な文を考えることで、論理的な文章の構築を学ぶ。
		事前・事後学習	授業開始時間までに、レポート実作②「問題提起のある文章」を提出する。提出できなかった場合は次週提出すること（評価は下がるが、採点対象とする）。
	9	学習の主題	論文の構造／賛否両方の論を書いてみる
		授業内容	ある論題に対して、賛否両方の視点から文章を構成してみることで、論理の骨格を理解する。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
	10	学習の主題	レポートにおける「事実」と「意見」の区別／段落について／中心文と展開文
		授業内容	レポートの記述において、「事実」と「意見」をどのように区別して扱うかについて学ぶ。また、段落とそれを構成する中心文、展開文の概念を理解する。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
	11	学習の主題	レポート実作③「主張文」の作成に向けての個人指導
		授業内容	レポート実作③「主張文」の作成に向けて、個人指導を行う。 * 情報処理室で授業実施予定
		事前・事後学習	次回授業開始時間までに、レポート実作③「主張文」を提出する。
	12	学習の主題	レポート実作③「主張文」の提出／他人の文章に対する批判を構築する
		授業内容	他人の文章の論理構造を読み解き、批判を構築する方法を身につける。
		事前・事後学習	授業開始時間までに、レポート実作③「主張文」を提出する。提出できなかった場合は次週提出すること（評価は下がるが、採点対象とする）。
	13	学習の主題	論理的文章の基本
		授業内容	要約の方法を確認する。論文の文体を身につける。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
	14	学習の主題	情報を整理する
		授業内容	データの読み取りの基本を学ぶ。論文の論理構築の方法を理解する。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
	15	学習の主題	敬語と手紙・メール文の基本
		授業内容	日常的な言語によるコミュニケーションの訓練として、敬語を学ぶ。その運用例として、手紙、またはメール文を書いてみる。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）A・C Presentation Skills Ⅱ （Academic Presentation）		担当教員	高木 維
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	本科目は、大学および社会において求められるプレゼンテーション技術の習得を目的とする。レポート執筆の過程では討議を行い、他者の見解・批判を取り込んで更に考察を進める。最終的に、レポートの口頭発表会を体験することによって、分かりやすいスピーチ・資料とはどういったものかを理解する。			
到達目標	1. 討議において、肯定的・批判的意見を出す技能を身に付ける。 2. レポートの内容を短くまとめ、発表する技能を身に付ける。 3. レポートとは異なる、発表時の配布資料を作成する技能を身に付ける。			
テキスト	なし			
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共著「読みやすく考えて調べて書く」（学術図書出版） 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」（慶應義塾大学出版会）			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物、発表・討論の内容により総合的に評価する。 ・レポート（30％）：レポートの得点 ・提出物（40％）：課題①・課題②・発表資料の取り組み ・授業態度（30％）：講義内活動への取り組みの姿勢	
	レポート	30％		
	小テスト			
	提出物	40％		
	その他	30％		
履修上の 留意事項	前期と同様、欠席した場合は、教員にメールを送って講義資料を PC で受け取る、というフォローアップが不可欠である。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス／リサーチクエスト	
		授業内容	・後期の到達目標・注意事項の説明 ・リサーチクエストの考えかた・絞り込みかた	
		事前・事後学習	・夏休み中に情報を収集し、テーマを選んでおく ・利用すべき文献・そのコピーを手元に控えておく	
	2	学習の主題	図表	
		授業内容	・レポートにおける図表の利用のしかた	
		事前・事後学習	・状況調査を続行する ・課題①（図表の利用について）に取り組む	
	3	学習の主題	資料の作成	
		授業内容	・討議・発表で利用する、配布資料のまとめかた	
		事前・事後学習	・状況調査・考察を続け、資料にまとめる ・課題①を提出する	
	4	学習の主題	討議	
		授業内容	・一般的な討議の流れ ・討議の練習	
		事前・事後学習	・状況調査・考察を続け、資料にまとめる	
	5	学習の主題	討議の実践①	
		授業内容	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループで討議	
		事前・事後学習	・討議に利用する資料を指定の枚数印刷し、持参する	
	6	学習の主題	討議の実践②	
		授業内容	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループで討議	
		事前・事後学習	・討議の結果をプリントにまとめる（課題②）	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	アウトラインの作成／個人相談①
		授業内容	・ 討議結果を踏まえ、レポートのアウトラインを作成 ・ アウトラインにかんする、教員のチェック・個人相談
		事前・事後学習	・ 課題②（討議結果のまとめ）を提出する ・ アウトラインを作成し、持参する
	8	学習の主題	序論・結論／個人相談②
		授業内容	・ 序論・結論の書きかた ・ アウトラインにかんする、教員のチェック・個人相談
		事前・事後学習	・ アウトラインを作成し、持参する ・ 相談結果をもとに、レポートを次週までに完成させる
	9	学習の主題	口頭発表／原稿作成
		授業内容	・ 発表時に気を付けるべきこと ・ 発表時間内に収まる原稿作成
		事前・事後学習	・ レポートを提出する
	10	学習の主題	口頭発表の練習 / 質疑応答
		授業内容	・ 口頭発表用の原稿を持参し、グループで発表練習をする ・ 発表会における、一般的な質問のしかた、回答のしかた
		事前・事後学習	・ 発表用原稿を作成し、持参する ・ レポート発表会の発表資料データをメールで送信する
	11	学習の主題	発表会①
		授業内容	・ 発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
		事前・事後学習	・ 配布用の発表資料を準備し、発表に備える ・ 聴衆側は資料に目を通し、質疑に備える
	12	学習の主題	発表会②
		授業内容	・ 発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
		事前・事後学習	・ 配布用の発表資料を準備し、発表に備える ・ 聴衆側は資料に目を通し、質疑に備える
	13	学習の主題	発表会③
		授業内容	・ 発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
		事前・事後学習	・ 配布用の発表資料を準備し、発表に備える ・ 聴衆側は資料に目を通し、質疑に備える
	14	学習の主題	発表会④
		授業内容	・ 発表時間 5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
		事前・事後学習	・ 配布用の発表資料を準備し、発表に備える ・ 聴衆側は資料に目を通し、質疑に備える
	15	学習の主題	総括
		授業内容	・ レポート・発表資料の返却、前期・後期の総括 ・ 講義内容を復習する練習問題
		事前・事後学習	なし

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）B・D Presentation Skills Ⅱ （Academic Presentation）		担当教員	安永 立子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1 年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1 単位
授業目的	様々な場面で必要とされる「プレゼンテーション力」を養い、人間関係を構築するコミュニケーションのあり方を学習する。また、多人数の前で話す能力を身につけるとともに、的確な情報伝達の方法を学習する。さらに、自分の主張を論理的に表現する方法を学び、複数人による討議を有意義に進行させることができる。			
到達目標	1. 日本語による発表や討論のための基本的な方法論を身につける。 2. 発話による他人とのコミュニケーションを円滑に行うために、必要な知識を習得する。 3. 複数人による討議に際して、論理的な議論を行うことを可能にする。			
テキスト	なし			
参考書	授業時間内にその都度紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 毎回の講義への積極的な参加に対して、4 点満点で採点し、60 点満点として評価する（3 分の 1 以上の欠席は評価の対象外）。授業内での口頭発表及び、その準備のために作成する課題と事後の振り返り課題をその都度採点し、合計を 40 点満点に換算して、100 点満点で上記の目標の達成度を評価する。なお、授業内で課す 3 回の口頭発表のうち、2 回以上実施できなかった場合は評価の対象としない。 その他：口頭発表、授業への取り組み姿勢	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	40％		
	その他	60％		
履修上の 留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	「口頭発表」について学ぶ。	
		授業内容	ガイダンス：本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 口頭による発表の特徴と留意点について学習する。次回のスピーチ原稿を作成する。	
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく。 担当者は次週のスピーチのリハーサルをしておく。	
	2	学習の主題	実践（A）3 分間スピーチ（1）	
		授業内容	1 対多のコミュニケーション実践として、スピーチをする。 自分の伝えたいメッセージを相手に伝える工夫を考える。	
		事前・事後学習	クラスメートによる相互批評から自分の発表の反省点を考える。 担当者は次週のスピーチのリハーサルをしておく。	
	3	学習の主題	実践（A）3 分間スピーチ（2）	
		授業内容	1 対多のコミュニケーション実践として、スピーチをする。 自分の伝えたいメッセージを相手に伝える工夫を考える。	
		事前・事後学習	クラスメートによる相互批評から自分の発表の反省点を考える。 プレゼンテーションを行う発表主題を決める。	
	4	学習の主題	「プレゼンテーション」について学ぶ。 プレゼンテーション発表用資料、及び、発表原稿の作成。	
		授業内容	プレゼンテーションの方法と留意点について学習する。 自分が行う発表に必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。 ＊情報処理室で授業実施予定	
		事前・事後学習	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5	学習の主題	プレゼンテーション発表用資料、及び、発表原稿の作成／スピーチのまとめと反省
		授業内容	自分が行う発表に必要な視覚的資料を作成する。 ＊情報処理室で授業実施予定
		事前・事後学習	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。 次週発表者はリハーサルをしておくこと。
	6	学習の主題	実践（B）プレゼンテーション（1）
		授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
		事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次週発表者はリハーサルをしておくこと。
	7	学習の主題	実践（B）プレゼンテーション（2）
		授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
		事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。 次週発表者はリハーサルをしておくこと。
	8	学習の主題	実践（B）プレゼンテーション（3）
		授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
		事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。 次週発表者はリハーサルをしておくこと。
	9	学習の主題	実践（B）プレゼンテーション（4）
		授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
		事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。 担当するディベート論題について知識を蓄積する。
	10	学習の主題	「ディベート」について学ぶ／ディベート論題についての情報収集
		授業内容	ディベートについての基本的な知識を学習し、実践に向けての計画を立てる。 各チームごとに、役割分担を決定し、ディベート論題についての情報収集を行う。 ＊情報処理室で授業実施予定
		事前・事後学習	ディベートチーム内で作業を分担し、必要な調査を行う。 ディベートチーム内で分担し、立論や反対尋問等を作成する。
	11	学習の主題	ディベートの構築／プレゼンテーションのまとめと反省
		授業内容	各チームごとに、論点の整理、全体の原稿作成、役割分担の確認、などを行う。 ＊情報処理室で授業実施予定
		事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向けてリハーサルをしておく。
	12	学習の主題	実践（C）ディベート（1）
		授業内容	2チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。 論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
		事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向け、担当チームはリハーサルをしておく。
	13	学習の主題	実践（C）ディベート（2）
		授業内容	2チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
		事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向け、担当チームはリハーサルをしておく。
	14	学習の主題	実践（C）ディベート（3）
		授業内容	2チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
		事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向け、担当チームはリハーサルをしておく。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	15	学習の主題	実践（C）ディベート（4） ディベートのまとめと反省
		授業内容	2チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。 論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
		事前・事後学習	後期の講義全体を振り返り、発表・討議の際に注意すべき点を確認しておくこと。

授業科目	心理学 Psychology		担当教員	小島 康次
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	看護実践における重要な要素の1つに、患者の気持ちを理解することがあげられます。患者の話に耳を傾け、患者の気持ちを受け入れ共感するという姿勢で看護を行うことが益々、求められるようになってきました。この授業では、心理学の基礎を学ぶという一般的な目的のほかに、看護職を目指す皆さんの実践に焦点を当てて、看護に関連する例や話題にも触れる講義を行います。テキストは、2部構成になっていて、前半（1部）は基礎的メカニズム、後半（2部）は医療場面における応用例となっています。通年30時間用のテキストですが、1部を中心に、2部の応用編の中からテーマを絞って詳しく紹介し、心理学の実践的な考え方を理解してもらいます。			
到達目標	心のメカニズムを客観的な方法によって知ることの重要性を理解し、看護場面における応用について学ぶ。			
テキスト	長田久雄編著「看護学生のための心理学（第2版）」（医学書院）			
参考書	なし			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	100％	目標の到達状況を定期試験で評価する。 定期試験（60分）：講義内容の理解、獲得した知識について確認する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	事後学習としてテキストの該当する章の末尾にある“WORKS”を各自でやっておくこと。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	第1章：感覚・知覚の心理：A 感覚	
		授業内容	1 感覚の種類と性質、2 感覚の加齢変化	
		事前・事後学習	テキスト第1章のAを予習、復習すること。	
	2	学習の主題	第1章：感覚・知覚の心理：B 知覚	
		授業内容	1 知覚の諸現象、 2 形と運動の知覚	
		事前・事後学習	テキスト第1章のBを予習、復習すること。	
	3	学習の主題	第2章：学習・記憶の心理：A 学習	
		授業内容	1 学習とは何か 2 学習のしくみ	
		事前・事後学習	テキスト第2章のAを予習、復習すること。	
	4	学習の主題	第2章：学習・記憶の心理：B 記憶	
		授業内容	1 記憶とは、2 忘却 3 記憶の種類 4 日常記憶	
		事前・事後学習	テキスト第2章のBを予習、復習すること。	
	5	学習の主題	第3章：感情・動機の心理：A 感情・情緒	
		授業内容	1 感情・情緒とは何か、～5 事例でみる感情・情緒の心理	
		事前・事後学習	テキスト第3章のAを予習、復習すること。	
	6	学習の主題	第3章：感情・動機の心理：B 動機・欲求	
		授業内容	1 動機・欲求とは何か、～4 事例でみる動機・欲求の心理	
		事前・事後学習	テキスト第3章のBを予習、復習すること。	
	7	学習の主題	第4章：性格・知能の心理：A 性格研究の方法と性格理論	
		授業内容	1 性格に関する概念と用法、～4 相関的研究法による性格理論	
		事前・事後学習	テキスト第4章のAを予習、復習すること。	
	8	学習の主題	第4章：性格・知能の心理：B パーソナリティの障害と成熟	
		授業内容	1 パーソナリティの障害とは何か、2 境界性障害 3 成熟した人格	
		事前・事後学習	テキスト第4章のBを予習、復習すること。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	9	学習の主題	第4章：性格・知能の心理：C 知的機能と創造性
		授業内容	1 知能テスト、2 知的障害、3 創造性、4 思考の様式
		事前・事後学習	テキスト第4章の C を予習、復習すること。
	10	学習の主題	第5章：発達の心理：A 乳幼児期・児童期
		授業内容	1 乳幼児期・児童期の発達段階、～4 乳幼児期・児童期の心理的問題
		事前・事後学習	テキスト第5章の A を予習、復習すること。
	11	学習の主題	第6章：社会・集団の心理：A 社会的認知、B 社会的態度
		授業内容	A 1 対人認知、～3 帰属、B 1 態度とは何か、2 態度変化と説得
		事前・事後学習	テキスト第6章 A、B を予習、復習すること。
	12	学習の主題	第6章：社会・集団の心理：C 社会的スキル、D 集団の心理
		授業内容	C 1 社会的スキル、2 モデル、D 1 集団とは、2 ～リーダーシップ
		事前・事後学習	テキスト第6章 C、D を予習、復習すること。
	13	学習の主題	第7章：健康の心理と人間理解：A 患者の理解
		授業内容	1 患者行動の理解と心理学、2 ストレス理論、3 主観的統制と健康
		事前・事後学習	テキスト第7章 A を予習、復習すること。
	14	学習の主題	第9章：カウンセリングと心理療法：B 精神分析
		授業内容	B 1 精神分析とは何か、～4 医療場面でどう応用できるか
		事前・事後学習	テキスト第9章Bを予習、復習すること。
	15	学習の主題	第9章：カウンセリングと心理療法：E 認知行動療法
		授業内容	1 行動療法の特徴、～6 認知行動療法の人間観
		事前・事後学習	テキスト第9章Eを予習、復習すること。

授業科目	倫理学 Ethics		担当教員	村上 友一
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	生命倫理を考える上で必要な、倫理的な思考力を養うとともに、生命倫理で扱われる諸問題を掘り下げて思考するための基礎力を養う。			
到達目標	1. 決定主体である自己の成立基盤を理解する。 2. 倫理的問題に対して自分自身で考える力を養成する。 3. 自分自身の考えを正しく表現する力を養い、コミュニケーション能力の向上をはかる。			
テキスト	特に指定しない。			
参考書	授業内で紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート 50%、提出物 25%、その他（取り組み姿勢）25%によって評価する。 なお、その他には、「授業内で行われる議論への積極的な参加姿勢」も含まれる。	
	レポート	50%		
	小テスト			
	提出物	25%		
その他	25%			
履修上の 留意事項	本講義では自分で考え、それを文章化する時間を設ける（上記、提出物）。この時間は私語を認めるので、友人とのコミュニケーションを通して自分の考えを深めて欲しい。講義がすべて終了した後にレポートが課される。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス	
		授業内容	生命倫理や現代社会において重視される自己決定権の背後に自由主義があることを確認する。	
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。	
	2	学習の主題	自由主義の帰結	
		授業内容	自由主義を突き詰めると、社会規範の多くが浸食されるほか、いくつかの問題が生じることを確認する。	
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。	
	3	学習の主題	カントのリバタリアニズム批判	
		授業内容	カントの哲学的立場から「自由主義」を批判的に見たときに、何が得られ、何が失われるかを見ておく。	
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。	
	4	学習の主題	自己決定の成立基盤としての平等	
		授業内容	リバタリアンが考えるように平等が自由を破壊するのではなく、むしろ平等が自由を保障することを確認する。	
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。	
	5	学習の主題	平等概念の再検討（1）	
		授業内容	平等概念は複雑であるので、これを分析・整理しておく。	
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。	
	6	学習の主題	平等概念の再検討（2）	
		授業内容	いくつかの事例について考えることを通して、平等と不平等の理解を深める。	
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。	
	7	学習の主題	自己と共同体の関係を問い直す	
		授業内容	自己決定の主体である個人がどのような存在であるのかを、これまでの考察を整理しつつ解明していく。	
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	8	学習の主題	自己の成立基盤としての共同体：国家・家族・自己
		授業内容	インフォームド・コンセントの主体となるべき個人のあり方を明確にし、それによってインフォームド・コンセントを別の角度からとらえる視点を提供する。
		事前・事後学習	レポートに備えて、理解を整理し、不明な点を明確にすること。

授業科目	現代社会論 Issues in Modern Society	担当教員	翁 康健
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	激変し続ける現代社会において、その変化に主体的に対応する必要がある。現代を生きる、医療人としての最低限の社会的常識を理解することがこの授業の目的である。		
到達目標	1. 現代社会の諸問題を理解し、自らの対処法が模索できる。 2. 地域社会・家族・学校など身近な制度の仕組みを理解し、問題を発見し、対処法を模索できる。 3. 現代社会を動かす仕組みを理解し、その対処方法を模索できる。		
テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	定期試験 (60%) と講義内で数回実施するミニ・レポート (40%) から目標の到達状況を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	40%	
	その他		
履修上の 留意事項	・ 講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・ 講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	イントロダクション
		授業内容	・ 講義の概要、方法、評価の説明 ・ 現代社会の捉え方 (社会学的な視点) ・ 日常生活の違和感を大切に
		事前・事後学習	・ 講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・ キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	2	学習の主題	選挙はなぜ存在するのか？ 国民国家としての日本
		授業内容	・ 近代国民国家とは何か？ ・ 政党政治と選挙制度 ・ 基本的な人権と国民
		事前・事後学習	・ 講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・ キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	3	学習の主題	なぜお金がないと、生活できないのか？ 資本主義社会とは？
		授業内容	・ 命の値段？ なぜ、働かなければいけないのか？ ・ 国民所得と豊かさの関係 (正規雇用と非正規雇用の違い) ・ 格差社会を読み解く
		事前・事後学習	・ 講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・ キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	4	学習の主題	結婚!? そして、家族？ 家族とは何か？
		授業内容	・ 晩婚・非婚時代 - 結婚していないイイ女の4つの条件 ・ 核家族が標準か？ いろいろある世界の家族形態
		事前・事後学習	・ 講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・ キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	戦後日本家族の変化をホームドラマから観る!! 自営業の大家族から郊外の核家族へ（１）
		授業内容	・三丁目の夕日の世界 家父長制の直系家族 雷親父と優しいおふくろさん ・大家族、近所づきあい、ライフ・サイクル
		事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 （全講義内で数回実施予定） ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	6	学習の主題	戦後日本家族の変化をホームドラマから観る!! 自営業の大家族から郊外の核家族へ（２）
		授業内容	・大都市郊外の友愛的な核家族へ ・郊外化、ライフ・コースへ
		事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 （全講義内で数回実施予定） ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	7	学習の主題	現代家族の諸問題 ―
		授業内容	・結婚、子育てとキャリア ・日本のジェンダー問題
		事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 （全講義内で数回実施予定） ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	8	学習の主題	「コミュニティ」って何？①
		授業内容	・地域社会の変化と人口移動、過疎と過密 ・郊外化、エスニック・タウン、限界集落
		事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 （全講義内で数回実施予定） ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	9	学習の主題	地域起こし、コミュニティの再生の事例
		授業内容	・「地方再生」の時代
		事前・事後学習	・Ｉターン者と地元
	10	学習の主題	格差社会の行方 ― 学歴社会？
		授業内容	・ワーキング・プアー ・下流老人、貧困高校生
		事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 （全講義内で数回実施予定） ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	11	学習の主題	無縁社会の行方
		授業内容	・地縁・血縁社会の崩壊 ・孤独死をどう防ぐか？
		事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 （全講義内で数回実施予定） ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	12	学習の主題	「モダンゼーション（近代化）」とは何？ 家族・地域社会の変動の元
		授業内容	・世界の国々を多くの方法で分類する ・アジアの中の日本について理解する
		事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 （全講義内で数回実施予定） ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	13	学習の主題	世俗化と反世俗化
		授業内容	・宗教の衰退とファンダメンタリスト（原理主義者）？ ・スピリチャリズムって何？
		事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 （全講義内で数回実施予定） ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	14	学習の主題	「グローバルゼーション」って何？ 激変する現代の元
		授業内容	・どこにある「純国産」 ・世界の宗教と移民問題について
		事前・事後学習	これまでのノートのまとめをする。予備試験を実施する。
	15	学習の主題	まとめ
		授業内容	・現代の社会変動とその対処方法 ・期末試験の概要
		事前・事後学習	これまでの授業の復習および疑問点の整理：

授業科目	生態学 Ecology	担当教員	立澤 史郎
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	ヒトを含む生物と環境との関わりを科学的に理解し、環境問題を科学的・総合的・多視的にとらえる基盤として、生態学（生態科学）の基礎を学ぶ。		
到達目標	・「2つの自然」「3つの生態学」について理解し説明できる。 ・地球環境問題について生態学的観点（食物連鎖・生物濃縮など）から解説・議論することができる。		
テキスト	ありません		
参考書	1. 日本生態学会編「生態学入門 [第 2 版]」（東京化学同人） 2. 鷲谷いづみ，矢原徹一著「保全生態学入門―遺伝子から景観まで」（文一総合出版） 3. 大塚柳太郎ほか著「人類生態学 [第 2 版]」（東京大学出版会）		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験		目標の到達状況を毎回のコメントペーパー、レポート、および受講状況を合わせて総合的に評価します。
	レポート	40％	
	小テスト		レポート 40％
	提出物	40％	提出物 40％：コメントペーパー
	その他	20％	その他 20％：受講状況
履修上の留意事項	・高校「生物」教科書（特に生態・環境の項）を読み返しておくことが望ましい。 ・講義の内容および順序は受講生の理解度や関心等により変更する場合があります。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス・序論 1（生物進化と「2つの自然」）
		授業内容	生態学が自然の家計学・経済学であることを学ぶ。また、ヒトを含む生物の進化が、生物と環境（「内なる自然」と「外なる自然」）の相互作用で生じてきたことを学ぶ。
		事前・事後学習	事前学習：過去に学んだ「進化」「適応」について復習しておくこと。 事後には講義・討論の内容を復習すること。
	2	学習の主題	序論 2（生物の集団現象を学ぶ三つの視点）
		授業内容	生物の集団現象を学ぶ際に、個体群、群集、生態系という 3 つの視点があることを理解する。また「保全」と「愛護」の違いを理解する。
		事前・事後学習	事前学習：個体群、群集、生態系の構成要素がどう違うのか、考えてみる。 事後には講義・討論の内容を復習すること。
	3	学習の主題	個体群生態学 1（理論）
		授業内容	個体数の変動の過程や要因の理論（研究例）を学ぶ。またそれが、鳥獣害問題の解決・軽減につながることを理解する。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする生物個体群に関係するニュースを調べる。事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。
	4	学習の主題	個体群生態学 2（鳥獣害問題の事例）
		授業内容	個体群生態学の実例、特に鳥獣害の被害・管理問題の実例を学ぶ。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする鳥獣害問題等に関係するニュースを調べる。事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	群集生態学 1 (理論)
		授業内容	群集 (種数) の変化やその要因の理論 (研究例) を学ぶ。またそれが、生物多様性保全や外来種問題と関係することを理解する。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする生物群集に関するニュースを調べる。 事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。
	6	学習の主題	群集生態学 2 (生物多様性問題の事例)
		授業内容	群集生態学の応用事例、特に生物多様性問題・外来種問題の実例を学ぶ。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする生物多様性や外来種問題に関するニュースを調べる。 事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。
	7	学習の主題	生態系生態学 1 (理論)
		授業内容	生態系における物質やエネルギーの循環の理論 (研究例) を学ぶ。またそれが、人類の生存環境の問題と深く関わることを理解する。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする生物生態系に関するニュースを調べる。 事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。
	8	学習の主題	生態系生態学 2 (環境・公害問題の事例)
		授業内容	生態系生態学の応用事例、特に環境・郊外問題の実例を学ぶ。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする環境・公害問題に関するニュースを調べる。 事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。

授業科目	スポーツ科学と運動 Sports Science and Exercise		担当教員	岡野 なお子
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	1 単位
授業目的	本授業は、身体を動かすことを通し、スポーツの楽しさ、仲間とのコミュニケーション、自他の体調の変化の「気づき」などを知り、社会生活に必要な「協調性」やあらゆる場面に自ら対応していく「積極性」を身につけることを目的とします。			
到達目標	医療人として豊かな人間性、社会生活に必要なマナーや社会性を身につける。			
テキスト	特になし			
参考書	特になし			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		目標の到達状況を実技参加への意欲・積極性と受講態度、安全性の評価（70％）と技能評価（30％）を総合して評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他	100％		
履修上の留意事項	全授業回数の 2/3 以上の出席回数が必要。安全にスポーツを行う為に運動着、運動しやすい靴を着用すること。土足厳禁。時間厳守。授業中の無断退室・飲食・勝手な行動を禁ずる。規則厳守。シラバスに記載されているスポーツ種目の順番、実施回数、種目等は履修者人数によって変更する場合ある。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス レクリエーション	
		授業内容	授業内容と目的、授業内容の構成、受講の諸注意の説明、評価方法について理解する。 軽い運動で身体をほぐす。	
		事前・事後学習	シラバスを読む。 実技授業に参加できるだけの基本体力づくりと健康管理を日頃から心がける。 軽い運動が出来るような服装をすること。	
	2	学習の主題	ソフトバレーボール①	
		授業内容	基本ルールについて ボール操作とコントロール	
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
	3	学習の主題	ソフトバレーボール②	
		授業内容	基本練習～攻撃編	
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
	4	学習の主題	ソフトバレーボール③	
		授業内容	基本練習～守備編	
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
	5	学習の主題	ソフトバレーボール④	
		授業内容	リーグ戦①	
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
	6	学習の主題	ソフトバレーボール⑤	
		授業内容	リーグ戦②	
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	ソフトバレーボール⑥
		授業内容	リーグ戦③
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習
	8	学習の主題	バドミントン①
		授業内容	各ストロークの基本練習① ハーフコートでシングルスゲーム練習
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	9	学習の主題	バドミントン②
		授業内容	各ストロークの基本練習② ハーフコートでシングルスゲーム練習
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	10	学習の主題	バドミントン③
		授業内容	ルールの説明 ダブルスゲーム
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	11	学習の主題	バドミントン④
		授業内容	ダブルスゲーム
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	12	学習の主題	生涯スポーツ（ポッチャ）
		授業内容	生涯スポーツについて説明、ポッチャのルール説明
		事前・事後学習	文献やインターネットなどで予習
	13	学習の主題	バドミントン⑤／ポッチャ①
		授業内容	ダブルスゲーム
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	14	学習の主題	バドミントン⑥／ポッチャ②
		授業内容	ダブルスゲーム
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	15	学習の主題	まとめ
		授業内容	ソフトバレーボール、バドミントンゲーム
		事前・事後学習	半期で実施した各実技種目等の復習

授業科目	法と人権 Law and Human Rights	担当教員	神元 隆賢
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	わが国の基礎法にしてすべての法律の根本を定義する根本規範である日本国憲法の内容は、総論、人権保障、統治機構に分けられる。この授業は、第 1 ～ 11 回では人権保障に関する問題を取りあげ、具体的事例を踏まえて学習することにより、社会生活を営むうえで必要な人権の基礎知識と法的思考を身につけることを目的とする。第 12 ～ 14 回では医療と人権に関する諸問題を学習することにより、医療人として必要な法知識を身につけることを目的とする。		
到達目標	1. 日本国憲法のうちの人権論に関する主要な判例および学説を理解したうえで、社会や世論で問題（話題）とされている事象について、現代憲法学の観点から議論をすることができる。 2. 医療人としての職務と人権、そして法との関わりを、具体的な事例を通じて理解したうえで、法的・倫理的課題を克服するための一つの視角を得る。		
テキスト	初宿正典他「いちばんやさしい憲法入門（第 6 版）」（有斐閣アルマ、2020 年）		
参考書	1. 芦部信喜（高橋和之補訂）「憲法（第 7 版）」（岩波書店、2019 年） 2. 戸松秀典「憲法」（弘文堂、2015 年） 3. 小川富之他「ロードマップ法学」（一学舎、2016 年）		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	60％	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 原則、この授業は対面で実施するが、コロナ禍の状況下にあることを踏まえ、対面授業の実施が困難である場合にはオンライン授業で実施する。授業途中でコロナ感染状況が変化し、対面授業とオンライン授業が切り替わった場合には、評価方法はオンライン授業のものを採用する。 【対面授業】授業への 2/3 以上への出席を必要条件とし、原則として、宿題型のレポート、授業 15 回目に実施する小テスト、学期末の定期試験によって成績を評価する。評価割合は左記参照。定期試験を受験しなかった場合は、評価の対象としない。追試験は定期試験に限り実施する。 【オンライン授業】授業 15 回目で宿題型レポートを課し、その点数のみ（100％）で評価する。
	レポート	20％	
	小テスト	20％	
	提出物		
履修上の 留意事項	その他		
	【対面授業】PowerPoint と教科書を併用して行い、冒頭で PowerPoint データをエクスポートした印刷物も配布する。過去の印刷物の再配布は行わない。ただし、下記メールアドレスまで、学籍番号、氏名、第何回の印刷物が欲しいかを明記したうえでメールしてもらえれば、該当する PDF データを添付して返信する。 kanmoto@hgu.jp 【オンライン授業】MP4 動画と印刷用 PDF 文書ファイルを Microsoft Teams で配布して行う。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス、法学入門（1）
		授業内容	・授業の概要、方法、成績評価方法の説明 ・法とは何か
		事前・事後学習	事前にシラバスを読んでおく。
	2	学習の主題	法学入門（2）
		授業内容	・憲法、民法、刑法の機能 ・判例と学説
		事前・事後学習	法とは何かを簡単に整理しておく。
	3	学習の主題	外国人の権利
		授業内容	・外国人に参政権（選挙権、被選挙権）を認める余地はあるか
		事前・事後学習	外国人参政権について調べて、自分の考えを整理しておく。
	4	学習の主題	プライバシー権
		授業内容	・プライバシー権保護の重要性 ・名誉毀損とは ・「宴のあと」事件
		事前・事後学習	テキストの該当部分を熟読しておく。
	5	学習の主題	表現の自由（1）プライバシー権との調和
		授業内容	・名誉毀損における真実性の証明による不処罰
		事前・事後学習	前回の授業内容を復習しておく。

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	表現の自由（２）ポルノの権利
		授業内容	・ わいせつ文書等頒布罪 ・ 許容される性表現の限界
		事前・事後学習	前回の授業内容を復習しておく。
	7	学習の主題	法の下の平等
		授業内容	・ 平等権の意味 ・ 尊属殺人罪違憲判決事件
		事前・事後学習	テキストの該当部分を熟読しておく。
	8	学習の主題	信教の自由
		授業内容	・ 神戸高専剣道実技拒否事件 ・ オウム真理教解散命令事件
		事前・事後学習	テキストの該当部分を熟読しておく。
	9	学習の主題	生存権
		授業内容	・ 「健康で文化的な最低限度の生活」とは
		事前・事後学習	テキストの該当部分を熟読しておく。
	10	学習の主題	教育権
		授業内容	・ 家永教科書裁判 ・ 旭川学テ事件
		事前・事後学習	テキストの該当部分を熟読しておく。
	11	学習の主題	死刑制度
		授業内容	・ 死刑存置論 ・ 死刑廃止論
		事前・事後学習	死刑の存廃について、自分の考えを整理しておく。
	12	学習の主題	人の始期・終期
		授業内容	・ 胎児と人、人と死体を区別する法的基準 ・ 人はいつから「人」として法的に保護されるか
		事前・事後学習	とくになし。
	13	学習の主題	自己決定権（１）被害者の同意
		授業内容	・ 自殺、自殺関与、同意殺人（死に同意した者の殺害）の違法性 ・ 同意傷害（負傷に同意した者の傷害）における傷害罪の成否 ・ 医療行為と傷害
		事前・事後学習	とくになし。
	14	学習の主題	自己決定権（２）安楽死・尊厳死
		授業内容	死期が切迫した患者の苦痛を除去するための殺害、延命治療中止は許容されるか
		事前・事後学習	前回の授業内容を復習し、安楽死・尊厳死の是非について、自分の考えを整理しておく。
	15	学習の主題	授業のまとめ
		授業内容	・ これまでの総括 ・ 定期試験に向けて ・ 定期試験直前小テスト
		事前・事後学習	授業全体を振り返って、疑問点をまとめておく。

授業科目	地域社会文化論 Community Culture Theory	担当教員	澤井 玄
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	「節分にまくのは落花生」「赤飯には甘納豆が入っている」のは普通だろうか、変わっているのだろうか。いずれも北海道の習慣で、全国的なものではない。この授業では、本学の所在する北海道の気候や人柄・食文化・習慣などを客観化することを通じて、自分の「普通」が他者にとっても「普通」とは限らないことを理解する。そして「自分は正しい」だけでなく「他者も正しい」ことを認められる思考を身に付けたい。またアイヌ文化についても適宜触れていきたい。		
到達目標	北海道の地域特性を理解するとともに、地域・時代・環境により、正しいこと、当たり前のことは不変ではないことを理解する。		
テキスト	特になし、毎回資料を配布する。		
参考書	必要に応じて紹介する。可能であれば『なにこれ！？北海道学』池田貴夫著（北海道新聞社 2013 年）を見ておくこと。また本講義にかかわる事項以外にも、日刊の総合新聞（web ではなく紙の）にできるだけ毎日、目を通すこと。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	50%	目標の到達状況を試験等の結果・提出物・その他授業への取り組み姿勢などにより総合的に評価する。
	レポート		
	小テスト		講義に取り上げる事項に関わるアンケートを複数回実施する。これも提出物として評価する。欠席回数が授業回数の 1/3 を超えた場合は試験の受験資格を失う。 <遠隔授業となった場合の評価方法については別途指示する>
	提出物	40%	
	その他	10%	
履修上の 留意事項	授業中の私語・許可を得ない入退出等、授業の進行の妨げとなる行為は厳禁する。 上記に違反する者は学生証を提示させ、繰り返し注意を受ける者については以後の出席を認めない場合があるので十分注意のこと。		
実務経験を 活かした教育内容	道内各地で調査の機会があり、地域ごとに方言・産物・食生活等に差異・特色があることから、履修生たちの地元の特色も聞き出しながら授業展開を行っていく。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	イントロダクション
		授業内容	・私たちの「正しい」は世界中で正しいのだろうか。例：「命は唯一無二」なのか。 ・NHK スペシャル『ヤノマミ』ビデオ前半視聴。 ・『地球の食卓』（TOTO 出版）から世界の食生活を垣間見る。 ・初回アンケート（生活の中でのカルチャーショック）
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	2	学習の主題	地域・文化で異なる「当たり前」
		授業内容	・『世界の食卓』続き。 ・増加する在日外国人。習慣の違い。 ・NHK スペシャル『ヤノマミ』ビデオ後半視聴。 ・地域・文化に関するアンケート。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	3	学習の主題	命は「唯一無二」のものか？
		授業内容	・前回アンケート結果報告。 ・ヤノマミ族の新生児を「天に返す」行為について。 ・世界各地・各時代の人口抑制（堕胎・間引き）。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	4	学習の主題	親子・家族とは何か
		授業内容	・生物学的な親子と社会的な親子。 ・様々な親子のあり方。 ・どこまでが家族か。 ・「家族」に関するアンケート。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	日本の家族像
		授業内容	・江戸時代～現代の日本の家族像の変化。 ・「我が子」か「神の子」か。 ・誕生から死亡までの日本の儀礼・習慣。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	6	学習の主題	家族・家庭とは何か
		授業内容	・家族団欒（だんらん）の誕生と、家庭の食卓の変遷。明治からサザエさん ・ちびまる子ちゃん、そして現代。 ・家庭内教育の場としての食卓・団欒。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	7	学習の主題	現代の家族と食卓
		授業内容	・家族のあり方の変化。 ・『家族の勝手でしょ』（岩村暢子・新潮社）にみる孤食・個食・勝手食い・ バラバラ食いなど ・家庭内教育機会の減少。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	8	学習の主題	日本人の身体観
		授業内容	・文化としての身体。 ・日本人の身体観・体に関する諺。 ・現代医療に必要な、文化による身体観の相違への理解。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	9	学習の主題	伝統的生活文化（伝統医療）と現代医療
		授業内容	・現代医療と伝統医療の対立と共存。 ・民間治療・まじないのアンケート。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	10	学習の主題	方言と意思疎通
		授業内容	・方言のために医療従事者が病状把握を誤る現状。「はらあんべ（腹塩梅） ニヤニヤすってや」など ・臨床方言学の提唱。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	11	学習の主題	北海道の自然と歴史
		授業内容	・北海道の自然環境 ・北海道に歴史は無いのか、明治時代以前から考える。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	12	学習の主題	明治から現代の北海道
		授業内容	・本州からの移住 ・故地からの伝統継承と新しい生活
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	13	学習の主題	北海道に住む人々の習慣・考え方
		授業内容	・北海道人の気質・習慣・食文化・消費動向など
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	14	学習の主題	アイヌ民族の今 北海道の疾病と特徴
		授業内容	・アイヌ民族の現状 ・北海道に多い病気・少ない病気とその要因
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	15	学習の主題	講義のまとめ
		授業内容	・これまでの講義のまとめ。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。

授業科目	形態機能学Ⅰ Basic Anatomy	担当教員	小林 清一
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	1. 医療従事者として必須となる人体の形態と構造を学ぶ。 2. 専門科目を学ぶための人体の形態的基礎知識を習得する。		
到達目標	1. 解剖学用語を説明できる。 2. 人体を構成する4種類の組織の特徴を説明できる。 3. 頭蓋骨の孔、突起などの名称と軟部組織との関係を説明できる。 4. 体幹・四肢での骨と関節を運動と関連づけて説明できる。 5. 消化器系・呼吸器系・泌尿器系の形態的特徴の概略を説明できる。 6. 中枢神経と末梢神経の形態学的特徴を機能と関連づけて説明できる。 7. 心臓の形態と動脈・静脈・リンパ系の分布の概略を説明できる。 8. 感覚器を列記でき、その概略を説明できる。		
テキスト	1. 坂井建雄、岡田薩夫「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」(医学書院) 2. 増田敦子「ステップアップ解剖生理学ノート」(サイオ出版)		
参考書	坂井建雄「カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学」(メジカルビュー社)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60%	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 提出物：「ステップアップ解剖生理学ノート」の別冊である「カラーリングブック解剖学ノート」を色塗りして提出を課し、カラーリングの丁寧性や色彩及び名称記載の正確性を評価する。 その他：授業での積極的発言や取り組み姿勢等を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他	20%	
履修上の留意事項	配付するパワーポイントレジュメを中心に講義を行うが、関連部分をテキストで必ず予習すると共に、「ステップアップ解剖生理学ノート」の穴埋め問題と毎回のレジュメに添付された復習問題を解答しながら復習し、解剖学知識の習得に努めること。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な形態学的知識について理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス / 解剖学総論
		授業内容	講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・ヒトの体の最小単位と系統 人体の基準平面 ・体を構成する4種類の組織
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	2	学習の主題	骨格系(1)
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・人体の骨格系 骨の構造 関節 骨の形状 上肢の骨
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	3	学習の主題	骨格系(2)
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・頭部の骨格 胸郭 骨盤の構造 下肢の骨
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	4	学習の主題	筋系(1)
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・筋の形と構造 筋の働き 顔面と頸部の筋 胸背部の筋 呼吸筋
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	5	学習の主題	筋系(2)
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・腹部の筋 上肢帯 / 上肢 / 手の筋 下肢帯 / 下肢 / 足の筋
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	脈管系（１）
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・脈管系 ・血管の構造 ・心臓の構造 ・動脈系
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	7	学習の主題	脈管系（２）
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・静脈系 ・胎生期の循環系 ・リンパ系 ・血液
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	8	学習の主題	消化器系（１）
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・消化管の構造 ・口腔 ・食道 ・胃と十二指腸
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	9	学習の主題	消化器系（２）
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・空腸と回腸 ・大腸 ・肝臓 ・胆嚢 ・膵臓
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	10	学習の主題	呼吸器系
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・呼吸器系の概略 ・鼻腔 ・喉頭 ・気管と気管支 ・肺 ・縦隔
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	11	学習の主題	泌尿器系・生殖器系・内分泌系
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・腎臓と他の泌尿器 ・男性及び女性生殖器 ・下垂体と他の内分泌器
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	12	学習の主題	神経系（１）
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・神経系の構成 ・神経細胞 ・中枢神経系 ・脊椎と脊髄 ・末梢神経系
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	13	学習の主題	神経系（２）
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・大脳辺縁系 ・錐体路と錐体外路 ・自律神経 ・脳脊髄膜と脳室系
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	14	学習の主題	感覚器系
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・皮膚感覚と複合感覚 ・内臓覚 ・視覚器 ・聴覚器 ・平行感覚器
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	15	学習の主題	まとめ/定期試験ガイダンス
		授業内容	「カラーリングブック解剖学ノート」の回収。復習問題模範解答＆解説集配付。定期試験ガイダンス。定期試験過去問集配付。質疑応答。
		事前・事後学習	自学自習にて不明な点をまとめておくこと。

授業科目	形態機能学Ⅱ Anatomy and Physiology	担当教員	千葉 仁志
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	看護の対象となるヒトの「生活」を理解するために、生活の基本となる人体の生理機能とその調節について学び、形態機能学Ⅰ（解剖学）などの知識を加え、ヒトの「生きる仕組み」に関する基本を理解する。		
到達目標	1. 体液の区分とその特徴を説明できる。 2. 神経系による情報の受容と処理について説明できる。 3. 自律神経系による内臓機能の調節について説明できる。 4. 身体の支持と運動について説明できる。 5. 呼吸と血液のはたらきについて説明できる。 6. 血液の循環とその調節について説明できる。 7. 栄養の消化と吸収について説明できる。 8. 尿の生成機構と調節について説明できる。 9. 体温とその調節について説明できる。 10. 内分泌による内臓機能の調節について説明できる。 11. 生殖のしくみについて説明できる。		
テキスト	1. 坂井建雄、岡田薩夫「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」（医学書院） 2. 増田敦子「ステップアップ解剖生理学ノート」（サイオ出版）		
参考書	1. 岡田隆夫・編「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学」（メジカルビュー社） 2. ナーシングサプリ編集委員会編「イメージできる解剖生理学」（メディカ出版）		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	100%	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 100点満点で60点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		
履修上の 留意事項	配付するパワーポイントレジュメを中心に講義を行う。関連部分をテキストで必ず予習すると共に、レジュメに添付された復習問題を自ら解答し、サブテキストの「ステップアップ解剖生理学ノート」の関連部分を毎回必ず事後学習すること。最終講義日に復習問題模範解答＆解説、定期試験過去問集（解答付）を配付する。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、临床上必要な生理学的知識について理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス / ヒトにおける種々の生理機能とそれらの関連
		授業内容	・講義スケジュール、自学自習方法の説明 ・種々の生理機能とそれらの関連 ・体液の区分とその特徴
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	2	学習の主題	酸塩基平衡、神経系における情報伝達機構
		授業内容	・酸塩基平衡 ・神経系の構成と分類、末梢神経系の機能学的分類 ・ニューロンでの興奮とその伝導 ・シナプスでの興奮の伝達
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	3	学習の主題	中枢神経系の機能（1）
		授業内容	・脊髄、脳幹、小脳、間脳および大脳の機能 ・脳神経の機能
		事前・事後学習	該当部分をテキストにて予習し、配付レジュメ・サブテキストにて復習する。
	4	学習の主題	中枢神経系の機能（2）、自律神経系の機能
		授業内容	・脳脊髄膜の機能と髄液 ・脳波と睡眠 ・自律神経の特徴 ・交感神経および副交感神経の機能
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	5	学習の主題	一般感覚、特殊感覚（1）
		授業内容	・一般感覚の適刺激、受容器、伝導路、中枢 ・視覚受容器、視覚伝導路 ・遠近調節 ・自律神経反射
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	特殊感覚（2）
		授業内容	・対光反射の反射弓経路、外眼筋と内眼筋の機能、眼底検査 ・聴覚と平衡覚の適刺激、受容器、伝導路、中枢、聴覚検査 ・味覚と嗅覚の適刺激、受容器、伝導路、中枢
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	7	学習の主題	身体の支持と運動、血液の成分と機能
		授業内容	・筋収縮のしくみ、遅筋と速筋の特徴 ・血漿の成分と機能 ・赤血球の産生と機能 ・白血球の種類と機能 ・血液凝固 ・血液型
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	8	学習の主題	循環器系の機能とその調節
		授業内容	・心臓の構造と機能、心電図 ・血圧とその調節 ・毛細血管における体液移動 ・リンパ系の役割 ・静脈還流量の調節
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	9	学習の主題	呼吸器系の機能と調節
		授業内容	・吸息と呼息 ・呼吸ガス交換とガス運搬 ・呼吸運動の調節 ・呼吸機能検査
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	10	学習の主題	消化器系の機能と調節 1
		授業内容	・咀嚼と唾液分泌の役割と調節 ・胃運動と胃液分泌の役割と調節 ・胆汁の分泌と分泌排出調節 ・小腸における栄養素の消化と吸収 ・消化管運動の役割と調節 ・肝臓の機能
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	11	学習の主題	尿生成の機構と調節
		授業内容	・糸球体ろ過と尿の生成 ・尿細管機能 ・尿検査と腎機能検査 ・レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	12	学習の主題	体温とその調節、
		授業内容	・体温、熱の産生と放散 ・基礎体温 ・発汗と体温調節
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	13	学習の主題	内分泌系の機能（1）
		授業内容	・視床下部・下垂体前葉・下位内分泌系 ・成長ホルモンの分泌調節と生理作用 ・甲状腺ホルモンの分泌調節と生理作用 ・ホルモンによる血漿 Ca イオン濃度調節
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	14	学習の主題	内分泌系の機能（2）
		授業内容	・副腎皮質ホルモンの分泌調節と生理作用 ・副腎髄質ホルモンの生理作用 ・糖代謝に関わるホルモンの種類と生理作用 ・性ホルモンの生理作用
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	15	学習の主題	生殖のしくみ / 定期試験ガイダンス
		授業内容	・性分化のしくみ ・精子形成の調節 ・卵巣ホルモン分泌と子宮の周期的変化 ・排卵、受精、着床、胎盤の機能 ・定期試験ガイダンス、復習問題模範解答解説集、定期試験過去問集（解答付き）を配付する。
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。

授業科目	感染免疫学 Infectious Diseases and Immunology		担当教員	小林 清一
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	種々の病原微生物に関する生物学的知識と生体側の感染防御機構である免疫のしくみの基本を学び、個々の病原体による感染の成立から発病に至る病態生理に関する理解を深める。さらに新興感染症や再興感染症、院内感染や日和見感染等の概念を理解し、感染に対する予防対策の基本概念であるスタンダード・プリコーションについて学習する。			
到達目標	1. 感染症の原因となる病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、寄生虫）の主要なものについて各々が起こす疾病と病原性の特徴および感染経路を概説できる。 2. 感染症の治療（抗菌薬、抗ウイルス薬）、と予防（ワクチン）について概説できる。 3. 日和見感染について、院内感染や多剤耐性菌との関連性を考えながら説明できる。 4. 院内感染防止の観点からスタンダード・プリコーションについて説明できる。 5. 消毒法・滅菌法の原理を理解し、適切な方法を選択できる。 6. 感染症に対するヒトの免疫機構と免疫検査について概説できる。			
テキスト	藤本秀士 編著「わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂 3 版」（南山堂）			
参考書	1. 南嶋洋一 他「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学」（医学書院） 2. 増澤俊幸 「感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学」（羊土社）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	80%	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 その他：授業での積極的発言や取り組み姿勢を評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他	20%		
履修上の留意事項	感染症に関わるニュース、新聞などのメディア情報に日頃から注意を向け、何が問題となっているかを常に意識して本講義に臨むこと。配付するパワーポイントレジュメを中心に講義を行うが、テキストで当該部分を必ず確認すること。また、レジュメに添付された復習問題を自ら解答し、習得知識の確認に活用すること。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な感染免疫学的知識について理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	科目ガイダンス / 感染症とは何か	
		授業内容	・講義スケジュール ・感染症の歴史 ・コッホの原則 ・感染と感染症の違い	
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。	
	2	学習の主題	感染症の現状と感染症法	
		授業内容	・医療分野や一般社会で問題となっている感染症（新興感染症、再興感染症） ・感染症法の成立経過と内容（1類～5類感染症、指定感染症） ・感染症情報の収集と分析	
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。	
	3	学習の主題	感染様式の種類、病原体の種類と生物学的特徴	
		授業内容	・感染様式の種類と特徴 ・人獣共通感染症 ・感染症の成立要因 ・細菌、真菌、ウイルスの生物学的な特徴	
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。	
	4	学習の主題	感染経路	
		授業内容	・水平感染と垂直感染とその対策 ・接触感染、飛沫感染と空気感染 ・その他、糞口感染、性行為感染、医原性感染、節足動物媒介感染など	
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	感染免疫のしくみ（１）
		授業内容	・自然免疫と獲得免疫の違い ・獲得免疫における液性免疫と細胞性免疫の特徴 ・抗原の種類と抗原性を発揮するための条件
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	6	学習の主題	感染免疫のしくみ（２）
		授業内容	・液性免疫の担い手である抗体の種類と役割 ・感染症の診断における免疫検査の基本
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	7	学習の主題	感染症の予防（１）
		授業内容	・ワクチンの意義と種類、定期接種と任意接種 ・院内感染対策の重要性と方法（スタンダード・プリコーションと感染経路別対策）
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	8	学習の主題	感染症の予防（２）
		授業内容	・滅菌と消毒 ・滅菌法と消毒法の実例とそれらの適切な選択法。
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	9	学習の主題	細菌感染症の治療と細菌感染症（１）
		授業内容	・抗菌薬の作用機序別分類と副作用、抗菌薬に対する細菌の耐性機構 ・ブドウ球菌、レンサ球菌、腸球菌、ナイセリア属の菌について細菌学的な特徴とそれらが起こす代表的な疾患
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	10	学習の主題	細菌感染症（２）
		授業内容	腸内細菌科、ビブリオ属、グラム陰性好気性菌（緑膿菌、ジオネラ菌、百日咳菌）、リステリア菌、ジフテリア菌などについて細菌学的な特徴とそれらが起こす代表的な疾患
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	11	学習の主題	細菌感染症（３）
		授業内容	抗酸菌（結核菌）、らせん菌、嫌気性菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて細菌学的な特徴とそれらが起こす代表的な疾患
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	12	学習の主題	ウイルス感染症（１）
		授業内容	ウイルス学総論 DNA ウイルス：ヘルペスウイルス科、アデノウイルス、パピローマ、痘瘡
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	13	学習の主題	ウイルス感染症（２）
		授業内容	RNA ウイルス：オルトミクソウイルス、パラミクソウイルス、リッサウイルス、ピコルナウイルス、レオウイルス、トガウイルス、フラビウイルス、フィロウイルス、ブニヤウイルス、コロナウイルス、カリシウイルス、レトロウイルス
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	14	学習の主題	ウイルス感染症（３）、真菌感染症、寄生虫感染症
		授業内容	肝炎ウイルス、真菌（カンジダ、アスペルギルス、クリプトコッカス、ニューモシスチス） 寄生虫：内部寄生虫（原虫類、蠕虫類）、外部寄生虫
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	15	学習の主題	まとめ / 定期試験ガイダンス
		授業内容	感染症トピックス / 定期試験ガイダンス、復習問題模範解答解説集、定期試験過去問集(解答付き)を配付する。
		事前・事後学習	復習問題の実施状況を確認し、模範解答により自己採点する。解説を熟読し理解する。

授業科目	病態学 Pathology	担当教員	小林 清一
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	看護を含む最適な医療を提供するためには、対象となる各種疾患の特徴を正しく理解する必要がある。本科目では様々な病変がなぜ、どのように発生・経過し、治療によってどのように変化するのか？といったことを形態的、機能的な視点などから学習し、理論に基づいた看護を実践するための基礎知識の理解と習得（堅固な土台作り）を目的とする。		
到達目標	1. 病理総論（各種臓器に生じる多彩な病変の共通事項）の概要を理解する。 1) 疾患を大別できる。 2) 病名から疾患の概要を推察できる。 2. 代表的な病態の発生機序、経時的变化を説明できる。 3. 正常組織との対比や、各種疾患の関連性を説明できる。		
テキスト	大橋健一他「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進① 病理学」(医学書院)		
参考書	1. 田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学」(医学書院) 2. 小林正伸「なるほどなっとく病理学 病態形成の基本的な仕組み（改訂2版）」(南山堂)		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	80％	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 その他：授業での積極的発言や取り組み姿勢を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他	20％	
履修上の 留意事項	病変の特徴、発生のしくみなどを学ぶためには、正常組織の構造や機能の理解が前提となるので、形態機能学Ⅰ及びⅡでの学習内容を再確認したうえで受講すること。配付するパワーポイントレジュメを中心に講義を行うが、テキストにて当該部分を必ず予習すること。また、レジュメに添付された復習問題を自ら解答すること。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な病態病理学的知識について理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス / 病態学概論～病態学とは何か。
		授業内容	・講義スケジュール ・病態学と病理学の異同 ・医療における病理診断の役割と、各種病理検査の概要を学ぶ。 ・病気の種類と発症要因について理解する。
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	2	学習の主題	退行性病変（1）
		授業内容	変性と代謝障害の関連性を理解する。 ・変性や代謝障害の原因と経過に伴う形態や機能への影響 ・糖質、脂質、タンパク質の代謝障害と色素変性
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	3	学習の主題	退行性病変（2）
		授業内容	萎縮の機序、細胞組織の死を理解する。 ・萎縮の種類、萎縮と低形成の違い ・萎縮と肥大の対比 ・壊死とは ・アポトーシスとは
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	4	学習の主題	進行性病変（1）
		授業内容	分化と増殖の関係、肥大と過形成の違いについて理解する。 ・分化と増殖の対比 ・肥大の分類 ・過形成の具体例
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	5	学習の主題	進行性病変（2）
		授業内容	再生組織と肉芽組織の役割、創傷治癒、化生について理解する。 ・再生 ・肉芽組織 ・創傷治癒 ・異物処理 ・化生の種類
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	循環障害（１）
		授業内容	循環障害のとらえ方を理解し、全身の循環障害と、局所の循環障害の概要と代 表的な局所の循環障害の発生機序を学ぶ。 ・ 高血圧と低血圧 ・ ショック ・ 充血とうっ血 ・ 虚血
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	7	学習の主題	循環障害（２）
		授業内容	前回に引き続き代表的な局所の循環障害の発生機序を学習し、それぞれの循環障害の関連性をまとめる。 ・ 側副循環 ・ 出血 ・ 血栓症と塞栓症 ・ 水腫
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	8	学習の主題	炎症（１）
		授業内容	防御反応や疾患としての炎症の本態およびその原因や分類の仕方を理解する。急性炎症の発症メカニズムと炎症マーカーについて学ぶ ・ 炎症の定義 ・ 炎症の四（五）大徴候 ・ 急性炎症 ・ 炎症マーカー
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	9	学習の主題	炎症（２）
		授業内容	慢性炎症の特徴と、急性炎症の違いおよび特異性炎について理解する。 ・ 慢性炎症発症の機序 ・ 慢性炎症における肉芽組織の役割 ・ 急性炎症と慢性炎症の対比 ・ 特異性炎の定義と代表的な疾患
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	10	学習の主題	免疫（１）
		授業内容	免疫の歴史や免疫学発展の基礎を学ぶ。 ・ 免疫の歴史 ・ 免疫学発展の画期的事項とは～その１とその２ ・ フローサイトメトリーの発展 ・ モノクローナル抗体と CD 分類
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	11	学習の主題	免疫（２）
		授業内容	免疫系の理解と免疫が関与する免疫疾患の種類と概要を学ぶ。 ・ 免疫系を構成する免疫細胞の機能 ・ 免疫疾患の種類 ・ 免疫不全 ・ アレルギー ・ 自己免疫疾患と膠原病 ・ 移植免疫
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	12	学習の主題	腫瘍（１）
		授業内容	腫瘍の定義、原因、分類の仕方、腫瘍の拡がり方について学習する。 ・ 腫瘍の分類 ・ 良性腫瘍と悪性腫瘍 ・ 癌腫と肉腫 ・ 転移
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	13	学習の主題	腫瘍（２）
		授業内容	癌の進行度、癌原遺伝子と癌遺伝子の違い、化学発癌、腫瘍マーカーについて学習する。 ・ 癌の進行度 ・ 癌原遺伝子 / 癌遺伝子 ・ 発癌物質 ・ 腫瘍マーカー
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	14	学習の主題	先天異常
		授業内容	先天異常について学習する。 ・ 遺伝疾患の分類と遺伝様式を学ぶ。 ・ 代表的な先天異常について要因や発生機序などについて理解する。 ・ 代表的な染色体異常を学び、出生前診断について理解する。
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	15	学習の主題	病態学トピックス/定期試験ガイダンス
		授業内容	病態学に関連するトピックスや話題。看護師国家試験における病態学関連問題の分析と定期試験ガイダンスを行う。 復習問題模範解答 & 解説集、定期試験過去問集（解答付）を配付する。
		事前・事後学習	復習問題の実施状況を確認し、模範解答により自己採点する。 解説を熟読し理解する。

授業科目	生涯発達論 Lifelong Development		担当教員	小島 康次
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	人間の一生は、その個人だけにとどまらず、育児等を通じて、次の世代に受け継がれていくものです。生涯にわたる成長・発達、子の世代に対する教育を通じた文化の継承をも含むものなのです。発達とは、自らが子として成長することだけを指すのではなく、親として子を育てることもまた、成長であり発達なのだと考えられます。このような世代間の関係は、それぞれ人の生涯における成長・発達の過程であり課題であると考えられます。この授業では、人間の発達を生涯発達ととらえる立場に立って、ライフ・サイクル、世代間発達をテーマに講義を進めていきます。			
到達目標	人間の成長、とくに、精神的成長を青年期にとどまらず、老年期までの生涯にわたって続くものとして理解すること、また、それは個々人のうちで完結するものではなく対人関係の中で実現されるものであることを理解すること。			
テキスト	使用しない。適宜、プリント資料を配布する。			
参考書	澤田瑞也編「人間関係の発達心理学1：人間関係の生涯発達」（培風館）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	到達目標に関するレポートにより評価する（詳細はガイダンスにて説明する）	
	試験			
	レポート	100％		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	事後学習として、ノートを整理し前の講義との繋がりを確認しておくこと。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	エリクソンの生涯発達論	
		授業内容	発達課題と心理社会的危機；エリクソンの生涯と理論成立の背景	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	
	2	学習の主題	乳児期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	基本的信頼 vs. 不信；母子関係の成立と愛着	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	
	3	学習の主題	幼児期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	自律性 vs. 恥・疑惑、自主性 vs. 罪悪感；母子分離と対人関係の拡張	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	
	4	学習の主題	児童期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	勤勉性 vs. 劣等感；同年齢集団における競争と協同	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	
	5	学習の主題	青年期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	自我同一性の獲得 vs. 拡散；生の受容と責任の自覚、モラトリアム	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	
	6	学習の主題	成人期前期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	親密性 vs. 孤立；他者を受容すること、同一性の再確認	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する 最終回に提出する課題を提示する（テーマ「受講して自分について考えたこと」）	
	7	学習の主題	成人期中期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	世代性 vs. 停滞；子の世代への慈しみと親の世代の世話	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	8	学習の主題	老年期の課題と心理－社会的危機
		授業内容	統合性 vs. 絶望；人生をあるがまま受け入れる、死の受容
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する

授業科目	環境保健論 Environmental Medicine		担当教員	濱岡 直裕、森田 直樹
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	身のまわりの物理学的環境、化学的環境、生物学的環境、社会的環境は、われわれの健康に影響に及ぼしている。健康とは何か、健康問題とは何かについて、自然・社会・文化的環境及び生活習慣から理解し、疾病の予防を通じて、公衆衛生の必要性を理解する。			
到達目標	1. 環境と人とのかわり、環境の評価方法について理解する。 2. 物理的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。 3. 化学的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。 4. 生物的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。			
テキスト	「シンプル衛生公衆衛生学 2021」（南江堂）			
参考書	適宜紹介する			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	70%	定期試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、授業への参加状況、態度）などにより、目標の到達状況を総合的に評価する。	
	レポート			
	小テスト	20%		
	提出物			
	その他	10%		
履修上の 留意事項	・講義に関連した国家試験の過去問題などを小テストとして各講義の最後に実施する。 ・日頃から身のまわりにある健康に影響する出来事（ニュースなど）に注目することが望ましい。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (濱岡)	学習の主題	健康と公衆衛生について	
		授業内容	環境保健とは何か。公衆衛生とは何か。健康とは何か。 地球環境による健康影響とは何か。どのような健康被害となるか。	
		事前・事後学習	テキストの第1章、第6章の該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	2 (濱岡)	学習の主題	物理的環境要因について	
		授業内容	物理的環境要因とは何か。どのような健康被害となるか。 量反応関係とは何か。どのように予防するか。	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	3 (濱岡)	学習の主題	化学的環境要因について	
		授業内容	化学的環境要因とは何か。どのような健康被害となるか。 量反応関係とは何か。どのように予防するか。	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	4 (濱岡)	学習の主題	生物学的環境要因について（1）	
		授業内容	感染症とは何か。どのような健康被害となるか。どのように予防するか。	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	5 (濱岡)	学習の主題	生物学的環境要因について（2）	
		授業内容	食による影響は何か。どのような健康被害となり、どのように予防するか。	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	6 (森田)	学習の主題	生活環境と健康影響トピック（1）	
		授業内容	食による健康の維持増進について	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	7 (森田)	学習の主題	生活環境と健康影響トピック（2）	
		授業内容	食による健康の維持増進について	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	8 (濱岡)	学習の主題	食品と健康について	
		授業内容	近年注目される食品と健康問題にはどのようなことがあるか。	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	

授業科目	看護学概論 Introduction to Nursing	担当教員	小島 悦子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	本科目では、看護を学ぶ出発点として必要な基礎的知識、看護者としての態度を習得する。看護の歴史の変遷をもとに、看護学の主要概念である「人間」「健康」「環境」「看護」についてさまざまな視点から学び、看護学の発展に向けた今後の課題を考える。		
到達目標	1. 看護の歴史の変遷を概観しながら、近代看護以降の主要な歴史について説明できる。 2. 看護について説明できる。 3. 看護の対象となる人間について説明できる。 4. 人間と環境の関係について説明できる。 5. 看護における健康の捉え方について説明できる。 6. 看護職を規定する法律や関連法規について説明できる。 7. 看護実践のプロセスについて説明できる。 8. 保健医療福祉システムにおける看護の役割について説明できる。		
テキスト	1. 高橋照子「看護学原論」(南江堂) 2. V. ヘンダーソン、湯楨ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 3. F. ナイチンゲール、湯楨ます他訳「看護覚え書」(現代社)		
参考書	1. 看護史研究会編「看護学生のための世界看護史」(医学書院) 2. 舟島なをみ「看護のための人間発達学 第3版」(医学書院) 3. 鷹野和美編「チーム医療論」(医歯薬出版) 4. 小山真理子：看護学基礎テキスト 第4巻「看護の機能と方法」(日本看護協会出版会) 5. 手島恵 監修「看護者の基本的責務」(日本看護協会出版会)		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	講義中・後に所定の用紙に授業内容に関連した意見、考え、感想をまとめた提出物(40%)と試験(60%)で評価する。 到達目標をどの程度理解したかを基準として評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	40%	
	その他		
履修上の 留意事項	1. 質問や意見を述べるなど授業に積極的に参加し、提出物は期限を守って提出しましょう。 2. 学習の主題について事前にテキストを読み、授業資料等は経時的にファイリングしましょう。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス 看護とは(1)
		授業内容	1. 自分と看護職との接点について考え、クラスメイトと共有する 2. 看護、ケアの語源から看護の意味について考える
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく
	2	学習の主題	看護とは(2)
		授業内容	看護の歴史をもとに看護について考える 【課題】看護理論家の看護の定義を調べる
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	3	学習の主題	看護とは(3)
		授業内容	さまざまな看護の定義をもとに看護について考える 【課題】ナイチンゲール看護覚え書の「序章」p13-20と「補章」p227-250を読み、自分の考えを1200字程度にまとめる
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	4	学習の主題	看護とは(4)
		授業内容	ナイチンゲール看護覚え書をもとに看護について考える
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	看護の対象となる人間 (1)
		授業内容	1. 人間の身体・心理社会的・スピリチュアルな側面 2. 人間の成長・発達
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	6	学習の主題	看護の対象となる人間 (2)
		授業内容	1. 人間の基本的欲求 2. 環境への適応 3. 統合体としての人間 【課題】ヘンダーソン「看護の基本となるもの」p8-33を読み、自分の考えを1200字程度にまとめる
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	7	学習の主題	人間と環境の関係
		授業内容	1. 環境とは 2. 生活と環境
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	8	学習の主題	看護における健康
		授業内容	1. 健康とは：WHOの健康の定義、アルマ・アタ宣言、オタワ憲章 2. ライフスタイルと健康
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	9	学習の主題	看護と法
		授業内容	1. 保健師助産師看護師法 2. 医療法
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	10	学習の主題	看護実践のプロセス (1)
		授業内容	看護実践における技術
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	11	学習の主題	看護実践のプロセス (2)
		授業内容	看護実践と倫理：ニュルンベルグ綱領、リスボン宣言、ヘルシンキ宣言、看護者の倫理綱領
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	12	学習の主題	看護実践のプロセス (3)
		授業内容	看護の展開
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	13	学習の主題	看護実践のプロセス (4)
		授業内容	事例をもとに看護実践について考える
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	14	学習の主題	保健医療福祉システムにおける看護の役割 (1)
		授業内容	1. 保健、医療、福祉とは 2. 保健医療福祉の提供システム
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	15	学習の主題	保健医療福祉システムにおける看護の役割 (2)
		授業内容	1. チーム医療とは 2. 各職種の役割 3. 多職種連携と協働
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる

授業科目	看護技術総論 Introduction to Nursing Arts		担当教員	本吉 明美、園田 典子、柏倉 大作、 横山 桂子、小島 悦子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1 年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1 単位
授業目的	看護実践を体現する技術の概念と特性を理解するとともに、看護実践の基盤となる基本的技術を修得する。			
到達目標	1. 看護技術の定義が意味するものを説明できる。 2. 看護技術における安全・安楽・自立・自律の概念を説明できる。 3. 感染予防策の概要と感染経路対策を説明できる。 4. ボディメカニクスの具体的な活用法を説明できる。 5. 対象者の安全・安楽を考えた生活環境を整える意義を説明できる。 6. バイタルサインを観察する意義と観察方法を説明できる。 7. 感染予防、環境調整、バイタルサインに関する基本的な看護技術を根拠に基づき実施し、評価できる。			
テキスト	1. 高橋照子「看護学原論」(南江堂) 2. 深井喜代子他「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社) 3. 深井喜代子他「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社) 4. ヘンダーソン、湯楨ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 5. ナイチンゲール、湯楨ます他訳「看護覚え書」(現代社)			
参考書	1. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	50%	試験では、到達目標の達成度を評価する (50%)。 小テストまたは課題レポートでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する (20%)。 提出物では、演習の事前学習課題および演習後記録の提出状況と学習態度を含めて評価する (30%)。	
	レポート	20%		
	小テスト			
	提出物	30%		
	その他			
履修上の 留意事項	本授業は、一斉講義と技術演習の授業形態で行います。 1. 学習の主題ごとに、テキストや専門基礎科目の学習も参考にして予習を行い、講義に臨みましょう。 2. 演習は 2 または 3 クラス編制で行うことがあるため、演習要項で自分の演習時間を必ず確認して臨みましょう。 3. 各技術演習の事前学習として、指定の資料やテキスト、視聴覚教材で予習し、当該技術の目的・原理・原則・方法・留意点などを理解しておくと共に、事前学習課題についてまとめ演習時に持参してください。 4. 各技術演習後は、演習後記録を所定の用紙に記載し、指定された提出期限までに提出してください。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護技術について理解できるように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (本吉)	学習の主題	看護技術とは何か	
		授業内容	看護実践における看護技術の意味を理解する	
		事前・事後学習	事後学習：配付資料、テキストを復習する	
	2 (本吉)	学習の主題	感染予防の基礎技術 (1)	
		授業内容	1. 感染とは 2. 感染予防策 3. 感染予防における看護師の役割 4. 感染予防の技術	
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく	
	3 (全担当教員)	学習の主題	感染予防の基礎技術 (2) (演習)	
		授業内容	手指衛生と個人防護具の取扱いに関する看護技術を習得する	
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (本吉)	学習の主題	環境調整の技術 (1)
		授業内容	1. 病床環境を整える意義を理解する 2. 病床環境のアセスメントの視点を理解する
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	5 (本吉)	学習の主題	環境調整の技術 (2)
		授業内容	1. 看護におけるボディメカニクスの意義と原則を理解する 2. 病床環境を安全・安楽に整える方法（ベッドメイキング、環境整備）を理解する
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	6 (全担当教員)	学習の主題	環境調整の技術 (3) (演習)
		授業内容	ボディメカニクスを活用したベッドメイキングと病床環境を整える技術演習を行い、看護の基本となる技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する
	7 (本吉)	学習の主題	環境調整の技術 (4)
		授業内容	病床環境を安全・安楽に整える方法（リネン交換、環境整備）について理解する
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	8 (全担当教員)	学習の主題	環境調整の技術 (5) (演習)
		授業内容	ボディメカニクスを活用したリネン交換の看護技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する
	9 (園田)	学習の主題	バイタルサインズの観察 (1)
		授業内容	1. バイタルサインズとは 2. バイタルサインズを観察する意義 3. バイタルサインズの変動要因
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	10 (全担当教員)	学習の主題	バイタルサインズの観察 (2) (演習)
		授業内容	バイタルサインズの観察の看護技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する
	11 (園田)	学習の主題	バイタルサインズの観察 (3)
		授業内容	バイタルサインズの観察方法と留意点を理解する
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを予習して講義に臨むこと
	12 (全担当教員)	学習の主題	バイタルサインズの観察 (4) (演習)
		授業内容	バイタルサインズの観察の看護技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する
	13 (全担当教員)	学習の主題	バイタルサインズの観察 (5) (演習)
		授業内容	バイタルサインズの観察の看護技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	14 (全担当教員)	学習の主題	事例をもとに看護技術を実施する (1) (演習)
		授業内容	病床環境を整える看護技術とバイタルサインズの観察の看護技術を模擬事例に展開する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する
	15 (全担当教員)	学習の主題	事例をもとに看護技術を実施する (2) (演習)
		授業内容	病床環境を整える看護技術とバイタルサインズの観察の看護技術を模擬事例に展開する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する

授業科目	援助関係論 Supportive Relationship for Nursing		担当教員	木津 由美子、石村 珠美、吉田 祐子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	看護職として質の高いケアを提供するためには、対象者との援助関係・信頼関係が重要であることから、対象者を深く理解し、人間関係を構築するためのコミュニケーションを中心とした基礎的な知識を理解する。			
到達目標	1. コミュニケーションについて説明できる。 2. 援助的な対人関係がイメージできる。 3. コミュニケーション技術を習得する。			
テキスト	石川ひろの編「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」第3版（医学書院）2018			
参考書	篠崎 恵美子著「看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング」（医学書院）2015			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	筆記試験、演習時の参加状況、課題レポートにより評価する（詳細はガイダンスにて説明する）。	
	試験	60%		
	レポート			
	小テスト			
	提出物	40%		
	その他			
履修上の 留意事項	・積極的に演習に参加すること。 ・提示されたテキストのページに沿って予習復習をすること。 ・ワークシートを整理（追記・修正など）すること。			
実務経験を 活かした教育内容	看護師として病棟勤務の経験を踏まえて、患者-看護師やチームとしての人間関係の重要性を事例を用いてわかりやすい授業を展開します。			
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1 （木津）	学習の主題	ガイダンス（科目の目的・目標・評価方法） 人間関係における自己と他者	
		授業内容	・人間関係とは ・自己とは ・他者とは ・コミュニケーションとは	
		事前・事後学習	・事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。 ・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。	
	2 （木津）	学習の主題	人間関係をつくる理論と技法①：コミュニケーション技法①	
		授業内容	・コミュニケーションとは ・対人コミュニケーション ・言語的コミュニケーション ・非言語的コミュニケーション ・傾聴と共感 ・開かれた質問と閉ざされた質問	
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。	
	3 （木津）	学習の主題	対人関係と役割	
		授業内容	・対人関係の成立 ・対人関係の維持と崩壊 ・対人葛藤と対処 ・社会的役割	
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。	
	4・5 （木津） （石村） （吉田）	学習の主題	演習：人間関係をつくるコミュニケーション	
		授業内容	・人間関係構築に必要なコミュニケーションについて体験学習をする	
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。	
	6 （木津）	学習の主題	集団と個人	
		授業内容	・集団の特性 ・集団での課題遂行・問題解決・意思決定 ・リーダーシップ	
		事前・事後学習	事後学習：ワークシートを整理する。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7 (木津)	学習の主題	自己理解・他者理解
		授業内容	・自分を理解するということ ・交流分析 ・カウンセリング・心理療法
		事前・事後学習	事前学習：該当ページをテキストで予習する 事後学習：ワークシートを整理する。
	8 (木津)	学習の主題	人間関係をつくるコミュニケーション技法②
		授業内容	・アサーションの理論とスキル
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	9 (木津)	学習の主題	保健医療チームの人間関係
		授業内容	・医療におけるチームと看護師の役割 ・チームワークとチームエラー ・チームにおけるコミュニケーション
		事前・事後学習	事後学習：配布資料で復習する。ワークシートを整理する。
	10 (木津)	学習の主題	患者を支える人間関係
		授業内容	・リフレクション ・プロセスレコード
		事前・事後学習	事後学習：配布資料で復習する。ワークシートを整理する。
	11・12 (木津) (石村) (吉田)	学習の主題	演習：看護学生としてのコミュニケーション
		授業内容	・看護者として必要なコミュニケーション技法を体験学習する
		事前・事後学習	事後学習：配布資料で復習する。ワークシートを整理する。
	13 (石村)	学習の主題	人間関係をつくるコミュニケーション技法③：コーチング
		授業内容	・コーチングの理論とスキル
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	14 (木津)	学習の主題	様々な看護場面における人間関係
		授業内容	・クリティカルな状況の患者を支える人間関係 ・慢性疾患をかかえて生きる患者を支える人間関係 ・死に向かう患者を支える人間関係
		事前・事後学習	事前学習：該当ページをテキストで予習する。 事後学習：ワークシートを整理する
	15 (木津)	学習の主題	まとめ
		授業内容	・第1回～14回までの総復習
		事前・事後学習	事後学習：ワークシートを整理する。

授業科目	看護技術論Ⅰ Fundamentals of Nursing SkillⅠ		担当教員	園田 典子、本吉 明美、柏倉 大作、 横山 桂子、小島 悦子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	2単位
授業目的	対象の安全・安楽・自立・自律を考えた日常生活の支援に関する基礎的な知識・技術・態度 を学ぶ。			
到達目標	1. 看護職が日常生活を支援することの意義を説明できる。 2. 人間にとって活動と運動の意義、活動と運動に関する支援について説明できる。 3. 人間にとって睡眠と休息の意義、睡眠と休息に関する支援について説明できる。 4. 人間にとって安楽の意義、安楽を促進する支援について説明できる。 5. 人間にとって衣生活の意義、衣生活に関する支援について説明できる。 6. 人間にとって清潔の意義、清潔に関する支援について説明できる 7. 人間にとって排泄の意義、排泄に関する支援について説明できる。 8. 人間にとって食事・栄養摂取の意義、食事・栄養摂取に関する支援について説明できる。 9. 日常生活を支援するための基本的な看護技術を実施できる。			
テキスト	1. 深井喜代子他「基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社) 2. 深井喜代子他「基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社) 3. 新しい食生活を考える会編「食品解説つき新ビジュアル 食品成分表 新訂第二版」(大修館書店)			
参考書	1. ナイチンゲール、湯楨ます他訳「看護覚え書」(現代社) 2. ヘンダーソン、湯楨ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 3. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	50%	試験では、到達目標の達成度を評価する(50%)。小テストまたは課題レポートでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する(20%)。提出物は、演習の事前学習課題および演習後記録の提出状況と学習態度を含めて評価する(30%)。	
	レポート	20%		
	小テスト			
	提出物	30%		
その他				
履修上の 留意事項	本授業は、一斉講義と技術演習の授業形態で行います。 1. 学習の主題ごとに、テキストや専門基礎科目の学習も参考にして予習を行い、講義に臨みましょう。 2. 演習は 2 または 3 クラス編制で行うことがあるため、演習要項で自分の演習時間を必ず確認して臨みましょう。 3. 各技術演習の事前学習として、指定の資料やテキスト、視聴覚教材で予習し、当該技術の目的・原理・原則・方法・留意点などを理解しておくと共に、事前学習課題についてまとめ演習時に持参してください。 4. 各技術演習後は、演習後記録に取り組み、指定された提出期限までに提出してください。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護技術について理解できるように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (園田)	学習の主題	ガイダンス・生活援助技術とは	
		授業内容	1. 生活援助技術とは 2. 生活援助技術と看護過程	
		事前・事後学習	事後学習：配付資料を熟読し、復習をする	
	2 (本吉)	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護 (1)	
		授業内容	1. 日常生活における活動・運動／睡眠・休息の意義 2. 活動・運動／睡眠・休息に関するアセスメントの視点 3. 活動・運動／睡眠・休息の支援方法	
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを予習する	
	3 (本吉)	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護 (2)	
		授業内容	安全・安楽な体位保持・体位変換・移乗・移送の看護技術	
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (全担当教員)	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護 (3) (演習)
		授業内容	1. 安全で安楽な体位変換の看護技術を実施し、評価する 2. 安全で安楽なポジショニングの看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	5 (本吉)	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護 (4)
		授業内容	1. 安楽促進の意義 2. 安楽に関する支援方法とそのメカニズム
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	6 (全担当教員)	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護 (5) (演習)
		授業内容	安全・安楽な車椅子の移乗・移送、ストレッチャーの移乗・移送の看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	7 (全担当教員)	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護 (6) (演習)
		授業内容	温電法、冷電法の看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	8 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (1)
		授業内容	1. 清潔、衣生活の意義 2. 衣生活に関する支援方法
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	9 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (2) (演習)
		授業内容	寝衣交換の看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	10 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (3)
		授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な足浴ケアの根拠と方法
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	11 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (4) (演習)
		授業内容	根拠に基づき足浴ケアの看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	12 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (5)
		授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な全身清拭のケアの根拠と方法
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを予習する
	13 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (6) (演習)
		授業内容	全身清拭の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	14 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (7)
		授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な洗髪ケアの根拠と方法
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	15 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (8) (演習)
		授業内容	洗髪の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	16 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (9)
		授業内容	1. 清潔に関するアセスメントの視点 2. 整容・口腔ケアの意義、根拠と方法
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	17 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (10) (演習)
		授業内容	根拠に基づき整容・口腔ケアの看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	18 (横山)	学習の主題	排泄に関する看護 (1)
		授業内容	1. 排泄の意義 2. 排泄に関するアセスメントの視点 3. 排泄に関する支援方法
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	19 (全担当教員)	学習の主題	排泄に関する看護 (2) (演習)
		授業内容	尿器・便器を使用した看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	20 (横山)	学習の主題	排泄に関する看護 (3)
		授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な陰部の清潔を保持する支援方法
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	21 (全担当教員)	学習の主題	排泄に関する看護 (4) (演習)
		授業内容	陰部洗浄の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	22 (柏倉)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (1)
		授業内容	1. 食事・栄養摂取の意義 2. 食事・栄養摂取のメカニズム 3. 食事・栄養摂取に関するアセスメントの視点
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	23 (全担当教員)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (2) (演習)
		授業内容	1. 事前課題をもとに各自の食事内容についてグループ内で発表し検討する 2. 食事バランスガイド及び「そのまんま料理カード」を用いてグループ学習し、よりバランスの良い 1 日の食事について、メニューを立案する
		事前・事後学習	事前学習：事前に提示された課題に取り組み、グループワークに臨む
	24 (柏倉)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (3)
		授業内容	1. グループワークで話し合った内容を発表・ディスカッションを通し、バランスの良い食事について学びを共有する 2. 健康障害を持つ対象の食事・栄養摂取
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	25 (柏倉)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (4)
		授業内容	1. 健康障害を持つ対象の食事の支援方法 2. 嚥下障害のある対象の経口摂取の支援方法
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	26 (全担当教員)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (5) (演習)
		授業内容	1. 自力で食事摂取が困難な対象の食事介助 2. 嚥下障害のある対象の水分摂取の介助
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	27 (柏倉)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (6)
		授業内容	1. 経口摂取が困難な対象の支援方法 2. 非経口栄養法の適応と方法
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
	28 (全担当教員)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (7) (演習)
		授業内容	経管栄養法の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	29 (全担当教員)	学習の主題	事例に基づく技術 1 (演習)
		授業内容	模擬事例の状態をアセスメントし、必要な日常生活の援助を展開する
		事前・事後学習	事前学習：これまでに学習した内容について復習する 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
	30 (全担当教員)	学習の主題	事例に基づく技術 2 (演習)
		授業内容	模擬事例の状態をアセスメントし、必要な日常生活の援助を展開する
		事前・事後学習	事前学習：これまでに学習した内容について復習する 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する

授業科目	看護基礎実習Ⅰ Clinical Practicum of Fundamental NursingⅠ	担当教員	小島 悦子、本吉 明美、園田 典子 柏倉 大作、横山 桂子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	1単位
ねらい	本実習の目的は、入学早期の段階において、医療現場におけるチーム医療を実践する各職種の役割を理解し、チーム医療における看護職の役割を考えることである。また、入院患者の療養生活や療養環境の観察及び看護実践の見学・実施を通して、療養環境を整えることやバイタルサインズを観察する意義、看護の専門性について考えることである。さらに、看護学生として倫理的態度を身につけ、看護を学ぶ意欲を高めることである。		
実習目標	1. 医療機関の特徴とチーム医療に関わる各職種の役割を理解する。 2. 医療機関に入院している患者及び看護実践の観察を通して、看護の専門性を理解する。 3. 看護学生として倫理的態度を身につける。		
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いて実習オリエンテーション時に説明する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	100％	実習目標の到達度を評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		
履修上の 留意事項	実習オリエンテーションは必ず出席してください。 実習オリエンテーション時に配布する「臨地実習共通要項」および「看護基礎実習Ⅰ実習要項」は実習開始までによく読み、理解した上で実習に臨んでください。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習での学びをサポートします。		
実習方法	1. グループごとに配置された病院および病棟で実習を行う。 2. 実習期間：以下のいずれかの期間となる ① 2021年7月19日（月）～7月21日（水）、7月30日（金） ② 2021年7月26日（月）～7月30日（金） 3. 実習1日目は、午前に病院・病棟オリエンテーションと施設見学を行う。 4. 実習2日目からは病棟の実習指導者と行動を共にしながら、看護実践の見学・実施を通して看護について理解を深める。 5. 学生が実施できる看護技術は、環境整備、ベッドメイキング、シーツ交換、バイタルサインズの観察である。 6. 毎日、実習指導者と行動調整をしてから実習を開始し、終了時は振り返りを行い、学びを整理する。 7. 最終日に学内でグループワークと全体報告会を行い、学びを共有する。		
実習施設	北海道内科リウマチ科病院、KKR札幌医療センター、札幌医科大学附属病院、札幌山の上病院、手稲溪仁会病院、斗南病院		

授業科目	成人看護学概論 Introduction to Adult Nursing		担当教員	佐藤 郁恵
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人期にある人の特徴を学ぶ。また、成人を取り巻く健康課題と成人看護の役割、成人期にある人を看護するための有用な概念や理論について学ぶ。なお、本科目は成人看護活動論と成人看護実習の基礎となる科目である。			
到達目標	1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人期の発達段階と成人各期の特徴を説明できる。 2. 成人期に特徴的な健康問題について説明できる。 3. 成人期にある人の健康課題を理解・解決するために有用な理論について説明できる。 4. 成人期の看護実践に必要な多職種連携とチーム医療について説明できる。			
テキスト	林直子他編集「看護学テキスト NiCE 成人看護学概論 改訂第3版」(南江堂)			
参考書	国民衛生の動向(厚生労働統計協会)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	80%	目標達成状況を課題レポート(2回提出で20点)と定期試験(80点)で評価します。 課題レポートのテーマは、講義時(3回目・7回目)で知らせます。 レポートの評価基準は、ルーブリックで提示します。	
	レポート	20%		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	本科目は専門基礎科目や他の専門科目とも関連づけて学んで下さい。受講に際しては事前事後の学習を行い主体的に学んで下さい。			
実務経験を活かした教育内容	臨床での経験や事例を織り交ぜながら、概念や理論が理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス、ライフサイクルにおける成人の位置づけ	
		授業内容	1. 成人とは 2. 成人各期の発達段階・発達課題	
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる	
	2	学習の主題	成人期にある人の理解	
		授業内容	1. 成人期にある人の特徴的な健康課題 2. 成人保健の動向	
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる	
	3	学習の主題	成人期にある人の生活と健康	
		授業内容	1. 生活習慣に関連した健康障害 2. 職業に関連した健康障害 3. ストレスと健康障害	
		事前・事後学習	事後学習：課題レポートを講義時に提示します。	
	4	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論(1)	
		授業内容	1. セルフケアの概念・理論 2. セルフマネジメントを促す支援	
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる	
	5	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論(2)	
		授業内容	1. 病みの軌跡 2. 慢性疾患を抱える患者の看護	
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる	
	6	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論(3)	
		授業内容	1. アンドラゴジー 2. 自己効力理論(セルフ・エフィカシー) 3. コンプライアンス・アドヒアランス	
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論 (4)
		授業内容	1. 危機理論 2. ストレス・コーピング理論 3. 急性疾患を抱える患者の看護
		事前・事後学習	事後学習：課題レポートを講義時に提示します。
	8	学習の主題	保健医療福祉チームとの連携・協働と看護の役割
		授業内容	1. 継続看護とは、継続看護の場と役割 2. チーム医療における看護師の役割
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる

授業科目	情報管理論 Information Management		担当教員	末光 厚夫
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	本科目では、ユビキタスネットワーク社会において、情報技術（IT）を活用して、活動していくための基礎を習得することを目的とする。			
到達目標	1. 情報技術の発展と社会の変化について理解する。 2. 情報倫理について理解する。 3. PCのしくみと機能、インターネット、情報セキュリティの基礎を理解する。 4. 生活や職場環境に関わる重要な情報技術の基礎を理解する。			
テキスト	授業時に資料を配付する。			
参考書	1. 大内東編「文系学生がまなぶ情報学」（コロナ社） 2. 中山和弘他「看護情報学」（医学書院） 3. 富士通エフ・オー・エム「情報モラル & セキュリティ〈改訂版〉」（FOM出版）			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		情報化社会、情報倫理、PC、インターネット、情報セキュリティ、Web・ビッグデータ・クラウドに関する情報技術についてのレポートを中間回と最終回に課し、その理解度を評価する。	
	レポート	100%		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	事前学習は特に必要ないが、授業で習った内容については、次週までに十分な理解となるように復習しておくこと。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	情報技術と社会	
		授業内容	高度情報社会の成り立ちやIT革命など情報技術の進展に伴う社会の変化について理解を深める。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	2	学習の主題	情報倫理	
		授業内容	情報技術を正しく活用するために、情報を取り扱う上で遵守すべきルールやマナーについて学ぶ。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	3	学習の主題	PCのしくみと機能	
		授業内容	PCを構成するハードウェアとソフトウェアについて、そのしくみと機能の基礎を理解する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	4	学習の主題	インターネットのしくみ	
		授業内容	インターネットを実現するコンピュータネットワークとデータ通信のしくみの基礎を理解する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	5	学習の主題	情報セキュリティ	
		授業内容	PCやスマートフォンなどの情報機器を利用する際に起こりうる脅威とその対策について理解する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。	
	6	学習の主題	インターネットコミュニティ	
		授業内容	Webページに関する情報技術の基礎を理解し、インターネットコミュニティの代表的なサービスについて学ぶ。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	ビッグデータとクラウド
		授業内容	ビッグデータとクラウドに関する情報技術の基礎を理解し、それらの技術が用いられているサービスを学ぶ。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	8	学習の主題	医療と IT
		授業内容	医療において活用されている情報技術について理解を深める。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。

授業科目	スポーツ理論 Sports Theory		担当教員	平間 康允
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1 年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1 単位
授業目的	看護師・養護教諭・保健師・栄養士・管理栄養士は、患者・生徒・クライアント等の健康を預かる大切な役割を担っている。そして、その健康の保持増進に影響を及ぼすとされるのが運動（スポーツ）である。本科目では、健康を含めた対象者の QOL に大きく関わる運動やスポーツについて自ら学び体験し、知識を構築するだけでなく、自身の運動習慣確立の第一歩とする事を目的とする。			
到達目標	1. 「健康とスポーツ（体力）との関連」や「栄養と睡眠」について理解する。 2. 「心身のつながりとスポーツとの関連」や「動機づけ」のメカニズムについて理解する。 3. 「トレーニング理論」と「運動プログラムの組み方」や「コンディションのセルフチェック法」について理解する。 4. 「スポーツを取り巻く社会変化」について理解する。			
テキスト	プリントを配布			
参考書	1. 杉原隆著「運動指導の心理学」（大修館書店） 2. （特非）日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【理論編】」（ベースボールマガジン社） 3. （特非）日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【実践編】」（ベースボールマガジン社）			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準 受験条件（講義出席回数 2/3 以上）を満たした学生に対し、目標の到達状況を筆記試験にて 100％評価する。	
	試験	100％		
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	他者の学習の妨げとなるような私語や携帯電話の使用、飲食等を禁じる（飲み物は蓋付のもので、飲む時以外は机の上に置かなければ可）。禁止行為に対しては注意・指摘するが、改善が見られない場合は途中退室を命じることがある。大学生として節度ある受講態度を心掛けつつ、受講者間において講義内容に関する自由闊達な議論が展開されることを望む。尚、シラバスに記載されている内容や順番は状況により変更する場合がある。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	・ ガイダンス ・ 「こころとからだ」のつながり	
		授業内容	講義の目的と内容構成、受講の諸注意、評価方法、講義の進め方について理解する。 スポーツ理論を学ぶ上で基本となる「心身の関連」について理解する。	
		事前・事後学習	シラバスを読む。	
	2	学習の主題	・ スポーツと動機づけについて	
		授業内容	いわゆる“モチベーション”の正体を知り、その維持向上のメカニズムを学習する。スポーツ活動における成功（失敗）体験が人に及ぼす影響や自己コントロール法について理解する。	
		事前・事後学習	「やる気」と「モチベーション」の違いを理解し、自分の精神を自己コントロールする訓練を行う。	
	3	学習の主題	・ フィードバックについて	
		授業内容	運動学習における「フィードバック構造」について学習し、運動上達のメカニズムを理解する。フィードバックの効用を実験を通して体感する。	
		事前・事後学習	フィードバックを、自己の向上だけでなく、他者とのコミュニケーションにも活用する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4	学習の主題	・ コーチングについて
		授業内容	コーチングの基礎を学習し、医療従事者、運動指導者に限らず、誰もが一度は遭遇する「他者を“コーチング”する場面」で力を発揮できるように準備する。
		事前・事後学習	学習したコーチングスキルを日常生活で使えるようになる。
	5	学習の主題	・ コンディショニングの基本について
		授業内容	より良いスポーツ活動のために必要なコンディショニングは、心身のセルフチェックを行うことから始まる。
		事前・事後学習	自身の状態を確認し、以降のトレーニングにつなげる。
	6	学習の主題	・ トレーニング理論と運動処方について
		授業内容	トレーニングの原則（運動 - 栄養 - 休養（超回復））について学習し、トレーニング計画作成の基本を理解する。
		事前・事後学習	簡単なトレーニングメニューの作成や、一定期間のトレーニング計画の立案をする。
	7	学習の主題	・ 各年代の体力特性および適正な運動処方について
		授業内容	年代別の体力特性について触れ、ジュニア期を中心に、人の発育発達に応じた適切な運動選択の方法について学習する。
		事前・事後学習	”いつ“、“何”を基準に、“どのような”運動を行えば良いのかを考え、理解する。
	8	学習の主題	・ スポーツと社会（オリンピック、ドーピング、人種、DNA） ・ 総括
		授業内容	スポーツに纏わる様々な社会問題を通して、今後のスポーツ界はどうなっていくのか、56年ぶりの自国開催となった「東京五輪2020」を振り返りながら考察する。
		事前・事後学習	オリンピックの歴史やスポーツ界の闇について知り、未来のスポーツ界について思いをはせる。

授業科目	英語Ⅲ（読解） English III		担当教員	松尾 文子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	1. 一般的な英語表現形式の確認を行い、読解能力を強化する。 2. 医療・看護・福祉分野の文献を読む。 3. 本文を通して、今日的なテーマに対する興味を持つ。			
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握する。 2. テキストを通じて英語の表現力を高める。 3. テキストを通じて、語彙力を高める。			
テキスト	A Healthy Life for Today and Tomorrow The Society of English Studies (2021. 朝日出版)			
参考書	必要に応じて紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	70%	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験で 70%、授業で行うリスニングの小テストで 20%、授業の取り組み姿勢の 10%で評価する。 中間・定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。	
	レポート			
	小テスト	20%		
	提出物			
	その他	10%		
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス / Unit 1: What health means to us: maintaining our bodies and souls for today and tomorrow	
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。/ 健康に関する 4 つの側面を理解する。	
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を確認する。	
	2	学習の主題	Unit 2: Chocolate may help you improve your health	
		授業内容	ポリフェノールが含まれる飲食物とその効用について学ぶ。	
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。	
	3	学習の主題	Unit 3: Some people want to reduce the amount of time they spend on their phones	
		授業内容	スマートフォンの利用時間について考え減らす方法を考える。	
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。	
	4	学習の主題	Unit 4: Can AI heal us mentally?	
		授業内容	健康管理における AI の潜在的影響について理解する。	
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。	
	5	学習の主題	Unit 5: Japanese school lunches benefit children in many ways	
		授業内容	日本の食育の勧化方が学校給食にどのように取り入れられているかについて学ぶ。	
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。	
	6	学習の主題	Unit 6: Foods that contain hidden sugar and how to avoid them	
		授業内容	食品の糖分が非表示について考える。またその摂取量を抑えることについて考える。	
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	Unit 7: Periodontal disease can cause many other illness
		授業内容	歯周病と死に至る病との関係とその予防法を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた教材内容を再確認する。
	8	学習の主題	中間試験
		授業内容	これまでに学んだ内容の理解度チェック
		事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を復習する。 事後：可能な範囲で自分の解答の正誤を確認する。
	9	学習の主題	Unit 8: A regular lifestyle for a creative life
		授業内容	創造的になるための日々のルーティーンの重要性を著名人から学ぶ。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
	10	学習の主題	Unit 9: Pets can bring many good things into our lives
		授業内容	ペットとともに暮らすことで私たちの生活にどのような変化がもたらされるかについて学ぶ。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
	11	学習の主題	Unit 10: Community-based integrated care
		授業内容	現代のヘルスケア組織に求められる地域包括ケアという政策について理解する。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
	12	学習の主題	Unit 11: Knotworking: beyond professionalism
		授業内容	専門性を超えた働き方が求められる現代のヘルスケア組織について学ぶ。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
	13	学習の主題	Unit 12: The health benefits of ansen
		授業内容	温泉とその効能を説明する英語表現を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
	14	学習の主題	Unit 13: How to avoid sleep debt
		授業内容	睡眠時の脳の働きと睡眠負債の危険性を理解する。
		事前・事後学習	事前：分からない語句を調べる。練習問題を解く。 事後：授業で扱われた内容を再確認する。
	15	学習の主題	これまでの授業の振り返り
		授業内容	これまで学んだ内容の確認
		事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を確認する。 事後：期末試験の勉強をする。

授業科目	生活環境論 Environmental Life Science		担当教員	江本 匡
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	人間を取り巻く自然および社会・文化的な環境をシステムという視点から再考し、それらの相互関係を深く認識するとともに、現在、システムで進行している様々な問題点を深く理解し、人の健康と生活の充実、健全な社会の発展という面から、課題に柔軟に対応できる能力の涵養を目的とする。			
到達目標	1. 自然環境、生活環境と健康との関わりを概略で説明できる。 2. 生活全般をカテゴリー化した構造をもとにヘルスプロモーションの概念を説明できる。 3. ストレスと免疫低下、病気との関係が概説できる。 4. 生活習慣病を生体リズムの乱れ、後天性の代謝障害の面からも理解できる。 5. 情報の授受、利活用と健康の関わりが説明できる。 6. 地球温暖化の危険性、環境保全の重要性を認識し、保全活動を実践できる。			
テキスト	佐々木胤則編著「変化する環境と健康 改訂版」(三共出版)			
参考書	テキストの章末を参照する。最新の文献は講義中に適時提示する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	50%	目標の到達状況を、課題(事前課題)の完成度、授業への取り組み姿勢、定期試験により評価し、それぞれの評価割合は、課題 30%、取り組み姿勢 20%、定期試験 50%とする。なお、評価は 5 段階評価とし、総合で 60%以上を単位認定の基準とする。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	30%		
	その他	20%		
履修上の 留意事項	授業終了時に、次の講義に関わる課題を提示する。課題は、予習として講義までに作成しておき、授業に基づいて追加・修正したものを終了時に提出することとします。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験をもとに具体的な事例を示しながら理解を深めてもらいたいと考えています。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	環境科学としての生活環境と健康について	
		授業内容	自然環境は生命活動が加わって時間と共に相互にゆっくりと変化してきたが、有史からは人間活動の影響を受けて、急速に変化した健康への考え方について概要する。	
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく。文明・近代史を環境と人との相互関係から捉え、文明発祥地の盛衰理由を考える。(第1章)	
	2	学習の主題	生活環境と健康の構造、ヘルスプロモーションについて	
		授業内容	健康に関わる社会・生活環境を7つの領域に、さらに公的責任分野と自己責任分野に分けて構造化し、ヘルスプロモーションの基礎的概念について概説する。	
		事前・事後学習	総論の健康の捉え方を読み、WHOがこの数十年に取り組んできた活動を整理する。(第1章、第2章)	
	3	学習の主題	環境と健康に関わる近年の動向	
		授業内容	健康に関わる事項として、感染症との戦い、増え続ける生活習慣病、環境破壊による健康被害、増大する心の病、困窮する健康福祉体制の現在に至る状況を整理し、今後の方向を探る。	
		事前・事後学習	第2章「環境と健康」に関する近年の動向を読み、将来につながる問題点をあげる。	
	4	学習の主題	環境に対する調節・適応とストレス刺激	
		授業内容	環境刺激に対する調節・適応という事象を調節の局面から取り上げ、調節・適応の負の作用として、生活習慣病やアレルギー疾患増大について考える。	
		事前・事後学習	生活環境における具体的なストレス場面を分類して記述してみる。(第3章)	
	5	学習の主題	生活環境におけるストレスとメンタルヘルス	
		授業内容	構成概念とされるストレスとストレス刺激の違いを明確にし、刺激に対する脳のホメオスタシス機能からメンタルヘルスについて解説する。	
		事前・事後学習	心理学で提唱されている心の構造と脳機能との関係を調べる。(第3章)	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	水・空気の汚染と健康問題の変遷
		授業内容	生命にとっての水や空気の役割を改めて解説し、近代産業によって引き起こされた環境汚染と健康被害の実情を取り上げ、自然との調和という面から生活環境整備を考える。
		事前・事後学習	水俣病の発生から今日の救済に至るまで経緯と問題点をまとめる。(第4章)
	7	学習の主題	生活環境におけるリスクとリスクマネジメント
		授業内容	日常生活におけるリスク、特に化学物質による環境汚染を健康リスク、福利リスクの面からとらえ、安全管理の手法を基に対策を探る。
		事前・事後学習	リスクアセスメントについて調べる。(第5章)
	8	学習の主題	感染症と生体防御、免疫システムについて
		授業内容	非自己から自己を守る免疫を生体防御システムとして概説し、ストレスを免疫システムのバランスを崩す因子ととらえ、病気との関連を考察する。
		事前・事後学習	最近のがんの免疫療法研究について調べる。(第6章)
	9	学習の主題	生活のグローバル化と新興感染症について
		授業内容	グローバル化に伴って拡大する重篤な感染症、特に新興感染症について特性を概説し、予防や対策について考える。(第7章)
		事前・事後学習	新型インフルエンザの発生から現在に至る状況を調べる。
	10	学習の主題	放射線の特性と健康影響について
		授業内容	放射線の特性とその健康影響の概要を理解して、放射性物質の管理について考える。
		事前・事後学習	放射線によるヒトへの影響について調べる。(第8章)
	11	学習の主題	生活環境の変化とアレルギーについて
		授業内容	文明病とされるアレルギーについて、アトピー素因と生活環境の変化、アレルギー発症のメカニズムから論説する。
		事前・事後学習	アレルギーの発症メカニズムと化学物質過敏症について調べる。(第9章)
	12	学習の主題	生活リズムと生体リズム、生活習慣病について
		授業内容	からだのリズムと生体リズム、生活リズムとの関連をとらえ、代謝リズムの破綻として生活習慣病を再考する。
		事前・事後学習	好ましい生活習慣の各項目について理由を研究成果から説明する。(第10章)
	13	学習の主題	生活環境における癒しと植物や風景
		授業内容	人の生活圏の拡大、大規模開発によって生物種が急速に減少して多様性を失うことの問題点を解説し、それらを保護・保全しようという活動につながる癒しとビオトープについて考える。
		事前・事後学習	生物多様性を失うことの問題点を調べる。(第11章)
	14	学習の主題	社会・生活環境における情報の利活用と予防原則について考える。
		授業内容	社会活動の拡大や生活環境の整備には、情報の共有が大きな役割を果たしている。情報伝達の歪みや不均衡、錯誤は QOL や心身の健康にも関連していることを概説し、利活用の方向を探る。予防原則の考え方を理解する。
		事前・事後学習	OA 機器とメンタルヘルスとの関係を調べる。(第12章) 予防原則の適用事例について調べる。(第13章)
	15	学習の主題	地球温暖化の進行と健康問題について
		授業内容	人為活動による地球温暖化が急速に進んでいることの観測データや今後の推測を紹介し、気候変動に伴う生活環境の変化が人の健康に与える影響を検討し、対応を提案する。また、リスクへの対応について考え方を理解する。
		事前・事後学習	地球シミュレーションが行っている温暖化予測と生物種への影響についてまとめる。(第14章)

授業科目	教育学 Education		担当教員	所 伸一
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	人間の可能性と社会における教育の役割について歴史と現状から知見を提供するとともに、生涯学習社会における家庭教育や学校教育及び市民教育の課題と解決方向についてヒントを示す。			
到達目標	受講者自身が今後経験する生涯学習の場面において自立した学習者として成長していく手がかりを得ること。			
テキスト	使用しない。適宜、プリント資料を配布する。			
参考書	なし			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		学校教育と家庭教育、生涯教育、地域生活における現状と課題を中心に、中間と講義末にレポート提出を課す。その論証度と構成力による。授業態度及びレポート時や講義後の感想文などを「その他」対象とし、理解の努力を評価する。	
	レポート	70%		
	小テスト			
	提出物			
	その他	30%		
履修上の留意事項	授業中または復習により生じた疑問はその都度担当教員に質問すること（出席カード余白の利用も可）			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	近代の教育思想（1）	
		授業内容	ルソーの「子供の発見」、発達の思想、充実した生涯の提起	
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる	
	2	学習の主題	近代の教育思想（2）	
		授業内容	市民革命とコンドルセの家庭観・学校観・学問観。	
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる	
	3	学習の主題	「新教育」の思想	
		授業内容	学びの転換：デューイの思想と実験。子供研究の始まり	
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる	
	4	学習の主題	近代学校のあゆみ	
		授業内容	ルターの義務就学論。アダム・スミスの公教育観。国家の学校政策関与	
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる	
	5	学習の主題	日本の文明化と教育	
		授業内容	西洋からの学び。福沢諭吉の一身独立の思想	
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる	
	6	学習の主題	日本の学校制度の成立	
		授業内容	森有礼の啓蒙と国家主義。鑑三の諭吉批判。ルソーと大正自由教育	
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる	
	7	学習の主題	戦後日本の教育	
		授業内容	「真の個人主義」、「高度成長」と競争教育、市民育成棚上げ	
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる	
	8	学習の主題	教育環境の変化と青年	
		授業内容	「冷戦」以後の世界と青年。能力観・学校観の転換への期待	
		事前・事後学習	事後に、配布プリントを読み、ノートをまとめる	

授業科目	社会貢献と活動 Volunteer and Social Responsibility		担当教員	神内 秀之介
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2 年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	1 単位
授業目的	『地域共生社会』という新しい地域福祉の概念が地域包括ケアシステムの構築のその先に謳われている。地域共生社会が目指すのは、対象者ごとの保険・医療・福祉サービスを「縦割り」から「丸ごと」へ、支援者と被支援者という二律対抗軸からの脱却へと転換していくことにある。 医療・保健・福祉の枠組が変更される中で、ボランティアの意義を踏まえ、多種多様なボランティア活動が地域にどう関わって、どう地域を変え、支えているのかについて学ぶ。 特に本学に関連する保険、医療、栄養、福祉などの領域で、地域でのボランティア活動の具体例を通して、当事者や地域ニーズを知り、地域住民・事業所・専門職等との連携などについて学ぶ。 また、専門職としてのボランティアを考える際の「プロボノ」などの新しい概念についても専門職となった将来を見据え理解を深め自身の受け止め方について考察する。			
到達目標	1. ボランティア活動の意義を正しく理解するとともに、ボランティア活動を通して当事者のニーズを把握できること。 2. 当事者のニーズに対して、専門職のあり方やネットワークの構成などの要件について学び、ボランティアの役割・あり方・限界などについて理解できること。 3. 現代社会のボランティアの多様性を理解し、これからの社会に求められているボランティア像を自分なりに描くことができること。			
テキスト	内容に沿った資料を随時配布する。			
参考書	1. 柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論～「広がり」から「深まり」へ～」（みらい）2010 2. 佐谷恭・中谷健一・藤木穰「つながりの仕事術「コワーキング」を始めよう」（洋泉社）2012 3. 岩見太市著「地域家族の時代」（簡井書房）2012			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	50％	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 講義の際のレポートや発表、グループワークでの役割遂行など授業態度を点数化し、50％を上限として評価します。並びに定期試験も 50％を上限とし、授業態度・試験の得点を合わせて総合的に評価します。	
	レポート	30％		
	小テスト			
	提出物			
その他	20％			
履修上の 留意事項	グループワーク（演習）、ゲストスピーカーを多用します。また、ボランティア実践を予定しています。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	ボランティアとは？	
		授業内容	オリエンテーション 自分のボランティア経験を発表 ボランティアに対する自分なりの理解	
		事前・事後学習	ボランティア経験を振り返ること	
	2	学習の主題	ボランティア活動の沿革	
		授業内容	諸外国でのボランティア活動の歴史と我が国でのボランティア活動の歩みを学ぶ。	
		事前・事後学習	北海道で活動しているボランティア団体で 20 年以上続いている団体をひとつ挙げる	
	3	学習の主題	ボランティア活動の内容	
		授業内容	ボランティア活動の内容を、領域別、対象別、方法別に検討する。	
		事前・事後学習	自分がしてみたいボランティア活動を考えること	
	4	学習の主題	社会福祉協議会とボランティア	
		授業内容	社協の幅広いボランティア活動について学ぶ。	
		事前・事後学習	社協の仕事を HP で確認すること	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	医療・高齢・障害福祉とボランティア
		授業内容	医療・高齢者福祉や障害者福祉の分野でのボランティア活動について学ぶ。
		事前・事後学習	医療・高齢者福祉や障害者福祉で実際に行われているボランティア活動をひとつ挙げる
	6	学習の主題	児童福祉とボランティア
		授業内容	児童分野でのボランティア活動について学ぶ。
		事前・事後学習	児童分野で実際に行われているボランティア活動をひとつ挙げる
	7	学習の主題	NPO・NGO とボランティア
		授業内容	NPO や NGO のボランティア活動、国際ボランティアなどについて学ぶ。
		事前・事後学習	ボランティアを主体的な活動としている NPO 団体を 2 つ挙げる
	8	学習の主題	企業・労働組合とボランティア
		授業内容	企業の CSR、労働組合のボランティアの取組、様々な組織の社会貢献活動について学ぶ。
		事前・事後学習	企業の CSR レポートをひとつは HP で確認すること
	9	学習の主題	環境・災害ボランティア
		授業内容	環境ボランティア、災害ボランティアについて学ぶ。
		事前・事後学習	環境ボランティア、災害ボランティアに取り組む団体をそれぞれひとつ挙げる
	10	学習の主題	ボランティア実習
		授業内容	1 日ボランティア体験をする。
		事前・事後学習	実習先の情報を HP で調べること
	11	学習の主題	ボランティア体験を振り返る
		授業内容	ボランティア体験から得られた知見を発表し振り返る。
		事前・事後学習	ボランティア体験をまとめておく
	12	学習の主題	ボランティアのコーディネート
		授業内容	ボランティアをコーディネートする技術について学ぶ。
		事前・事後学習	『ボラナビ』を読んでおく
	13	学習の主題	ボランティア組織の運営
		授業内容	ボランティア組織の立ち上げ、運営、資金、PR などについて学ぶ。
		事前・事後学習	助成金情報を調べる
	14	学習の主題	現代社会とボランティア
		授業内容	現代社会におけるボランティアのあり方をディスカッションする。
		事前・事後学習	現代社会で支援が必要な人について考察すること
	15	学習の主題	私たちのボランティア論
		授業内容	自分たちが理想的と考えるボランティアのあり方をまとめ、プレゼンテーションする（具体的なボランティア提供を前提として）。
		事前・事後学習	ボランティアのための事業について企画すること

授業科目	薬理学 Pharmacology		担当教員	町田 拓自
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	薬物治療においては、医師・薬剤師・看護師の三者の連携が重要である。看護師は患者と接する機会が最も多く、薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きい。本科目では、薬物に対する生体側の応答及び治療効果、有害作用の機序を学習し、その上で様々な疾患に対する治療薬についての基礎的知識の習得を目指す。			
到達目標	1. 医療における薬物治療とは何かについて理解する。 2. 薬の作用形式、体内動態について理解する。 3. 薬効に影響する因子、薬物の有害作用について理解する。 4. 臓器別、疾患別に使用される薬物を列挙できるようにする。 5. 各薬物の薬理学的性質、副作用を説明できるようにする。			
テキスト	吉岡光弘、泉 剛、井関 健 著「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学」(医学書院)			
参考書	井上智子、窪田哲朗 編「系統看護学講座 別巻 臨床薬理学」(医学書院) 荻田喜代一、首藤誠 編「看護学テキスト 薬理学」(南江堂)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	80%	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。 定期試験：80% レポート：20% 全講義内に計4回、レポート課題を提示する。そのレポート内容により評価する。(各5%、合計20%)	
	レポート	20%		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	薬理学を習得するには、事前に形態機能学、病態学等を学んでおく必要がある。1年次に習得したこれらの関連科目を事前に復習しておくこと。各授業の前に1時間の予習、後に1時間の復習を要する。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	総論1：薬物治療の目指すもの	
		授業内容	・薬を用いて病気を治療する意義について理解する。 ・治療に用いる薬物に求められる基本的性質を理解する。	
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト(P4～P23)を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題(P13、P23)を解いておく。	
	2	学習の主題	総論2：薬はどのように作用するのか	
		授業内容	・薬理作用の基本形式について理解する。 ・薬の治療域と作用点について理解する。 ・薬の投与経路について理解する。	
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト(P23～P40)を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題(P40)を解いておく。	
	3	学習の主題	総論3：薬はどのように体内をめぐるのか 薬効に影響する因子	
		授業内容	・薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)を理解する。 ・生物学的半減期と薬物血中濃度の意義について理解する。 ・年齢、遺伝により薬効が影響を受けることを理解する。 ・薬物相互作用を理解する。	
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト(P40～P54)を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題(P44、P54)を解いておく。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4	学習の主題	総論4：薬物の有害作用はなぜおこるのか、薬の管理と新薬の誕生
		授業内容	・過量投与による有害作用について理解する。 ・薬物使用の有益性と有害性について理解する。 ・ある臓器に特有の有害作用をおこす薬について理解する。 ・管理に注意を要する医薬品について理解する。 ・新薬の開発の流れを理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P54～P61）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P61）を解いておく。
	5	学習の主題	各論1：抗感染症薬
		授業内容	・感染症治療に関する基礎事項を理解する。 ・各抗菌薬の作用機序、副作用について理解する。 ・特殊な感染症の治療薬について理解する。 ・感染症の治療における問題点を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P66～P93）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P93）を解いておく。
	6	学習の主題	各論2：抗がん薬、免疫治療薬
		授業内容	・がん治療に関する基礎事項を理解する。 ・各抗がん薬の作用機序、副作用について理解する。 ・免疫反応のしくみについて理解する。 ・免疫抑制薬、増強薬について理解する。 ・予防接種薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P96～P120）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P108、P120）を解いておく。
	7	学習の主題	各論3：抗アレルギー薬・抗炎症薬
		授業内容	・抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬について理解する。 ・炎症のしくみと抗炎症薬について理解する。 ・関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬について理解する。 ・片頭痛治療薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P122～P136）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P136）を解いておく。
	8	学習の主題	各論4：末梢での神経活動に作用する薬物
		授業内容	・自律神経系について理解する。 ・交感神経作用薬について理解する。 ・副交感神経作用薬について理解する。 ・筋弛緩薬、局所麻酔薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P136～P156）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P155）を解いておく。
	9	学習の主題	各論5：中枢神経系に作用する薬物 - 1
		授業内容	・全身麻酔薬について理解する。 ・催眠薬、抗不安薬について理解する。 ・統合失調症治療薬について理解する。 ・抗うつ薬について理解する。 ・パーキンソン症候群治療薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P158～P177）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P188）を解いておく。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10	学習の主題	各論6：中枢神経系に作用する薬物 - 2、 心臓・血管系に作用する薬物 - 1
		授業内容	・抗てんかん薬について理解する。 ・麻薬性鎮痛薬について理解する。 ・高血圧治療薬について理解する。 ・狭心症治療薬について理解する。 ・うっ血性心不全治療薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P177～P200）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P188、P277）を解いておく。
	11	学習の主題	各論7：心臓・血管系に作用する薬物 - 2
		授業内容	・抗不整脈薬について理解する。 ・利尿薬について理解する。 ・脂質異常症治療薬について理解する。 ・血液に作用する薬物について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P201～P228）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P277、P278）を解いておく。
	12	学習の主題	各論8：呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
		授業内容	・呼吸器系に作用する薬物について理解する。 ・消化器系に作用する薬物について理解する。 ・生殖器系に作用する薬物について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P230～P248）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P248、P249）を解いておく。
	13	学習の主題	各論9：物質代謝に作用する薬物
		授業内容	・ホルモンおよびホルモン拮抗薬について理解する。 ・治療薬としてのビタミンについて理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P250～P264）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P264）を解いておく。
	14	学習の主題	各論10：皮膚科用薬 ・眼科用薬 ・救急の際に使用される薬物
		授業内容	・皮膚に使用する薬物の特徴を理解する。 ・眼科用薬について理解する。 ・救急蘇生時に用いられる薬物について理解する。 ・救急・急変時の症候に対して用いられる薬物について理解する。 ・急性中毒に対する治療薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P266～P287）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P276、P286）を解いておく。
	15	学習の主題	各論11：消毒薬 ・輸液剤および輸血製剤
		授業内容	・消毒薬とは何かを理解する。 ・輸液とは何かを理解する。 ・おもな輸液剤を理解する。 ・輸血とは何かを理解する。 ・主な輸血製剤を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P298～P316）を読んでおく。 事後学習：該当範囲についてテキスト掲載の問題（P302、P316）を解いておく。

授業科目	栄養代謝学 Nutrition and Metabolism		担当教員	渡辺　いつみ、金高　有里、岡本　智子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	栄養に関する知識を習得、看護業務にのっての栄養学を学ぶ意義や大切さを知る。			
到達目標	栄養学・食品学・代謝・消化吸収などの基礎知識と最新の臨床栄養、栄養ケアマネジメントなどを習得し、栄養問題に対する対処方法を学習する。			
テキスト	「よくわかる専門基礎講座 栄養学」（金原出版）			
参考書	なし			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	94％	到達目標の達成度を定期試験（94％）・提出物（6％）の結果により総合的に評価する。 各担当の評価割合は以下の通り。 渡辺　40％：定期試験　37％　提出物　3％ 金高　47％：定期試験　44％　提出物　3％ 岡本　13％：定期試験　13％	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	6％		
	その他			
履修上の 留意事項	人間栄養学と看護の関連性を認識してほしい。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (渡辺)	学習の主題	ガイダンス・栄養管理とは	
		授業内容	ガイダンス、健常者と傷病者の栄養管理、保険制度と栄養・食事	
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。	
	2 (金高)	学習の主題	体の構成と食事栄養	
		授業内容	人体の構成成分、食品の栄養素、代謝、酵素、エネルギー、食事摂取基準	
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。	
	3 (金高)	学習の主題	糖質の消化・吸収・代謝	
		授業内容	糖質の構造、消化、吸収、代謝	
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。	
	4 (金高)	学習の主題	脂質の消化・吸収・代謝	
		授業内容	脂質の構造、消化、吸収、代謝	
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。	
	5 (金高)	学習の主題	蛋白質の消化・吸収・代謝	
		授業内容	蛋白質とアミノ酸、消化、吸収、代謝	
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。	
	6 (金高)	学習の主題	エネルギー代謝	
		授業内容	食事エネルギー、エネルギー消費、体内エネルギー貯蔵、肥満と痩せ	
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。	
	7 (金高)	学習の主題	水と電解質、ビタミン	
		授業内容	水と血液、pH、ミネラル、ビタミン	
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。	
	8 (金高)	学習の主題	代謝の調節と異常	
		授業内容	遺伝子、ホルモン、神経、代謝病（メタボリックシンドローム）	
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。	
	9 (渡辺)	学習の主題	ライフサイクルと栄養	
		授業内容	乳幼児期、学童期、思春期、青年期、妊娠期、老年期	
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	10 (渡辺)	学習の主題	栄養管理の実際 1
		授業内容	栄養ケアとは、臨床および介護における栄養ケアと食事、日本人の食事摂取基準
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	11 (渡辺)	学習の主題	栄養管理の実際 2
		授業内容	栄養評価方法（スクリーニング・アセスメント）と栄養計画
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	12 (岡本)	学習の主題	栄養投与方法
		授業内容	経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	13 (岡本)	学習の主題	チーム医療
		授業内容	栄養管理とチーム医療の実際
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	14 (渡辺)	学習の主題	疾患と栄養 1
		授業内容	内分泌疾患、腎疾患、消化器疾患の栄養管理
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。
	15 (渡辺)	学習の主題	疾患と栄養 2、まとめ
		授業内容	低栄養、その他の疾患の栄養管理
		事前・事後学習	教科書を読んでおくこと。

授業科目	臨床心理学 Clinical Psychology		担当教員	松岡 紘史
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	臨床心理学は、さまざまな問題の理解と解決に心理的要因が大きく関与していると思われる個人を心理学的な立場から理解し、問題解決を図ろうとする学問である。臨床心理学を支える理論にはさまざまなものがあるが、近年は認知行動的な立場から問題を理解し解決を図る行動理論に基づく考え方が主流となっている。本講義では、臨床心理学の基本的な考え方を概説するとともに、行動理論による問題の理解と解決方法を解説しながら最新の臨床心理学の進歩について学ぶ。			
到達目標	行動理論の観点から問題にアプローチする方法を学習するとともに、医療現場で実際の患者さんに行動理論の考え方がどのように応用されているかを理解することを通して、自らの身近な問題や看護実践においても行動理論の考え方を応用できるようになることを目標とする。			
テキスト	指定しない。毎回プリントを配布する。			
参考書	坂野雄二ら「ベーシック臨床心理学」（有斐閣） 鈴木伸一ら「実践家のための認知行動療法テクニックガイド」（北大路書房） 松岡紘史・安彦善裕「歯科医師・歯科衛生士のための認知行動療法―チェアサイドで困ったときに」（医歯薬出版）			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	70%	講義中に授業内容に応じた知識理解を確かめる小テストを合計8回実施する。試験では講義内容の知識理解とともに、臨床心理学の知識を実際の問題に結ぶつけることができるかを評価する。	
	レポート			
	小テスト	30%		
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	講義で学んだ内容がどのように実践できるかを考えながら受講すること。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者（公認心理師）の立場から、医療機関での臨床心理学の実戦経験を講義におりまぜながら、臨床心理学を用いた患者理解・対応について講義を行う。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	臨床心理学とは	
		授業内容	臨床心理学で対象となる問題行動や不適応症状を学習するとともに、どのような領域で臨床心理学が利用されているかを理解する。	
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。	
	2	学習の主題	アセスメント	
		授業内容	臨床心理学で用いられる種々のアセスメント方法について理解する。	
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。	
	3	学習の主題	臨床心理学の諸理論	
		授業内容	臨床心理学を代表する、精神力動的理論、人間性心理学について学び、それぞれの理論的立場の異同について理解する。	
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。	
	4	学習の主題	行動理論：学習理論	
		授業内容	行動理論の基盤となる学習心理学の基礎理論とその臨床応用について理解する。	
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。	
	5	学習の主題	行動理論：機能分析	
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、問題行動の理解の仕方の1つである機能分析を理解する。	
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	行動理論：行動のコントロール
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、行動のコントロールに関するアプローチを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。
	7	学習の主題	行動理論：認知のコントロール
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、認知のコントロールに関するアプローチを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。
	8	学習の主題	行動理論：気分・感情のコントロール
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、気分・感情のコントロールに関するアプローチを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い、講義で取り上げられる概念等を深く理解する。

授業科目	疾病治療論Ⅰ Disease Therapeutics		担当教員	千葉 仁志、小林 清一
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	临床上重要な内科系疾患について、系統別に病態、診断法、治療法について学修する。			
到達目標	1. 疾患が生じる原因と病態についてしっかり理解する。 2. 疾患の主な診断法について理解する。 3. 疾患を治療するにあたって採りうる方法と注意点について理解する。			
テキスト	浅野嘉延、吉山直樹 編集「看護のための臨床病態学 改訂4版」(南山堂)、 毎回の授業で配布するレジュメ			
参考書	「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2].[3].[4].[5].[6].[7].[8].[9].[11].[13].[14]」(医学書院)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	定期試験：千葉 88%、小林 12%の割合で評価する。試験では、重要な疾患について病態・診断・治療に関する基本的知識が確実に身についているかという観点から評価する。試験形式は多肢選択式である。	
	試験	100%		
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	疾患を理解するには、解剖学と生理学の基礎的知識が必要となるので、テキストの「解剖と生理」で今までの知識を復習し、更に「症候」「検査」の項目を読んでから、講義に臨むこと。理解できない点は、講義後に教室やオフィスで教員に質問して解決すること。レジュメやテキストの情報量が多いので、十分な時間をかけて学習し(予習・復習に各30分以上)、さらに反復学習することが大切である。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師として重要と判断する事項や理解が難しい事項については特に丁寧に授業を行い、理解を助けます。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (千葉)	学習の主題	科目ガイダンス / 呼吸器疾患と治療(1)	
		授業内容	呼吸器疾患の分類と呼吸器感染症 かぜ症候群とインフルエンザ、肺炎	
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。	
	2 (千葉)	学習の主題	呼吸器疾患と治療(2)	
		授業内容	肉芽腫性病変と肺血栓・塞栓症、腫瘍 肺結核、サルコイドーシス、静脈血栓塞栓症、肺癌	
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。	
	3 (千葉)	学習の主題	循環器疾患と治療(1)	
		授業内容	心臓の疾患と治療 先天性心疾患、心臓弁膜症、虚血性心疾患、心筋疾患、不整脈、心不全	
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。	
	4 (千葉)	学習の主題	循環器疾患と治療(2)	
		授業内容	血管の疾患と治療 高血圧症、動脈硬化症、大動脈解離、大動脈瘤、大動脈炎症候群、末梢動静脈疾患	
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。	

回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 (千葉)	学習の主題 消化器疾患と治療（１） 授業内容 食道、胃・十二指腸の疾患と治療 胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニア、食道アカラシア、食道静脈瘤、マロリー・ワイス症候群、食道癌、急性・慢性胃炎、胃アニサキス症、消化性潰瘍、胃癌 事前・事後学習 テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
	6 (千葉)	学習の主題 消化器疾患と治療（２） 授業内容 大腸・肛門の疾患と治療 薬剤性大腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性大腸炎、大腸ポリープ、大腸癌、過敏性腸症候群、虫垂炎、腸閉塞、痔核 事前・事後学習 テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
	7 (千葉)	学習の主題 肝臓・胆嚢・胆管・膵臓の疾患と治療 授業内容 急性ウイルス性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、アルコール性肝障害、脂肪肝、肝癌、胆石症、胆嚢ポリープ、急性・慢性膵炎、膵癌 事前・事後学習 テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
	8 (千葉)	学習の主題 代謝性疾患と治療 授業内容 糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝疾患と治療 糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群、痛風、骨粗鬆症、ビタミン欠乏症・過剰症 事前・事後学習 テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
	9 (千葉)	学習の主題 内分泌（１） 業内容 視床下部・下垂体疾患・甲状腺疾患と治療 視床下部・下垂体腫瘍、下垂体機能低下症、尿崩症、バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍 事前・事後学習 テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
	10 (千葉)	学習の主題 内分泌（２） 授業内容 副甲状腺疾患・副腎疾患と治療 副甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫 事前・事後学習 テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
	11 (千葉)	学習の主題 腎・泌尿器 授業内容 腎・泌尿器疾患と治療 急性糸球体腎炎、IgA 腎症、糖尿病腎症、ネフローゼ症候群、腎不全、腎盂腎炎、腎癌、尿路結石症、急性膀胱炎、前立腺肥大症、前立腺癌 事前・事後学習 テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
	12 (小林)	学習の主題 脳・神経・筋 授業内容 脳・神経疾患、筋疾患と治療 脳血管障害、神経変性疾患、脱髄性疾患、末梢神経疾患、重症筋無力症、筋疾患 事前・事後学習 テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
	13 (千葉)	学習の主題 血液 授業内容 赤血球疾患、出血性疾患と治療 貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血小板減少症、凝固因子異常、播種性血管内凝固症候群 事前・事後学習 テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	14 (千葉)	学習の主題	眼・耳鼻咽喉・皮膚
		授業内容	眼・耳鼻咽喉・皮膚の疾患と治療 結膜炎、緑内障、白内障、糖尿病性網膜症、網膜色素変性症、鼻出血、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、中耳炎、メニエール病、扁桃炎、咽頭炎、舌癌、咽頭癌・喉頭癌、熱傷、褥瘡、アトピー性皮膚炎、带状疱疹
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。
	15 (小林)	学習の主題	膠原病・アレルギー
		授業内容	膠原病、アレルギー性疾患と治療 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎症候群、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、アレルギー疾患
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習すること。

授業科目	疾病治療論Ⅱ Pathophysiology and Surgical Treatment		担当教員	深井 原
対象年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	外科治療の基礎的な考え方や外科的診断学、手術手技、治療過程を学ぶとともに、個別の外科治療の臨床を通じて外科領域の疾病治療を学ぶ。			
到達目標	創傷治癒、外科手技、麻酔学など外科治療の基礎と消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、心臓血管外科などの概要を理解できる。			
テキスト	開講時に指示する。			
参考書	「系統看護学講座 臨床外科看護各論」（医学書院）、「標準外科学」（医学書院）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	90%	2/3以上の出席がない場合、定期試験の受験資格はありません。適宜行う小テストと併せて、目標の到達状況を評価します。	
	レポート			
	小テスト	10%		
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	講義開始前に各自形態機能学、病態学、疾病治療論Ⅰの該当する疾患を復習すること。重要事項は適宜講義中に示しますので、授業は欠席しないようにしてください。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	外科治療の歴史、外科的診断法、創傷治癒の原理を理解する	
		授業内容	外科の歴史と手術、外科的診断学とは、創傷治癒とこれを阻害する因子、手術手技の基本、外傷の分類とその治療について	
		事前・事後学習	形態機能学を復習すること	
	2	学習の主題	麻酔学：局所麻酔と全身麻酔、術中モニターを理解する	
		授業内容	手術に必要な局所麻酔、全身麻酔について、麻酔の5大要素、具体的な麻酔法を供覧する	
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること	
	3	学習の主題	滅菌法、滅菌法について学ぶ。基本的外科処置とくに縫合法、ドレナージ、デブリードマン等を理解する。	
		授業内容	消毒の歴史と外科手術の進歩、滅菌法の種類と適応について 縫合法、ドレナージとは、デブリードマンの原理について	
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること	
	4	学習の主題	消化管手術を理解する	
		授業内容	消化器の形態機能と疾病：上部消化管の疾患と外科治療 食道癌、胃癌の手術の実際と術後合併症	
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること 疾病治療論Ⅰの該当箇所を復習すること（消化管の疾患）	
	5	学習の主題	消化管手術を理解する	
		授業内容	大腸の手術 直腸癌と直腸温存術式、人工肛門増設、虫垂炎の手術について	
		事前・事後学習	疾病治療論Ⅰの該当箇所を復習すること（消化管の疾患）	
	6	学習の主題	肝・胆・膵の外科治療を理解する	
		授業内容	胆石症の手術：腹腔鏡手術について 肝臓癌の治療と肝切除 膵臓の疾患と外科治療	
		事前・事後学習	形態機能学の肝・胆・膵を復習すること	
	7	学習の主題	呼吸器の外科治療を理解する	
		授業内容	肺癌の手術：肺癌の手術適応、開胸手術、胸腔鏡手術 ブラ縫縮術について	
		事前・事後学習	肺癌の診断、治療を予習すること	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	8	学習の主題	乳腺の外科治療、内分泌外科を理解する
		授業内容	乳癌の外科治療：進行度と手術術式の選択 甲状腺外科
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	9	学習の主題	脳神経外科領域の治療を理解する
		授業内容	脳神経外科領域の代表的疾患、脳梗塞、くも膜下出血、脳出血、脳の外傷、脳腫瘍について
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	10	学習の主題	心臓血管外科領域の治療を理解する
		授業内容	先天性心疾患と後天性心疾患の外科治療、開心術の実際 虚血性心疾患と大動脈疾患の治療 末梢血管：動脈閉塞、静脈瘤の治療
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	11	学習の主題	整形外科の治療内容を理解する
		授業内容	骨折の分類と治療原則 脊椎疾患：椎間板ヘルニア、捻り症、脊柱管狭窄症 骨腫瘍とその治療
		事前・事後学習	形態機能学の骨、筋肉を復習すること
	12	学習の主題	小児外科の疾患と治療を理解する
		授業内容	ヘルニア、先天性消化管疾患、腸重積症、小児腫瘍の治療 小児外科疾患の特殊性と術後管理
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	13	学習の主題	泌尿器手術の実際を理解する
		授業内容	腎臓手術、前立腺、膀胱腫瘍の治療 腎臓移植の実際、血液透析とシャント
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	14	学習の主題	臓器移植と人工臓器を理解する
		授業内容	心臓移植手術、腎臓移植手術の実際、移植医療の問題と展望 人工臓器の進歩
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	15	学習の主題	救急医療と外科治療を理解する
		授業内容	心肺蘇生法と AED 急性腹症の治療、ショックの分類 死の三徴候と脳死判定 トリアージと災害医療
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること

授業科目	社会福祉論 Social welfare Theory		担当教員	吉田 竜平
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	少子高齢化の進行や人口減少の段階にある日本では、多くの社会問題が存在している。例えば、高齢者介護、子育て支援、貧困や経済的格差の拡大、社会的孤立・無縁の広まり等である。これらは社会において「一部の特殊な人々」が直面する例外的なものではなく、ライフコースの中で誰もが抱える可能性のある社会的リスクである。そのような「社会生活あるいは人生において個人では解決することが難しい生活問題」への支援や対応策を考え、全ての人々が幸福に暮らすことができるようにすることを志向するのが社会福祉（学）である。 本科目では、看護にとって必要と思われる社会福祉の基礎的内容について取り上げ、その理念・機能・対象と支援方法および関連する社会福祉・社会保障制度の概要について学ぶことを目的とする。			
到達目標	①社会福祉の基本概念・理念・機能について理解する。 ②社会福祉における対象と支援方法、課題について理解する。 ③社会保障制度の概要について理解する。 ④社会福祉の専門職について理解する。			
テキスト	なし			
参考書	必要に応じて紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	80%	目標の到達状況を定期試験と提出物（リアクションペーパー）の内容を総合して評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	20%		
	その他			
履修上の 留意事項	・新聞やニュース等での社会保障・社会福祉に関連する報道に関心を持つこと。 ・自分自身、家族、友人、知人等の生活（暮らし）と社会福祉のつながりに注目して講義を受けること。 ・私語等、講義の妨げとなる行為には厳しく対処する。 ・毎回レジュメを配布する。 ・展開内容が一部変更になる場合がある。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	社会福祉の基礎概念①	
		授業内容	社会福祉という考え方、ライフステージにおける福祉問題、社会福祉の専門職	
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む	
	2	学習の主題	社会福祉の基礎概念②	
		授業内容	社会福祉援助の価値、援助原理、対象とニーズ、ノーマライゼーション	
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む	
	3	学習の主題	少子高齢化の動向と社会福祉①	
		授業内容	高齢化、介護問題、家族・地域の変化	
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む	
	4	学習の主題	少子高齢化の動向と社会福祉②	
		授業内容	少子化、子育て支援、ワークライフバランス、ジェンダー、非正規雇用	
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む	
	5	学習の主題	社会福祉の援助と方法	
		授業内容	ソーシャルワークの理論・方法・価値・倫理、エンパワメント、ストレングス、 ケアマネジメント	
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む	
	6	学習の主題	社会保障制度の概要	
		授業内容	社会保障の目的と機能、社会保険方式と公費負担方式、日本の社会保障制度の体系、ナショナルミニマム	
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	貧困と社会福祉
		授業内容	貧困概念、貧困率、子どもの貧困、生活保護
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	8	学習の主題	年金保険制度
		授業内容	公的年金制度の概要・近年の制度改正・課題
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	9	学習の主題	医療保険制度①
		授業内容	医療保険制度の概要、健康保険、国民健康保険、診療報酬制度
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	10	学習の主題	医療保険制度②
		授業内容	近年の医療制度改革の動向と課題
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	11	学習の主題	介護保険制度①
		授業内容	介護保険制度の概要
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	12	学習の主題	介護保険制度②
		授業内容	近年の制度改革の動向と課題、地域包括ケア
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	13	学習の主題	障害者福祉
		授業内容	障害概念、基本理念、関係法律、障害者総合支援法、障害者の権利条約、リハビリテーション
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	14	学習の主題	子ども家庭福祉
		授業内容	子ども家庭福祉の理念とサービス、児童養護施設、子育て、子どもの権利、子ども虐待、家族支援
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む
	15	学習の主題	地域福祉
		授業内容	地域福祉の理念と支援、地域共生社会、コミュニティケア、地域福祉活動、まちづくり
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目について確認する、関連する新聞記事を読む

授業科目	生命倫理 Bioethics	担当教員	森口 真衣
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	現代の生命倫理に関する一般的問題について、自身の日常的な経験と倫理的判断の関係を理解することにより、基本的な視点や方法を身につける。また、人や生命についての概念の曖昧さを実感し、立場によって異なる見解を受け入れ尊重できる姿勢を養う必要性はどこにあるのか、倫理的議論が展開された歴史的背景を理解することにより、倫理原則と基礎理論、判断の基準、生命の尊厳についての理解を深める。		
到達目標	我々が日常生活で無意識に直面している倫理的問題に対し、自分が適切だと考える判断を下すことができ、さらにその判断の理由を述べるようになる。また、ひとりの人間として自分だけでなく他者の立場も尊重すること、価値観に基づく見解や判断を提示することの重要性を理解できるようになる。		
テキスト	特に指定しない。スライドと配布資料を用いて展開する。		
参考書	必要があればそのつど紹介する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	40%	毎回の講義終了時、授業内容と関連する日常経験や仮想事例を用いた思考実験によるアンケートレポート形式の復習課題（30％）、および授業内容に関するリアクションコメント（30％）の提出を課す。試験では課題内容を踏まえ設問要求に応えた自身の意見を展開できているかという観点で評価する。
	レポート	30%	
	小テスト		
	提出物	30%	
	その他		
履修上の 留意事項	倫理的判断の提示には自分の考えを適切な言葉で述べることが重要になる。授業中の課題では文章を書く機会を多く設定しているので、日常生活においても自分の意見を適切な文章で述べられるよう意識すること。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	日常と倫理的判断の関係
		授業内容	倫理的判断は人々の立場や主張の方向性と密接な関係があることを踏まえ、多様性を尊重するという目的に沿う生命倫理での使いどころを理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	2	学習の主題	倫理的判断に必要な具体的原則
		授業内容	日常生活や臨床現場で求められる倫理的判断の根拠や着眼点となる倫理原則について、その必要性和内容を学んだうえで、実際の適用の難しさを考える。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	3	学習の主題	命の判断：それは「人」ですか？
		授業内容	判断主体となる自己の曖昧さを、医学や科学技術の進歩によって新たに出現した様々な「人」を決める判断基準を通して理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	4	学習の主題	命の判断：いまは「健康」ですか？
		授業内容	人が「老いる」とはどういうことか、「健康」と「病気」はどう違うのか、人間の身体におきる様々な変化の境界について考える。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	5	学習の主題	命の判断：これも「殺害」ですか？
		授業内容	科学的医学の発展に伴う「生命」概念の問題を、生殖医療の背景となる歴史的・社会的な側面での変遷を通して理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	6	学習の主題	命の判断：どれが「食物」ですか？
		授業内容	人が生きるうえで「よいもの」を目指した努力の結果「悪いもの」が作り出されてしまうのはなぜなのか、善悪の価値づけについて考える。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	命の判断：どちらが「大切」ですか？
		授業内容	社会では「人の命を守る」ことを目標としながら実際には逆のことが起きてしまう矛盾について、歴史的・理論的変遷の決着点を通して理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	8	学習の主題	他者の価値観尊重とは
		授業内容	これまでの考察の結果をふりかえり、自分の判断と他者の判断の相違点や新たな気づきの分析を通して、医療人として多様な価値観の理解が患者理解に有益となる可能性を考察する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出

授業科目	看護技術論Ⅱ Fundamentals of Nursing Skill Ⅱ	担当教員	小島 悦子、本吉 明美、園田 典子 柏倉 大作、横山 桂子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	2単位
授業目的	看護を計画的・意図的に展開するために、必要な情報を系統的に収集し、分析・解釈・判断していくヘルスアセスメントの技術と、看護上の問題を明確化し、根拠に基づき、個別の解決策を考え、個別の状況に合わせて実施し、その効果を評価する看護過程のプロセスについて学びます。		
到達目標	1. 看護過程の意義と構成要素を説明できる。 2. 看護過程とヘルスアセスメントの関係について説明できる。 3. ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みについて説明できる。 4. ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みを用いて対象者の情報を収集し、アセスメントできる。 5. 紙上事例をもとに看護過程（アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価）を展開できる。 6. 看護記録の目的と記録様式について説明できる。 7. 患者情報の取り扱いについて説明できる。		
テキスト	1. 深井喜代子 編「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」（メヂカルフレンド社） 2. 深井喜代子 編「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」（メヂカルフレンド社） 3. 高橋照子 編「看護学原論」（南光堂）		
参考書	1. 道又元裕編「臨床で実際に役立つ疾患別看護過程」（総合医学者） 2. 高木永子監修「看護過程に沿った対症看護」（学研） 3. 日本看護協会編「看護記録および診療情報の取り扱いに関する指針」（日本看護協会出版会） 4. 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック」（医学書院） 5. 日野原重明編「フィジカルアセスメント」（医学書院） 6. 堺章「目でみるからだのメカニズム」（医学書院） 7. 医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」（メディックメディア） 8. 大久保暢子編「日常生活行動からみるヘルスアセスメント」（日本看護協会出版会）		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	50％	試験では、到達目標の達成度を評価する(50%)。 提出物は、「ヘルスアセスメント」は演習後の記録物について到達目標 4. の達成度で評価する（20%）。 「看護過程」は到達目標 5. 紙上事例をもとに看護過程を展開できる達成度を評価する(30%)。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	50％	
	その他		
履修上の 留意事項	1. 学習の主題ごとにテキストによる予習を行い、講義に臨んでください。 2. 「フィジカルアセスメント」の演習は、指定のテキストや資料を予習して臨んでください。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら理解できるように授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (小島)	学習の主題	看護過程の概念と構成要素、看護過程とヘルスアセスメントの関係
		授業内容	1. 看護過程の意義と構成要素 2. 看護過程、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの関係 3. ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みに基づくアセスメント 4. アセスメントの種類と方法を理解する
		事前・事後学習	事前学習：①事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにする ②テキスト 1 の第 2 編看護の共通基本技術の第 1 章ヘルスアセスメントのⅠ・Ⅱを読む
	2 (小島)	学習の主題	ヘルスアセスメントの目的と方法、健康知覚-健康管理パターンのアセスメント
		授業内容	1. ヘルスアセスメントの目的、留意点、共通技術 2. 健康歴聴取の目的と方法 3. 一般状態の観察の目的と方法 4. 健康知覚 - 健康管理パターンのアセスメント
		事前・事後学習	事前学習：テキスト 1 の第 1 編看護過程と看護記録の第 2 章看護過程の構成要素のⅠを読む

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	3 (全担当教員)	学習の主題	健康知覚 - 健康管理パターンのアセスメントの実際 (演習)
		授業内容	1. 一般状態とバイタルサインズを観察する 2. 健康歴を聴取する 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
	4 (小島)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント (1)
		授業内容	栄養 - 代謝パターンのアセスメント (口腔・咽頭、外皮・リンパ系) の目的と方法
		事前・事後学習	事前学習：テキスト1の第2編看護の共通基本技術の第1章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する
	5 (全担当教員)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント (1) の実際 (演習)
		授業内容	1. 栄養 - 代謝パターンのアセスメント (口腔・咽頭、外皮・リンパ系) を行う 2. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
	6 (小島)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント (2)、排泄パターンのアセスメント
		授業内容	1. 栄養 - 代謝パターンのアセスメント (腹部) の方法 2. 排泄パターンのアセスメントの目的と方法
		事前・事後学習	事前学習：テキスト1の第2編看護の共通基本技術の第1章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する
	7 (全担当教員)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント (2)、排泄パターンのアセスメントの実際 (演習)
		授業内容	1. 腹部のアセスメントを行う 2. 腎臓・膀胱のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
	8 (小島)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメント (1)
		授業内容	1. 活動 - 運動パターンのアセスメント (肺・胸郭、心・血管系) の目的と方法
		事前・事後学習	事前学習：テキスト1の第2編看護の共通基本技術の第1章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する
	9 (全担当教員)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメントの実際 (1) (演習)
		授業内容	1. 肺・胸郭のアセスメントを行う 2. 心・血管系のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
	10 (小島)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメント (2)
		授業内容	1. 活動 - 運動パターンのアセスメント (筋・骨格系、神経系：運動機能・反射) の目的と方法
		事前・事後学習	事前学習：テキスト1の第2編看護の共通基本技術の第1章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	11 (全担当教員)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメント (2) の実際 (演習)
		授業内容	1. 筋・骨格系のアセスメントを行う 2. 運動機能のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す 4. 感覚機能のアセスメントの実施 5. 反射のアセスメントの実施
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
	12 (小島)	学習の主題	認知 - 知覚パターンのアセスメント
		授業内容	1. 認知 - 知覚パターンのアセスメント (高次脳機能・感覚機能・眼・耳・鼻) の目的と方法
		事前・事後学習	事前学習：テキスト 1 の第 2 編看護の共通基本技術の第 1 章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する
	13 (全担当教員)	学習の主題	認知 - 知覚パターンのアセスメントの実際 (演習)
		授業内容	1. 高次脳機能・感覚機能のアセスメントを行う 2. 眼・耳・鼻のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：自分のパターンをアセスメントする
	14 (小島)	学習の主題	自己知覚 - 自己概念パターン、役割 - 関係パターン、セクシュアリティ - 生殖パターン、コーピング - ストレス耐性パターン、価値 - 信念パターン のアセスメント
		授業内容	自己知覚 - 自己概念パターン、役割 - 関係パターン、セクシュアリティ - 生殖パターン、コーピング - ストレス耐性パターン、価値 - 信念パターン のアセスメントの目的と方法
		事前・事後学習	事後学習：自分のアセスメントを完成させる
	15 (小島)	学習の主題	ヘルスアセスメントのまとめ
		授業内容	1. ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みを用いたアセスメント のまとめ
		事前・事後学習	事後学習：ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みに基づく分析・ 解釈・判断の視点を復習する
	16・17 (小島)	学習の主題	看護過程 (1) (講義・演習)
		授業内容	1. 紙上事例の紹介 2. ゴードンの機能的健康パターンに基づく各パターンの分析・解釈・判断 3. 紙上事例のアセスメントを行う (個人ワーク)
		事前・事後学習	事後学習：ゴードンの機能的健康パターンに整理された情報を確認し、必要 な情報を追加する。分析視点に基づき、事例のアセスメントを行う
	18 (小島)	学習の主題	看護過程 (2) (演習)
		授業内容	紙上事例のアセスメントを行う (グループワーク)
		事前・事後学習	事前学習：個人で紙上事例のアセスメントを行う 事後学習：紙上事例のアセスメントを行う (グループワーク)
	19 (小島)	学習の主題	看護過程 (3) (演習)
		授業内容	紙上事例のアセスメントを行う (グループワーク)
		事前・事後学習	事前・事後学習：紙上事例のアセスメント (グループワーク)
	20 (全担当教員)	学習の主題	看護過程 (4) (演習)
		授業内容	紙上事例のアセスメントを行う (グループワーク)
		事前・事後学習	事前学習：グループのアセスメントを見直し、各パターンのアセスメント結 果をもとに強みと適切に機能していない事柄を抽出する 事後学習：グループでゴードンの 11 の機能的健康パターンのアセスメント を完成

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	21 (小島)	学習の主題	看護過程 (5) (講義・演習)
		授業内容	1. 関連図と全体像について 2. 関連図と全体像を記載する (個人ワーク)
		事前・事後学習	事後学習：個人で関連図、全体像を記載する
	22 (全担当教員)	学習の主題	看護過程 (6) (演習)
		授業内容	紙上事例の関連図・全体像を考える (グループワーク)
		事前・事後学習	事前・事後学習：関連図、全体像のグループワーク
	23 (小島)	学習の主題	看護過程 (7) (講義・演習)
		授業内容	1. 看護問題の明確化とリストアップ 2. 優先順位の決定 3. 計画立案：目標と評価日の設定、具体策の立案 4. 紙上事例の看護過程 (個人ワーク)
		事前・事後学習	事前学習：紙上事例の看護問題の優先度を考える 事後学習：看護問題リストの作成、計画立案 (個人ワーク)
	24 (全担当教員)	学習の主題	看護過程 (8) (講義・演習)
		授業内容	1. 紙上事例の看護過程 (グループワーク)
		事前・事後学習	事後学習：看護問題をリストアップし、優先順位を考える (グループワーク)、計画を立案する (個人ワーク)
	25 (小島)	学習の主題	看護過程 (9) (演習)
		授業内容	紙上事例の看護過程 (グループワーク)
		事前・事後学習	事前・事後学習：計画を立案する (グループワーク)
	26 (全担当教員)	学習の主題	看護過程 (10) (演習)
		授業内容	紙上事例の看護過程 (グループワーク)
		事前・事後学習	事前・事後学習：看護過程の全てのプロセスを再考する (グループワーク)
	27 (小島)	学習の主題	看護過程 (11) (講義・演習)
		授業内容	1. 実施、評価について理解する 2. 紙上事例の看護過程 (グループワーク)
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：看護過程の全てのプロセスを再考する (グループワーク)
	28 (小島)	学習の主題	看護過程 (12) (講義・演習)
		授業内容	1. 看護記録とは 2. 看護記録の法的位置づけ 3. 記録様式と記載時の留意点 4. 紙上事例の看護過程 (グループワーク)
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：看護過程の全てのプロセスを再考する (グループワーク)
	29 (全担当教員)	学習の主題	看護過程 (13) (演習)
		授業内容	看護過程学習成果発表会
		事前・事後学習	事前・事後学習：看護過程の全てのプロセスを再考し、発表・提出の準備をする (グループワーク)
	30 (小島)	学習の主題	看護過程 (14)
		授業内容	看護過程のまとめ
		事前・事後学習	

授業科目	看護技術論Ⅲ Fundamentals of Nursing Skill III	担当教員	小島 悦子、本吉 明美、園田 典子、 柏倉 大作、横山 桂子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	診療に伴う技術における看護者の役割について理解し、診療に伴う看護技術の基本的な知識と技術について学ぶ。また、演習を通して安全・安楽な技術を修得する。		
到達目標	1. 診療に伴う技術における看護者の役割を説明できる。 2. 診療に伴う看護技術の目的と適応を説明できる。 3. 対象者の安全・安楽・自立につながる支援を考えることができる。 4. 身体侵襲を伴う看護技術を根拠に基づき安全・安楽に実施できる。 5. 薬物療法を受ける対象者の支援について説明できる。		
テキスト	1. 高橋照子編「看護学原論」(南江堂) 2. 深井喜代子編「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社) 3. 深井喜代子編「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社)		
参考書	1. 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス」(学研) 2. 川島みどり監修「看護技術スタンダードマニュアル」(メヂカルフレンド社) 3. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院) 4. 本庄恵子 他「写真でわかる臨床看護技術①」(インターメディカ) 5. 吉田みつ子 他「写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス」(インターメディカ) 6. 古川祐子 他「写真でわかる看護のための感染防止アドバンス」(インターメディカ)		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	試験では、到達目標の達成度を評価する(60%)。小テストでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する(20%)。提出物は、演習記録の事前・事後学習の取り組み状況と授業態度を含めて評価する(20%)。
	レポート		
	小テスト	20%	
	提出物	20%	
	その他		
履修上の 留意事項	1. 演習の主題ごとに教科書や専門基礎科目の教科書による予習を行ってください。 2. 演習前に、テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとに、方法や留意点などを復習し、各技術のシミュレーションをしましょう。 3. 演習後は、グループや個人で演習の振り返りを行いましょう。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を用いながら看護技術を理解できるように授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (小島)	学習の主題	ガイダンス、診療のための看護技術
		授業内容	1. 診療に伴う技術の概要 2. 診療に伴う技術における看護師の役割と法的責任 3. 検査や治療における看護者の役割 4. 主な生体検査と検体検査 【課題】検査に必要な看護について調べる
		事前・事後学習	事前にシラバス・テキストを読んでおく
	2 (柏倉)	学習の主題	感染予防の技術 (1)
		授業内容	1. 検査・診断・治療場面における感染管理の重要性 2. 無菌法の概念 3. 無菌操作 【課題】感染予防に必要な知識について調べる
		事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
	3 (全担当教員)	学習の主題	感染予防の技術 (2) (演習)
		授業内容	無菌操作、滅菌手袋の装着に関する看護技術を実施する
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (柏倉)	学習の主題	排泄に関する看護技術 (1)
		授業内容	導尿の適応の判断、根拠に基づいた導尿の方法 【課題】導尿に必要な知識について調べる
		事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
	5 (全担当教員)	学習の主題	排泄に関する看護技術 (2) (演習)
		授業内容	排尿困難のある患者に対し一時的導尿を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する
	6 (小島)	学習の主題	排泄に関する看護技術 (3)
		授業内容	浣腸の種類と適応、根拠に基づく浣腸の方法 【課題】浣腸に必要な知識について調べる
		事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
	7 (全担当教員)	学習の主題	排泄に関する看護技術 (4) (演習)
		授業内容	便秘のある患者に対しグリセリン浣腸を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する。
	8 (小島)	学習の主題	検査に伴う看護技術 (1)
		授業内容	1. 血液検査の種類と検体の取扱い 2. 採血の看護技術の根拠・留意点、注射器の取扱い 【課題】採血に必要な知識について調べる
		事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
	9 (全担当教員)	学習の主題	検査に伴う看護技術 (2) (演習)
		授業内容	採血を実施し、評価する (けっかんくんを使用)
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する。
	10 (小島)	学習の主題	与薬の技術 (1)
		授業内容	1. 与薬における看護師の役割 2. 薬物に関する法律 3. 与薬方法とその特徴、薬物整体反応
		事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
	11 (小島)	学習の主題	与薬の技術 (2)
		授業内容	1. 注射法の種類とその特徴 2. 皮下注射、筋肉内注射、皮内注射の技術の根拠・留意点 3. 誤薬、感染防止の方法 【課題】与薬に必要な知識を調べる
		事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
	12 (全担当教員)	学習の主題	与薬の技術 (3) (演習)
		授業内容	皮下注射、筋肉内注射を実施し、評価する (モデル人形を使用)
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する。
	13 (小島)	学習の主題	与薬の技術 (4)
		授業内容	1. 静脈内注射、点滴静脈内注射の特徴 2. 静脈内注射、点滴静脈内注射の技術の根拠・留意点 3. 輸血療法の適応・種類、輸血の技術の根拠・留意点 【課題】静脈内注射や輸血療法に必要な知識を調べる
		事前・事後学習	事前学習：テキスト・資料を読んでおく

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	14 (全担当教員)	学習の主題	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
		授業内容	点滴静脈内注射の技術を実施し、評価する（けっかんくんを使用）
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する。
	15 (全担当教員)	学習の主題	与薬の技術（6）（演習）
		授業内容	紙上事例をもとに与薬における支援を考える
		事前・事後学習	事前学習：提示された課題を所定用紙にまとめる 事後学習：学んだことを所定の用紙に整理する

授業科目	健康教育論 Health Education	担当教員	近藤 明代、安藤 陽子、小川 克子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	様々な健康レベルにある人たちが自己管理能力を高め、健康行動をとることができるように支援することは看護の役割です。その支援のひとつである健康教育について学習します。本科目では、健康教育の基本となる理論と活動方法について学び、個人・集団を対象とした健康教育の企画・実施に必要な知識や技術を習得します。		
到達目標	1. 保健医療の場における健康教育の目的と役割について理解する。 2. 健康教育に用いられる理論・モデルについて理解する。 3. 健康教育の対象である成人の学びの特徴を理解する。 4. 健康教育が行われる場について理解する。 5. 健康教育の方法と媒体の特徴について理解する。 6. 個人・集団に対する健康教育を実施するための計画策定の知識と技術を習得する。 7. 個人・集団を対象とした健康教育の展開を通して、支援に必要な知識・技術・態度を習得する。		
テキスト	講義の時に資料を配布する。		
参考書	1. 特定非営利活動法人 日本健康教育士養成機構編著 「新しい健康教育」(保健同人社) 2. 宮坂忠夫, 川田智恵子, 吉田亨編著「最新保健学講座<別巻 1>健康教育論」(メヂカルフレンド社) 3. 中村裕美子他「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術」(医学書院) 4. Karen Glanz 他編, 曽根智史他訳「健康行動と健康教育」(医学書院) 5. 宗像恒次「最新行動科学からみた健康と病気」(メヂカルフレンド社) 6. 大西和子, 櫻井しのぶ編「成人看護学 ヘルスプロモーション」(ヌーヴェル・ヒロカワ) 7. 日本健康教育学会編「健康教育ヘルスプロモーションの展開」(保健同人社)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	試験(60%)は、到達目標 1~6 についての内容について実施し、到達度を評価する。 講義内で小テスト(10%)を実施し、行動変容の理論の理解について評価する。 健康教育の演習で作成した計画書の内容(20%)と演習を通しての学びのレポート(10%)を評価する。 上記の各評価の総合で本科目の評価とする。
	レポート	10%	
	小テスト	10%	
	提出物	20%	
	その他		
履修上の留意事項	常にヘルスプロモーションの理念を基本にして学習を進めてください。 グループ学習では積極的に意見交換を行い、学びを深めてください。		
実務経験を 活かした教育内容	保健師としての実務経験を持つ教員が、実際に健康教育を実施してきた中での事例や体験を紹介しながら、健康教育の展開に必要な知識・技術を理解しやすいように授業を実施します。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (近藤)	学習の主題	健康教育の特徴
		授業内容	1. 健康教育の考え方(定義、目的) 2. ヘルスプロモーションと健康教育 3. 保健医療活動と健康教育 4. 成人の学びの特徴
		事前・事後学習	事前学習: ヘルスプロモーションについて復習する。
	2 (近藤)	学習の主題	健康行動と行動変容
		授業内容	1. 生活行動とその行動に影響する要因 2. 健康行動と行動変容
		事前・事後学習	事後学習: 講義内容を参考に自分自身の生活・健康行動について考える。
	3 (近藤)	学習の主題	健康行動・行動変容を理解するための理論・モデル(1)
		授業内容	1. 保健信念モデル 2. 変化ステージ理論
		事前・事後学習	事後学習: 参考文献で理論について復習する。

回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 (近藤)	学習の主題 健康行動・行動変容を理解するための理論・モデル (2) 授業内容 1. 変化理論 2. 社会的認知理論 事前・事後学習 事後学習：参考文献で理論について復習する。
	5 (近藤)	学習の主題 保健医療活動における健康教育 授業内容 1. 健康教育が行われる場 2. 成人期にある対象の健康教育の特徴 事前・事後学習 事後学習：健康教育の重要性と看護職の役割について復習する。
	6 (近藤)	学習の主題 健康教育の方法とその特徴 (1) 授業内容 1. 健康教育の方法と技術 2. 教育媒体の種類 事前・事後学習 事後学習：参考文献で教育方法・教育媒体について学びを深める。
	7 (近藤)	学習の主題 健康教育の方法とその特徴 (2) 授業内容 1. 健康教育の展開 2. プリシード・プロシードモデル 事前・事後学習 事後学習：参考文献で教育方法・教育媒体について学びを深める。
	8 (近藤)	学習の主題 健康教育の企画・実施・評価 (1) 授業内容 ・健康教育の準備・企画 (ニーズアセスメント・計画づくり) 事前・事後学習 事後学習：モデルをもとに健康教育に求められる要素について考える。
	9 (近藤)	学習の主題 健康教育の企画・実施・評価 (2) 授業内容 ・健康教育の評価 (評価の目的、評価の種類) 事前・事後学習 事後学習：モデルをもとに健康教育に求められる要素について考える。
	10 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題 健康教育の展開 (準備) 授業内容 ・提示された事例を対象にして、指導案・教育媒体の作成を行う。 事前・事後学習 事前学習：事例を理解するために必要な知識を復習する。
	11 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題 健康教育の展開 (準備) 授業内容 ・提示された事例を対象にして、指導案・教育媒体の作成を行う。 事前・事後学習 事前学習：事例を理解するために必要な知識を復習する。
	12 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題 健康教育の展開 (準備) 授業内容 ・提示された事例を対象にして、指導案・教育媒体の作成を行う。 事前・事後学習 事前学習：事例を理解するために必要な知識を復習する。
	13 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題 健康教育の展開 (準備) 授業内容 ・提示された事例を対象にして、指導案・教育媒体の作成を行う。 事前・事後学習 事前学習：事例を理解するために必要な知識を復習する。
	14 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題 健康教育の展開 (グループ発表・評価) 授業内容 ・作成した指導案に基づいた健康教育を実施する。(ロールプレイ) 事前・事後学習 健康教育の企画・実施・評価について振り返り、学んだことをレポートにまとめる。(A4 判 1～2 枚程度) 作成した指導案・教育媒体はレポートと共に提出する。
	15 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題 健康教育の展開 (グループ発表・評価) 授業内容 ・作成した指導案に基づいた健康教育を実施する。(ロールプレイ) 事前・事後学習 健康教育の企画・実施・評価について振り返り、学んだことをレポートにまとめる。(A4 判 1～2 枚程度) 作成した指導案・教育媒体はレポートと共に提出する。

授業科目	地域保健医療看護論 Nursing in the Community		担当教員	近藤 明代、石村 珠美、越膳 杏子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	地域で暮らす人々の健康・生活には、地域の様々な環境が大きく影響していることから、人々が抱える健康問題や課題を地域社会の特性と関連づけながら捉え、解決することが求められており、看護職は、どのような健康レベルにある人でも、可能な限り自立し、その地域でその人らしく生活ができることをめざしている。本科目では看護職として地域で暮らす人々をどの様に捉え、どの様に支援を展開すると良いのかについて学ぶ。また、その問題解決・課題達成のためには看護職だけではなく、多職種・機関との連携・協働が不可欠であることから、保健医療福祉活動の場において活躍する専門職の理解と、看護職との連携・協働の必要性と保健・医療・福祉支援システムについて学修する。			
到達目標	1. 地域で暮らす人々が抱える健康問題と課題について理解する。 2. 地域を基盤とした健康増進・疾病予防の考え方と活動方法の基本を理解する。 3. 健康課題を抱える人々に関わる保健・医療・福祉の専門職の専門性と役割を理解する。 4. 地域における保健・医療・福祉の連携や協働による支援の必要性を理解する。 5. 地域におけるケアシステムの概要について理解する。			
テキスト	講義の時に資料を配布する。			
参考書	1. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向・厚生指標 増刊・2020/2021」(厚生労働統計局) 2. 真船拓子、杉本正子他編集「看護師教育のための地域看護概説」(ヌーヴェルヒロカワ) 3. 高橋紘士・武藤正樹「地域連携論―医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援―」(オーム社) 4. 中村裕美子編「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」(医学書院) 5. 檀本真津「生活を分断しない医療」(ライフ出版社) 6. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる」(メディックメディア)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	60%	到達目標の達成状況を下記の視点から評価し 60 点以上を合格とする。 ①定期試験 (60 点) : 到達目標に関する試験を実施し、学修の到達度を評価する。 ②課題レポート (20 点) : 講義「専門職の活動の理解」からの学びを評価する。 ③提出物 (20%) : グループで事例の支援検討を検討した内容から目標の到達度を評価する。	
	レポート	20%		
	小テスト			
	提出物	20%		
	その他			
履修上の留意事項	わが国における保健医療の課題を関連科目で学んだことや自己学習から捉えてください。そして様々な健康レベルにある対象者が自分らしい生活を送るために、どのような条件が必要であるかを、みなさんの生活、またはご家族の生活をイメージしながら考えてください。看護職以外の職種に関心を持ちながら授業に臨んでください。			
実務経験を活かした教育内容	看護師、保健師としての実務経験を持つ立場から、経験したことを紹介しながら、地域を基盤とした活動に必要な考え方を伝えたいと考えます。また、演習においても地域で生活する人々をイメージできるような事例を紹介します。			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (近藤)	学習の主題	地域における看護の対象の特徴	
		授業内容	地域における看護の対象の捉え方 ・健康レベル ・発達段階 (ライフステージ) ・生活モデルと医療モデル	
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにする。	
	2 (近藤)	学習の主題	地域で暮らす人々の健康問題・課題に影響する要因と支援 (1)	
		授業内容	1. 健康問題や課題に影響する要因 ・家族からの影響、特定集団からの影響、地域・環境からの影響	
		事前・事後学習	事後学習：参考文献を活用し、授業で学んだ内容の理解を深める。	
	3 (近藤)	学習の主題	地域で暮らす人々の健康問題・課題に影響する要因と支援 (2)	
		授業内容	1. 保健医療福祉活動を理解する際に基本となる考え方 ・プライマリヘルスケア ・ヘルスプロモーション 2. 保健医療福祉活動が行われる場 ・保健・医療・福祉サービスの種類・看護活動が展開される場	
		事前・事後学習	事後学習：参考文献を活用し、授業で学んだ内容の理解を深める。	

回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	学習の主題	事例をもとに必要な支援を検討 (1) ~ (3)
	4-6 (近藤) (石村) (越膳)	授業内容 健康問題・課題を抱えた事例の支援を検討 ・提示された事例の健康問題を明らかにする。 ・健康問題の解決のために何が必要かを検討する。 ・地域における保健医療福祉サービスについて調べ、活用可能なサービスを検討する。
	事前・事後学習	事後学習：課題を提出する。
	7-8 (近藤) (石村) (越膳)	学習の主題 求められる支援と保健医療福祉サービス (1) (2)
	授業内容	健康問題・課題を抱える人々の関わる保健医療福祉の専門職の理解を深め、活動に対する疑問を明確にする。
	事前・事後学習	事後学習：保健医療福祉の専門職の活動と専門性について理解できたことと疑問点をまとめる。(A4 判 1 枚程度)
	9 (石村)	学習の主題 地域における保健医療福祉チームを構成する専門職の活動の理解 (1)
	授業内容	保健医療福祉の専門職の専門性と役割 ・在宅移行、在宅看護を担う看護師の役割と活動
	事前・事後学習	事後学習：講義内容を復習し、学びを確認する。
	10 (石村)	学習の主題 地域における保健医療福祉チームを構成する専門職の活動の理解 (2)
	授業内容	保健医療福祉の専門職の専門性と役割 ・在宅看護を担う訪問看護師の役割と活動
	事前・事後学習	事後学習：自宅で療養する人々への看護の特徴をまとめる。 (A4 判 1 枚程度)
	11 (越膳)	学習の主題 地域における保健医療福祉チームを構成する専門職の活動の理解 (3)
	授業内容	保健医療福祉の専門職の専門性と役割 ・地域包括支援センターの保健師の役割と活動
	事前・事後学習	事後学習：地域包括支援センターの保健師の役割と活動についてまとめる。 (A4 判 1 枚程度)
	12 (近藤)	学習の主題 地域における保健医療福祉チームを構成する専門職の活動の理解 (4)
	授業内容	保健医療福祉の専門職の専門性と役割 ・公衆衛生看護を担う保健師の役割と活動
	事前・事後学習	事後学習：公衆衛生看護の特徴についてまとめる。(A4 判 1 枚程度)
	13 (越膳)	学習の主題 関係職種連携・協働、地域ケアシステムの理解 (1)
	授業内容	地域で生活する人々を支援するために必要な専門職の専門性や特徴、役割 ・関係職種が連携・協働する必要性
	事前・事後学習	事後学習：参考文献を使って授業内容の理解を深める。
	14 (越膳)	学習の主題 関係職種連携・協働、地域ケアシステムの理解 (2)
	授業内容	地域で生活する人々を支援するために必要な専門職の専門性や特徴、役割 ・関係する様々な専門職の専門性と、看護職の役割
	事前・事後学習	事後学習：授業で学んだ内容を参考文献を使って理解を深める。
	15 (近藤) (石村) (越膳)	学習の主題 まとめ (求められる支援と保健医療福祉サービス)
	授業内容	健康問題・課題を抱える人々の関わる保健医療福祉の専門職の理解を深める。 【方法】9~12 回目の講義を受け、再度事例の理解と支援について検討し、その内容をまとめる。
	事前・事後学習	事後学習：再検討した内容をまとめて提出する。

授業科目	看護倫理 Nursing Ethics	担当教員	木津 由美子、園田典子、吉田 祐子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	対象者の生命活動を支援する看護では、人々の多様な価値観の尊重、尊厳と権利の擁護と意思決定を支えつつ、人間的な配慮のある看護実践が求められることから、本科目では看護実践を倫理的観点から理解することを目的にする。具体的には看護倫理の概念を理解し、事例を通して倫理的課題を判断することを学習体験することで、看護職としての基本的倫理観とその態度を培い、看護ケアと関連付けて実践に活用・評価できる基礎的能力を養う。		
到達目標	1. 看護倫理の基本的概念を理解する。 2. 看護倫理の基本的概念をもとに、看護事例を通して看護実践における倫理について考える。 1) 看護実践に潜在する倫理的問題の理解と明確化 2) 倫理的問題の解決・改善を図るための看護ケアの検討 3. 上記の授業過程を通して、看護者としての倫理的態度について理解する。		
テキスト	1. 高橋照子編「看護学原論」(南江堂) 2. F. ナイチンゲール、湯楨ます他訳「看護覚え書」(現代社)		
参考書	1. 日本看護協会編「新版 看護者の基本的責務」(日本看護協会出版会) 2. サラ T. フライ メガン・ジェーン・ジョンストン 著 片田 範子・山本あい子 訳 「看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド」(日本看護協会出版会) 3. 川村佐和子、志自岐康子、松尾ミヨ子「ナースング・グラフィカ® 基礎看護学・看護学概論」(メディカ出版) 4. 岡崎美子他「ケアの質を高めるための看護倫理 (ジレンマを解決するために)」(医歯薬出版) 5. 服部健司他「医療倫理学の ABC」(メヂカルフレンド社)		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		目標の到達状況を以下の観点から総合的に評価する。 ・提出物 (20 点): グループ発表資料から到達目標への達成状況を評価する。 ・レポート (80 点): レポート内容から到達目標の項目別達成度、レポート形式の遵守項目をもとに評価する。
	レポート	80%	
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他		
履修上の 留意事項	1. 授業時の態度、チームカンファレンス (グループ学習)、成果発表、レポート作成に関しては、「学習活動の手引き」に則る。 2. 2 回目以降の持参図書、資料、事前・事後学習については授業開始時に指示する。 3. 看護基礎実習Ⅱを未履修の場合は、事前に担当員に相談する。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床経験に基づく自作の看護事例を提示し、看護技術演習を含めて現場での倫理的問題にチームとして取り組む臨場感のある授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (木津)	学習の主題	看護倫理の基本的概念 (1)
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項 看護倫理の基本的概念 (1) 1. 人間と倫理 2. 看護と倫理 3. ナイチンゲールから学ぶ看護倫理
		事前・事後学習	事前学習: 事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。
	2 (木津)	学習の主題	看護倫理の基本的概念 (2)
		授業内容	1. 看護実践の指針である看護倫理の三つの側面と倫理綱領 2. 看護実習における倫理的態度の基礎 3. 看護実践と倫理: 「抑制と看護」の事例 ・事例に提示した「抑制」とは ・抑制体験に関するガイダンス
		事前・事後学習	事前学習: 「看護者の基本的責務」における「看護者の倫理綱領」を読んでおく。 事後学習: 提示した課題学習を行う。

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	3 (園田) (木津) (吉田)	学習の主題	「抑制と看護」を主題に、看護実践の倫理について考える (1)
		授業内容	1. 抑制体験 (演習) 2. 体験をもとに看護者と患者の立場から「抑制」について考える
		事前・事後学習	事前学習:「抑制法」に関する資料を読み、方法を確認する。 事後学習:①抑制体験をまとめる ②提示資料等を読んでおく。
	4 (園田)	学習の主題	「抑制と看護」を主題に、看護実践の倫理について考える (2)
		授業内容	1 医療現場における「抑制」の取り組み 1) DVD「縛られない老後」の視聴 2) 抑制体験、資料等をもとに、「抑制」に対する自己の考えをまとめる
		事前・事後学習	事後学習:①体験をもとに抑制に関する自己の考えをまとめる。 ②事例の関する基礎知識の指定用紙を完成させる。
	5 (木津) (園田) (吉田)	学習の主題	看護事例における看護実践のための倫理的判断過程を学ぶ (1)
		授業内容	1 事例 (1) における患者の患者の行動と健康回復の関係性について考える。 1) 事例における「抑制」について自己の考えをまとめる。 2) 事例における「抑制」についてチームで討議しまとめる。
		事前・事後学習	事後学習:事例検討による倫理的問題 (是非と理由) について考える。
	6 (木津) (園田) (吉田)	学習の主題	看護事例における看護実践のための倫理的判断過程を学ぶ (2)
		授業内容	1. 事例 (2) から患者のこれまでの生き方と問題行動の関係性について考える。 2. 事例 (1) (2) をもとに倫理的問題を明らかにする。 3. 倫理的問題を解決するための看護援助を立案する。 4. 事例検討の過程で明らかになった現実の看護体制・組織の問題と改善策を考える。
		事前・事後学習	事後学習:倫理的問題への看護援助について調べる。
	7 (木津) (園田) (吉田)	学習の主題	看護事例における看護実践のための倫理的判断過程を学ぶ (3)
		授業内容	1. 看護事例における倫理的問題と看護援助、改善策を立案する (続き) 2. 発表資料の作成と発表の準備
		事前・事後学習	事後学習:①チームごとに学習成果を A 4 版用紙にまとめ、提出する。 ②効果的なチーム発表のための役割の決定と準備をする。
	8 (木津)	学習の主題	チームカンファレンスの成果発表とまとめ
		授業内容	1. 看護チームの発表 2. まとめ
		事前・事後学習	レポート提出:「看護倫理」の学びについて 2000~2200 字程度にまとめ、提出する。

授業科目	看護理論 Nursing Theories		担当教員	萩野 悦子、木津 由美子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	本科目では、看護理論の意義と歴史的発展、理論としての構成要素、看護の諸理論に共通する下位概念と関係性について理解するとともに、看護現象における理論と技術及び看護過程の関係について理解する。さらに、主たる看護理論を分析的に学習することで、看護実践の基盤となる理論的根拠についての理解を深める。			
到達目標	1. 看護実践における看護理論の位置づけと意義について理解する。 2. 看護理論の歴史的変遷と分類の特徴を理解する。 3. 看護理論の定義、理論構築の要素について理解する。 4. 看護理論における共通概念および諸理論の基礎を理解する。 5. 事例や自己の看護体験をもとに、看護理論を実践的に活用する。			
テキスト	関係資料を授業開始時に配付する。			
参考書	1. J.B. ジョージ、南裕子他訳「看護理論集 第3版」(日本看護協会出版会) 2. A.M. トメイ他、都留伸子監訳「看護理論家とその業績」(医学書院) 3. 金子道子編「看護論と看護過程の展開」(照林社) 4. 筒井真優美編「看護理論」(南江堂) 5. F. ナイチンゲール、湯楨ます訳「看護覚え書」(現代社) 看護理論に関する文献は、随時紹介する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験		到達目標 1～4 の総合評価として到達目標 5 について授業中の個人学習記録の提出物を定期試験相当とし、学習到達状況を評価する。 授業中の個人学習時間の欠席、記録物などの持参に不備があった場合は減点対象とする。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	100%		
	その他			
履修上の留意事項	・講義進行のために事前資料を必ず読み、所定用紙に整理しておくこと。 ・受講態度は「学習活動の手引き」の「受講の心構え」に従うこと。逸脱行為と判断した場合は最終評定から減点する。 ・第5回目以降は、事例や実習での体験をもとに看護理論を活用する。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、理論の意義・目的や各理論家の説明時には臨床経験に基づく場面を例示することで、わかりやすく授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1 (萩野)	学習の主題	看護実践における理論の位置づけと意義	
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点 1. 看護理論を学ぶ意義と必要性 1) 看護職の発展と看護理論 2) 看護実践と理論発生の関係	
		事前・事後学習	講義をもとに、「看護理論を学ぶ各自の目的」をA5版用紙(250字)にまとめる。	
	2 (萩野)	学習の主題	看護理論の構築と基礎となる概念	
		授業内容	1. 看護理論を学ぶ意義と必要性(続き) 1) 看護理論の歴史的概観と分類・特徴 2) 看護における実践と理論・研究の環状的性質 2. 看護理論の構築と基礎となる概念 1) 看護理論の定義と理論構築の要素 2) 看護の諸理論に共通する概念 3. 所定用紙「自分の考える看護とは」をこれまでの講義・演習・実習をもとにまとめる。	
		事前・事後学習	事後学習:「自分の考える看護とは」を完成させておく。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	3 (萩野) (木津)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴（１）
		授業内容	1. 所定の「自分の考える看護とは」から共通概念を抽出し、各概念について、グループ学習する。（グループ学習） 2. グループ学習の成果を含めて「看護とは何か」をまとめる。（個別学習）
		事前・事後学習	事後学習：授業内容２について所定用紙①を完成させ提出する。
	4 (萩野)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴（２）
		授業内容	1. ナイチンゲールの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境、看護過程
		事前・事後学習	事前学習：ナイチンゲール「看護覚え書」を読んでおく。
	5 (木津)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴（３）
		授業内容	1. ヘンダーソンの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境、看護過程 2. 事例をもとにヘンダーソンの看護理論を実践的に活用する。
		事前・事後学習	事前学習：ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を読んでおく。 事後学習：授業内容２について所定用紙②を完成させる。
	6 (萩野)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴（４）
		授業内容	1. オレムの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境、看護過程 2. 事例をもとにオレムの看護理論を実践的に活用する。
		事前・事後学習	事後学習：授業内容２について所定用紙③を完成させる。
	7 (木津)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴（５）
		授業内容	1. オーランドの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境 2. 実習での体験をもとに、オーランドの看護理論を実践的に活用する。
		事前・事後学習	事後学習：授業内容２について所定用紙④を完成させる。
	8 (萩野)	学習の主題	看護実践において看護理論を活用する意義（まとめ）
		授業内容	1. 各看護理論の特徴の振り返り 2. 看護実践において看護理論を活用する意義
		事前・事後学習	所定用紙①の修正と②～④を完成させ、所定用紙①～④まですべてを提出する。

授業科目	看護基礎実習Ⅱ Clinical Practicum of Fundamental NursingⅡ	担当教員	小島 悦子、本吉 明美、園田 典子 柏倉 大作、横山 桂子、他
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	看護基礎実習Ⅱの目的は、既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践の基礎・基本となる能力を身につけることである。具体的には、病院に入院している対象者と信頼関係を築きながら、対象者に必要な支援を見だし、根拠に基づき、個性性を考えながら実践する能力を身につける。また、チーム医療に必要な対人関係能力や倫理観を養い、自己内省する能力を身につけると共に、看護観を深めることである。		
実習目標	1. 対象者と信頼関係を築きながら療養生活や健康状態を理解し、対象者に必要な支援について看護過程を活用して考えることができる。 2. 対象者の日常生活において必要な支援を明らかにし、実施し、評価できる。 3. 看護学生として倫理的行動をとることができる。 4. 実習体験をもとに看護観を表現し、今後の課題を明確にできる。		
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いて実習オリエンテーション時に説明する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	100％	実習目標の到達度を評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		
履修上の 留意事項	実習オリエンテーションは必ず出席してください。 既修の看護技術、形態機能病態学について、計画的に復習をしましょう。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習での学びをサポートします。		
実習方法	1. 実習オリエンテーション（学内） 2. 実習期間：2021年11月22日（月）～12月3日（金） 3. 実習時間：9：00～16：00 4. 実習初日は病院オリエンテーション、病棟オリエンテーションがある。 5. 対象者を受け持ち、関係を築きながら看護過程を展開する。 6. 実習指導者や担当教員の指導を受けながら、対象者に必要な支援を考え、実施し、評価する。 7. 毎日の看護実践を振り返り、実習記録を整理する。 8. 病棟実習最終日に学生カンファレンスを行い、学びを共有する。 9. 実習最終日にグループワークと学内報告会を行い、学びを共有する。		
実習施設	北海道内科リウマチ科病院、KKR 札幌医療センター、札幌医科大学附属病院、札幌徳洲会病院、札幌東徳洲会病院、札幌南一条病院、札幌山の上病院、手稲溪仁会病院、斗南病院		

授業科目	成人看護活動論Ⅰ Adult NursingⅠ		担当教員	佐藤 郁恵、小野 善昭、加藤 剛寿、 伊藤 円
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・通年		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	1.慢性疾患によりセルフケアが必要となる対象の身体的、心理的、社会的反応を理解し、諸理論を活用しながら慢性疾患とともに生活していく対象を支えるための看護活動を理解する。 2.健康状態の急激な変化によって生体がその変化に対応するために、さまざまな反応を起こしている急性期にある対象の身体的、心理的、社会的反応を理解し、諸理論を活用しながら生命の維持・回復に必要な看護活動を理解する。 3.手術を受ける対象を周手術期の視点で包括的に理解し、侵襲を最小限にとどめ回復を促進する看護活動を理解する。			
到達目標	1-1. 慢性疾患をもつ対象の身体的、心理的、社会的反応を説明できる。 1-2. 慢性疾患をもつ意味や対象が抱える問題と背景について概要を説明できる。 1-3. 慢性疾患をとともに生活する対象のセルフケアを支える援助について説明できる。 2-1. 急性期にある対象の身体的、心理的、社会的反応を説明できる。 2-2. 急激な健康レベルの変化にある対象の生命の維持、回復の促進に必要な看護活動の考え方を説明できる。 3-1. 術前・中・後を通じた対象の健康課題と看護の役割について説明できる。 3-2. 手術侵襲が及ぼす生体反応について理解し、術後合併症予防のための援助について説明できる。			
テキスト	1. 鈴木久美、他編「成人看護学 慢性期看護 - 病気とともに生活する人を支える 第3版」(南江堂) 2. 矢永勝彦、他編「系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論臨床外科看護総論 第11版」(医学書院) 3. 北島政樹、他編「系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論臨床外科看護各論 第9版」(医学書院) 4. 野崎真奈美、他編「看護学テキストN i C E 成人看護技術 - 成人看護学成人看護学 第2版」(南江堂)			
参考書	鈴木志津枝、他編「慢性期看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ) 奥宮暁子編「生活調整を必要とする人の看護Ⅰ,Ⅱ」(中央法規出版) 梅田恵、他編「緩和ケア 改訂第2版」(南江堂) 安酸史子「糖尿病のセルフマネジメント教育 第2版」(メディカ出版) 道又元裕、他編「クリティカルケア看護学」(医学書院) 池松裕子、他編「クリティカルケア看護論」(ヌーヴェルヒロカワ) 雄西智恵美、他編「周手術期看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	50%	到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。 担当者別の評価割合は初回講義で知らせる。また、提出物の評価基準はルーブリックなど課題ごとに提示する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	50%		
その他				
履修上の 留意事項	既習の知識を活用しつつ、疾患や健康レベルに応じた看護を具体的に考えていきます。成人期の対象の持つ多側面な健康上の課題について、事例を基に進めて行きます。そのため、基本的な人体の構造、病態、治療は理解しているものとして進めて行きますので各自で予習・復習を主体的に行い、看護実践のための知識を蓄えられるように学んでください。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (佐藤)	学習の主題	慢性疾患をもつ対象の特徴と理解	
		授業内容	1. ガイダンス 2. 成人期にある対象が病いを得ることの意味 3. 慢性疾患を抱えた対象の心理、社会的特徴 4. 治療や検査がもたらす二次的な影響 事例提示：がんを患った成人期にある患者	
		事前・事後学習	事後学習：講義内容を整理する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	2 (佐藤)	学習の主題	がんを患った人の看護
		授業内容	1. がんの集学的治療と成り行き 2. 化学療法を受ける患者のセルフケアを支える看護 3. 放射線療法を受ける患者のセルフケアを支える看護
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	3 (伊藤)	学習の主題	緩和ケアが必要な人への看護
		授業内容	1. 全人的苦痛 2. 慢性疾患と緩和ケア
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	4 (伊藤)	学習の主題	慢性的に呼吸機能に障害のある人の看護
		授業内容	1. 慢性閉塞性肺疾患と成り行き 2. 疾患が与える日常生活・社会生活への影響 3. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	5 (加藤)	学習の主題	慢性的に循環機能に障害のある人の看護
		授業内容	1. 様々な疾患と心不全 2. 疾患が与える日常生活・社会生活への影響 3. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	6 (加藤)	学習の主題	内分泌・代謝障害のある人の看護 1
		授業内容	1. 糖尿病と診断された人の心理的影響 2. 生活の再調整とライフサイクルに与える影響
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	7 (加藤)	学習の主題	内分泌・代謝障害のある人の看護 2
		授業内容	1. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり 2. シックデイ 3. 低血糖ならびに高血糖への対処
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	8 (小野)	学習の主題	手術療法と周術期看護の基本
		授業内容	1. 手術療法の変遷と今日の課題 2. 周手術期におけるチーム医療と看護師の役割 3. 手術を受ける患者の心理状態 4. 手術侵襲と生体反応
		事前・事後学習	事前学習：生体反応、炎症について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の展開
	9 (小野)	学習の主題	術前の看護
		授業内容	1. 意思決定への支援 2. 手術に向けた準備 3. 手術当日の看護 事例提示：胃切除術を受ける患者
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	10 (小野)	学習の主題	術中の看護
		授業内容	1. 手術室の安全管理 2. 環境の管理 3. 安全な手術体位、ME 機器の取り扱い 4. 直接・間接介助の看護師の役割と連携 5. 麻酔法と麻酔時の看護 事例提示：肺切除術を受ける患者
		事前・事後学習	事前学習：事例の手術内容、麻酔方法、手術体位について予習する 事後学習：講義ノートのまとめ、事例の展開
	11 (小野)	学習の主題	術後の看護 1
		授業内容	1. 術後合併症および看護 2. 術後の観察とアセスメント 3. 早期離床の意義とそれを促す援助 4. 合併症の予防、苦痛の緩和のための観察、アセスメントおよび看護 事例提示：大腸切除術を受ける患者
		事前・事後学習	事前学習：創傷管理、ドレナージ、術後合併症について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の展開、課題提出
	12 (小野)	学習の主題	術後の看護 2
		授業内容	1. 術後回復期から退院に向けた準備のための看護 2. 術後機能障害とセルフケア能力獲得のための援助 3. 手術による喪失体験 事例提示：人工肛門造設術を受ける患者
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出
	13 (小野)	学習の主題	急性期における高齢者の看護
		授業内容	1. 高齢者の身体機能とリスクアセスメント 2. 治療に伴う合併症 3. 倫理的諸問題
		事前・事後学習	事前学習：高齢者の身体機能について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の展開
	14 (小野)	学習の主題	急性期にある対象の理解と看護活動 1
		授業内容	1. 急激な健康レベルの変化と急性期看護の考え方 2. 生命維持のための看護活動 3. 急激な健康レベルの変化にある対象のアセスメント 事例提示：せん妄となった患者
		事前・事後学習	事前学習：集中治療中の患者について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の展開
	15 (小野)	学習の主題	急性期にある対象の理解と看護活動 2
		授業内容	1. 回復のための看護活動 2. 二次障害の予防のための看護活動 3. 家族へのケア
		事前・事後学習	事前学習：集中治療中の患者の二次的障害について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題提出

授業科目	成人看護活動論Ⅱ Adult Nursing Ⅱ		担当教員	小野 善昭、加藤 剛寿、伊藤 円、 大橋 和貴、佐藤 郁恵
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	1. 慢性疾患とともに生活する患者・家族を支えるために必要な援助技術を習得する。 2. 急性期ならびに周手術期にある患者・家族を看護するために必要な援助技術を習得する。 3. 救命処置（BLS）の知識・技術を習得する。 これらの内容は、臨地実習をはじめとする臨床での看護活動に実践できるよう修得することを目指す。			
到達目標	1-1 事例を通し、慢性疾患を抱える患者・家族のセルフマネジメントならびにセルフモニタリングについて考え、日常生活を支えるための看護技術を実施できる。 1-2 生活者の視点で考え、患者・家族のセルフケアを高める教育的関わりについて説明できる。 2-1 事例を通し、急性期にある患者の心身の回復を促進する援助技術を実施できる。 2-2 周手術期にある患者の一連の体験を理解し、術前・術中・術後の各期に応じた援助技術を根拠に基づいて考え、説明できる。 2-3 術後合併症予防のための術前からの介入、早期発見、回復の促進のための援助技術を考え、実施できる。 3-1 心肺停止時の緊急時対応の原則を理解し、効果的な BLS が実施できる。			
テキスト	1. 野崎真奈美他編「成人看護学 成人看護技術 改訂第2版」（南江堂） 2. 鈴木久美、他：「成人看護学 慢性期看護 第3版」（南江堂） 3. 矢永勝彦他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」（医学書院） 4. 北島政樹他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」（医学書院）			
参考書	1. 稲葉佳江他編「看護ヘルスアセスメント」（メヂカルフレンド社） 2. 雄西智恵美他編「周手術期看護論」（ヌーヴェルヒロカワ） 3. 下正宗編「エビデンスに基づく検査データ活用マニュアル 改訂第3版」（学研メディカル秀潤社） 4. 阿曾洋子編「基礎看護技術 第7版」（医学書院） 5. 深井喜代子編「基礎看護技術Ⅱ」（メヂカルフレンド社） 6. 日本糖尿病学会編「糖尿病治療の手びき」（南江堂） 7. 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック」（医学書院）			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	80％	目標への到達状況を提出物、定期試験（筆記試験）により評価する。担当者別の評価割合は初回講義で知らせる。また、提出物の評価基準はルーブリックなど課題ごとに提示する。なお、定期試験を受験しなかった学生は評価の対象にしない。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	20％		
その他				
履修上の 留意事項	健康レベルに応じた援助技術を習得するため、慢性期・周手術期・急性期のオムニバスで授業は進められる。これまでの学習を活用し主体的に予習に臨むとともに、実践可能なレベルに到達するよう援助技術の習得に意欲的に取り組むこと。また特に、実習室使用日やクラス分けについては掲示板等で連絡するため見落としがないように各自で注意する。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義、演習に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1 （小野） （加藤）	学習の主題	糖尿病を持つ患者のセルフマネジメントを支える援助1	
		授業内容	1. 講義ガイダンス 2. セルフモニタリング 3. 血糖自己測定（SMBG） 4. インスリン自己注射 5. 演習ガイダンス	
		事前・事後学習	事前学習：事例に基づき病態生理を復習する 事後学習：血糖自己測定の指導のパンフレットを作成する	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	2 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	糖尿病を持つ患者のセルフマネジメントを支える援助2 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	血糖自己測定 of 患者教育（シミュレーション） ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する
	3 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助1 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の健康上の課題を捉えるヘルスアセスメント 1) 問診 2) 視診、触診 3) 聴診（異常呼吸音の聴取） ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する
	4 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助2 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	1. 日常生活の中の困難 2. 呼吸器疾患とセルフマネジメント 3. 呼吸を整える援助 1) 呼吸練習（口すばめ呼吸、腹式呼吸） 2) 呼吸困難に対する安楽な体位 3) 酸素吸入療法と酸素飽和度 4. 演習ガイダンス ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習の学びをふまえて、次回演習の準備をする
	5 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助3 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	慢性の呼吸器疾患を持つ事例患者への看護実践（シミュレーション） ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する
	6 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性疾患を抱えて生活する患者への教育的関わり1
		授業内容	1. 事例患者のセルフケアエージェンシーとセルフケアデマンドの明確化 2. 事例患者が生活を再調整する上での目標の明確化 3. 目標を達成するための指導案の作成 ※グループワーク
		事前・事後学習	事前学習：主題に沿って予習する。 事後学習：グループで資料を作成し、発表に向けて練習する。
	7 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性疾患を抱えて生活する患者への教育的関わり2
		授業内容	事例患者に対する指導案の発表 1) 指導案に基づいたロールプレイ 2) ディスカッション ※ロールプレイは 3 教室に分かれて行う
		事前・事後学習	事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する。
	8 (小野)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術2
		授業内容	全身麻酔で手術を受ける事例患者のアセスメントの共有と修正 ※グループワーク
		事前・事後学習	事後学習：グループ内で発表・共有した内容を指定用紙にまとめ、提出する
	9 (小野)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術2
		授業内容	全身麻酔で手術を受ける事例患者のアセスメントの共有と修正 ※グループワーク
		事前・事後学習	事後学習：グループ内で発表・共有した内容を指定用紙にまとめ、提出する

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	10 (小野)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術 3
		授業内容	1. 呼吸器合併症（無気肺・肺炎）、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症、消化器系合併症（術後腸閉塞）、手術部位感染（SSI）、等の看護計画の立案 2. 発表資料（指定用紙）の作成 ※グループワーク
		事前・事後学習	事前学習：提示された課題について各自学習し、指定の用紙に整理する 事後学習：グループで資料を作成し、発表に向けて練習する
	11 (小野) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術 4
		授業内容	事例患者の手術後合併症に関する看護計画の発表 1) 手術後合併症の要因 2) 術前・術後の看護 3) ディスカッション ※グループ発表は 2 クラスに分けて同時に行う ※ 11 回目、12 回目の演習は「2 コマ連続」で行う
		事前・事後学習	事前学習：各グループの発表資料を読み、学びを整理する
	12 (小野) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術 5、6
		授業内容	1. 事例患者の手術後合併症に関する看護計画の発表 1) 手術後合併症の要因 2) 術前・術後の看護 3) ディスカッション ※グループ発表は 2 クラスに分けて同時に行う 2. 手術直後の看護 1) 手術直後の患者の状態と必要な看護（観察の要点など） 2) 演習ガイダンス ※ 11 回目、12 回目の演習は「2 コマ連続」で行う
		事前・事後学習	事後学習：演習に備えて予習する
	13 (大橋) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者の援助技術 7 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	手術直後の患者の観察 1) 手術直後の患者のバイタルサインズの測定 2) 創傷部位・ドレナージ等、全身状態の観察 3) 測定・観察した内容の記録 ※13 回目と 14 回目の演習は「2 コマ連続」で、半数ずつ 2 日に渡って実施する
		事前・事後学習	事前学習：呼吸・循環に関するフィジカルアセスメントの復習、演習に備えて予習する
	14 (大橋) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者の援助技術 8 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	1. 輸液管理（点滴内容の確認ならびに滴下数の計算と設定） 2. DVT 予防（弾性ストッキング、間欠的空気圧迫法） 3. 創傷管理（創傷処置ならびにドレーン挿入部の処置） ※13 回目と 14 回目の演習は「2 コマ連続」で、半数ずつ 2 日にわたって実施する
		事前・事後学習	事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する。
	15 (大橋) (全担当教員)	学習の主題	一次救命処置（BLS）の実際 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	1. AED を用いた一次救命処置 2. 人工呼吸とバックバルブマスクを用いた換気方法 ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する。 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する。

授業科目	高齢者看護学概論 Introduction to Gerontological Nursing		担当教員	萩野 悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	高齢者看護学の導入であり、今後の高齢者看護学の科目すべての基盤となる思考を育成する科目である。老年期にある対象の発達課題および加齢現象に伴う特徴や、疾患および老年症候群について理解し、高齢者とその家族に看護を提供するために必要な基礎的知識を修得する。また、高齢者を取り巻く現代社会と保健医療福祉の動向を通して、社会保障制度の現状と課題についての基礎的知識を修得する。さらに、高齢者看護の目的役割について理解し、高齢者看護における倫理的課題について思考する能力を養う。			
到達目標	1. 老年期にある対象の身体的、心理・社会的な特徴について説明できる。 2. 高齢者を取り巻く保健の動向や高齢者に関わる医療政策について説明できる。 3. 高齢者に多い疾患や老年症候群の概要と看護について説明できる。 4. 高齢者を介護する家族の問題や支援の在り方について説明できる。 5. 高齢者看護における倫理的問題について説明できる。 6. 学修者自身の高齢者観を言語化し、老年期について洞察できる。			
テキスト	北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」(医学書院)			
参考書	授業の際、使用した文献は適時提示・紹介する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	90%	目標の到達状況を筆記試験 90%、レポート 10%、合計 100%にて評価する。	
	レポート	10%		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	予習・復習を行い、高齢者看護活動論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護実習につなげるようノートを作成するなど工夫しながら学修を進めること。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護における事例などを織り交ぜながら、高齢者看護について理解しやすいよう授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス 高齢者看護学の成り立ち、高齢者とは、高齢者看護とは	
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等の説明 ・高齢者のイメージ、高齢者の特徴を理解する ・高齢者看護の定義や目標について理解する	
		事前・事後学習	事前学習：事前にシラバスを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する	
	2	学習の主題	老年期の理解：加齢による変化と健康	
		授業内容	・加齢による身体的変化と健康について理解する ・加齢による心理・精神的変化、社会的変化、発達課題について理解する ・喪失体験と適応について理解する	
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する	
	3	学習の主題	高齢者に多い疾患と老年症候群、フレイル	
		授業内容	・高齢者に多い疾患の概要を理解する ・老年症候群、フレイルと看護について理解する	
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する	
	4	学習の主題	高齢者をとりまく社会保障制度 1	
		授業内容	・高齢社会の現況と社会保障制度、医療制度について理解する ・認知症をもつ高齢者に対する施策について理解する	
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	高齢者を取りまく社会保障制度 2
		授業内容	・地域包括ケアシステムについて説明できる ・介護保険制度について説明できる
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	6	学習の主題	高齢者を介護する家族への支援、高齢者看護の倫理的課題
		授業内容	・高齢者を介護する家族への支援について理解する ・高齢者看護における倫理的課題について理解する
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	7	学習の主題	高齢者看護における理論・概念
		授業内容	・サクセスフルエイジング、ストレングスモデル、エンパワメント、コンフォート理論、について理解する
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	8	学習の主題	高齢者におけるライフストーリーの意義 高齢者とのコミュニケーションの基礎的技術
		授業内容	・ライフストーリーの意義について理解する ・加齢変化に配慮した高齢者とのコミュニケーションについて理解する
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する 課題：高齢者に対するインタビュー記事を読み、その人のライフストーリーを聴き取る意義ならびに高齢者の社会活動の意義について考察する

授業科目	高齢者看護活動論Ⅰ Gerontological NursingⅠ		担当教員	中田 真依・萩野 悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	本科目では、老年期にある対象への個別性に応じた看護実践ができるよう、高齢者看護の基礎的知識・技術・態度を修得し、感性を涵養することを目的とする。高齢者に特有な加齢に伴う諸機能の病態生理学的変化、高齢者に多い疾病や症状を理解し、多様な健康状態および治療経過にある高齢者への基本的看護について生活機能の視点から学修する。また、高齢者および高齢者を支える家族への看護の在り方について倫理的観点をふまえて学修する。			
到達目標	1. 加齢に伴う諸機能の変化や高齢者に多い疾患・症状を理解し、必要な看護について説明できる。 2. 高齢者の多様な健康状態および治療経過を理解し、必要な看護について説明できる。 3. 高齢者の生活機能におけるアセスメントの視点を理解し、必要な看護について説明できる。 4. 加齢に伴う諸機能の変化や援助を要する高齢者を体験し、看護の在り方について考察できる。 5. 高齢者への生活援助技術（排泄）を理解し、安全・安楽に実施できる。 6. 高齢者への倫理的配慮を理解し、高齢者や高齢者を支える家族を含めた看護の在り方について説明できる。			
テキスト	1. 北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」（医学書院） 2. 山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」（医学書院）			
参考書	1. 正木治恵・真田弘美編「老年看護学概論」（南江堂） 2. 佐々木英忠編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」（医学書院） 3. 泉キヨ子編「根拠がわかる 老年看護技術」（メヂカルフレンド社） 4. 大川弥生著「生活機能とは何か -ICF：国際生活機能分類の理解と活用 -」（東京大学出版会） 5. 水谷信子監修「最新老年看護学 第3版」（日本看護協会出版会） その他、講義内に提示する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	80%	目標の到達状況を、筆記試験 80%、レポート 10%、および提出物 10%の合計 100%によって評価する。	
	レポート	10%		
	小テスト			
	提出物	10%		
	その他			
履修上の留意事項	1. 予習・復習を行い、3年次の高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護実習につながるようノートを作成すること。また、定期的に講義内容に関連する国試過去問ミニテストを実施する。 2. 演習は 2～3クラスに分かれて実施する。事前に配布する演習要項や関連する講義資料にもとづき予習し、必要な準備をして臨むこと。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護における事例などを織り交ぜながら、高齢者看護について理解しやすいよう授業・演習を行います。			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (中田)	学習の主題	ガイダンス 多様な健康状態・治療経過にある高齢者の看護 [1] 入院・検査・薬物療法	
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等を説明する 高齢者の入院環境や様々な治療による影響と看護について理解する ・高齢者の入院環境や検査による影響と看護 ・薬物療法を受ける高齢者の看護 ・【演習①】のガイダンス	
		事前・事後学習	事前学習：高齢者看護学概論の講義内容を復習して臨む 事後学習：演習要項を熟読し、演習に備えて準備をする 【課題提示①】脳卒中のノート作成	
	2 (全担当教員)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [1] 高齢者疑似体験 【演習①】	
		授業内容	演習要項に沿って高齢者疑似体験演習を行う：グループに分かれて演習をする ・加齢変化が生じている高齢者の疑似体験演習における実施・評価	
		事前・事後学習	事前学習：演習要項を熟読し、演習に備えて準備する 事後学習：【課題提示②】演習終了後のレポート	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	3 (中田)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [1] 運動器疾患 加齢に伴う諸機能の変化と看護 [2] 高齢者の活動①
		授業内容	高齢者に多い疾患と看護について、原因や生活機能への影響について理解する ・加齢に伴う運動機能の変化と高齢者の転倒予防 ・高齢者に多い骨折と看護
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	4 (萩野)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [2] 脳血管・脳神経疾患①
		授業内容	高齢者に多い疾患と看護について、原因や生活機能への影響について理解する ・パーキンソン病の病態・症状と看護
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	5 (萩野)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [3] 脳血管・脳神経疾患② 多様な健康状態・治療経過にある高齢者の看護 [2] リハビリテーション
		授業内容	高齢者に多い疾患と看護について、原因や生活機能への影響について理解する ・脳卒中の病態・症状（高次脳機能障害、構音障害他）と看護 ・高齢者のリハビリテーション看護と IPW
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	6 (中田)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [4] 誤嚥性肺炎 加齢に伴う諸機能の変化と看護 [3] 高齢者の食事①
		授業内容	高齢者に多い疾患と看護について、原因や生活機能への影響について理解する ・加齢に伴う摂食嚥下機能の変化と誤嚥性肺炎の予防（口腔ケア他） ・高齢者の食事援助（経口、胃瘻）
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習し、演習の準備をする
	7 (中田)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [4] 高齢者の食事②、排泄①
		授業内容	高齢者の栄養アセスメント、褥瘡、脱水予防について理解する ・高齢者の栄養アセスメント ・褥瘡アセスメントと予防 ・水分出納バランスのアセスメントと脱水の予防
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習し、演習の準備をする
	8 (中田)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [5] 高齢者の排泄②
		授業内容	高齢者に多い排泄障害（失禁・便秘など）、排泄アセスメントと看護について理解する ・高齢者に多い排泄障害とコンチネンスケア ・排泄パターンの把握とアセスメント ・【演習②】のガイダンス
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習し、演習の準備をする
	9 (全担当教員)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [6] 高齢者の排泄③【演習②】
		授業内容	演習要項に沿って排泄援助演習を行う：グループに分かれて演習する ・身体可動性障害のある高齢者の排泄援助（オムツ交換）演習における実施・評価
		事前・事後学習	事前学習：演習要項を熟読し、演習に備えて準備する 事後学習：【課題提示③】演習終了後のレポート他

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	10 (中田)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [7] 高齢者の活動②、清潔・更衣・整容
		授業内容	高齢者の皮膚の特徴と清潔・更衣・整容に関する看護、高齢者のA D L と評価指標について理解する ・加齢に伴う皮膚の変化と清潔・更衣・整容に関する看護 ・高齢者のA D L と評価指標
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：【課題提示④】認知症のノート作成
	11 (萩野)	学習の主題	加齢に伴う諸機能の変化と看護 [8] 高齢者の休息、活動③
		授業内容	高齢者の睡眠障害と生活リズムを整える看護について理解する ・加齢に伴う睡眠の変化と睡眠障害の予防・改善に関する看護 ・高齢者の生活リズムを整える看護
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	12 (萩野)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [5] 認知症①
		授業内容	認知症の病態と種類、症状など基礎的知識について理解する ・認知症の病態と種類（アルツハイマー型、血管性、レビー小体型、他） ・認知症の症状（中核症状・B P S D） ・認知症看護の基本、評価指標
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後課題：講義内容を復習する
	13 (中田)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [6] 認知症② (G S : 認知症看護認定看護師)
		授業内容	認知症高齢者への看護の実践について理解する ・認知症高齢者とのコミュニケーション ・認知症高齢者への看護実践
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	14 (中田)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護 [7] 高齢者のうつ、せん妄
		授業内容	高齢者のうつ、せん妄の原因・症状、看護について理解する ・高齢者のうつの原因・特徴と看護、高齢者の自殺 ・高齢者のせん妄の原因・特徴、予防と看護
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	15 (中田)	学習の主題	多様な健康状態・治療経過にある高齢者の看護 [3] 終末期 講義のまとめ
		授業内容	高齢者の終末期看護について理解する ・高齢者の終末期とエンドオブライフ・ケア ・終末期における倫理（尊厳の保持、事前指示、リビングウィル） 高齢者看護活動論Ⅰのまとめ
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習し、高齢者看護活動論Ⅱに向けて準備する 春休み課題：実習・国試に向けた準備（後日提示）

授業科目	小児看護学概論 Introduction to Pediatric Nursing		担当教員	河崎 和子、香川 敦子、松木 由理
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	本科目では、家族・社会のなかで生活する小児の成長・発達、発達課題、生育環境、権利擁護を概観し、健全な成長・発達と基本的生活習慣、健康増進のための看護における小児看護の役割を理解する。また、小児の健康諸課題を解決するために、小児とその家族との人間関係成立・発展の方法、成長・発達過程を促進する方法、生活過程を支援する方法について理解する。さらに小児を取り巻く保健医療福祉メンバーや教育関係者、教育機関や福祉関係機関等との連携・協働のあり方について理解する。			
到達目標	1. 小児保健医療の歴史の変遷と小児看護の理念および役割を理解する。 2. 小児看護を支える法的根拠および小児医療における子どもの権利について理解する。 3. 成長・発達の概念と発達課題および小児各期の発達の特徴とその評価方法を理解する。 4. 現代社会における子どもと家族の健康問題について環境との相互作用から理解する。 5. 子どもと家族の健康の維持・増進に向けた支援方法を理解する。			
テキスト	1. 小林京子他編「新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論／小児保健」(メヂカルフレンド社) 2. 小林京子他編「新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護」(メヂカルフレンド社)			
参考書	1. 岡田洋子他「小児看護学 1 小児と家族の系統的アプローチ 第2版」(医歯薬出版) 2. 舟島なをみ「看護のための人間発達学 第4版」(医学書院) 3. 服部祥子「生涯人間発達論」(医学書院) 4. 中野光編「子どもの権利条約」(岩波ジュニア新書) 5. 日本子ども家庭総合研究所「日本子ども資料年鑑」(KTC 中央出版)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	80%	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。 ① 提出物：学習シート 第2・3・4・6・7回の講義時の課題を次の講義時に提出する。各4点(20点) ② 定期試験(80点)：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	20%		
	その他			
履修上の留意事項	変化する現代社会に生きる子どもと家族の問題に関心をもち広い視野から考え積極的な姿勢で学びを深めてください。小児看護活動論Ⅰにつながる科目です。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1 (河崎)	学習の主題	小児保健医療の歴史の変遷と小児看護の役割	
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の学習目的・目標および学習内容と方法・評価方法と基準、履修上の留意事項、テキストと参考書について説明する。 1. 小児看護の対象と目的・役割について理解する。 2. 我が国における小児医療および小児看護の歴史について理解する。 3. 小児看護・医療における諸統計を理解する。	
		事前・事後学習	事前学習：小児とはどのような存在かを考え、自分なりの小児看護師の役割について考えてくる。 自らの考える小児看護師の役割について学習シートに記載し、講義終了時提出する。	
	2 (河崎)	学習の主題	小児看護における概念と理論	
		授業内容	1. 自我・認知と思考の発達に関する概念と理論について理解する。 2. 母子関係に関する概念と理論について理解する。 3. 発達と学習に関する概念と理論について理解する。 4. 家族発達理論について理解する。 5. プレパレーションについて理解する。	
		事前・事後学習	事前学習：テキスト p118～144 を読んでくる。 小児看護における理論の特徴から学び得たことを学習シートにまとめる。 講義終了時に提出する。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	3 (河崎)	学習の主題	小児看護・医療の法と倫理
		授業内容	1. 小児看護・医療における法律について理解する。 2. 子どもの権利条約について理解する。 3. 医療における子どもの権利について理解する。 4. 小児看護における倫理的配慮について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：子どもが病院を受診した際、子どもの権利が脅かされやすい場面について考えてくる。 講義後、事前に挙げた場面の際に、看護師としてどう対応すべきか自分の考えを学習シートにまとめる。講義時に提出する。
	4 (河崎)	学習の主題	小児保健
		授業内容	1. 母子保健と子育て支援を理解する 2. 学校保健の施策を理解する
		事前・事後学習	事前学習：テキストの p 58～71 を読んでくる。
	5 (河崎)	学習の主題	予防接種
		授業内容	1. 予防接種の意義について理解する。 2. 定期予防接種について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：自分の母子手帳にある予防接種を確認してくる。 講義の際に、母子手帳を持参する。 講義終了時、学習シートを提出する。 事後学習：主要な予防接種と接種時期について復習する。
	6 (河崎)	学習の主題	難病・障害児保健福祉
		授業内容	1. 難病や障害をもつ小児への保健・福祉について理解する。 2. 療育・児童発達支援・特別支援教育について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：テキスト p 74～79 を読んでくる。 事後学習：障害を持つ小児への対応について自己の考えや学び得たことを学習シートに記載する。第 7 回講義時に提出する。
	7 (河崎)	学習の主題	小児の特徴と成長・発達
		授業内容	成長・発達の概念と一般的原則および成長・発達に影響を与える要因について理解する。 1. 成長・発達の概念 2. 成長発達の一般的原則 3. 成長発達に影響を与える要因
		事前・事後学習	事前学習：『小児の成長・発達』について、各自ノートの作成を開始する。
	8 (河崎)	学習の主題	成長・発達の評価①
		授業内容	1. 指数法を用いた評価指標（カウプ指数・ローレル指数・肥満度）を理解する。 2. 反射について理解する。 3. 運動の発達（粗大運動と微細運動）を理解する。 4. DENVER の評価指標（付表 271 参照）
		事前・事後学習	事後学習：各自の『小児の成長・発達』ノートに成長発達の評価方法について整理し、自分なりにまとめて、理解を深める。
	9 (河崎)	学習の主題	小児各期の特徴と成長（乳児期）①
		授業内容	乳児の成長・発達とその特徴を以下の点から理解する。 1. 乳児の身体的特徴（形態的・機能的側面） 2. 乳児の発達課題と愛着形成（心理・社会的特徴および情緒的発達） 3. 乳児期のケア
		事前・事後学習	事前学習・事後学習：乳児の成長・発達とその特徴とケアについて各自『小児の成長・発達』ノートに整理する。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10 (河崎)	学習の主題	小児各期の特徴と成長（幼児期）②
		授業内容	幼児の成長・発達とその特徴を以下の視点から理解する。 1. 幼児の身体的特徴（形態的・機能的側面） 2. 幼児の発達課題と社会化のプロセス（心理・社会的特徴と認知・思考の発達） 3. 子どもにとっての遊びの意義 4. 幼児期の成長・発達に応じたケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：幼児の成長・発達の特徴とケアについて各自『小児の成長・発達』ノートに整理する。
	11 (河崎)	学習の主題	小児各期の特徴と成長（学童期）③
		授業内容	学童期の成長・発達とその特徴を以下の視点から理解する。 1. 学童期の身体的特徴（形態的・機能的側面） 2. 学童期の発達課題とケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：学童期の成長・発達の特徴とケアについて各自『小児の成長・発達』ノートに整理する。
	12 (河崎)	学習の主題	小児各期の特徴と成長（思春期）④
		授業内容	思春期の成長・発達とその特徴を以下の視点から理解する。 1. 思春期の身体的特徴（形態的・機能的側面、第二性徴） 2. 思春期の発達課題と健康課題とケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：思春期の成長・発達の特徴とケアについて各自『小児の成長・発達』ノートに整理する。
	13 (香川)	学習の主題	小児医療の場と看護の特徴 その①
		授業内容	小児医療の場と看護の特徴を理解する。 ・保健・医療・福祉・教育の場とネットワーク ・小児科外来の看護の特徴と役割 ・小児病棟の特徴と看護
		事前・事後学習	講義時に提示します。
	14 (松木)	学習の主題	小児医療の場と看護の特徴 その②
		授業内容	小児の在宅看護の役割と機能を以下の視点から理解する。 ・在宅ケア移行の条件 ・在宅ケアによる家族への影響 ・小児の在宅ケアの看護 ・重症心身障害児をもつ小児と家族の現状と看護
		事前・事後学習	講義時に提示します。
	15 (河崎)	学習の主題	小児の事故防止と安全教育/ 小児看護概論のまとめ
		授業内容	・小児の事故の特徴・要因を知り、事故防止と安全教育について理解する。 1. 小児の死亡原因・小児発達段階と事故要因 2. 事故防止と安全教育
		事前・事後学習	講義時に自己の『小児の成長・発達』ノートを持参してください。 事後学習：今までの講義内容を復習し、『小児の成長・発達』ノートが実践で活用できるように整理する。

授業科目	小児看護活動論Ⅰ Pediatric NursingⅠ	担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	本科目では、小児の主要な健康障害について理解し、その診断・治療過程にある小児への援助方法について学習する。また、健康障害をもつ小児を抱える家族との関係形成の方法や援助方法についても学習する。ロールプレイおよびモデル人形や医療機器を用いた模擬演習により援助技術を習得する。		
到達目標	1. 健康問題や健康障害および入院が、小児とその家族に及ぼす影響について理解する。 2. 様々な健康レベルにある小児とその家族への支援方法について理解する。 3. 小児の看護技術の特徴を理解し基本的な看護技術が実施できる。 4. 事例を通して、対象である小児とその家族の健康状態をアセスメントし、援助の必要性の高い看護問題について看護計画が立案できる。 5. 事例を通して、立案した看護計画を実践するための看護技術を実施できる。		
テキスト	1. 小林京子他編「新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論／小児保健」(メヂカルフレンド社) 2. 小林京子他編「新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護」(メヂカルフレンド社)		
参考書	1. 岡田洋子他「小児看護学2 小児の主要症状とケア技術」(医歯薬出版) 2. 荃津智子編「発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程」(医歯薬出版) 3. 白木和夫「ナースとコメディカルのための小児医学」(日本小児医事出版) 4. 山元恵子監修「写真でわかる小児看護技術 改訂第2版」(インターメディカ) 5. 小野田千枝子監修「こどものフィジカルアセスメント」(金原出版) 6. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」(医学書院) 7. 添田啓子他「看護実践のための根拠がわかる小児看護技術」(メヂカルフレンド社)		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50%	目標の到達状況を下記の視点から総合的に評価し、60点以上を合格とする。 ① レポート：看護過程演習に関する提出物(30点)： ・事例の小児の健康状態に関する情報の整理、アセスメント、優先度の高い看護問題の明確化、優先度の高い看護問題に対する看護計画立案を指定の用紙に記載し提出する。 ② 定期試験(50点)：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 ③提出物：小児のプレパレーション発表資料(グループ)(10点)および各講義終了後の指定時の個人学習シートを提出する。(10点：各2点全5回分)
	レポート	30%	
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他		
履修上の 留意事項	演習は、実際場面を想定して行います。オリエンテーション内容を理解し、事前・事後学習をしっかりと行い演習に臨みましょう。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (河崎)	学習の主題	小児看護の実践に向けての考え方
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト類の活用方法の説明 小児看護の実践に向けての考え方を理解する。 ・小児看護の視点 ・小児看護における看護過程(問題解決方法) ・小児看護技術の特徴
		事前・事後学習	事前学習：概論で学習した小児各期の成長・発達の特徴を復習し、講義に臨む。

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	2 (河崎)	学習の主題	小児とのコミュニケーション技術と遊びの援助技術（講義とワーク）
		授業内容	小児とのコミュニケーション技術と遊びの援助技術について理解し、援助技術を習得する。 ① 発達段階別の小児の特徴理解とコミュニケーション技術 ② 病院における小児とのコミュニケーション技術 ③ 遊びの援助技術 ・紙上ショート事例を用いて対応方法を検討する。検討した内容をもとに、となりと模擬実践し、子どもの特徴を踏まえての対応方法を振り返る。
		事前・事後学習	事後学習：検討した内容や一部模擬実践した内容を振り返り、学びと課題について各自学習シート①にまとめ、提出する。
	3 (河崎)	学習の主題	小児の状態把握のための看護技術①（講義）
		授業内容	小児の健康状態の観察に必要な5つの基本技術を理解する。 小児の「痛み」のアセスメントに必要な技術を理解する。 ・問診、視診、触診、打診、聴診 ・痛みのスケール（自己申告スケール、FLACC スケール） ・全身の観察
		事前・事後学習	事後学習：講義内容を復習する。
	4 (全担当教員)	学習の主題	小児の状態把握のための看護技術②（講義）
		授業内容	・バイタルサイン測定の意義と小児のバイタルサインの特徴と測定時の注意点について理解する。 ・小児バイタルサインの特徴と測定時の注意点 ① 体温、②脈拍・心拍、③呼吸、④血圧 ・測定に関する看護技術の実践
		事前・事後学習	事後学習：講義終了後、学習シート②に学習内容をまとめ復習する。
	5 (全担当教員)	学習の主題	小児の状態把握のための看護技術③（演習） ※5・6の内容を半数ずつ2クラス4グループ展開（5・6回目連続）
		授業内容	バイタルサインの測定に関する技術を習得する。 第4回に学習した内容についてロールプレイおよび模擬人形などを用いてバイタルサイン測定技術を実践する。
		事前・事後学習	事前学習：講義内容を復習して講義に臨む。 事後学習：講義終了後学習シート③に演習の振り返りを記載し、提出する。
	6 (全担当教員)	学習の主題	入院している小児の排泄行動自立への援助 ※半数ずつ2クラス展開
		授業内容	入院している小児の排泄行動自立への援助技術を学修する。 ・排泄行動自立への援助（トイレトレーニング） ・ショート事例を用いて検討する（グループワーク）。
		事前・事後学習	事後学習：講義終了後、グループワークでまとめたものを提出する。
	7 (全担当教員)	学習の主題	検査・処置・治療に伴う看護技術（講義・演習）
		授業内容	検査・処置・治療に伴う看護技術について理解する。 ① 採血、②採尿（採尿バッグを用いる方法） ② 浣腸、④与薬、⑤吸入、⑥電法、⑦吸引、⑧輸液 ※半数ずつ2クラス4グループ展開（7・8回目連続）
		事前・事後学習	事前学習：視聴覚教材等により看護技術の目的、方法、留意点を確認しておく。事後学習：講義内容を復習する。
	8 (全担当教員)	学習の主題	小児の救急蘇生法
		授業内容	小児の心肺蘇生法を理解する。 ① 小児の緊急時の評価方法 ② 小児1次救命処置、 ③ 小児2次救命処置 ④ 小児・乳児の胸骨圧迫 ⑤ バッグバルブマスク（BVM）による人工呼吸 ※半数ずつ2クラス4グループ展開（7・8回目連続）
		事前・事後学習	事前学習：視聴覚教材等により看護技術の目的、方法、留意点を確認しておく。事後学習：講義内容を復習する。

回数 (担当)	項目	内容
9 (全担当教員)	学習の主題	小児のプレパレーション①（講義後、グループワークでの検討）
	授業内容	プレパレーションの目的・意義と方法について理解する。 ・プレパレーションの目的・意義、方法 ショート事例を用いてプレパレーションについて検討する。
	事前・事後学習	事前学習：プレパレーションについて各自予習してくる。 ※講義終了時、事例検討した内容をグループごと提出する。
10 (全担当教員)	学習の主題	小児のプレパレーション②（発表・意見交換）
	授業内容	第9回時に考えた事例のプレパレーションについて、発表する。 各グループ発表後、意見交換する。
	事前・事後学習	事前学習：発表資料はグループごとに必要部数印刷準備しておく。時間になったら速やかに発表できるように発表者を決め準備する。 事後学習：講義終了後、意見交換などから自己の考えた内容を振り返り学習シート④に記載し、指定期日までに提出する。
11 (全担当教員)	学習の主題	呼吸器系疾患を持つ小児と家族への援助①（個人ワーク）
	授業内容	・小児のアセスメントの視点と看護過程（復習）（※11・12回連続） ・演習方法についてオリエンテーションする。 ・気管支喘息の幼児の事例について、以下の視点から看護計画を立案し、一連の看護過程を理解する。 ・情報整理・分析 ・問題の明確化 ・看護計画立案 ・評価の視点
	事前・事後学習	事前学習：気管支喘息について学習し、整理しておく。
12 (全担当教員)	学習の主題	呼吸器系疾患を持つ小児と家族への援助②（ワーク）（※11・12回連続）
	授業内容	気管支喘息の幼児の事例について、以下の視点から看護計画を立案し、一連の看護過程を理解する。 ・情報整理・分析 ・問題の明確化 ・看護計画立案 ・評価の視点
	事前・事後学習	事後学習：事例に関する一連の看護過程について、指定の用紙に整理する。 講義で指定した期日に提出する（期日厳守）遅れた場合は評価対象外となります。
13 (全担当教員)	学習の主題	呼吸器系疾患を持つ小児と家族への援助③（個人ワーク）
	授業内容	気管支喘息に必要な援助内容を整理、学修する。 ・バイタルサインの測定 ・吸入と吸引療法 ・与薬（経口薬、座薬） ・小児のクーリング法
	事前・事後学習	事前学習：視聴覚教材等により看護技術の目的、方法、留意点を確認しておく。事後学習：事例に対する看護として立案した看護計画との関連を整理する。講義で指定した期日に提出する（期日厳守）遅れた場合は評価対象外となります。
14 (全担当教員)	学習の主題	慢性疾患をもつ小児と家族への看護
	授業内容	慢性疾患をもつ小児と家族への看護について理解する。 ・小児看護におけるヘルスプロモーション ・セルフケア支援と患児教育 ・移行期の患者と支援
	事前・事後学習	事後学習：講義終了後、学習シート⑤に学び得たことについて記載し、提出する。提出期日は講義時に指定する。
15 (全担当教員)	学習の主題	ターミナル期の小児とその家族への看護
	授業内容	ターミナル期にある小児と家族への看護について理解する。 ・小児の死の概念発達 ・QOLと苦痛の緩和 ・インフォームドコンセントと告知
	事前・事後学習	事後学習：講義内容を復習する。

授業科目	母性看護学概論 Introduction to Maternal Nursing		担当教員	齋藤 早香枝
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	母性看護の対象の特性および女性のライフサイクル各期における特徴、健康問題について理解する。また、女性の生涯を通じた健康の保持・増進のためのリプロダクティブヘルスケアの観点およびケアを理解する。さらに、母性看護の変遷、統計、制度などから、母子保健の状況と課題を理解し、母性看護の課題や役割を考える。			
到達目標	1. 母性看護の概念、対象の特性について理解する。 2. 母性看護の対象の身体的、心理・社会的特性について理解する。 3. 人間の性と生殖について理解する。 4. 女性のライフサイクル各期における対象の特徴と課題について理解する。 5. 母性看護の歴史的変遷や母性看護の現況について理解する。 6. 母性看護に関する法律および母子保健施策について理解する。 7. 母性意識の発達、母親役割過程、家族関係、子育てについて理解する。			
テキスト	1. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学概論」（医学書院） 2. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学各論」（医学書院）			
参考書				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	90％	到達目標の達成度を定期試験 90％、レポート 10％で評価します。 詳細はガイダンスで示します	
	レポート	10％		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	積極的な授業への関与を期待します。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を講義に組み込み、理解しやすい授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	母性看護に関連する概念と理論	
		授業内容	母性とは何かを幅広く考え、母性看護学における母性のとらえ方について理解を深める。 ・親になることと母性 ・母性をめぐる定義	
		事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする	
	2	学習の主題	母性看護に関連する概念と理論	
		授業内容	1) 母性看護の理念について理解する 2) リプロダクティブヘルス / ライツの概念を理解する。	
		事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする	
	3	学習の主題	セクシュアリティの特徴、発達	
		授業内容	セクシュアリティの定義・発達・課題について考えることができる。 ・セクシュアリティとは ・ライフステージにおけるセクシュアリティの特徴、発達課題	
		事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする	
	4	学習の主題	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化	
		授業内容	女性のライフサイクルにおける形態の変化・機能の発達を理解する。 ・生殖器の形態・機能 ・性周期におけるホルモンと生殖機能の変化	
		事前・事後学習	事後学習：性周期におけるホルモンについて復習する	
	5	学習の主題	母性看護における倫理	
		授業内容	母性看護における倫理的問題について考えることができる。 ・生殖補助医療・遺伝子診断の発展に伴う倫理的問題 ・女性の権利と胎児の権利	
		事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする	

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	母性看護の歴史的変遷と近年の動向 母子保健統計
	授業内容	母性看護の発展を歴史的変遷から捉えることができる。母性看護の動向を母子保健統計から捉えることができる。 ・母性看護の起源 ・近代産科学の歴史と助産の発展 ・戦後の母子保健の基盤整備 ・母子保健統計
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
7	学習の主題	母子保健施策
	授業内容	母性看護に関する組織と法律について理解する。 ・母性看護に関するおもな法律 ・母子保健に関連する施策 ・母性看護の対象を取り巻く環境
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
8	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護①
	授業内容	思春期女性の身体的、心理・社会的特徴と課題を理解する。 ・思春期女性の身体的、心理・社会的特徴 ・思春期の健康問題と看護 ・性教育
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
9	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護②
	授業内容	成熟期女性の健康と課題を理解する ・妊娠、出産、分娩 ・家族計画
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
10	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護③
	授業内容	成熟期女性の健康と課題を理解する ・親になる過程 ・愛着と母子関係
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
11	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護④
	授業内容	成熟期女性の健康と課題を理解する ・女性特有疾患と看護 ・不妊症
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
12	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護⑤
	授業内容	更年期・老年期女性の健康と課題を理解する ・更年期・老年期女性の身体的、心理・社会的特徴 ・更年期障害と看護 ・尿失禁と看護
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
13	学習の主題	リプロダクティブヘルスケア①
	授業内容	性感染症とその予防について理解する ・性感染症 ・性感染症の予防
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
14	学習の主題	リプロダクティブヘルスケア②
	授業内容	周産期の死に対するケアを理解する
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする
15	学習の主題	リプロダクティブヘルスケア③
	授業内容	DV 被害と被害を受けた女性に対する看護について理解する。 ・ドメスティックバイオレンス
	事前・事後学習	事後学習：授業の復習をする

学習の主題・
授業内容

授業科目	母性看護活動論Ⅰ Maternal and Newborn Care NursingⅠ		担当教員	澤田 優美、齋藤 早香枝、野崎 由希子
対象学科・年次・学期	看護学科・2年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理的变化と適応、および母親と家族の心理的变化について理解し、ヘルスアセスメントの視点およびそれらと関連づけた看護技術や母子の安全を確保するための具体的方法を学ぶ。また、健康管理のためのセルフケアへの看護を学ぶとともに、社会資源の活用方法についても学習する。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある母子に看護実践を行うために必要とされる基本的知識および基本的看護技術を習得する。			
到達目標	1. 周産期の身体的、心理・社会的特性と看護について理解する。 2. 胎児・新生児の発育・発達特性と看護について理解する。 3. ヘルスアセスメントの視点およびそれらと関連づけた看護技術を実施できる。 4. 母子看護の安全性と倫理的視点について理解する。			
テキスト	森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学各論」(医学書院)			
参考書	1. 前原澄子編「看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ」(中央法規) 2. 新藤幸恵、和田サヨ子「母性の心理社会的側面と看護ケア」(医学書院)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	90%	目標への到達状況を試験、提出物により総合的に評価する。 ・試験：筆記試験(90点)：知識・技術の目標到達度を評価する。 ・提出物(10点)：ウェルネス看護過程の展開を行ない、必要に応じて指導の後再提出させる。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	10%		
	その他			
履修上の留意事項	本科目の11回～15回は演習です。演習のオリエンテーションで、詳細を説明する予定です。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実際の看護場面の事例を講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1 (澤田)	学習の主題	妊婦の身体的変化と看護	
		授業内容	妊娠の成立と妊婦の生理的变化を理解する。 1. 妊娠成立の機序が説明できる。 2. 母体の生理的变化について説明できる。 ・生殖器における変化 ・妊娠による全身的变化	
		事前・事後学習	事前にシラバスを読んでおくこと。	
	2 (澤田)	学習の主題	妊婦の心理・社会的変化と看護、胎児の発達・成長と看護	
		授業内容	妊娠期の心理・社会的変化について理解する。 1. 身体的・社会的変化にともなう心理を説明できる。 2. 妊娠経過にともなう不安や葛藤を説明できる。 3. 親になることへの準備とアセスメントを説明できる。胎児の発育とその生理について理解する。 1. 胎児の発育を説明できる。 2. 胎児の生理を説明できる。 3. 胎盤と羊水の生理を説明できる。 4. 胎児への薬物・放射線の影響を説明できる。	
		事前・事後学習	事後学習：胎児の発育についてテキストによる復習	
	3 (澤田)	学習の主題	妊婦の健康診査	
		授業内容	妊娠の経過に応じた健康診査と日常生活の援助について理解する。 1. 妊婦の妊娠週数に応じた健康診査方法を説明できる。 2. 妊婦と胎児のアセスメントの視点を説明できる。 3. 妊婦の日常生活におけるセルフケア能力を高める援助の要点を説明できる。 4. 分娩準備に対する援助について説明できる。 5. ハイリスク妊娠とその看護について説明できる。	
		事前・事後学習	事前学習：妊婦健康診査の項目とその目的をテキストから予習	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (澤田)	学習の主題	正常分娩の看護
		授業内容	正常分娩の看護を理解する。 1. 分娩に関する用語の定義が説明できる。 2. 分娩のメカニズムと分娩の経過について説明できる。 3. 産痛のメカニズムと緩和方法について説明できる。 4. 産婦と胎児の健康状態のアセスメントについて説明できる。 5. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントの視点を説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：正常分娩の看護についてテキストから予習
	5 (澤田)	学習の主題	分娩の異常と看護
		授業内容	分娩期の異常と看護について理解する。 1. 分娩期における正常からの逸脱の予測・逸脱徴候の早期発見とその対応を以下の点について説明できる。 ・分娩3要素の異常と看護 ・破水時の看護 ・異常出血の看護 ・帝王切開の看護
		事前・事後学習	事後学習：分娩期の異常と看護について復習
	6 (斎藤)	学習の主題	産褥の観察とケアに必要な看護
		授業内容	産褥の退行性変化と進行性変化のメカニズムについて理解する。 1. 産褥期の退行性変化を説明できる。 2. 授乳期の進行性変化を説明できる。 産褥の産褥経過に応じた日常生活への援助を理解する。 1. 産褥の健康診査の必要性和診査内容を説明できる。 2. 産褥の日常生活援助の要点を説明できる。 3. 母乳栄養確立および育児技術取得への援助を説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：産褥期の退行性変化と進行性変化についてテキストで予習
	7 (斎藤)	学習の主題	産褥の心理・社会的変化と看護 育児支援と社会制度
		授業内容	産褥期の心理・社会的変化への看護について理解する。 1. 産褥の心理過程を説明できる。 2. 産褥とその家族の社会的変化について説明できる。 3. 産褥とその家族に応じたソーシャルサポートの活用について説明できる。 育児支援と社会制度について理解する。 1. 退院に向けた援助の要点を説明できる。母子に適応される法的保護・諸制度・社会資源について説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：産褥期の心理・社会的変化とその看護についてテキストで予習
	8 (斎藤)	学習の主題	産褥期のハイリスクと看護
		授業内容	産褥期に発生しやすい異常とその看護について理解する。 1. 産褥期に起こりやすい異常と看護の要点を説明できる。 2. 腹式帝王切開術後の看護の要点を説明できる。 3. 母子分離や児を亡くした産褥に対する看護の要点を説明できる。
		事前・事後学習	事後学習：産褥期の異常と看護について復習
	9 (野崎)	学習の主題	新生児の生理的变化と看護
		授業内容	新生児の生理的变化について理解する。 1. 新生児に関する用語の定義・分類について説明できる。 2. 新生児の出生直後の生理的变化の要点が説明できる。 3. 新生児の適応過程における生理的变化が説明できる
		事前・事後学習	事前学習：新生児に関する用語の定義についてテキストで予習
	10 (野崎)	学習の主題	新生児の観察とケアに必要な看護
		授業内容	新生児の日常生活の援助を理解する。 1. 新生児の健康診査の要点が説明できる。 2. 新生児看護の原則を説明できる。 3. 新生児期の異常とその看護について説明できる。
		事前・事後学習	事後学習：新生児の看護について復習

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	11 (全担当教員)	学習の主題	ウェルネスの視点での看護過程
		授業内容	ウェルネスの視点で展開する看護過程の概要を理解する。 1. ウェルネスの視点で展開する看護過程の特徴を説明できる。 2. ウェルネスの視点で展開する看護過程とリスク型・実在型看護過程の違いを説明できる。
		事前・事後学習	事後学習：紙上事例の対象理解、看護過程展開
	12、13 (全担当教員)	学習の主題	看護過程
		授業内容	褥婦の看護過程の展開
		事前・事後学習	事前・事後学習：紙上事例の対象理解、看護過程展開
	14、15 (全担当教員)	学習の主題	妊婦・褥婦・新生児の健康診査
		授業内容	妊婦：尿検査・レオポルド触診法・胎児心音聴取など 褥婦：子宮復古観察・授乳法など 新生児：全身観察、バイタルサイン測定
		事前・事後学習	各看護技術について講義内容の復習

授業科目	家族看護論 Family Nursing	担当教員	針金 佳代子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・2年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	地域包括ケアシステムにおける患者（療養者）とその家族を一単位としてとらえ、家族が主体的に健康な生活を送ることを目指す家族看護の基本的な考え方と支援方法・技術を理解する。		
到達目標	1. 地域包括ケアシステムにおける看護の対象としての家族について説明できる。 2. 地域で生活する家族の健康について説明できる。 3. 家族を理解するための諸理論について理解できる。 4. 家族のセルフケア機能の向上を目指す家族看護過程について理解する。 5. 家族が主体的に健康な生活を送るための看護職の役割や基本姿勢を理解できる。		
テキスト	鈴木和子、渡辺裕子、佐藤律子「家族看護学 - 理論と実践 第5版」（日本看護協会出版会）		
参考書	山崎あけみ、原礼子編集「家族看護学改訂第2版」（南江堂） 「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	80%	目標達成状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。 ① 課題レポート（20点）：講義中に学習する事例への看護過程に関する理解度を問う。 ② 定期試験（80点）：①のレポートで気づいたことや思考したことを踏まえて、家族の健康や家族看護に関する学習到達度を評価する。
	レポート	20%	
	小テスト		
	提出物		
	その他		
履修上の 留意事項	日頃、家族について考える機会がありますか。自分の家族とその一員である自分について、改めてみつめてください。病院や地域で出会うさまざまな家族に関心を持ち、専門書ばかりではなく、新聞や小説、絵本、漫画、映画、テレビなどの媒体を通して現代に生きる家族とその健康課題について理解を深めてください。授業内で事例の理解などを深めるために、バズセッションなどの方法を用いて展開します。		
実務経験を 活かした教育内容	本科目は、保健所や市町村などで多様な家族への看護を行った教員が担当し、地域で暮らす家族とその家族看護について教材化した事例を活用する。分かりやすく理論を解説し、家族看護に活かせるように授業をする。		
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容
	1	学習の主題	地域包括ケアシステムにおける「家族」
		授業内容	1. 看護の対象としての「家族」の定義 2. わが国の家族の動向～これまで・現在・そしてこれから 3. 地域包括ケアシステムの中で生活する家族
		事前・事後学習	事前学習：自分の家族について改めて見つめてみる。 事後学習：自分の家族とその生活について、地域との関係から考える。
	2	学習の主題	家族看護が目指す「健康な家族」とは
		授業内容	1. 健康な家族とは 2. 家族の健康の概念としてのセルフケア機能 3. 家族看護の目的そして目標
		事前・事後学習	事前学習：自分の家族が、さまざまな課題をどのように乗り越えてきたかを振り返ってみる。 事後学習：自分の家族のセルフケア機能について考える。
	3	学習の主題	家族を理解するための諸理論（1）
		授業内容	1. 家族の役割、コミュニケーション、情緒、勢力、価値観（家族構造機能理論） 2. 家族のライフサイクルと発達課題（家族発達理論）
		事前・事後学習	事前学習：自分の家族の中での役割や、家族の関係性について考える。 事後学習：学習した理論を活用し、自分の家族の理解を深める。
	4	学習の主題	家族を理解するための諸理論（2）
		授業内容	1. システムとしての家族（家族システム理論） 2. 家族がストレスを抱えた時の対応と適応（家族ストレス対処理論） 3. 家族が主体的に課題に向き合い解決していくプロセス（家族意思決定プロセス）
		事前・事後学習	事前学習：自分の周りにあるさまざまなシステムを探してみる。 事後学習：学習した理論を活用し、自分の家族の理解を深める。

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	家族看護過程 (1)
		授業内容	1. 代表的な家族アセスメントモデル 2. 家族看護過程 3. 家族の全体像を捉えるための情報収集
		事前・事後学習	事前学習：看護過程について復習しておく。 事後学習：家族アセスメントモデルを活用し、「地域で生活する要介護高齢者のいる成熟期の家族」の情報収集の内容について復習する。
	6	学習の主題	家族看護過程 (2)
		授業内容	1. 家族のセルフケア機能のアセスメント 2. 家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護計画
		事前・事後学習	事前学習：家族のセルフケア機能について復習しておく。 事後学習：家族アセスメントモデルを活用し、「地域で生活する要介護高齢者のいる成熟期の家族」のアセスメント、家族看護計画について復習する。
	7	学習の主題	家族看護過程 (3)
		授業内容	1. 家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護の方法・技術 2. 家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護の評価
		事前・事後学習	事前学習：家族のセルフケア機能を上げるためには、どのような看護が有効かを、自分の家族での経験を元に考えてみる。 事後学習：家族アセスメントモデルを活用し、「地域で生活する要介護高齢者のいる成熟期の家族」への家族看護の方法と技術を復習し、家族看護の評価をする。
	8	学習の主題	これからの時代に生きる家族への看護者の役割と基本姿勢
		授業内容	1. 家族が向き合うさまざまな健康課題 2. 家族とのパートナーシップの形成 3. パートナーシップを形成するための看護職の役割と基本姿勢 4. 家族とのパートナーシップを形成するための技術
		事前・事後学習	事前学習：基礎看護実習で出会った患者とその家族に対して、どのような家族看護ができたのかを、家族看護過程を踏まえて振り返る。 事後学習：今後、家族看護を実践していくために看護者としての自分の課題について考える。

授業科目	疫学 Epidemiology	担当教員	濱岡 直裕、福士 勝
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	疫学は、人間集団における疾病および健康現象の発生状況を把握し、それらに影響を及ぼしている要因や条件を総括的に探る学問である。この基本的考え方や方法を理解し、健康問題について論理的な思考で原因を追究する手法を身につけ、疫学の考え方が保健対策や公衆衛生看護活動の基礎となっていることを理解する。		
到達目標	1. 疫学の概念・考え方、および疫学における各種の指標について理解する。 2. 疫学の研究方法について、特徴と意義、および各方法の差異を理解する。 3. スクリーニングについて、特性と意義を理解する。 4. 保健対策・公衆衛生看護活動において疫学の考え方が実践されていることを理解する。		
テキスト	大木秀一著「基本からわかる看護疫学入門（第3版）」（医歯薬出版）		
参考書	適宜紹介する		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	70%	定期試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度）などにより目標の到達状況を評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	
	提出物		
	その他	10%	
履修上の 留意事項	・授業に集中し、復習により知識を身につけ、問題演習を通じて知識をアウトプットする能力を養うこと。 ・配付資料のみでなく、テキストを3回読み込んで、体系的に復習を行うこと。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (濱岡)	学習の主題	疫学の考え方
		授業内容	・疫学の概念を理解する。 ・疫学における「因果関係」とは何かを理解する。
		事前・事後学習	テキストの目次を読み、事前に科目の全体像を把握しておく。 配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	2 (濱岡)	学習の主題	疫学で用いられる指標（1）
		授業内容	・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 比、率、割合。有病率と罹患率と累積罹患割合。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	3 (濱岡)	学習の主題	疫学で用いられる指標（2）
		授業内容	・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 相対危険と寄与危険。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	4 (濱岡)	学習の主題	疫学で用いられる指標（3）
		授業内容	・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 死亡率、年齢調整死亡率、致命率。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	5 (濱岡)	学習の主題	疫学指標について小まとめ
		授業内容	・小まとめ ・問題演習
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	6 (濱岡)	学習の主題	確認テスト
		授業内容	・小テスト ・解答解説を通じて理解を深める。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7 (濱岡)	学習の主題	記述疫学、分析疫学（１）
		授業内容	・記述疫学の目的と特色を理解する。 ・生態学的研究、横断研究の目的と特色を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	8 (濱岡)	学習の主題	分析疫学（２）、介入研究
		授業内容	・コホート研究、症例対照研究の目的と特色を理解する。 ・介入研究の目的と特色を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	9 (濱岡)	学習の主題	真実と誤差、バイアス、交絡
		授業内容	・調査研究の結果に含まれる真実と誤差について理解する。 ・バイアス、交絡因子について理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	10 (濱岡)	学習の主題	研究方法の利点と欠点
		授業内容	・信頼性と妥当性について理解する。 ・エビデンス水準と、EBM・EBNについて理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	11 (濱岡)	学習の主題	疫学研究方法について小まとめ・確認テスト
		授業内容	・問題演習 ・小テスト ・解答解説を通じて理解を深める。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	12 (福士)	学習の主題	スクリーニングの概要
		授業内容	・スクリーニングの意義・方法を理解する。 ・スクリーニングの実施上の原則、感度と特異度を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	13 (福士)	学習の主題	スクリーニングの実際
		授業内容	・スクリーニングの実際を理解する。 ・マスキング試験の現状と課題を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	14 (濱岡)	学習の主題	スクリーニングについて小まとめ・確認テスト
		授業内容	・問題演習 ・小テスト ・解答解説を通じて理解を深める。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。
	15 (濱岡)	学習の主題	総まとめ
		授業内容	・実際の研究例から、疫学研究の意義を理解する。 ・問題演習
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く。

授業科目	保健医療福祉行政論Ⅰ Health & Welfare Administration		担当教員	小川 克子、近藤 明代、槌本 浩司
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	保健医療業務は人間の生命や健康に直接関係するため、業務従事者の資格や業務内容及び国民への業務の提供システムについては、多くの法規によって規制されている。さらに、関係する保健医療従事者との連携・協働も法規で求められている。したがって、保健医療行政の役割や仕組み及び関係法規の体系や内容を理解することは、看護職が自己の役割や責任を果たす上で欠かすことのできないことであることを学ぶことが目的である。			
到達目標	1. 保健医療活動における行政の役割と仕組み及び行政の基盤である関係法規の体系を理解する。 2. 医事と薬事に関する主要な法規の内容を理解する。 3. 保健衛生と予防衛生に関する主要な法規の内容を理解する。 4. 学校保健と労働衛生（産業保健）に関する主要な法規の内容を理解する。			
テキスト	1. 森山幹夫「系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令（第53版）」（医学書院） 2. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる 2020-2021」（メディックメディア） 3. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2021/2022」（厚生労働統計協会）			
参考書	1. その他、必要に応じプリント配付			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	100％	・定期試験（100点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	・「保健医療福祉行政」のうちの「福祉分野の行政と法規」については、2年次の「社会福祉論」で履修済みなので、復習に努め、「保健医療分野」と「福祉分野」を関連させながら学習すること。 ・講義は教科書、配布プリントをもとに進めます。該当部分に目を通して授業に臨むこと。 ・各医療従事者の資格法については、共通的事項について「医療従事者の資格・業務に関する基本的な考え方」として講義し他の部分は省略するが、医師法、歯科医師法、保助看法については更に特殊的事項についてだけ触れる。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域保健活動体験を講義に織り交ぜながら、衛生法規を学ぶ重要性を理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1 （小川）	学習の主題	衛生法規の概要	
		授業内容	1. 法規の概要 1) 法の概念 2) 法の種類 3) 他の面からみた法の種類 4) 法規の効力の優劣 5) その他の法規に関する事項 2. 衛生法規の概念 3. 衛生法規の分類	
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。	
	2 （近藤）	学習の主題	看護師法	
		授業内容	1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	3 (小川)	学習の主題	医事法・薬事法
		授業内容	1. 医療法 2. 医療従事者の資格・業務に関する基本的な考え方 3. 医師法・歯科医師法 4. 医薬品医療機器等法 5. 麻薬及び向精神薬取締法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	4 (槌本)	学習の主題	保健衛生法規
		授業内容	1. 地域保健法 2. 健康増進法 3. がん対策基本法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	5 (小川)	学習の主題	保健衛生法規
		授業内容	1. 高齢者医療確保法 2. 精神保健福祉法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	6 (近藤)	学習の主題	保健衛生法規
		授業内容	1. 母子保健法 2. 母体保護法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	7 (小川)	学習の主題	予防衛生法規
		授業内容	1. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法） 2. 予防接種法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。
	8 (小川)	学習の主題	学校保健法規と労働衛生（産業保健）法規
		授業内容	1. 学校保健安全法 2. 労働安全衛生法
		事前・事後学習	事前に配付プリントで予習し、事後にプリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する。

授業科目	保健統計学Ⅰ Health Statistics		担当教員	志渡 晃一、米田 龍大
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	人口統計と保健・医療統計について学習し、人口構造や動向と社会・医療とのつながりを理解する。			
到達目標	保健・医療・福祉にかかわる統計調査の基礎について理解し、広い視点から説明できるようになる。			
テキスト	1. 鈴木庄亮 「シンプル衛生公衆衛生学 2020」(南江堂) 2. 厚生労働統計協会 「国民衛生の動向 2020/2021 年版」			
参考書				
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	100%	目標の到達状況を定期試験により評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	定期試験を受験しなかった場合、評価の対象としません。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (志渡)	学習の主題	ガイダンス	
		授業内容	講義目的、内容の概説	
		事前・事後学習		
	2 (志渡)	学習の主題	統計調査概論	
		授業内容	統計調査の意義と役割、保健統計の種類	
		事前・事後学習	講義内容を復習する	
	3 (志渡)	学習の主題	人口統計①	
		授業内容	人口静態統計	
		事前・事後学習	講義内容を復習する	
	4 (志渡)	学習の主題	人口統計②	
		授業内容	人口動態統計	
		事前・事後学習	講義内容を復習する	
	5 (志渡)	学習の主題	人口統計③	
		授業内容	生命表、平均寿命、平均余命、健康寿命、年齢調整死亡率、SMR	
		事前・事後学習	講義内容を復習する	
	6 (志渡)	学習の主題	社会調査概論①	
		授業内容	国民生活基礎調査	
		事前・事後学習	講義内容を復習する	
	7 (志渡)	学習の主題	社会調査概論②	
		授業内容	国民健康・栄養調査	
		事前・事後学習	講義内容を復習する	
	8 (志渡)	学習の主題	保健統計概論①	
		授業内容	我が国の保健統計	
		事前・事後学習	講義内容を復習する	
	9 (米田龍大)	学習の主題	保健統計各論①	
		授業内容	患者調査、国際疾病分類、精神保健関連統計	
		事前・事後学習	講義内容を復習する	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	10 (米田龍大)	学習の主題	保健統計各論③
		授業内容	感染症発生動向調査
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	11 (志渡)	学習の主題	保健統計各論④
		授業内容	学校保健統計
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	12 (未定)	学習の主題	保健統計各論⑤
		授業内容	母子保健統計
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	13 (未定)	学習の主題	医療体制の動向
		授業内容	医療保険制度，公費医療，国民医療費
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	14 (未定)	学習の主題	保健統計各論③
		授業内容	感染症発生動向調査
		事前・事後学習	講義内容を復習する
	15 (志渡)	学習の主題	まとめ
		授業内容	
		事前・事後学習	

授業科目	成人看護活動論Ⅲ Adult Nursing III		担当教員	佐藤 郁恵、加藤 剛寿、伊藤 円、 小野 善昭、大橋 和貴
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	成人期にある対象の紙上事例を基に、看護過程の一連の流れを理解し展開する。また、この科目の学びを成人看護実習で活用できるようになることを目指し、患者・家族の対象理解を深めるための思考過程を整え、看護問題を解決するための看護実践能力の基盤を培う。			
到達目標	1. 対象理解に必要な情報がわかる。 2. 意図的な情報収集とその方法がわかり説明できる。 3. 得られた情報とその人にとっての意味を考え、個別的な看護計画に繋げることができる。 4. アセスメント同士のつながりを考えて描画し、対象を全体的に捉え、他者に説明することができる。 5. 看護問題を解決するための、具体的に根拠のある看護計画を立案することができる。 6. 看護実践によってもたらされる状態を期待される結果として具体的に表現できる。 7. 事例シミュレーションで成人看護実習に必要な基盤となる知識・技術・態度を身につけることができる。			
テキスト	1. 野崎真奈美他編「成人看護学 成人看護技術」(南江堂) 2. 矢永勝彦他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院) 3. 北島政樹他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」(医学書院)			
参考書	科目の中で適宜紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験		目標に沿って、提出物で総合的に評価する。提出物は期限、提出方法を遵守する。提出期限に遅れたものは評価の対象としない。提出物の配点は、アセスメント 40%、全体像 20%、看護計画 20%、シミュレーション 20%。詳細はガイダンス時に説明する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	100%		
	その他			
履修上の 留意事項	成人看護実習ⅠおよびⅡの先修要件にかかわる科目です。この科目は、成人看護学の視点で紙上事例のアセスメントに取り組み、看護過程についての理解を深めるとともに、実習前の準備状況を整えるための内容になっています。看護過程に対する理解を深められるように、それぞれが主体的に取り組み、学習してください。また、シミュレーション演習では臨床場面を想定して行いますので、基礎的な看護実践能力を修得できるよう練習と振り返りを行ってください。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを演習に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	成人期にある患者・家族の看護過程の展開：アセスメント①	
		授業内容	1. ガイダンス(科目の目的、方法、評価、成人看護実習との関連) 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. アセスメント	
		事前・事後学習	事前学習：事例に沿って、看護につながるよう病態ならびに治療を予習する。 事後学習：アセスメントの見直し、修正	
	2 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：アセスメント②	
		授業内容	1. アセスメントの振り返り 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. 関連図の書き方	
		事前・事後学習	事前学習：前回までのアセスメントを見直し、他者に説明できるようにしておく。 事後学習：アセスメントの見直し、修正、関連図の作成	
	3 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：アセスメントのまとめ③、全体像①	
		授業内容	1. 全体像の共有、他者への説明 2. 関連図の描画の視点	
		事前・事後学習	事前学習：前回までのアセスメントを見直し、他者に説明できるようにしておく。また、関連図を作成しておく。 事後学習：アセスメントの提出	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：全体像②
		授業内容	1. 全体像の共有、他者への説明 2. 看護問題の明確化
		事前・事後学習	事前学習：関連図を修正しておく。 事後学習：全体像の提出
	5 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：看護計画の立案①
		授業内容	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 全体像、目標、期待される結果と看護の関連を共有、他者への説明
		事前・事後学習	事前学習：具体的な看護に結びつくよう参考書を選定、持参する。 事後学習：看護計画の見直し、修正
	6 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：看護計画の立案②
		授業内容	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 次回シミュレーションのガイダンス
		事前・事後学習	事前学習：看護計画を振り返り、修正しておく 事後学習：看護計画の提出
	7 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：シミュレーション
		授業内容	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※7回、8回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)
		事前・事後学習	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出
	8 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：シミュレーション
		授業内容	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※7回、8回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)
		事前・事後学習	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出

授業科目	成人看護実習Ⅰ Adult Nursing : PracticumⅠ	担当教員	小野 善昭、佐藤 郁恵、大橋 和貴、 加藤 剛寿、伊藤 円
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	3単位
ねらい	急性期にある患者・家族を多側面からアセスメントし、患者・家族の健康段階に応じた知識・技術・態度を養う。特に、身体侵襲が患者に及ぼす影響について理解を深めるとともに、心身の侵襲を最小限にし、回復のための看護過程を展開する。		
実習目標	1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を理解できる。 2. 急性期（急性疾患、周手術期、慢性疾患の急性増悪等）における患者の健康上の課題をとらえ、看護過程を展開することができる。 3. 患者・家族を生活者の視点でとらえ、回復促進のための援助ができる。 4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。 6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。		
実習内容	急性期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 詳細は実習要項を参照のこと。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	100％	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		
履修上の 留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってください。 また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。 いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。		
実務経験を 活かした教育内容			
実習方法	詳細は実習要項を参照のこと。		
実習施設	札幌東徳洲会病院、札幌徳洲会病院、札幌医科大学附属病院、手稲溪仁会病院		

授業科目	成人看護実習Ⅱ Adult Nursing : PracticumⅡ	担当教員	小野 善昭、加藤 剛寿、伊藤 円、 大橋 和貴、佐藤 郁恵
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	3単位
ねらい	成人期にある患者・家族が、疾患を抱えながら生活することの意味を捉え、疾患そのものや治療が与える、心身ならびに生活の営みへの影響を理解するとともに、そのセルフケアを支えるための基礎的な看護実践力を修得する。また、継続的な療養生活に向けた社会資源の活用、地域の保健医療福祉チームとの連携、看護の役割を学ぶ。		
実習目標	1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を統合的に理解できる。 2. 慢性的に経過する疾患を抱える患者・家族の看護上の問題を明らかにし、看護過程を展開できる。 3. 看護実践における人間関係形成の重要性を認識し、相互に成長することの意味を深め、援助的人間関係を形成できる。 4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。 6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。		
実習内容	原則として、慢性期・回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 詳細は、実習要項を参照のこと。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	100％	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		
履修上の 留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってください。 また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。		
実務経験を 活かした教育内容			
実習方法	詳細は、実習要項を参照のこと。		
実習施設	柏葉脳神経外科病院、北海道がんセンター、札幌湊仁会リハビリテーション病院、西成病院、愛育病院		

授業科目	高齢者看護活動論Ⅱ Gerontological Nursing Ⅱ		担当教員	中田 真依、萩野 悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	本科目では、紙上事例を用いて老年期にある対象への看護過程を展開し、病院実習に向けた看護実践能力を養う。また、介護老人保健施設での看護の実際や保健医療福祉チームの連携の在り方について理解し、介護老人保健施設実習に向けた基礎的能力を養う。これらの学修を通して臨地実習で活用できることを目指す。			
到達目標	1. 紙上事例をもとに老年期にある対象への看護過程を展開できる。 1) 事例の健康状態と生活機能の視点からアセスメントできる。 2) アセスメントを統合し、関連図の作成を経て全体像と看護問題、援助の方向性を明確化できる。 3) 対象の強みを活かし、個別性に合った看護目標や看護計画を立案できる。 4) 個別指導やグループワークを通して自らの看護過程を振り返り、修正できる。 2. 介護老人保健施設の役割と機能および看護の実際と保健医療福祉チームの在り方について説明できる。			
テキスト	1. 北川公子編「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」(医学書院) 2. 山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」(医学書院)			
参考書	1. 江川隆子「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」(ヌーベルヒロカワ) 2. 正木治恵「パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開ー老年看護実習ガイド」(照林社) 3. 大川弥生著「生活機能とは何か -ICF：国際生活機能分類の理解と活用 -」(東京大学出版会)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験		目標の到達状況を、事前課題および看護過程課題、小テストから総合的に評価する。 事前課題 10 点、看護過程課題 70 点 (アセスメント 24 点、関連図・全体像と看護問題および援助の方向性 20 点、看護計画 16 点、2 回目提出時の改善度 10 点) 小テスト 20 点	
	レポート			
	小テスト	20%		
	提出物	80%		
	その他			
履修上の留意事項	高齢者看護学概論、高齢者看護活動論Ⅰを復習し、必要な準備を整えて臨むこと(個人パソコン、電子媒体、関連資料等)。提出物が遅れた場合は原則受け取らない。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における事例などを織り交ぜながら、老年期にある対象の看護過程について理解しやすいよう講義・演習を行います。			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (中田)	学習の主題	ガイダンス・講義	
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等を説明する 【看護過程演習】のガイダンス：紙上事例をもとにアセスメント、関連図、全体像と看護問題および援助の方向性、看護計画を作成し、指定された日時に提出する(2回に分けて提出)	
		事前・事後学習	事前学習：高齢者看護活動論Ⅰの復習やシラバスを熟読し、講義の準備をする 事後学習：提示された課題を開始する	
	2 (中田)	学習の主題	講義：老年期にある対象の看護過程①	
		授業内容	老年期にある対象の看護過程とアセスメントの視点について理解する	
		事前・事後学習	事前学習：講義内容を予習する 事後学習：講義内容を参考に課題をすすめる	
	3 (中田)	学習の主題	講義：老年期にある対象の看護過程②	
		授業内容	老年期にある対象の看護過程(関連図、全体像と看護問題および援助の方向性、看護計画、看護経過記録、評価)について理解する	
		事前・事後学習	事前学習：講義内容を予習する 事後学習：講義内容を参考に課題をすすめ、指定された期限に提出する(第1回提出)	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (中田)	学習の主題	講義：介護老人保健施設の実際 (ゲストスピーカー：介護老人保健施設に勤務する老人看護専門看護師)
		授業内容	介護老人保健施設の看護の実際や保健医療福祉チームの在り方について理解する
		事前・事後学習	事前学習：高齢者看護学概論の介護保険法に関する講義内容を復習する 事後学習：講義内容を復習する
	5 (全員)	学習の主題	紙上事例の看護過程の展開① 個別指導
		授業内容	第 1 回提出課題（アセスメント、関連図、全体像と看護問題および援助の方向性）に対する個別指導を受ける
		事前・事後学習	事前学習：個別指導に向けて作成した課題を見直す 事後学習：個別指導をもとに課題を修正し、看護計画を作成して指定された期限に提出する（第 2 回提出）
	6 (全員)	学習の主題	紙上事例の看護過程の展開② グループワーク
		授業内容	第 2 回提出課題を返却する 返却された課題をもとに関連図、全体像と看護問題および援助の方向性、看護計画をグループ内で共有し、内容をまとめて提出する
		事前・事後学習	事前学習：グループで共有できるよう事例を読み込む 事後学習：グループで共有した内容を復習する
	7 (中田)	学習の主題	小テスト 講義：老年期にある対象の看護過程③
		授業内容	小テスト（介護老人保健施設他）30 分程度 老年期にある対象の看護過程課題をフィードバックする
		事前・事後学習	事前学習：介護保険法や介護老人保健施設に関する講義内容や事前課題を復習し、小テストに備える 作成した課題を復習し、講義に持参する 事後学習：高齢者看護実習に向けて講義内容を復習する
	8 (中田)	学習の主題	講義：老年期にある対象の看護過程④ 高齢者看護活動論Ⅱのまとめ
		授業内容	老年期にある対象の看護過程課題をフィードバックする 高齢者看護活動論Ⅱの総括
		事前・事後学習	事前学習：作成した課題を復習し、講義に持参する 事後学習：高齢者看護実習に向けて講義や小テストの内容を復習する

授業科目	高齢者看護実習 Gerontological Nursing Practicum	担当教員	萩野 悦子、中田 真依
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	4単位
ねらい	本科目では、健康課題をもつ老年期にある対象への看護実践能力を、看護実践の展開、対人関係の形成、社会資源の活用とチーム連携、倫理的行動と問題認識の4つの課題のもとに修得する。病院実習と介護老人保健施設実習を通して、老年期にある対象を全人的に理解し、対象や家族が望む目標を志向しながら、健康課題や生活機能に応じた看護をエンドオブライフ・ケアの視点で実践する基礎的知識・技術・態度を養う。 また、老年期にある対象を取り巻く環境や家族関係を踏まえ、保健医療福祉チームにおける専門職連携の在り方を理解し、看護師の役割を果たすための能力を養う。さらに、実習の過程を通して、看護専門職を志す学生として主体的に学習し、倫理的側面からの学びを経て高齢者看護学の実践に繋がる感性を養う。病院実習では、老年期にある対象への看護を展開し、高齢者への看護実践能力を修得する。介護老人保健施設実習では、施設の機能や役割を理解し、施設内で生活する高齢者への看護の実際を学ぶ。 また、病院実習、介護老人保健施設実習を通して高齢者を取り巻く環境や家族関係等をふまえ、社会資源の活用、保健医療福祉チームの連携の実際と看護師の役割、高齢者の倫理的課題を学ぶ。		
実習目標	1. 老年期にある対象を身体的・心理的・社会的・発達の側面、および価値・信念を捉え全人的に理解し、対象や家族が望む援助の方向性について余生を踏まえて説明できる。 2. 老年期にある対象に必要な看護計画を立案し、目標を志向した看護援助を実施・評価できる。 3. 介護老人保健施設の役割と機能を理解し、参加観察や利用者との交流から看護の在り方や利用者を支える専門職の役割・連携について説明できる。 4. 看護学生として責任を自覚し、老年期にある対象の倫理的課題を思考できる。		
実習内容	病院実習3週間（3単位）と、介護老人保健施設1週間（1単位）の合計4週間（4単位）の実習である。 本実習内容の詳細は、実習要項に沿ってオリエンテーション時に説明する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	100％	目標到達度を実習の評価基準において評価する。 ※実習要項参照
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		
履修上の留意事項	高齢者看護学の講義内容を復習し、講義資料や作成した課題（脳卒中、認知症、事前課題）を準備して実習に臨むこと。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、老年期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。		
実習方法	実習方法の詳細は実習要項を参照すること。主な内容として、病院実習では老年期にある対象を受け持ち看護過程を展開する。介護老人保健施設実習では特定の高齢者を受け持たず、施設に入所もしくは通所している様々な高齢者と関わり学びを得る。		
実習施設	病院：愛全病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院、札幌白石記念病院、札幌西円山病院、北祐会神経内科病院 介護老人保健施設：あつべつ、グラーネ北の沢、ディ・グリュエネン、ひまわり、もえれパークサイド		

授業科目	小児看護活動論Ⅱ Pediatric Nursing Ⅱ		担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	本科目では、既習の概論、活動論Ⅰの学習内容を臨地実習で活用できることを目的とし、小児と家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を学ぶ。保育園演習では、乳幼児との関わりの実際から成長発達を理解し、個々の成長発達段階に対応した生活支援のあり方を学ぶ。学内においては保育園演習を想起し、紙上事例を用いて小児の健康上の課題をアセスメント、看護計画立案、計画に沿った実施、評価について学習する。また、臨地実習が効果的な学習になるように看護記録の意義と目的を理解し実践できることを目的とする。			
到達目標	1. 保育園演習では、子どもの成長発達の特徴を理解し成長発達段階に対応した生活支援について理解する。 2. 学内演習においては、事例の小児と家族の健康状態を既習のアセスメントツールを用いてアセスメントできる。 3. 2をもとに事例の小児と家族の全体像を把握し、看護問題を明確化できる。 4. 3で明らかになった看護問題を解決するため具体的かつ科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。 5. 4の看護計画立案では安全性、安楽性、成長・発達を考慮したケアの内容（プレパレーション）が考えられる。 6. 看護問題が解決、改善されたかを判断する看護評価の視点が考えられる。			
テキスト	1. 小林京子他編「新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論／小児保健」（メヂカルフレンド社） 2. 小林京子他編「新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護」（メヂカルフレンド社）			
参考書	1. 岡田洋子他「小児看護2 小児の主要症状とケア技術」（医歯薬出版） 2. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」（医学書院） 3. 新看護観察のキーポイントシリーズ「小児Ⅰ」（中央法規） 4. 白木和夫「ナースとコメディカルのための小児医学」（日本小児医事出版） 5. 及川郁子・田代弘子編集「病気の子どもへのプレパレーション」（中央法規） 6. 山本恵子監修「写真でわかる小児看護技術 改訂2版」（インターメディカ）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		目標への到達状況をレポート、提出物により総合的に評価する。 1. レポートは保育園演習の学びをレポートする（50点）。 2. 提出物は、事例に関する看護過程展開に関する一式（30点）・発表（10点）および、事例展開から学び得たことと自己の課題について A4 2枚程度（10点）から総合的に評価する。	
	レポート	50%		
	小テスト			
	提出物	50%		
	その他			
履修上の留意事項	本科目は、小児看護実習に臨むうえで総括的な意味をもつ科目であるため、各自、小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰを十分に復習して授業に取り組むこと。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容	
	1 （河崎） （佐々木）	学習の主題	ガイダンス（紙上事例の看護過程 / 保育園演習）	
		授業内容	【ガイダンス】本科目の学習目的・目標および学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項とテキスト参考図書について説明する。 【紙上事例の看護過程】 ・小児の手術についてその特徴と看護のポイントを復習し、学びを深める。 ① 手術を受ける子どもの観察と看護にポイント（復習） ② プレパレーション（復習） ③ 事例提示と看護過程展開方法及び課題の説明・グループの説明 【保育園演習】 ・保育園演習の目的、方法、時間、場所、グループメンバーの説明	
		事前・事後学習	事前学習：小児看護活動論Ⅰの事例の看護過程展開について復習しておく。 事後学習：各自事例の看護過程を展開する。事例の情報を整理し、必要な視点・援助をアセスメントシートに記載し、効率よくグループワークできるように準備する。	
	2 （河崎） （佐々木）	学習の主題	手術（習慣性扁桃炎）を受ける幼児の事例展開①（グループワーク）	
		授業内容	・全身麻酔に伴う事例①幼児のアセスメントと発達段階を考慮した援助の必要性を考える。 ・習慣性扁桃炎の疾患の特性をふまえ、事例に必要な入院時、手術前、手術後の看護援助を検討する。	
		事前・事後学習	事後学習：事例①に必要な援助を具体的に考え、立案する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	3 (全担当教員)	学習の主題	手術（習慣性扁桃炎）を受ける幼児の事例展開②（グループワーク）
		授業内容	・習慣性扁桃炎の疾患の特性をふまえ、事例に必要な入院時、手術前、手術後の看護援助を明確化し、シートに記載する。 ・事例①幼児への看護についてプレパレーションの視点から援助を考える。
		事前・事後学習	事前学習：テーマに関連する疾患等、既習内容を復習しておく。 事後学習：各自、事例の看護過程を展開する。情報をアセスメントシートに整理し、必要な援助を明確化する。
	4 (全担当教員)	学習の主題	手術（習慣性扁桃炎）を受ける幼児の事例展開③（グループワーク）
		授業内容	・事例に必要な援助を使用物品含めて具体的に考え、行動レベルで看護計画を立案する。 ※幼児の発達段階とプレパレーションの視点から援助を考える。
		事前・事後学習	事後学習：看護過程展開を各自、指定された用紙に記載する。
	5 (全担当教員)	学習の主題	手術（習慣性扁桃炎）受ける幼児の看護過程③（グループ発表）
		授業内容	・事例に実施するプレパレーションを実践し評価する。 ※第5・6回は続けて行う。 1 グループ発表7分、質疑応答3分（15グループ）、全体討議・意見交換時間になったら開始できるように各グループリーダーはパワーポイント、資料配布の準備を速やかに実施してください。 発表順番は事前に掲示します。
		事前・事後学習	事前学習：発表資料を指定された期日までに必要部数印刷して提出する。 事後学習：実施内容を振り返り評価する。
	6 (全担当教員)	学習の主題	手術（習慣性扁桃炎）受ける幼児の看護過程④（グループ発表）
		授業内容	・事例に実施するプレパレーションを実践し評価する。 ※第5・6回は続けて行う。 1 グループ発表7分、質疑応答3分（15グループ）、全体討議・意見交換時間になったら開始できるように各グループリーダーはパワーポイント、資料配布の準備を速やかに実施してください。 発表順番は事前に掲示します。
		事前・事後学習	事前学習：発表資料を指定された期日までに必要部数印刷して提出する。 事後学習：実施内容を振り返り評価する。 ※第5・6回終了後、各自が実施を振り返り、看護過程に関する記録物一式を提出する。また、事例展開を終えて学び得たこと、自己の課題についてレポートをA4 2枚程度を提出する。提出期日は講義時に伝えます。
	7 (全担当教員)	学習の主題	保育園演習により乳幼児との関わりの実際から成長発達を理解し、個々の成長発達段階に対応した生活支援のあり方を学ぶ。
		授業内容	1. 学生はグループ毎に指定された保育園施設（吉田学園さくら保育園、吉田学園くりの木保育園、吉田学園やしの木保育園）で演習目的に沿って演習を行う。 2. 保育園演習は9:00～12:30とする。終了後は、学内に戻り4講目より授業を受ける。
		事前・事後学習	ガイダンス内容を各自確認し、演習目的、演習に臨む姿勢を理解し保育園演習に臨む。
	8 (全担当教員)	学習の主題	保育園演習により乳幼児との関わりの実際から成長発達を理解し、個々の成長発達段階に対応した生活支援のあり方を学ぶ。
		授業内容	1. 学生はグループ毎に指定された保育園施設（吉田学園さくら保育園、吉田学園くりの木保育園、吉田学園やしの木保育園）で演習目的に沿って演習を行う。 2. 保育園演習は9:00～12:30とする。終了後は、学内に戻り4講目より授業を受ける。
		事前・事後学習	ガイダンス内容を各自確認し、演習目的、演習に臨む姿勢を理解し保育園演習に臨む。

授業科目	小児看護実習 Pediatric Nursing Practicum		担当教員	河崎 和子、佐々木 めぐみ
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・通年		選択・必修	必修
授業形態	実習		単位数	2単位
ねらい	小児期の健康課題・問題をもつ子どもと家族に対しての看護実践展開能力、対人関係の形成、社会資源の活用とチームワーク連携、倫理的行動を習得する。対象となる子どもと家族の健康状態を明らかにし、成長発達段階に応じた日常生活支援および健康の回復、維持、増進を図るための看護のあり方について学ぶ。 また、実践を通じて、子どもを主体的な存在として尊重する姿勢を身につけるとともに、小児を取り巻く保健・医療・福祉および教育の連携の重要性を学び、チームにおける看護の役割を理解する。			
実習目標	1. 受けもった子どもと家族（対象者）とのコミュニケーション・観察を通して、健康障害および入院に伴う生活の変化や思いを理解し、看護の視点から優先度の高い看護問題を明らかにできる。 2. 明らかになった優先度の高い看護問題に対して看護計画を立案し、対象者の発達段階を考慮し実践できる。 3. 実践した看護が有効であったかを対象者の反応から評価し計画の修正ができる。 4. 実習生として子どもと家族の安全と人権に配慮し、自覚と責任をもち主体的に取り組むことができる。 5. 子どもと家族への看護を通して、医療チームにおける小児看護の専門性と自分の考えを考察できる。			
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いてオリエンテーション時に説明する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	100％	実習目標到達度を評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。 ＊評価項目および評価基準は実習要項参照	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	実習病院により対象である小児の健康障害の内容や程度が異なるので、講義・演習の学習内容の復習の他、実習前に提示された事前学習を行い実習に取り組むこと。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、小児期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。			
実習方法	1. 実習は2週間とする。 2. 実習初日は、学内において小児看護技術を中心に演習内容を復習する。 3. 実習2日目から2週目木曜日まで病院実習を行う。 4. 2週目の実習最終日金曜日は学内で記録整理を行い提出する。 5. 病院実習初日には、各施設の管理者および病棟管理者、指導者より病院および病棟オリエンテーションを受ける。 6. 対象は健康障害をもつ小児と家族である。 7. 対象は急性期、慢性期、回復期、周手術期と多岐にわたり、発達段階は乳児期から思春期にわたる。 8. 病院実習の最終日にカンファレンスを行い、受けもち患児と家族への看護から学びを共有する。 ＊実習方法の詳細は実習要項をもとにオリエンテーションを実施するので必ず出席すること。			
実習施設	JCHO 札幌北辰病院、JCHO 北海道病院、札幌北楡病院、市立札幌病院、手稲溪仁会病院、北海道立子ども総合医療・療育センター、札幌医科大学附属病院			

授業科目	母性看護活動論Ⅱ Maternal and Newborn Care Nursing Ⅱ		担当教員	澤田 優美、齋藤 早香枝、野崎 由希子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	母子および家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を習得するために、事例を用いて基本的な看護過程の展開を行う。既習の知識を整理・統合しながら、事例の情報をアセスメントし、健康課題に対する看護計画の立案および実施、評価について学習する。統合体としての対象者の全体像を理解し、健康課題を明らかにする過程で、健康の保持・増進への看護についても学ぶ。母性を取り巻く地域の保健医療福祉チームとの連携・協働について理解を深める。			
到達目標	1. 事例の妊娠期・分娩期の経過を踏まえ、ウエルネス的視点で褥婦の健康課題を考えることができる。 2. 褥婦の健康課題を解決するために必要な看護ケアとその根拠を理解する。 3. 事例の産褥経過についてアセスメントを行い、個別の看護援助を考えることができる。 4. 早期新生児期にある児が胎外生活に適応する変化の過程をアセスメントすることができる。 5. 事例に必要な看護援助技術を修得する。 6. 事例を通じて、地域の保健医療福祉チームとの連携・協同について理解する。 7. 産褥期の看護を展開する上で必要な基本的知識を復習する。			
テキスト	1. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論」(医学書院) 2. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論」(医学書院)			
参考書	講義の中で、随時紹介する。 ＊母性看護学のアセスメントに必要なツールは講義時に配布する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	70%	目標への到達状況を筆記試験、小テスト、提出物、により総合的に評価する。 母性看護の対象者に必要な援助を具体的に考えるための課題を課す。詳細は授業で説明する。 小テストでは、妊娠褥婦、および新生児期の看護を展開する上で必要な基礎的知識を問う。	
	レポート			
	小テスト	15%		
	提出物	15%		
	その他			
履修上の留意事項	母性看護活動論Ⅰの学習内容を踏まえて授業は行われます。個人の課題学習をしっかりと行って授業に臨んでください。初回の授業を受ける前に、母性看護活動論Ⅰの事例情報と、看護過程授業資料を読んで臨むこと。また、その資料を必ず持参してください。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を講義に組み込み、理解しやすい授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1 (澤田)	学習の主題	帝王切開術を受ける患者の看護	
		授業内容	帝王切開術を受ける患者の看護を理解する。	
		事前・事後学習	事前学習：母性看護活動論Ⅰの 事後学習：課題の実施と提出	
	2 (澤田)	学習の主題	産褥期の看護過程 ①	
		授業内容	1. 産褥期の褥婦に対するアセスメントを理解する。 2. 褥婦のもつ健康課題を解決するために必要な看護の要点を理解する。	
		事前・事後学習	事後学習：事例の情報をアセスメントする。(課題の実施)	
	3 (澤田)	学習の主題	産褥期の看護過程 ②	
		授業内容	1. 産褥期の看護過程の評価について理解する。 2. 退院後の生活を見通した援助について理解する。	
		事前・事後学習	事後学習：看護援助の評価をまとめる。(課題の実施、提出)	
	4 (澤田)	学習の主題	産褥期の看護過程 ③	
		授業内容	産褥期のマイナートラブルに対する援助を理解する。	
		事前・事後学習	事前学習：事例の情報を読んでおく。 必要な資料を準備する。 事後学習：マイナートラブルに対する援助をまとめる。(課題の実施、提出)	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5 (澤田)	学習の主題	産褥期の看護過程 ④
		授業内容	産褥期のマイナートラブルに対する援助を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：事例の情報を読んでおく。 必要な資料を準備する。 事後学習：マイナートラブルに対する援助をまとめる。(課題の実施、提出)
	6 (澤田)	学習の主題	新生児期の看護過程
		授業内容	早期新生児期にある児が胎外生活に適応する変化の過程を理解する。 早期新生児期にある児のアセスメントと看護援助を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：新生児期の看護に関する課題を実施、提出する。
	7 (全担当教員)	学習の主題	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助 ①
		授業内容	新生児期の看護援助技術（沐浴、全身観察、バイアルサイン測定）
		事前・事後学習	事前学習：看護技術について予習しておく。
	8 (全担当教員)	学習の主題	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助 ②
		授業内容	新生児期の看護援助技術（沐浴、全身観察、バイアルサイン測定）
		事前・事後学習	事前学習：看護技術について予習しておく。 事後学習：自らの看護技術の到達度を評価し、習得のために自己学習を行う。

授業科目	母性看護実習 Maternal Nursing Practicum	担当教員	齋藤 早香枝、澤田 優美、野崎 由希子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	妊娠、分娩、産褥という時期にある女性が健康的に過ごし、次世代を育成するという発達課題を達成していく過程を支援するために必要な看護を学ぶ。また保育園における乳幼児保育に参加し、対象者の発達課題に応じた日常生活の援助と子育て支援についての考えを深める。実践を通じて倫理的配慮に基づいた行動および多職種と協働できる基礎的能力を身につける。		
実習目標	1. 妊娠期から産褥期までのいずれかの過程にある対象者に対し、健康課題を捉え、看護援助の実際を体験する。 2. 保育を受ける乳幼児とその家族への援助を学ぶ。 3. 受け持ち対象者および家族の価値観や権利を尊重し、誠実な態度で実習することができる。 4. 看護学生として他者と協働するうえで基本となる態度を養う。 5. 次世代を育成する発達課題に対する支援と看護者の役割について、自己の学びを考察できる。		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	100％	目標到達度を評価基準に基づき、実習場での実習内容・態度・実習記録（90点）、レポート（10点）をもとに総合的に評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		
履修上の 留意事項	母性看護学に関する基礎知識を身につけて実習に臨むこと。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。		
実習方法	詳細は、実習要項およびオリエンテーション資料を参照のこと。		
実習施設	倶知安厚生病院、札幌医科大学附属病院、市立札幌病院、JCHO 北海道病院、札幌徳洲会病院、勤医協札幌病院、吉田学園くりの木保育園、吉田学園さくら保育園、吉田学園やしの木保育園		

授業科目	精神看護学概論 Introduction to Psychiatric Nursing	担当教員	佐藤 登代子、原田 由香
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	精神看護の概念や精神障がい者問題の社会的背景に対する理解を深めるとともに、人の成長発達の過程や社会状況の中で生じる危機およびその対応について学ぶ。 現在の精神保健医療福祉および精神看護の動向、歴史的変遷、精神保健福祉法などの精神医療に関する法律、精神看護における倫理的問題と人権保障について学び、精神看護および精神保健の現状と課題について総合的な理解を深める。		
到達目標	1. 精神看護学の考え方について理解できる。 2. 精神保健医療福祉の歴史的変遷と現状について理解することができる。 3. 精神看護学の関連理論および E.H. エリクソンの発達理論の特徴について理解できる。 4. 家庭や職場における対人関係が精神保健に及ぼす影響について理解することができる。 5. 精神科領域で用いられる援助技法としての看護モデルについて理解することができる。 6. 精神看護領域における人権擁護と倫理について理解できる。 7. 精神を病むということがどのようなことかについて理解を深める。		
テキスト	萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり ころ・からだ・かかわりのプラクティス」(南江堂) 2015 萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア ころ・からだ・かかわりのプラクティス」(南江堂) 2015		
参考書	* 随時紹介		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	50%	試験：定期試験を実施し、学習到達度を評価する (50%) 提出物：講義時間内に授業内容に関するワークシートを2回課す (20%) その他：各グループにおけるプレゼンテーション (30%)
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他	30%	
履修上の留意事項	・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。 ・事前学習はテキストの該当ページに沿った予習を、事後学習は配布資料にて復習すること。		
実務経験を活かした教育内容	・臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神的健康上の課題について理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (佐藤)	学習の主題	・ガイダンス：本科目の目的・目標・評価方法について ・ころ (精神) の健康とは
		授業内容	・ころ (精神) の健康とは ・精神看護学の基本的な考え方 ・精神障がいとは
		事前・事後学習	・事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。 ・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	2 (佐藤)	学習の主題	精神保健医療福祉の歴史的変遷と現状
		授業内容	・世界における精神医療の歴史的変遷 ・日本における精神医療の歴史的変遷 ・精神保健関連法規
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	3 (佐藤)	学習の主題	精神科リハビリテーションとリカバリー概念
		授業内容	・対象喪失という概念とストレングスモデル ・リカバリー
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	4 (佐藤)	学習の主題	ころの機能と発達
		授業内容	・フロイトのころの構造と発達理論、防衛機制
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5 (佐藤)	学習の主題	ライフサイクルと精神保健①
		授業内容	・乳幼児期・学童期の精神の健康
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	6 (佐藤)	学習の主題	ライフサイクルと精神保健②
		授業内容	・思春期・青年期・成人期・老年期の精神の健康
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	7 (佐藤)	学習の主題	家庭における精神保健
		授業内容	・家庭内のコミュニケーションで起こる精神保健問題
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	8 (佐藤)	学習の主題	職場の精神保健
		授業内容	・職場で起こるハラスメントとその援助
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	9 (原田)	学習の主題	リエゾン精神看護
		授業内容	・リエゾン精神看護とは ・一般病床における精神科的問題と看護 ・看護師のメンタルヘルス ・ゲストスピーカー（CNS）より実務経験に関連した講義を展開してもらう。
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	10 (佐藤)	学習の主題	集団力動論
		授業内容	・SST の理論的背景 ・集団療法の意義
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	11 (佐藤)	学習の主題	・精神看護に用いる理論とモデル①
		授業内容	・治療的人間関係
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	12 (佐藤)	学習の主題	精神看護に用いる理論とモデル②
		授業内容	・セルフケア理論 ・プロセスレコードについて
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	13 (佐藤)	学習の主題	人権を守るために－精神看護における基本的人権と倫理的問題
		授業内容	・人権とは ・医療者が行うべき倫理的配慮 ・精神科医療現場で注意すべきこと ・原則と倫理綱領 ・守秘義務と個人情報の保護 ・患者の権利と人間の尊厳
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	14 (原田)	学習の主題	精神を病むということ①
		授業内容	映画「A Beautiful Mind」視聴
		事後学習	事後学習：ワークシートを整理する。
	15 (原田)	学習の主題	精神を病むということ②
		授業内容	映画「A Beautiful Mind」視聴
		事後学習	事後学習：ワークシートを整理する。

授業科目	精神看護活動論Ⅰ Psychiatric NursingⅠ		担当教員	原田 由香
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	精神疾患に関する病態・治療等の基礎的知識ならびに精神疾患のある人とその家族に対する看護について学ぶ。			
到達目標	1. 精神障がいをもって生きるということについて理解できる。 2. 生物学的モデルとしての脳と精神とのつながり、神経細胞と神経伝達物質について理解できる。 3. 主な精神疾患の病態と診断・治療について理解できる。 4. 精神疾患の代表的な検査と治療法について理解できる。 5. 精神科領域における入院治療と看護の展開について理解できる。 6. 精神障がいをもつ人とその家族に対する看護について理解できる。 7. 地域で暮らす精神障がいをもつ人の生活を支援する方法や制度について理解できる。			
テキスト	萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり ころ・からだ・かかわりのプラクティス」(南江堂) 2015 萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア ころ・からだ・かかわりのプラクティス」(南江堂) 2015			
参考書	* 随時紹介予定			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	80%	到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60点以上を合格とする。 試 験：定期試験を実施し、学修到達度で評価する(80%) 提出物：講義時間内に授業内容に関したワークシートを1回課す(20%)	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	20%		
	その他			
履修上の 留意事項	事前学習を行ったうえで受講すること。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス、手記からの学び	
		授業内容	・精神看護学の考え方、その対象、役割について ・精神の病を持つ人の手記をもとに、精神を病む人のつらさや周囲の対応について考える	
		事前・事後学習	事前にシラバスおよびテキストの該当部分について読んでおく	
	2	学習の主題	精神障がいをもって生きるとは	
		授業内容	・精神障がいをもって生きることについての理解を深める。	
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく	
	3	学習の主題	・脳と精神の繋がり(特別講師：医師)	
		授業内容	・脳の構造と精神機能 ・神経伝達物質と精神機能	
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく	
	4	学習の主題	精神科における代表的な検査と治療	
		授業内容	・精神科における代表的な検査について ・精神科において用いられる代表的な治療について	
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく	
	5	学習の主題	薬物療法、電気けいれん療法を受ける人の看護	
		授業内容	・薬物療法を受ける人の看護 ・電気けいれん療法を受ける人の看護	
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6	学習の主題	対象を理解するための考え方：統合失調症①
		授業内容	・統合失調症の病態と治療
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	7	学習の主題	対象を理解するための考え方：統合失調症②
		授業内容	・統合失調症をもつ人とその家族への支援
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	8	学習の主題	対象を理解するための考え方：気分障がい①
		授業内容	・気分障がいの病態と治療（薬物・認知療法・対人関係療法、電気けいれん療法）
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	9	学習の主題	対象を理解するための考え方：気分障がい②
		授業内容	・気分障がいをもつ人とその家族への支援
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	10	学習の主題	対象を理解するための考え方：精神作用物質関連障がい
		授業内容	・物質関連障がい（アルコール依存症、薬物依存、ゲーム障害）の病態・治療と看護 ・セルフヘルプグループ
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	11	学習の主題	対象を理解するための考え方：行動症候群（摂食障がい）パーソナリティ障がい、性別違和
		授業内容	・生理的障がいおよび身体要因に関連した行動症候群（摂食障がい）、パーソナリティ障がいの病態・治療 ・性別違和の病態・治療と看護
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	12	学習の主題	対象を理解するための考え方：心身症、神経症性障がい、ストレス関連障がい
		授業内容	・心身症の病態・治療と看護 ・神経症性障害の病態・治療と看護 ・ストレス関連障害の病態・治療と看護
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	13	学習の主題	対象を理解するための考え方：心理的発達の障がい（ゲストスピーカー：CNS）
		授業内容	・発達障害
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	14	学習の主題	地域での自立、統合への支援
		授業内容	・偏見・差別・スティグマ ・精神の健康に関する普及啓発活動 ・精神科訪問看護
		事前・事後学習	事前にテキストの該当部分について読んでおく
	15	学習の主題	精神科領域における看護過程、看護診断
		授業内容	精神科領域で看護過程を展開する際の考え方やアセスメント、看護問題の特徴について学ぶ。
		事前・事後学習	・事前：ゴードンのアセスメントパターンについて復習しておく。

授業科目	在宅看護論Ⅰ Home Care NursingⅠ		担当教員	針金 佳代子、石村 珠美
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	多くの人は、病気や障がいを抱えても住み慣れた地域や自宅で暮らし続けたいという希望を持っている。在宅看護では、療養者のニーズにこたえ、支援することが求められており、近年その役割は増大している。そこで本科目では、対象となる在宅療養者や家族を理解し、在宅看護の目的と理念、看護職の役割・機能、そしてともに対象を支援する関係機関や職種、社会資源を学習する。また、在宅療養者に対する看護過程の展開方法を学習する。			
到達目標	1. 在宅療養者と家族が暮らす地域社会の現状を理解する 2. 在宅看護の理念と目的、特徴を学び、看護職者の役割・機能を理解する 3. 在宅看護の対象となる療養者と家族を理解する 4. 在宅療養者と家族を支援する関係機関・職種、社会資源を理解する 5. 地域包括ケアシステム、制度・政策を理解する 6. 在宅療養者と家族に対する看護過程の展開方法を理解する			
テキスト	1. 秋山正子「系統看護学講座統合分野 在宅看護論」(医学書院) 2. 正野逸子・本田彰子「関連図で理解する 在宅看護過程」(メヂカルフレンド社)			
参考書	1. 臺有桂他編「ナースング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア」(メディカ出版) 2. 臺有桂他編「ナースング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支えるケア」(メディカ出版) 3. 宇都宮宏子他編「看護がつながる在宅療養移行支援」(日本看護協会出版会)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	80%	目標の到達状況を下記の視点から評価し60点以上を合格とする。 ①課題レポート(20点):講義をふまえて「在宅看護の役割」「在宅看護において必要な態度やコミュニケーション」に関する考えを記述する。 ②定期試験(80点):到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。	
	レポート	20%		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	・本科目では、「疾病や障がいを抱え、在宅で暮らし続けている生活者」の視点でこれまでの履修科目と関連付けながら履修すること ・レポートは学習の手引きに沿って書くこと			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (針金)	学習の主題	ガイダンス 在宅看護の目的、QOLを考えた在宅看護	
		授業内容	本科目の学習目的・目標および学習内容と方法・評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト等を説明する 在宅看護の目指すもの、提供される場、QOL、生活している地域を理解する	
		事前・事後学習	事前:シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく 事後:講義を振り返り、学びを深める	
	2 (針金)	学習の主題	在宅看護の対象者の理解	
		授業内容	家族や住まい、住み方を視野に入れた支援 1.「生活者」の視点から在宅療養者を捉える 2.在宅療養者の特徴(年齢・疾患・障がいなど)を理解する 3.ICFについて理解する	
		事前・事後学習	事前学習:テキストを読む 事後学習:在宅看護の対象者の特徴について学びを深める	
	3 (針金)	学習の主題	在宅看護対象者としての家族	
		授業内容	1.システム理論を用いて在宅看護の対象者としての家族の捉え方を理解する 2.在宅看護の対象者としての家族支援の視点を理解する	
		事前・事後学習	事前学習:テキストを読み「家族とは」について考えておく 事後学習:「家族支援」の特徴について学びを深める	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (石村)	学習の主題	在宅看護に求められている看護師の役割と機能
		授業内容	在宅看護に求められる看護師の役割と機能を以下の視点から考える ・地域包括ケアケアシステム ・訪問看護の重要性
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：「在宅看護の役割」についてレポートを提出する（A4 用紙 1 枚 1500 字程度）
	5 (石村)	学習の主題	在宅療養の支援
		授業内容	1. 在宅療養の提供の場とそれぞれの特徴 2. 入退院・入退所など、療養の場の移行時における看護師が行う支援
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、在宅療養の場について理解しておく 事後学習：それぞれの場における看護師の役割の特徴について学びを深める
	6 (針金)	学習の主題	在宅療養に関わる法令・制度とその活用
		授業内容	1. 在宅看護に関わる法令の変遷と歴史的背景 2. 在宅看護の法的根拠 3. 訪問看護制度とサービス提供の具体的内容
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、各法令について学習をしておく 事後学習：在宅看護に関わる法令・制度について学びを深める
	7 (針金)	学習の主題	在宅療養者と家族を支える社会保障制度
		授業内容	1. 在宅療養者を支える社会保障制度 2. 訪問看護サービスとケアマネジメントにおける社会資源の活用 3. 多職種連携の必要性
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、訪問看護制度、ケアマネジメントについて学習しておく 事後学習：訪問看護制度、ケアマネジメントについて学びを深める
	8 (石村)	学習の主題	在宅看護過程の特徴
		授業内容	在宅看護過程の特徴を以下の視点で理解する ・病院で行われる看護との違い ・対象者の生活や価値観の多様性
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：在宅看護過程の特徴について学びを深める
	9 (石村)	学習の主題	在宅療養上のリスクマネジメント、権利保障
		授業内容	在宅看護におけるリスクマネジメントの特徴を以下の視点から理解する ・個人の尊厳や自己決定 ・個人情報開示 ・成年後見、虐待防止 ・災害時の訪問看護の役割と心構え
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：在宅で注意すべきリスクおよび権利保障について学びを深める
	10 (石村)	学習の主題	在宅看護介入時期別の特徴
		授業内容	在宅看護介入時期の理解 ・在宅療養準備期 ・在宅療養移行期 ・在宅療養安定期 ・急性増悪期 ・終末期（看取り期） ・在宅療養終了期
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：講義を振り返り、学びを深める
	11 (石村)	学習の主題	信頼関係の構築、コミュニケーションと態度、在宅看護における倫理的課題
		授業内容	1. 信頼関係が築かれるコミュニケーション技術のポイント 2. 訪問看護において必要な態度 3. 在宅看護における倫理的課題
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、コミュニケーションについて復習する 事後学習：「在宅看護において必要な態度やコミュニケーション」についてレポートを提出する（A4 用紙 1 枚 1500 字程度）
	12 (石村)	学習の主題	終末期の療養者に対する看護
		授業内容	在宅看護の看護展開（終末期前期、安定期、終末期・臨死期、死亡直後）と看護の特徴
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む 事後学習：講義を振り返り、学びを深める

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	13 (石村)	学習の主題	在宅看護過程の展開方法①
		授業内容	1. 在宅看護過程の基本構造とアセスメントの枠組み 2. アセスメント項目と情報整理の方法
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読む（「在宅看護過程」メヂカルフレンド社） 事後学習：講義を振り返り、学びを深める
	14 (石村)	学習の主題	在宅看護過程の展開方法②
		授業内容	アセスメントの結果の構造化による課題の抽出方法や目標設定方法
		事前・事後学習	事前学習：テキストの事例展開を読む 事後学習：講義を振り返り、学びを深める
	15 (石村)	学習の主題	在宅看護過程の展開方法③
		授業内容	計画立案（具体策の特徴）と評価方法
		事前・事後学習	事前学習：テキストの事例展開を読む 事後学習：講義を振り返り、学びを深める

授業科目	在宅看護論Ⅱ Home Care NursingⅡ		担当教員	石村 珠美、針金 佳代子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	本科目では、在宅看護論Ⅰで学んだ内容をもとに、在宅療養者の日常生活を「生活行為」として総合的な視点で捉え、在宅看護を展開する知識・態度・技術を学ぶ。			
到達目標	1. 在宅療養者と家族への基本的な生活援助技術を理解できる 2. 在宅で行われる医療処置技術について理解できる 3. 在宅療養者とその家族の特性を踏まえた在宅看護の方法・技術について理解できる 4. 在宅療養者と家族の健康状態をアセスメントし、課題を説明できる 5. 在宅看護の計画を評価の視点も含めて立案することができる 6. 在宅療養者とその家族と共に支援する他機関や他職種との連携について考えることができる			
テキスト	1. 秋山正子「系統看護学講座統合分野 在宅看護論」(医学書院) 2. 正野逸子・本田彰子「関連図で理解する 在宅看護過程」(メヂカルフレンド社)			
参考書	1. 臺有桂他編「ナースング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア」(メディカ出版) 2. 臺有桂他編「ナースング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支えるケア」(メディカ出版) 3. 河野あゆみ編「強みと弱みからみた 在宅看護過程」(医学書院)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	60%	目標の到達状況を下記の視点から評価し60点以上を合格とする。 ①看護過程演習(30点):到達目標で決める提出物によって評価する ②課題レポート(10点):ゲストスピーカーの講義を受けた内容に基づき学びを記述する。 ③定期試験(60点):到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。	
	レポート	10%		
	小テスト			
	提出物	30%		
	その他			
履修上の留意事項	・在宅看護論Ⅰおよびこれまで学んだ看護技術を復習すること ・グループワークに積極的に参加すること ・レポートは学習の手引きに沿って書くこと			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1 (石村)	学習の主題	ガイダンス 対象の特性に応じた看護 ① 要介護高齢者の看護	
		授業内容	・本科目の学習目的・目標および学習内容と方法・評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト、演習の進め方、課題等を説明する ・糖尿病、高血圧症を抱える要介護高齢者とその家族の特性と看護を学ぶ	
		事前・事後学習	事前学習:シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく 事後学習:講義内容を復習する	
	2 (石村)	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ② 認知症、精神疾患の療養者の看護	
		授業内容	認知症、精神疾患の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ	
		事前・事後学習	事前学習:テキストを読んでおく 事後学習:講義内容を復習する	
	3 (石村)	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ③ 脳血管疾患、脳神経疾患の療養者の看護	
		授業内容	脳血管疾患、パーキンソン病の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ	
		事前・事後学習	事前学習:テキストを読んでおく 事後学習:講義内容を復習する	
	4 (石村)	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ④ 在宅酸素療法を必要とする療養者の看護、小児の療養者の看護	
		授業内容	COPDの療養者、小児の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ	
		事前・事後学習	事前学習:テキストを読んでおく 事後学習:講義内容を復習する	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5 (石村)	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ⑤ 神経難病の療養者の看護
		授業内容	ALS の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	6 (石村)	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ⑥ 終末期の療養者の看護
		授業内容	終末期の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	7-8 (針金) (石村) 他	学習の主題	医療管理を要する療養者の看護とリハビリテーション①②
		授業内容	在宅療養者を支える実践者（ゲストスピーカー）から講義を受け、在宅看護技術を学ぶ 1. 在宅における皮膚・排泄ケア（褥瘡創傷ケア、人工肛門、人工膀胱、膀胱留置カテーテル） 2. 在宅におけるリハビリテーション
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：「ゲストスピーカーの講義を受けての学び」についてレポートを提出する（それぞれ A4 1 枚 1500 字程度）
	9-12 (針金) (石村) 他	学習の主題	在宅における看護過程の展開①②③④
		授業内容	グループワーク（4 名～ 5 名）を実施する 1. 学生個々に取り組んだアセスメントを持ち寄り、グループ内で共有し、全体像と対象理解を共有する 2. 学生個々に作成した看護計画の内容を共有し、訪問時の看護計画を立案する 3. 訪問時の看護計画から一場面を設定したロールプレイを考える
		事前・事後学習	事前学習：個人で考えた看護過程をメンバーに伝えられるように準備しておく 事後学習：演習の内容を深めておく
	13-14 (針金) (石村) 他	学習の主題	在宅における看護過程の展開⑤⑥
		授業内容	訪問時の看護計画を発表し、ロールプレイを実施する 1. 訪問時の看護計画を発表する 2. 訪問時の看護計画に沿ってロールプレイを実施する 3. 発表とロールプレイを振り返る
		事前・事後学習	事前学習：発表準備を行う 事後学習：個人で演習のまとめを行う
	15 (針金) (石村) 他	学習の主題	在宅における看護過程の展開⑦ まとめ
		授業内容	1. 在宅における看護過程の展開から学んだことをグループで振り返る 2. 在宅看護論 II のまとめ
		事前・事後学習	事前学習：他のグループの発表をふまえ、自己の学びをまとめる 事後学習：グループワークや発表での学びを活かし、事例に関するアセスメント・関連図・看護計画を追加・修正し、提出する

授業科目	医療安全論 Patient Safety & Disaster Nursing		担当教員	相馬 幸恵、福岡 啓子、葛西 陽子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	医療・看護における「安全」の基本的な考え方を理解し、リスクに対する感受性と判断力を磨き、看護の質と医療安全の関連について考える。特に、看護専門職としての責務、医療安全の基本的な考え方、医療安全と看護の質、患者の安全対策、感染防止、事故防止等について理解を深める。また、災害に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期における看護について理解する。			
到達目標	1. 医療安全を学ぶことの意義を理解する。 2. 医療安全の重要性と医療安全のためのシステムについて理解する。 3. 医療事故に伴う看護職の法的問題について理解する。 4. 医療事故のメカニズムを理解する。 5. 起こりやすい医療事故とその対策について考察することができる。 6. 医療安全管理と医療の質、看護の質との関連について理解する。 7. 感染によるリスクと感染防止対策について理解する。 8. 災害に関する基本的知識を学習し、災害時における看護の役割と機能について理解する。			
テキスト	小林美亜編集「医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力（改訂第2版）」（学研メディカル秀潤社）			
参考書	1. 松下由美子他編集「ナースンググラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全」（メディカ出版） 2. 川村治子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践2 医療安全」（医学書院） 3. 川村治子「医療安全ワークブック（第4版）」（医学書院） 4. 山内豊明他編集「医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして」（南江堂） 5. 河野龍太郎「医療におけるヒューマンエラーなぜ間違える どう防ぐ」（医学書院） 6. 坂本史衣「基礎から学ぶ医療関連感染対策標準予防からサーベイランスまで 改訂第3版」（南江堂） 7. 満田年宏「ナースのための院内感染対策 CDC ガイドラインを中心に考える基本と実践一」（照林社） 8. 酒井明子 菊池志津子編集「災害看護」（南江堂） 9. 黒田裕子 酒井明子監修「新版災害看護一人間の生命と生活を守る」（メディカ出版） 10. 小原真理子監修「いのちとこころを救う災害看護」（学習研究社）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	相馬 50％ 福岡 25％ 葛西 25％ 目標到達状況を定期試験（筆記試験）により評価し、60 点以上を合格とする。	
	試験	100％		
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	授業内容の範囲が広いので、テキスト・参考文献で事前・事後学習をしっかりとておきましょう。			
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した臨床看護に関する実務経験に基づき、現場での事例、医療安全・感染対策、災害看護の取り組みなどを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容	
	1 （相馬）	学習の主題	ガイダンス、医療安全を学ぶ意義と医療安全の動向	
		授業内容	1. 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法、テキスト、参考書 2. 医療安全にかかわる基本概念 1) 医療安全を学ぶ意義 2) 医療安全に関わる動向 3) 医療安全に関する用語の定義 3. 医療安全のためのシステムと国や団体の取り組み 4. 医療安全管理と医療（看護）の質の評価	
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する。	
	2 （相馬）	学習の主題	医療事故における法的責任	
		授業内容	1. 医療事故に伴う看護職の法的責任 2. 看護倫理と医療安全	
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	3 (相馬)	学習の主題	医療事故のメカニズムと事故防止
		授業内容	1. 医療事故発生のメカニズム 1) ヒューマンエラー 2) 人間特性 3) 環境 2. 事故分析と事故対策
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する。 事後学習：事前学習に講義内容を追加し、整理する。
	4 (相馬)	学習の主題	病院組織における医療安全対策
		授業内容	1. 病院組織における医療安全対策の実際 1) 誤薬 2) 医療機器・医療用具のトラブル 2. チーム医療からみる医療事故とその対策
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する。 事後学習：医療安全についてのこれまでの学習のノート整理をする。
	5 (相馬)	学習の主題	起こりやすい医療事故の特徴とその対策①
		授業内容	1. 転倒・転落 2. 患者誤認
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する。
	6 (相馬)	学習の主題	起こりやすい医療事故の特徴とその対策②
		授業内容	1. 食事・栄養 2. チューブ・カテーテル類のトラブル
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する。
	7 (相馬)	学習の主題	起こりやすい医療事故の特徴とその対策③
		授業内容	1. 皮膚障害 2. 個人情報の取り扱い 3. 患者からの暴力
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する。
	8 (福岡)	学習の主題	感染管理の授業ガイダンス、感染の基礎知識
		授業内容	1. 感染管理の授業を進めるにあたって ・学習目標・内容・方法等について 2. 感染に関する基礎的知識について ・感染とは ・医療関連感染について ・医療関連感染コントロールが難しくなった背景 *学生の事前学習に対する質問をしながら進める。
		事前・事後学習	事前学習：感染免疫学で学んだことを復習してくる。
	9 (福岡)	学習の主題	感染防止①
		授業内容	1. スタンダードプリコーションと感染経路別予防策 ・CDC ガイドラインによる感染経路別予防策 ・スタンダードプリコーションについて ・スタンダードプリコーションのねらい ・スタンダードプリコーションの実際 2. 接触感染予防策 3. 飛沫感染予防策 4. 職業感染防止
		事前・事後学習	事前学習：感染防止策としてのスタンダードプリコーションについてノートに整理する。 事後学習：事前学習に講義内容を追加・修正してまとめる。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10 (福岡)	学習の主題	感染防止② 感染予防策
		授業内容	1. 処置・ケア時の感染防止 ・患者環境 ・皮膚・粘膜のケア 2. 血流感染防止 ・血流感染とは ・血流感染の経路と要因 ・血流感染のリスク因子 ・感染防止策 3. 尿路感染防止 ・尿路感染とは ・感染防止策 4. 院内感染肺炎防止 ・院内感染肺炎の病態生理と危険因子 ・感染防止策 5. 手術部位感染防止 ・手術部位感染とは ・手術部位感染のリスク ・感染防止策
		事前・事後学習	事前学習：感染の種類とその要因及びそれぞれの感染防止策についてノートに整理する。 事後学習：事前学習のノートに授業内容を追加・修正しながら、理解を深める。
	11 (福岡)	学習の主題	感染に関する法的事項、認定看護師（感染管理）の役割
		授業内容	1. 感染症法について ・歴史的変遷 ・基本理念、基本方針等 ・法律の内容について 2. 認定看護師（感染管理）の役割と機能 3. 認定看護師が行う感染管理の実際
		事前・事後学習	事前学習：感染症法について参考書を参考にしてみとめる。認定看護師の役割と機能についてこれまでの学習から予習する。 事後学習：医療における感染によるリスクとその感染予防策と感染管理における看護師の役割について指定用紙にレポートする。
	12 (葛西)	学習の主題	災害看護の授業ガイダンス、災害看護の歴史的背景、災害と災害医療・災害看護に関する基礎知識
		授業内容	1. 災害看護の授業を進めるにあたって - 学習目標・内容・方法等について 2. 災害看護の歴史的背景 3. 災害・災害看護の定義 4. 災害の種類による疾病構造の特徴 5. 災害サイクル各期における特徴
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読んで、授業の構造をイメージし、災害看護に対する疑問を明らかにする。 事後学習：授業を想起し、災害の構造について理解を深める。
	13 (葛西)	学習の主題	災害時の看護活動の実際と実践に必要な知識
		授業内容	1. 国内外における災害関係機関（行政及び諸機関）の役割・支援体制 2. 災害時要援護者への看護 3. 災害が及ぼす被災者・援助者への心理的影響とこころのケア 4. 災害時に必要な技術 ・トリアージ法
		事前・事後学習	事前学習：災害サイクル各期の看護活動の特徴と看護の役割について、自身の思考を整理し、疑問を明らかにする。 事後学習：疑問が明らかにできたか、授業で学んだことを整理する。
	14 (葛西)	学習の主題	災害への備え
		授業内容	1. 災害時への備え 2. 初動体制 3. 災害訓練 4. 避難所運営
		事前・事後学習	事前学習：災害発生を想定し、事前に考えられる準備について学習する。 事後学習：講義・演習内容から、災害の影響を少なくするために必要な準備について学んだことを整理する。
	15 (葛西)	学習の主題	まとめ
		授業内容	1. 災害看護の歴史的背景、災害と災害医療・災害看護に関する基礎知識 2. 災害時の看護活動の実際と実践に必要な知識 3. 災害への備え
		事前・事後学習	事後学習：災害看護の重要性と災害時に看護職が果たす役割について学んだことを整理する。

授業科目	看護学研究法 Research Methods in Nursing		担当教員	木津 由美子、末光 厚夫、吉田 祐子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・通年		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	看護学の研究の意義・目的、研究過程の概観、研究方法、研究論文の書き方、発表等に関する基礎知識を習得し、看護課題研究で活用できることを目的とする。研究を進めるにあたって必要とされる文献検索の方法や活用方法、研究論文の読み方、帰納的、演繹的推論や研究課題にマッチした研究デザイン、データ収集方法と分析方法について理解するとともに、看護研究における倫理について理解する。また、研究計画書の意義と作成方法について学習する。			
到達目標	1. 看護学の研究の意義と目的を理解できる。 2. 文献検索の方法および論文をクリティークする視点が理解できる。 3. 帰納的、演繹的推論や研究課題にマッチした研究デザインと研究の種類について理解できる。 4. 看護研究を進めるにあたって研究者に求められる倫理について理解できる。 5. 量的研究・質的研究の種類と進め方を理解できる。 6. 量的研究で用いられる統計について理解できる。 7. 研究計画書の意義と作成の過程を理解できる。 8. 研究成果のまとめ方および公表する意義について理解できる。			
テキスト	1. 桂 敏樹他「かんたん看護研究」(南江堂)			
参考書	1. 黒田裕子「黒田裕子の看護研究 step by step」(医学書院) 2. 谷津裕子「Start Up 質的看護研究」(学研メディカル秀潤社) 3. 横川博英(監) 藤林和俊「看護研究をはじめるための統計と臨床疫学―研究デザインから検定方法の理解に役立つ」(学研メディカル秀潤社) 4. 李 節子「看護研究ころえ帳 -- 研究の基本からプレゼンテーションまで」(医歯薬出版)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	70%	課題(研究計画書・文献クリティークの成果)などの提出物を30%、定期試験を70%で総合して評価をします。なお定期試験を自己都合による理由で欠席した場合は評価の対象になりません。詳細については初回で説明をします。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	30%		
	その他			
履修上の 留意事項	4年次の「看護課題研究」につながる科目です。基本をしっかり学んでください。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (木津)	学習の主題	ガイダンス 研究とは何か	
		授業内容	・本科目の目的、目標、内容、履修展開、評価について理解する。 ・研究とは何か 看護研究の意義と目的、その過程を理解する。	
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。	
	2 (木津)	学習の主題	研究過程の概観、研究デザインと研究方法	
		授業内容	・演繹的推論と帰納的推論を理解する。 ・研究デザインに沿った研究方法について理解する。	
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。	
	3 (木津)	学習の主題	研究倫理	
		授業内容	・研究における倫理的配慮の原則を理解する。	
		事前・事後学習	事後学習：看護研究を倫理的に進めるために必要な視点を整理する。	
	4 (木津他)	学習の主題	文献検索と文献検討①	
		授業内容	・文献検討の意義を理解する。 ・文献をクリティークする視点を理解する。	
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5 (木津他)	学習の主題	文献検索と文献検討②
		授業内容	・文献検索の方法について理解する。 ・文献を入手する方法を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：興味・関心のある研究テーマを考えておく。 事後学習：興味・関心のある研究テーマについて検索し、文献を取り寄せる。文献カードを作成する。
	6 (末光)	学習の主題	研究と統計
		授業内容	・研究に用いられる統計の基本を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み直し、授業内容を復習する。
	7 (木津)	学習の主題	量的研究法①
		授業内容	・量的研究法の種類と方法の概要を理解する。 ・概念枠組みについて理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。
	8 (木津)	学習の主題	量的研究法②
		授業内容	・質問紙法の手順と実際を理解する。 ・使用する尺度の妥当性と信頼性、標準化について理解する。 ・介入研究の手順と実際を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。
	9 (木津)	学習の主題	量的研究法③
		授業内容	・量的研究論文を既習のクリティークの視点から読み理解する。
		事前・事後学習	事後学習：量的研究論文をクリティークする。
	10 (木津)	学習の主題	質的研究法①
		授業内容	・質的研究とは何かを理解する。 ・質的研究の特徴と種類について理解する。
		事前・事後学習	事後学習：講義内容を復習し、量的研究と質的研究の違いを整理する。
	11 (木津)	学習の主題	質的研究法②
		授業内容	・質的研究におけるデータ収集と分析方法を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：講義時に配付する質的研究論文を読んでおく。
	12 (木津)	学習の主題	質的研究法③
		授業内容	・質的研究論文を既習のクリティークの視点から読み理解する。
		事前・事後学習	事後学習：講義内容を復習し、質的研究論文をクリティークする。
	13 (木津) (吉田)	学習の主題	研究計画書作成①
		授業内容	・研究計画書作成の意義と構成について理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。
	14 (木津) (吉田)	学習の主題	研究計画書作成②
		授業内容	・研究計画書の作成過程の実際を理解する。
		事前・事後学習	事後学習：配布資料を読み授業内容を整理する。
	15 (木津)	学習の主題	研究成果の発表 看護課題研究のテーマについて
		授業内容	・研究成果を発表する方法について理解する。 ・研究論文の構成と論文作成時の留意事項を理解する。 ・自らの研究テーマについて考える。
		事前・事後学習	事後学習：自らの研究テーマを明らかにし、課題シートを作成する

授業科目	看護管理論 Nursing Management		担当教員	相馬 幸恵、浪岡 まさみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	看護におけるマネジメントの概念、看護サービスのマネジメントの概念について学び、看護組織を運営していくために必要な考え方を理解する。また、質の高い看護サービスを提供するための看護管理のあり方、多様な看護実践の場における看護マネジメントの実際を学ぶ。			
到達目標	1. 看護管理の概念、看護を取り巻く諸制度について理解する。 2. 看護サービスのマネジメントの概念について理解する。 3. マネジメントに必要な知識と技術について理解する。 4. 多様な看護実践の場における看護マネジメントのあり方について理解する。			
テキスト	上泉和子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理（第10版）」（医学書院）			
参考書	小林美亜編集「看護学テキスト 統合と実践 看護管理」（学研メディカル秀潤社） 手島恵・藤本幸三編集「看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル（改訂第2版）」（南江堂）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	100％	相馬 60％ 浪岡 40％ 目標到達状況を定期試験（筆記試験）により評価し、60点以上を合格とする。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	看護管理は、既習の授業すべてに関連があります。これまでの学修を振り返り授業に臨んでください。			
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した看護管理に関する実務経験に基づき、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容	
	1 （相馬）	学習の主題	ガイダンス、看護管理の概念	
		授業内容	1. ガイダンス 2. 看護におけるマネジメントの概念と変遷 1) マネジメントとは 2) マネジメントプロセス 3) マネジメントの変遷	
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、これまでに学んだことからこの授業内容についての疑問点を明らかにしておく。テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：授業内容をノートに整理する。	
	2 （相馬）	学習の主題	看護を取り巻く諸制度、政策	
		授業内容	1. 看護職と法制度 2. 看護職の教育制度 3. 医療制度	
		事前・事後学習	事前学習：看護職に関連する法律および医療制度について、これまで学んだ授業科目の内容、テキストの該当部分から整理する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。	
	3 （相馬）	学習の主題	看護組織論	
		授業内容	1. 組織構造・理念と組織図 2. 看護組織 3. 協働と連携（チーム医療）	
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (相馬)	学習の主題	看護サービスのマネジメント①：サービス提供論
		授業内容	1. サービスとは 2. サービスの質 3. サービス提供体制 4. サービスの評価・認証
		事前・事後学習	事前学習：看護サービスのマネジメントについて、テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
	5 (相馬)	学習の主題	看護サービスのマネジメント②：情報・リスク管理
		授業内容	1. 情報マネジメント 2. 安全管理
		事前・事後学習	事前学習：医療安全の講義を復習する。また、テキストの該当部分を読み、情報・リスク管理についてまとめる。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。
	6 (浪岡)	学習の主題	人的資源活用論①
		授業内容	1. モチベーション 2. ストレスマネジメント 3. 労務管理・ワークライフバランス
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。
	7 (浪岡)	学習の主題	人的資源活用論②
		授業内容	1. 継続教育 2. 目標管理 3. キャリア開発
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する。
	8 (浪岡)	学習の主題	リーダーシップ論
		授業内容	1. リーダーシップとメンバーシップ 2. 看護管理者の役割
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する。

授業科目	公衆衛生看護学概論 Introduction to Public Health Nursing		担当教員	近藤 明代
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	公衆衛生看護の概要と社会的機能、活動目的・理念、対象や展開方法の特性を理解する			
到達目標	1. 公衆衛生看護の発生と発展過程を学び、公衆衛生看護の社会的機能を理解する。 2. 公衆衛生看護の定義、目的、役割、理念について理解する。 3. 公衆衛生看護の対象特性を理解する。 4. 公衆衛生看護の展開方法の特性を理解する。			
テキスト	1. 標美奈子著者代表「標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論」(医学書院) 2. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる」(メディックメディア)			
参考書	1. 大国美智子「保健婦の歴史」(医学書院) 2. リリアン・ウォルド「ヘンリー・ストリートの家」(日本看護協会出版会) 3. 木下安子「近代日本看護史」(メヂカルフレンド社) その他授業に必要な文献は、その都度配布する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	100%	公衆衛生看護の概要と社会的機能、活動目的、理念、対象や展開方法の特性に関する定期試験(筆記試験)を実施し、目標の到達度を評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	・毎回、シラバスの「学習の主題」「授業内容」を念頭に置きながら授業内容を理解する。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問の解決は先延ばしせずに、その場あるいは授業終了後に担当教員に質問してください。			
実務経験を 活かした教育内容	保健師として公衆衛生看護活動を実施してきた実務経験者の立場から、実際の活動事例も紹介しながら本科目の目標である公衆衛生看護学の基本となる考え方を伝えます。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	公衆衛生看護の概念/定義、社会的機能/役割、活動の場	
		授業内容	本科目の目的・目標、授業内容と、評価方法、履修上の留意点について説明する。 公衆衛生看護の概念/定義、社会的機能/役割、活動の場について講義する。	
		事前・事後学習	事後学習:教科書、授業で使⽤したプリントをもとに、学習内容を復習する	
	2	学習の主題	公衆衛生看護活動の理念と活動理論	
		授業内容	公衆衛生看護の理念 公衆衛生・公衆衛生看護の発展過程と諸理論	
		事前・事後学習	事後学習:教科書、授業で使⽤したプリントをもとに、学習内容を復習する	
	3	学習の主題	公衆衛生看護の対象特性	
		授業内容	公衆衛生看護の対象特性	
		事前・事後学習	事後学習:教科書、授業で使⽤したプリントをもとに、学習内容を復習する	
	4	学習の主題	公衆衛生看護の歴史	
		授業内容	公衆衛生看護の発生と発展過程	
		事前・事後学習	事後学習:教科書、授業で使⽤したプリントをもとに、学習内容を復習する	
	5	学習の主題	公衆衛生看護展開方法の特性①	
		授業内容	公衆衛生看護展開方法の全体像 地域社会を対象とする看護過程	
		事前・事後学習	事後学習:教科書、授業で使⽤したプリントをもとに、学習内容を復習する	
	6	学習の主題	公衆衛生看護展開方法の特性②	
		授業内容	個人・家族・グループ・地域組織の健康課題への介入方法	
		事前・事後学習	事後学習:教科書、授業で使⽤したプリントをもとに、学習内容を復習する	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	公衆衛生看護展開方法の特性③
		授業内容	地区担当・業務担当 「地域における保健師の保健活動に関する指針」 (平成 25 年 4 月 19 日付 健発 0419 第 1 号) について
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使ったプリントをもとに、学習内容を復習する
	8	学習の主題	公衆衛生看護展開方法の特性④
		授業内容	関係機関・関係職種・地域資源との連携と地域システム構築
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使ったプリントをもとに、学習内容を復習する

授業科目	公衆衛生看護活動論Ⅰ Public Health NursingⅠ		担当教員	安藤 陽子、近藤 明代、小川 克子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	地域で生活する個人・家族の健康の維持増進・疾病の予防と回復に向けた支援方法（健康相談、家庭訪問、健康診査、健康教育、グループ支援）を理解し、各方法を展開するための基礎的能力を習得する。			
到達目標	1. 公衆衛生看護で用いられる支援方法の全体構造を理解する。 2. 個人・家族の健康問題解決・課題達成のために用いられる支援方法（健康相談、家庭訪問、健康診査、健康教育、グループ支援）の特徴、内容を理解する。 3. 健康相談、家庭訪問、健康教育、グループ支援を展開する基礎的能力を習得する。			
テキスト	1. 中村裕美子編「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」（医学書院） 2. 村嶋幸代編「最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」（メヂカルフレンド社）			
参考書	1. 宮坂忠夫／川田智恵子／吉田亨編著「最新保健学講座別巻1 健康教育論」（メヂカルフレンド社） その他は講義の時に必要な参考文献を紹介する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	70％	・定期試験（70点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の到達度を評価する。 ・家庭訪問演習（15点）：保健師が実施する家庭訪問による支援方法について、①家族アセスメント②家庭訪問計画立案、③家族の主体性を促す関わり の視点で評価する。 ・健康教育演習（15点）：保健師が実施する小集団を対象とした健康教育の特徴を踏まえた支援方法について、①地域特性を踏まえた集団のアセスメント②健康教育事業の立案③住民自らが健康を管理するための集団への支援方法の視点で評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	30％		
その他				
履修上の留意事項	・授業で学んだ内容は、教科書や参考文献を活用して学びを深めてください。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度解決できるよう主体的な行動を心がけてください。			
実務経験を活かした教育内容	・地域での保健師活動の実務経験に基づき、公衆衛生看護場面で用いる支援方法について授業を行います。 ・地域での事例などを基にした演習を実施し、支援方法の実際をイメージ化できるように授業を展開します。			
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容	
	1 （安藤）	学習の主題	公衆衛生看護で用いられる支援方法の全体構造と特徴／公衆衛生看護における健康相談の概念、目的、対象、展開方法、特徴、留意点	
		授業内容	1. 個人・家族・小集団を対象とした健康問題の解決・課題達成のための支援方法の意義を学ぶ。 2. 公衆衛生看護における健康相談の概念、目的、対象を学ぶ。 3. 公衆衛生看護における健康相談の位置づけ、展開方法、特徴、留意点を学ぶ。	
		事前・事後学習	事前学習：公衆衛生看護概論で学んだ公衆衛生看護展開方法の特性について復習し受講する。 事後学習：教科書や参考文献を活用しながら、学習した内容を深める。	
	2 （安藤）	学習の主題	健康診査・検診の目的、種類、対象、方法、留意点	
		授業内容	公衆衛生看護における健康診査・検診の目的、種類、対象、方法、留意点について学ぶ。	
		事前・事後学習	事後学習：教科書や参考文献を活用しながら、学習した内容を深める。	
	3-4 （安藤）	学習の主題	公衆衛生看護における家庭訪問の目的、対象、機能、特徴、展開方法、留意点	
		授業内容	1. 公衆衛生看護における家庭訪問の目的を学ぶ。 2. 公衆衛生看護における家庭訪問の対象、機能、特徴を学ぶ。 3. 公衆衛生看護における家庭訪問の位置づけ、留意点を学ぶ。 4. 公衆衛生看護における家庭訪問の展開方法について学ぶ。	
		事前・事後学習	事前学習：家族看護論で学習した内容を復習して準備を行う。 事後学習：教科書や参考文献を活用しながら、学習した内容を深める。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5-6 (安藤) (小川)	学習の主題	家庭訪問の展開方法を学ぶ。
		授業内容	1. 提示された事例をアセスメントし、健康課題を明確化する。 2. 対象への支援目標を立てる。 3. 家族を一単位とした支援計画を立案し、評価方法を検討する。 4. 家庭訪問の演習（ロールプレイ）の準備を行う。
		事前・事後学習	作成した家庭訪問の計画は、ロールプレイ終了後に提出する。
	7-8 (安藤) (小川) (近藤)	学習の主題	家庭訪問の展開方法を学ぶ。
		授業内容	1. 訪問対象役と保健師役、ロールプレイ観察役を設定し演じる。 2. 家庭訪問場面を評価し、次回計画を検討する。 3. ロールプレイの体験から家庭訪問の留意点を学ぶ。
		事前・事後学習	実際に家庭訪問のロールプレイを体験し、対象者の反応から自身が実施した支援を評価し提出する。
	9-10 (小川)	学習の主題	公衆衛生看護における健康教育の目的、対象、展開方法、特徴、留意点
		授業内容	1. 公衆衛生看護における健康教育の目的、対象、特徴、留意点を学ぶ。 2. 健康教育の企画・実施・評価について学ぶ。
		事前・事後学習	健康教育論で学習した内容を復習して受講する。
	11-13 (小川) (安藤)	学習の主題	健康教育の展開方法を学ぶ。
		授業内容	1. 提示された小集団をアセスメントし、健康課題を明確化する。 2. 小集団への支援目標を立てる。 3. 小集団への支援計画を立案し、評価方法を検討する。 4. 健康教育で使用する教育媒体を作成する。 5. 健康教育の展開（ロールプレイ）の準備を行う。
		事前・事後学習	健康教育論で学習した内容を復習して準備を行う。 立案した支援計画は、ロールプレイ終了後に提出する。
	14-15 (小川) (安藤) (近藤)	学習の主題	健康教育の展開方法を学ぶ。
		授業内容	1. 対象集団のメンバー役と保健師役、ロールプレイ観察役を設定し交互に演じる。 2. ロールプレイの体験から小集団（グループ）支援の留意点を学ぶ。
		事前・事後学習	実際に小集団への健康教育のロールプレイを体験することから学んだ小集団への健康教育の特徴と留意点をレポートにして提出する。

授業科目	公衆衛生看護活動論Ⅱ Public Health Nursing Ⅱ		担当教員	小川 克子、近藤 明代、安藤 陽子、 宮崎 由美子、渡辺 千鶴
対象学科・ 年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	2単位
授業目的	コミュニティ（地域共同社会）の健康課題の明確化、健康と福祉水準の向上を図る保健計画の立案、介入方法の選択・評価を展開する基礎的能力を身につけるために、地域住民を対象とする公衆衛生看護過程の理論・方法を用いて地域のコミュニティアセスメントを演習する。また、住民自身の、住民自身による、住民自身のための保健施策実現のために、住民と共働して実施する地域活動のあり方を学習し、人々が所属する集団や地域組織の健康課題の解決、健康レベルの向上を構成員自身が主体的に実現する過程とその支援方法を理解する。			
到達目標	1. 人々の健康を規定する環境としての地域社会を理解し、公衆衛生看護における地域社会の概念規定をする。 2. コミュニティを看護の対象として認識し、コミュニティの健康課題を抽出、地域保健計画や公衆衛生看護計画の立案実施、評価、即ちコミュニティを対象とする看護過程を理解する。 3. ヘルスプロモーションの理念に基づき、コミュニティで生活する人々が自らの健康を維持・増進・回復するための主体的・自主的な言動を支援する理論、展開方法を理解し、支援のための基礎的能力を身につける。 4. 地域組織、地域ケアシステム構築のための支援方法を理解する。 5. 対象別健康課題別公衆衛生看護活動の展開方法を理解する。			
テキスト	1. 松田正己他「標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動」（医学書院） 2. 佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド（第2版）」（医歯薬出版） 3. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2021/2022」（厚生労働統計協会） 4. 医療情報科学研究所編「公衆衛生がみえる 2020-2021」（メディックメディア）			
参考書	授業ガイダンス又は授業時間に随時紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	90％	・定期試験（90点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。 ・コミュニティ看護アセスメント演習において、レポートを①地域で生活する人々の健康と生活実態に必要なデータを特定、収集できる②収集したデータを整理し、分析を行うことができる③地域の概要、地域の基本構造（コア）から地域に住んでいる人々の特性を把握するの観点で評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	10％		
	その他			
履修上の 留意事項	・本科目では健康課題を、対象別、課題別に捉えます。学習内容が非常に多いので、毎回の授業内容を整理し、復習を行い、確実に理解してください。 ・グループやコミュニティを対象とする支援方法を学びます。公衆衛生看護活動Ⅰでの学習する支援方法と関連づけて学習してください。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度担当教員に質問すること。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の体験を講義に織り交ぜながら、公衆衛生看護活動の実践に必要な知識を理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1 （近藤）	学習の主題	公衆衛生看護学体系における本科目の位置づけと、地域で生活する人々や居住している地域社会の特性に即した公衆衛生看護活動展開方法の概要	
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意点、学習評価方法について説明する。 1. コミュニティを対象とする公衆衛生看護過程の理論と方法 2. 集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法の諸相 3. 対象別健康課題別公衆衛生看護活動	
		事前・事後学習	事後学習：テキストを参考にして本科目の全体像を捉える。	
	2 （近藤）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（1）母子保健活動①	
		授業内容	わが国の近現代における母子保健福祉の動向と公衆衛生看護の役割	
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること	
	3 （近藤）	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（2）母子保健活動②	
		授業内容	児の成長発達段階別健康課題に即した母子保健活動	
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (近藤)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（3）母子保健活動③
		授業内容	ハイリスク児への母子保健活動
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	5 (宮崎)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（6）産業保健活動①
		授業内容	産業保健の歴史と現代の産業保健活動体系
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	6 (宮崎)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（7）産業保健活動②
		授業内容	働く人々の健康問題の諸相
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	7 (宮崎)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（8）産業保健活動③
		授業内容	産業保健看護職の役割と業務
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	8 (小川)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（9）成人保健活動①
		授業内容	我が国の近現代における成人保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	9 (小川)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（10）成人保健活動②
		授業内容	成人期の健康課題別保健活動
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	10 (小川)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（12）高齢者保健活動①
		授業内容	わが国の近現代における高齢者保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	11 (小川)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（13）高齢者保健活動②
		授業内容	高齢者の健康課題別保健活動
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	12 (小川)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（15）精神保健活動①
		授業内容	わが国の近現代における精神保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	13 (小川)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（16）精神保健活動②
		授業内容	精神障がい者の健康課題別精神保健活動
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	14 (渡辺)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（4）学校保健活動①
		授業内容	学校保健の歴史と学校保健活動体系
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	15 (渡辺)	学習の主題	対象別健康課題別公衆衛生看護活動（5）学校保健活動②
		授業内容	学校における健康課題と養護教諭の役割と業務
		事前・事後学習	事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること

回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	16 (安藤)	学習の主題 対象別健康課題別公衆衛生看護活動（15）感染症保健活動①
		授業内容 わが国の近現代における感染症保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習 事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	17 (安藤)	学習の主題 対象別健康課題別公衆衛生看護活動（16）感染症保健活動②
		授業内容 地域における感染症保健活動の展開
		事前・事後学習 事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	18 (安藤)	学習の主題 対象別健康課題別公衆衛生看護活動（17）難病保健活動①
		授業内容 わが国の近現代における難病保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習 事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	19 (安藤)	学習の主題 対象別健康課題別公衆衛生看護活動（18）難病保健活動②
		授業内容 地域における難病保健活動の展開
		事前・事後学習 事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	20 (小川)	学習の主題 集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法（1）
		授業内容 グループの育成と地域活動への発展における保健師の役割
		事前・事後学習 事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	21 (小川)	学習の主題 集団の健康管理・健康レベル向上を目指した公衆衛生看護介入方法（2）
		授業内容 住民組織・地区組織の育成と保健師の役割
		事前・事後学習 事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	22 (小川)	学習の主題 コミュニティを対象とする公衆衛生看護過程
		授業内容 1. 公衆衛生看護過程とは 2. 地域アセスメント（地域診断）の目的 3. 情報収集の方法と分析 4. 公衆衛生看護過程の理論・モデル・ツール
		事前・事後学習 事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	23 (小川) (安藤)	学習の主題 コミュニティ看護アセスメント演習（1）（地域の概要アセスメント①）
		授業内容 1. コミュニティ看護アセスメント演習ガイダンス 2. データ収集・地区踏査データの加工・判断 3. データ加工・判断
		事前・事後学習 事後学習：授業中に提示した文献とテキストをもとに学習内容を復習すること
	24 (小川) (安藤)	学習の主題 コミュニティ看護アセスメント演習（2）（地域の概要アセスメント②）
		授業内容 アセスメント項目を定めて地域の概要をアセスメントする
		事前・事後学習 事前学習：演習（2）に向けて、各データが示す内容について復習し、各自データ収集を行う
	25 (小川) (安藤)	学習の主題 コミュニティ看護アセスメント演習（3）（地域の概要アセスメント③）
		授業内容 グループメンバーのアセスメントを統合し、地域の概要アセスメントレポートを完成させる
		事前・事後学習 事後学習：地域の概要アセスメントの再確認、修正を行う
	26 (小川) (安藤)	学習の主題 コミュニティ看護アセスメント演習（4）（地域の人々の特性アセスメント①）
		授業内容 アセスメント項目を定めて地域の人々の特性をアセスメントする
		事前・事後学習 事前学習：演習（4）に向けて、各データが示す内容について復習し、各自データ収集を行う

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	27 (小川) (安藤)	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（5）（地域の人々の特性アセスメント②）
		授業内容	地域の人々の特性をアセスメントする
		事前・事後学習	事後学習：地域の人々の特性の再確認、修正を行う
	28 (小川) (安藤)	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（6）（地域の人々の特性アセスメント③）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、アセスメントレポートを作成する
		事前・事後学習	事後学習：地域の概要アセスメント及び地域の人々の特性アセスメントを統合して、アセスメントレポートを作成する
	29 (小川) (安藤)	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（7）（発表とグループディスカッションの準備）
		授業内容	発表とディスカッションの準備を行う。演習を通しての学び、疑問点を整理する
		事前・事後学習	事前学習：発表準備、練習を行う
	30 (小川) (安藤) (近藤)	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（8）（発表とディスカッション）
		授業内容	発表とグループディスカッションを行う

授業科目	公衆衛生看護管理論 Management of Public Health Nursing		担当教員	安藤 陽子、近藤 明代
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	公衆衛生看護の目的は、人々が自らの健康や QOL を維持・改善する能力の向上及び人々を取り巻く環境の改善を支援することにより、集団の健康の保持増進・健康障害の予防と回復を促進し、人々の生命の延伸、社会の安寧に寄与することである。公衆衛生看護活動を効果的、能率的に達成するための公衆衛生看護管理の方法について学ぶ。 また、健康危機管理（災害、感染症等）のあり方についても学習する。			
到達目標	1. 公衆衛生看護管理の意義について理解する。 2. 公衆衛生看護管理の方法について理解する。 3. 地域における危機管理について理解する。			
テキスト	標美奈子著者代表「標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論」（医学書院）			
参考書	授業中に適宜、紹介する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	100％	到達目標に関する定期試験によって、目標の達成度を評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	・毎回のシラバスの「学習の主題」「授業内容」を念頭に置きながら事前にテキスト等を確認する。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度解決できるよう主体的な行動を心がけてください。			
実務経験を活かした教育内容	・本科目担当教員が従事した保健師活動を基に、初任期から管理期における公衆衛生看護管理について授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (近藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の概念	
		授業内容	1. 本科目の目的、目標、学習内容、履修上の留意点、評価 2. 公衆衛生看護管理の目的と機能	
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。	
	2 (近藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 1—地域ケアの質の保証	
		授業内容	1. 地域の社会資源の把握 2. 地域の特性を生かした社会資源開発と施策化 3. 保健医療福祉計画の策定	
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。	
	3 (近藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 2—組織運営・管理、業務管理	
		授業内容	1. 組織の目的、各部署の役割 2. 他部門との連携、情報の共有、協働	
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。	
	4 (近藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 3—人材育成	
		授業内容	1. 保健師教育制度の変遷 2. 現任教育の目的と方法 3. 人材育成計画	
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。	
	5 (安藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 4—予算管理、人事管理	
		授業内容	1. 予算の確保、予算の執行 2. 計画的人事配置（管理）	
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用したプリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6 (安藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 5－健康危機管理
		授業内容	1. 健康危機管理とリスクマネジメント 2. 保健活動のリスクマネジメント
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用了プリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。
	7 (安藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 6－災害保健活動
		授業内容	感染症及び自然災害時の危機管理体制と公衆衛生看護業務
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用了プリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。
	8 (安藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 7－情報管理
		授業内容	1. 健康関連情報の収集 2. 情報管理の方法 3. 情報公開 4. 個人情報の保護
		事前・事後学習	事後学習：授業で使用了プリントや教科書をもとに学習した内容を復習する。

授業科目	英語Ⅳ（総合） English IV		担当教員	松尾 文子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	1. 英語の4技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2. 英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。			
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握できる。 2. 専門領域の文献を読むことができる。 3. 自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。			
テキスト	Stay Healthy Paul Stapleton（セングージラーニング 2016）			
参考書	授業中に指示する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	学んだことの理解度を測る定期試験 70%、Unit ごとの Pre-reading activity の提出物 20%、授業の取り組み姿勢 10%で評価する。 定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。	
	試験	70%		
	レポート			
	小テスト			
	提出物	20%		
	その他	10%		
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。また、テキスト（授業中に配布する資料）で取り上げるトピックに関して、自らの視点で考える。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 （担当）	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス / Chapter 1: Healthy Japan	
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点等を説明する。 / 本テキストが編まれた背景を考える。	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。	
	2	学習の主題	Chapter 1: Healthy Japan	
		授業内容	本テキストが編まれた背景を考える。	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。	
	3	学習の主題	Chapter 2: Health and Evolutionary Psychology	
		授業内容	我々の体が環境と相互作用しながら発達してきたことを考える。	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。	
	4	学習の主題	Chapter 2: Health and Evolutionary Psychology	
		授業内容	我々の体が環境と相互作用しながら発達してきたことを考える。	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。	
	5	学習の主題	Chapter 4: Race and Health	
		授業内容	我々の体が環境と相互作用しながら発達してきたことを理解することが、 病気の治療や予防に役立つことを考える。	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。	
	6	学習の主題	Chapter 4: Race and Health	
		授業内容	我々の体が環境と相互作用しながら発達してきたことを理解することが、 病気の治療や予防に役立つことを考える。	
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	Chapter 7: The World's Most Common Disease
		授業内容	健康や医療分野の最新の知見の一端に触れる。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	8	学習の主題	Chapter 7: The World's Most Common Disease
		授業内容	健康や医療分野の最新の知見の一端に触れる。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	9	学習の主題	Chapter 8: Instant Noodles
		授業内容	即席麺が健康に及ぼす影響を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	10	学習の主題	Chapter 8: Instant Noodles
		授業内容	即席麺が健康に及ぼす影響を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	11	学習の主題	Chapter 9: Supplements
		授業内容	サプリメントが健康に及ぼす影響を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	12	学習の主題	Chapter 9: Supplements
		授業内容	サプリメントが健康に及ぼす影響を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	13	学習の主題	Chapter 15: The New Nutrition
		授業内容	栄養に関する新たな発見が長寿につながる可能性があることを学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	14	学習の主題	Chapter 15: The New Nutrition
		授業内容	栄養に関する新たな発見が長寿につながる可能性があることを学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	15	学習の主題	これまでの授業の振り返り
		授業内容	これまで学んだ内容の確認
		事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を復習する。 事後：期末試験の勉強をする。

授業科目	文学と人間 Literature and Humanity		担当教員	畠山 瑞樹
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	文学に触れたとき、その展開や登場人物に様々な感情を抱くのは、異なる世界を知り得るからです。作品を作り出した作者の価値観、登場人物に投影された多様な生き方・考え方に触れることは、他を受容し自己の感性を高め、豊かな人間性を育むことに繋がります。 この講義では、日本の伝統的な文学や文化を通して、現代にも通じる人間・社会・時代の様々な構成要素について考察します。古典文学は「古文」ではなく「作品」です。多くの魅力的な文学作品の読解を通じ、体系的に基礎的な知識や教養を身に付けるとともに、自ら考え表現する力の基礎を培うことを目的とします。			
到達目標	1. 日本の文学や伝統文化についての、基礎的な知識・教養を身に付けることができる。 2. 文学・文化と人間との関わりについて、自ら考え表現することができる。			
テキスト	なし（プリント配布）			
参考書	講義時適宜紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		最終レポート 50％＋各回提出小レポート 50％。最終レポート未提出の場合は評価対象としない。各回提出小レポートは、①講義内容の整理と確認②自らの考察の表現化③出席確認のため、随時実施する。 評価の観点は到達目標に示した2点。講義内容を理解し、日本の文学や伝統文化に関する知識をどれだけ身に付けることができているか、それらを基に自らの考察を深め意見を表現できているかを評価する。	
	レポート	50％		
	小テスト			
	提出物	50％		
	その他			
履修上の 留意事項	1. 古典文学作品を多く読むことになるため留意すること。 2. 進度により、講義で扱う作品および扱う回を入れ替える場合がある。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス	
		授業内容	講義概要・評価方法についての説明 古典文学読解の基本	
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。	
	2	学習の主題	古典文学読解① 上代の文学作品を読む	
		授業内容	生と死・結婚と離婚・穢れについて考える（『古事記』）	
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。	
	3	学習の主題	古典文学読解② 中古の文学作品を読むⅠ	
		授業内容	小公子・いじめについて考える（『竹取物語』『落窪物語』）	
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。	
	4	学習の主題	古典文学読解③ 中古・中世の文学作品を読む	
		授業内容	疫病・災害について考える（『大鏡』『方丈記』）	
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。	
	5	学習の主題	古典文学読解④ 中古の文学作品を読むⅡ	
		授業内容	男と女・個性について考える（『堤中納言物語』『とりかへばや』）	
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。	
	6	学習の主題	日本人と昔話Ⅰ	
		授業内容	享受について考える（『浦島太郎』『桃太郎』ほか）	
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。	
	7	学習の主題	古典文学読解⑤ 中世・近世の文学作品を読む	
		授業内容	宗教・娯楽について考える（説話・御伽草子・黄表紙）	
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	8	学習の主題	日本人と昔話Ⅱ
		授業内容	日本について考える（牽牛織女伝説・義経伝説）
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。

授業科目	国際社会論 International Sociology		担当教員	翁 康健
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバリゼーションの進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。			
到達目標	国際的な時事問題を理解できる社会人をを目指す。			
テキスト	適宜指示をする。また、時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。			
参考書	なし			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		目標の到達状況をレポート（50％）、提出物（30％）、その他（20％）で評価する。 その他には、授業内での発表が含まれる。	
	レポート	50％		
	小テスト			
	提出物	30％		
	その他	20％		
履修上の 留意事項	・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、学生証の提示や講義室からの退出を命じる可能性がある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	世界の地理を知る ①	
		授業内容	いくつかの方法で世界を分類する	
		事前・事後学習	アジアの国々を調べる	
	2	学習の主題	世界の地理を知る ②	
		授業内容	日本は世界の中でどのような立場にあるのかを理解する	
		事前・事後学習	多くの種類の世界地図を調べる	
	3	学習の主題	世界の宗教を知る	
		授業内容	世界の三大宗教について理解する	
		事前・事後学習	宗教について新聞記事を調べる	
	4	学習の主題	人の流れをめぐる問い：移民問題を考える ①	
		授業内容	自由化か 規制か：移民問題を考える	
		事前・事後学習	移民について新聞記事を調べる	
	5	学習の主題	人の流れをめぐる問い：移民問題を考える ②	
		授業内容	格差をめぐる問い：競争か 格差か	
		事前・事後学習	格差について新聞記事を調べる	
	6	学習の主題	統治をめぐる問い ①	
		授業内容	多文化か ナショナルか	
		事前・事後学習	統治について新聞記事を調べる	
	7	学習の主題	統治をめぐる問い ②	
		授業内容	グローバリゼーションの功罪を考える	
		事前・事後学習	グローバリゼーションについて新聞記事を調べる	
	8	学習の主題	まとめ	
		授業内容	国際人とは何か？ について自分の考えを持つ	
		事前・事後学習	これまでの授業の復習	

授業科目	保健医療福祉行政論Ⅱ Health & Welfare Administration II		担当教員	近藤 明代、安藤 陽子、小川 克子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位	
授業目的	1. 保健医療福祉行政の仕組みと行政施策における財政について学ぶ。 2. 主要な地域保健活動の実際と地域保健活動の進め方について学ぶ。 3. 保健医療福祉計画の考え方と策定の基本について学ぶ。 4. 保健医療福祉行政における保健師の役割、栄養士の役割を学ぶ。 5. 地域保健医療福祉計画策定について学ぶとともに、地域の健康問題解決に必要な社会資源の開発や保健・医療・福祉サービスの仕組みの理解の必要性について学ぶ。			
到達目標	1. 地域保健活動の基盤である行政・関係法規・財政の仕組みと機能について理解する。 2. 主要な地域保健活動の実際を知ることによって、地域保健活動の具体的な進め方を理解する。 3. 保健医療福祉行政と地域保健医療福祉計画の策定における保健師や栄養士の役割について理解する。			
テキスト	1. 藤内修二「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院) 2. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2020/2021」(厚生労働統計協会) 3. 医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる 2020-2021」(メディックメディア)			
参考書	1. 「衛生行政大要」(日本公衆衛生協会) 2. 編集・野村陽子「最新 保健学講座7 保健医療福祉行政論」(メヂカルフレンド社) ※その他、必要に応じプリント配付			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	100%	保健医療福祉行政の仕組み、財政、主要な地域保健活動とそれらの計画策定の基本に関する内容の定期試験(筆記試験)を実施し、目標の達成度を評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	保健医療福祉行政の仕組みや関係法規等の概要については3年次に履修済であるが、本授業では更に深く学習するので、事前学習として「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習に努めて授業に臨むこと。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、実際の活動例を紹介しながら、理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (近藤)	学習の主題	保健医療福祉行政の概要	
		授業内容	1. 厚生行政と保健医療福祉行政 2. 保健医療福祉行政の仕組み 3. 地方自治と地方分権 4. 個人情報と個人情報保護	
		事前・事後学習	事前学習:1と2については「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習に努め、さらに3と4については該当箇所を読み疑問点を明らかにする。	
	2 (近藤)	学習の主題	保健医療福祉行政の財政	
		授業内容	1. 国と地方公共団体の財政の仕組み ・財政の意義と機能 ・国家財政 ・地方財政 2. 予算の機能と原則 ・財政民主主義 ・国の予算の手続き ・地方公共団体の予算の手続き	
		事前・事後学習	事前学習:財政は行政施策にとって関係法規を同じく基盤となる要素だが、難しい部分も多いので、事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする。	
	3 (近藤)	学習の主題	健康の概念と公衆衛生の概念	
		授業内容	1. 健康の概念 ・健康の概念の変遷 ・現在の健康観 2. WHO(世界保健機関)の健康に対する考え方 ・WHOの健康に対する考え方 ・WHO憲章と日本国憲法 3. 公衆衛生の概念	
		事前・事後学習	事前学習:教科書を読み疑問点を明らかにする。	
	4 (近藤)	学習の主題	世界と日本の公衆衛生活動の歴史	
		授業内容	1. 世界の公衆衛生活動の歴史 2. 日本の公衆衛生活動の歴史	
		事前・事後学習	事後学習:公衆衛生活動の歴史的発展における欧米諸国と日本の相違点を整理し理解する。	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5 (小川)	学習の主題	地域における主要な保健活動①
		授業内容	1.地方分権と地域保健法 ・地域保健法の制定 ・地域保健法の体系 ・地域保健対策の推進に関する基本的な指針 2.国民健康づくり対策 ・第一・第二・第三次（健康日本 21）・第四次対策（健康日本 21(第2次)）
		事前・事後学習	事前学習：「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学んだ内容を復習する。
	6 (近藤)	学習の主題	地域における主要な保健活動②
		授業内容	3. 母子保健対策
		事前・事後学習	事後学習：母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理する。
	7 (小川)	学習の主題	地域における主要な保健活動③
		授業内容	4. 成人・高齢者保健対策
		事前・事後学習	事後学習：成人・高齢者保健対策の変遷とともに、保健対策の関係法規についても整理する。
	8 (安藤)	学習の主題	地域における主要な保健活動④
		授業内容	5. 障害者（児）保健対策
		事前・事後学習	事後学習：精神保健対策、難病対策の変遷と、実際の活動を関係法規と関連づけて復習する。
	9 (安藤)	学習の主題	地域における保健活動⑤
		授業内容	6. 感染症対策
		事前・事後学習	事前学習：「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学習した「感染症対策のポイント」を復習する。
	10 (安藤)	学習の主題	地域における主要な保健活動⑥
		授業内容	7. 結核対策
		事前・事後学習	事前学習：結核対策の歴史的変遷と結核の現状と対策の実際について整理しておく。予防接種についても「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習をする。
	11 (近藤)	学習の主題	地域における保健活動①
		授業内容	市町村における主要な保健活動
		事前・事後学習	事後学習：地域における保健活動の授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする。
	12 (近藤)	学習の主題	地域における保健活動②
		授業内容	保健所における主要な保健活動
		事前・事後学習	事後学習：地域における保健活動の授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする。
	13 (小川)	学習の主題	地域保健医療福祉計画①
		授業内容	1. 地方自治体の保健医療福祉計画① ・地方自治体と計画行政 ・地方自治体の保健医療福祉に関する分野別計画
		事前・事後学習	事後学習：地方自治体の行政計画と保健医療福祉計画との関係や課題の理解に努める。
	14 (小川)	学習の主題	地域保健医療福祉計画②
		授業内容	2. 地方自治体の計画策定
		事前・事後学習	事後学習：地域保健医療福祉計画の策定、推進・管理・評価の進め方について復習して理解するとともに、厚生労働省健康局長通知「地域における保健師の保健活動について」(平成25年4月25日健発0419第1号)を読み、計画策定と実施等における保健師の役割について整理し理解する。
	15 (近藤)	学習の主題	地域保健活動の展開
		授業内容	1. 地域保健活動の進め方
		事前・事後学習	事後学習：地域保健活動の基本と保健師・栄養士の役割について各自のノートに整理する。

授業科目	保健統計学Ⅱ Health Statistics Ⅱ		担当教員	志渡 晃一、米田 龍大
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	統計を用いた調査の意義と方法について学習し、地域の健康状態の分析・課題発見に向けた実践力を身に着ける。			
到達目標	① 健康や疾病にかかわる統計の目的と使い方の理解を深める。 ② 統計を用いた調査・研究の基礎を身に着け、広い視点から説明できるようになる。			
テキスト	1. 浅野嘉延「看護学生のための疫学・保健統計学」(南山堂)2018 2. 講義資料を配布する			
参考書	1. 福富和夫、橋本修二「保健統計・疫学」(南山堂)2018			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	100%	目標の到達状況を定期試験で評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	定期試験を受験しなかった場合、評価の対象としません。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (志渡)	学習の主題	ガイダンス	
		授業内容	講義目的、内容の概説	
		事前・事後学習		
	2 (志渡)	学習の主題	保健統計①	
		授業内容	人口統計・指標の振り返り	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	3 (志渡)	学習の主題	保健統計②	
		授業内容	保健統計・指標の振り返り	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	4 (志渡)	学習の主題	調査法概論①	
		授業内容	研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ①	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	5 (米田龍大)	学習の主題	調査法概論②	
		授業内容	精神保健研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ②。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	6 (米田龍大)	学習の主題	調査法概論③	
		授業内容	統計調査と事例調査、調査の倫理	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	7 (米田龍大)	学習の主題	各論①	
		授業内容	標本抽出の方法、データの種類と尺度	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	8 (米田龍大)	学習の主題	各論②	
		授業内容	調査票の作成、実査の方法	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	9 (米田龍大)	学習の主題	演習①	
		授業内容	調査の計画、調査票の作成の実践	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	10 (米田龍大)	学習の主題	演習②
		授業内容	調査の計画，調査票の作成の実践
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	11 (未定)	学習の主題	統計解析①
		授業内容	量的統計における調査技術①（単純集計，要約統計量など）
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	12 (未定)	学習の主題	統計解析②
		授業内容	量的統計における調査技術②（クロス集計，相関など）
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	13 (未定)	学習の主題	統計解析③
		授業内容	量的統計における調査技術③（ χ^2 検定，t 検定など）
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	14 (未定)	学習の主題	統計解析④
		授業内容	量的調査における調査技術④（多変量ロジスティック解析，多重比較など）
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	15 (未定)	学習の主題	まとめ
		授業内容	講義内容の総括
		事前・事後学習	講義内容を復習する。

授業科目	精神看護活動論Ⅱ Psychiatric Nursing Ⅱ		担当教員	原田 由香
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4 年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	講義		単位数	1 単位
授業目的	精神の病いや問題を抱える対象者への看護援助方法を学ぶ。さらに、自己のコミュニケーション能力を培い、これまでの学習内容を精神看護実習で活用できるよう準備する。			
到達目標	1. 精神看護領域における看護過程の概要について理解できる。 2. 紙上事例をもとに看護過程（アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、評価）を展開できる。 3. ロールプレイを通して、精神看護領域における対象者の理解を深めると共にコミュニケーション能力を培う。 4. 精神の健康課題を抱える人の体験談を聞くことにより、精神障がいをもつ人の理解を深める。			
テキスト	萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり ころ・からだ・かかわりのプラクティス」(南江堂) 2015 萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア ころ・からだ・かかわりのプラクティス」(南江堂) 2015			
参考書	田中美恵子編「精神看護学—学生・患者のストーリーで綴る実習展開 第2版」(医歯薬出版) 2015 ＊随時紹介予定			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60 点以上を合格とする。 小テスト：講義時間内において授業内容に関するテスト（30％） 提出物：看護過程の展開に関する課題（30％） ロールプレイ、体験談に関する 2 回のワークシート（20％） その他：発表、取り組み姿勢（20％）	
	レポート			
	小テスト	30%		
	提出物	30%		
	その他	40%		
履修上の 留意事項	看護過程の展開は復習を行い、必ず個人ワークを行った上でグループワークに取り組むこと。さらに、発表などで気づいたことは青のボールペンで追加や修正を行うこと。			
実務経験を 活かした教育内容	臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神障がいをもつ人への看護援助方法について理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス（目的、目標、評価値）精神看護実践とは 事例を用いての看護過程の展開：①アセスメントのまとめ	
		授業内容	・精神看護実践の目的について理解する。 ・精神領域において重要となる情報やアセスメントについて理解する。	
		事前・事後学習	・春休みの課題 （基礎情報アセスメント・関連図・問題リスト・看護計画提出） ・事前にシラバスを読んでおく	
	2	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：②関連図・問題リスト作成 ＜GW：2 教室＞	
		授業内容	・グループごとに関連図、問題リスト作成に向けて GW を行う。	
		事前・事後学習	・事前学習：事例に関する情報の整理、アセスメントについて見返す。 ・事後学習：グループごとに関連図、問題リストを作成する。	
	3	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：③関連図・問題リスト ＜発表：2 教室＞	
		授業内容	・作成した関連図・問題リストについてグループごとに発表する。 ・関連図、問題リストのまとめ	
		事前・事後学習	・事前学習：グループごとに関連図、問題リストを提出する。 ・事後学習：グループごとに事例の看護計画を立案する。	
	4	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：④看護計画 ＜発表：2 教室＞	
		授業内容	・グループごとに作成した看護計画で代表的なものを発表し、共有する。 ・看護計画のまとめ	
		事前・事後学習	・事前学習：グループごとに作成した事例の看護計画を提出する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：⑤評価
		授業内容	・個人で記載した SOAP についてグループ間で話し合う。 ・ SOAP の書き方に関するまとめ ・看護過程に関する小テスト
		事前・事後学習	・事前学習：個人ワークとして SOAP を記載する。 ・事後学習：追加修正（青）する。
	6	学習の主題	ロールプレイ ＜2 教室＞
		授業内容	・グループメンバーでロールプレイを実施する。
		事前・事後学習	・事後学習：ロールプレイに関する学びについて整理する。
	7	学習の主題	ロールプレイ ＜2 教室＞
		授業内容	・グループメンバーでロールプレイを実施する。 ・ロールプレイに関する意見交換（GW）
		事前・事後学習	・事後学習：ロールプレイに関する学びについて整理する。
	8	学習の主題	精神障がいのある人についての理解を深める。
		授業内容	ゲストスピーカーの精神障がいをもつ人から体験談を聞き、意見交換する
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。 事後学習：資料に目を通し復習する。

授業科目	精神看護実習 Psychiatric Nursing : Practicum	担当教員	原田 由香
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2 単位
ねらい	心を病む人とのかかわりを通し、対象者について生活の観点から理解を深め、必要な看護活動および精神医療チームにおける多職種との協働について学ぶ。		
実習目標	1. 受持ち患者とのかかわりを通して、精神保健上の健康課題により日常生活や、対人関係に困難を抱えている人について理解を深める。 2. 受持ち患者の発達段階や健康状態・生活の状況をアセスメントし、精神の健康が生活におよぼす影響について理解する。 3. 受け持ち患者とのコミュニケーションの振り返りを通して得られた気づきを援助技術として活用し患者 - 看護師関係について学ぶ。 4. 受け持ち患者を生活者の視点から患者を取り巻く環境や多職種チームによる協働の意義を学ぶ。		
実習内容	具体的な内容については実習要項にそって実習オリエンテーションにおいて説明する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	100％	実習評価表に基づき、実習施設での実習内容、実習態度、実習記録をもとに総合的に評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		
履修上の 留意事項	これまでの学習を生かし、真摯な姿勢で積極的に取り組むこと。		
実務経験を 活かした教育内容			
実習方法	1. 入院生活をおくる患者を 1 名受け持ち、患者理解を試み、必要な看護活動を展開する。 2. 病棟でのミニカンファレンス（毎日）、第 1 週目および第 2 週目の学内カンファレンス（各 1 回）において、実習で生じた疑問や問題点について検討したり、グループ間で実習での学びを共有する。 3. 1 グループ学生 2～4 名を各病院に配置して実習する。		
実習施設	岡本病院、旭山病院、さっぽろ香雪病院、五稜会病院、大谷地病院		

授業科目	看護課題研究 Nursing Research		担当教員	木津 由美子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・通年		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	2単位
授業目的	自己の看護への興味や疑問から自らの課題を設定し解決するために、これまで学習してきた情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの汎用的技能と看護学研究法で学んだ基礎的知識をもとに適切な手法を選択して計画的かつ系統的に探究することで、創造的思考力を養う。また、研究計画書を作成し、討議や発表を通して論理的表現や批判力の向上を図るとともに研究の基礎的知識・技術・態度を養う。			
到達目標	1. 自己の探求課題を明確にする。 2. 自己の課題に関連する先行文献を検索し、整理することができる。 3. 文献を要約し、批判的に講読することができる。 4. テーマを探求するための計画書を作成することができる。 5. 研究に係る倫理的配慮のもとに、計画書を実施することができる。 6. 研究計画書を発表することができる。 7. 研究の基本的知識・技術・態度を身につける。			
テキスト	なし			
参考書	研究の基礎的な方法については、看護学研究法のテキスト・参考文献に同じ。 課題に関連した文献は、担当教員の指導・助言をもとに各自で検索し活用する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		評価については、ガイダンス時に評価表を提示し説明する。	
	レポート		・研究計画書（60％）	
	小テスト		・発表資料（10％）	
	提出物		・研究計画書作成に対する姿勢（15％）	
	その他	100％	・発表（15％） 以上の評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。	
履修上の留意事項	グループで1年を通して研究計画書の作成を学習します。チームワークを発揮して取り組みましょう。			
実務経験を活かした教育内容	各担当教員は、実務経験者の立場から専門分野の特徴を踏まえて、学生が看護課題を探求できるように演習を展開します。			
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容	
	1 （全担当教員）	学習の主題	本科目の目的・目標・学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項などを説明。	
		授業内容	ガイダンス後、グループに分かれ各担当教員のもと年間スケジュールを立案する。	
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問を明らかにしておく。看護学研究法最終講義時に提出した研究テーマ希望について内容を確認し、ガイダンスに臨む。	
	2～5 （全担当教員）	学習の主題	研究課題の設定①	
		授業内容	担当教員のもとで、研究課題を設定する。 ・グループ・ディスカッション ・研究課題に関する文献検索 ・研究課題の設定	
		事前・事後学習	初回は各自、研究課題に関する考えを明確にしてグループワークに臨む。研究課題に関する文献検索については、担当教員の指導のもと行う。	
	6～10 （全担当教員）	学習の主題	文献検索と整理②	
		授業内容	担当教員のもとで、研究課題に関する文献検索、購読し課題を明確化する。 ・研究課題に関連した文献を収集する。 ・収集した文献を系統的に整理する。 ・整理した文献を購読、要約し、研究課題を明確化する。	
		事前・事後学習	ゼミ前後の学習課題は、担当教員の指示に従い行う。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	11～15 (全担当教員)	学習の主題	文献レビュー③
		授業内容	収集、整理した文献について批判的検討を行う。 ・研究課題に関連した適切な論文を選択する。 ・選択文献を精読し文献カードを作成する。 ・文献の分類、分析、統合により研究課題を概観する。
		事前・事後学習	ゼミ前後の学習課題は、担当教員の指示に従い行う。 文献を批判的に検討し、研究課題に関連した研究背景を概観し、それらをグループ間で共有する。
	16～23 (全担当教員)	学習の主題	研究計画書④
		授業内容	研究課題を明らかにするための研究計画書を作成する ・研究課題が明確である。 ・研究動機が明確である。 ・研究目的に即した文献検索・検討から研究背景が適切に述べられている。 ・研究の意義が看護の視点から述べられている。 ・研究目的を明らかにするための研究方法を選択している。 ・研究目的を明らかにするための対象選択である。 ・研究目的を明らかにするためのデータ収集方法である。 ・倫理的配慮が述べられている。 ・役割分担が適切である。 ・参考・引用文献の記載が適確である。 上記の内容を網羅させた研究計画書の作成に取り組む。
		事前・事後学習	ゼミ前後の学習課題は、担当教員の指示に従い行う。
	24～26 (全担当教員)	学習の主題	発表準備⑤
		授業内容	研究計画書発表準備を行う。 ・発表抄録を作成要領に基づいて作成する。 ・発表内容に即したパワーポイント資料を作成する。 ・発表オリエンテーションに参加する。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割責任を理解する。 ・メンバー間で役割分担を決め発表準備をする。
		事前・事後学習	事前に発表抄録作成要領をグループ間で理解し、共有しておくこと。
	27～30 (全担当教員)	学習の主題	発表オリエンテーションと発表⑥
		授業内容	発表に対して役割分担の責任を理解し、主体的に参加する。 ・タイムスケジュールに沿って発表を行う。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割を担い、学びを共有する。
		事前・事後学習	事前にグループ間で発表練習を行い発表会に臨むこと。

授業科目	リハビリテーション看護論 Rehabilitation Nursing		担当教員	小野 善昭、佐藤 由佳子、村井 昌子、 大橋 和貴
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	リハビリテーションの概念について学び、リハビリテーション看護の基礎的知識・技術・態度について学習する。ここでは、リハビリテーションを必要としている人および家族への看護と保健医療福祉チームとの連携・協働と看護の役割について理解する。また、在宅でリハビリテーションを受けている人々へのケアや健康増進のために健康教育に必要な知識・技術を習得する。			
到達目標	1. リハビリテーションの意味を理解する 2. リハビリテーションにおける看護の役割について理解する 3. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題について理解する 4. リハビリテーションを必要としている人の特徴を理解する 5. リハビリテーションの目的とリハビリテーションに関わる職種の役割について理解し、チーム医療における看護職の役割を理解する 6. リハビリテーションを必要としている人とその家族への看護援助について理解する 7. 在宅でリハビリテーションをしている人とその家族に対する必要な援助について理解する			
テキスト	酒井郁子/金城利雄 編集「リハビリテーション看護 改訂第3版」(南江堂)			
参考書	中西純子/石川ふみよ 編集「リハビリテーション看護論 第3版」(ヌーヴェルヒロカワ) 武田宜子/下村晃子 他「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 第6版」(医学書院) 奥宮暁子他 編集「ナーシンググラフィカ成人看護学⑤ リハビリテーション看護」(メディカ出版) 落合芙美子 監修「新体系看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 第2版」(メヂカルフレンド社)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	60%	到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた障がいをもつ人の生活に関するレポートなど2つの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。	
	レポート	40%		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	事前、事後学習を確実に行って講義に参加してください。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、リハビリテーション看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に佐藤先生からは病院でのリハビリテーション看護、村井先生からは在宅でのリハビリテーション看護について実践を踏まえて授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (小野)	学習の主題	リハビリテーションの意味と看護の役割	
		授業内容	1. ガイダンス 2. リハビリテーションとは 3. 国際生活機能分類 (ICF) の考え方 4. リハビリテーション医療システムと看護の役割	
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを熟読し、目標と内容について確認する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する	
	2 (小野)	学習の主題	リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論	
		授業内容	1. QOL 2. 自立と自律 3. 動機と主体性 4. 社会的不利	
		事前・事後学習	事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する	

回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (小野)	学習の主題 1. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題 2. 生活機能障害のある人とその家族の理解① 授業内容 1-1 リハビリテーションに関する法律や障害者を支える制度 1-2 看護実践に関連する道徳的概念とリハビリテーション看護 1-3 リハビリテーション看護における倫理的葛藤 2-1 身体的・心理的特徴 2-2 生活上の特徴 2-3 家族の特徴 事前・事後学習 事前学習：必要な概念や制度などについて、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。 指示された課題をレポートにまとめ、提出する
	4 (小野)	学習の主題 生活機能障害のある人とその家族の理解② 授業内容 障がいのある人の生活を理解するためのフィールドワーク 事前・事後学習 事前学習：事前に提示された課題に取り組む 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	5 (大橋)	学習の主題 回復過程とリハビリテーション看護 授業内容 1. 急性、回復期、生活期の各ステージにおける対象者の特徴 2. 各ステージにおけるリハビリテーションの目的と看護援助のポイント 3. フレイルとサルコペニア ※生活期に関しては 13 回目で詳細を講義 事前・事後学習 事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	6 (大橋)	学習の主題 呼吸機能障害のある人へのリハビリテーション看護 授業内容 1. 呼吸機能障害のある対象者のリハビリテーションの目的 2. 呼吸リハビリテーションの実際 3. 呼吸リハビリテーションを受けている対象者への看護の実際 事前・事後学習 事前学習：呼吸器疾患および看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	7 (小野)	学習の主題 循環機能障害のある人へのリハビリテーション看護 授業内容 1. 循環機能障害のある人へのリハビリテーションの目的 2. 心臓リハビリテーションの実際 3. 心臓リハビリテーションを受けている対象者への看護の実際 事前・事後学習 事前学習：循環器疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	8 (佐藤)	学習の主題 摂食嚥下障害のある人へのリハビリテーション看護 授業内容 1. 摂食嚥下のメカニズムとその障害 2. 嚥下障害のアセスメント 3. 嚥下障害のある対象者へのリハビリテーション看護 事前・事後学習 事前学習：摂食嚥下障害及びその看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	9 (佐藤)	学習の主題 高次脳機能障害・言語機能障害のある人へのリハビリテーション看護 授業内容 1. 高次脳機能障害とリハビリテーション 2. 言語機能障害とリハビリテーション 事前・事後学習 事前学習：各機能障害及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	10 (佐藤)	学習の主題 脳神経疾患のある人へのリハビリテーション看護 授業内容 1. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーション看護 3. 脳神経疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際 事前・事後学習 事前学習：脳神経疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	11 (佐藤)	学習の主題	運動機能障害のある人へのリハビリテーション看護 1
		授業内容	1. 運動器疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 運動器疾患のある人へのリハビリテーション看護
		事前・事後学習	事前学習：運動器疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	12 (佐藤)	学習の主題	1. 運動機能障害のある人へのリハビリテーション看護 2 2. 障害を有する子どもへのリハビリテーション看護
		授業内容	1-1 運動器疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際 2-1 障害を有する子どもとリハビリテーション 2-2 障害を有する子どもへのリハビリテーション看護の実際
		事前・事後学習	事前学習：前回学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	13 (村井)	学習の主題	在宅リハビリテーションを行っている人へのリハビリテーション看護 1
		授業内容	在宅リハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助 1. 生活期リハビリテーションが行われる場とその特徴 2. 在宅でのリハビリテーションの実際 3. 地域リハビリテーション
		事前・事後学習	事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	14 (村井)	学習の主題	在宅リハビリテーションを行っている人へのリハビリテーション看護 2
		授業内容	在宅でリハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助
		事前・事後学習	事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	15 (小野)	学習の主題	リハビリテーション医療・看護の課題・まとめ
		授業内容	1. 障がいのある人の医療、教育や生活の格差 2. ロボット工学とリハビリテーション 3. 災害とリハビリテーション 4. まとめ
		事前・事後学習	事前学習：これまでの講義資料を確認する 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

授業科目	がん看護論 Oncology Nursing	担当教員	小島 悦子、大串 祐美子、渡辺 一代
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	がん看護の実践の基盤となる知識・技術を理解するとともに、がん医療における多職種連携の重要性と看護師の役割を理解する。		
到達目標	1. がんの疫学をもとに、各がんの特徴について概説できる。 2. がんサバイバーの全人的苦痛について説明できる。 3. がんサバイバーの全人的苦痛に対する支援について説明できる。 4. がん医療の中で生じる倫理的な課題を理解し、その対応について意見を述べることができる。 5. がん医療におけるチームアプローチの重要性と看護の役割について説明できる。		
テキスト	小松浩子 他「系統看護学講座別巻 がん看護学」(医学書院)		
参考書	1. 車谷典男 他「疫学・保健統計 看護師・保健師・管理栄養士を目指す」(建帛社) 2. 矢ヶ崎香「サバイバーを支える看護師が行うがんリハビリテーションがん看護実践ガイド」(医学書院) 3. 近藤まゆみ「臨床・がんサバイバーシップ“生きぬく力”を高めるかわり Series, 看護のエスプリ」(仲村書林) 4. 近藤まゆみ・梅田恵み 編「がん看護の日常にある倫理」(医学書院) 5. 西川光則 他「本人の意思を尊重する意思決定支援 事例で学ぶアドバンス・ケア・プランニング」(南山堂) 6. 総合的な思春期・若年成人 (AYA) 世代のがん対策のあり方に関する研究班 編「AYA 世代がんサポートガイド医療従事者が知っておきたい Support guide for adolescents and young adults with cancer」(金原出版) 7. 平田秀紀 他「すぐに役立つがん放射線治療看護入門」(金原出版) 8. 国立がん研究センター看護部 他編「国立がん研究センターに学ぶがん薬物療法スキルアップ」(南江堂) 9. 小迫富美恵 他「がん体験者との対話から始まる就労支援看護師とがん相談支援センターの事例から」(日本看護協会出版会)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		講義中・後に、授業で理解したこと、授業内容に関連した意見・考え、感想を所定の用紙にまとめた提出物から、記述内容の具体性、到達目標の達成度、授業態度を合わせて評価する (100%)。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100%	
	その他		
履修上の留意事項	質の高いがん看護の実践について一緒に考えていきましょう。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (小島)	学習の主題	ガイダンス がんの疫学
		授業内容	1. がんの罹患率、死亡率、生存率
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	2 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの理解 (1)
		授業内容	1. がんサバイバーシップの考え方 2. がんサバイバーシップの歩むプロセス 3. がんサバイバーの全人的苦痛
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	3 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの理解 (2)
		授業内容	1. がんのもつ社会的影響 2. がん医療に伴う経済的問題 3. がんサバイバーの就労
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの支援 (1)
		授業内容	1. 意思決定支援 2. がん医療の中で生じる倫理的課題 3. 多職種によるチームアプローチ
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	5 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの支援 (2)
		授業内容	1. 日本におけるがん対策 2. 早期からの緩和ケア 3. サポートグループ、セルフヘルプグループ / ピアサポート
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	6 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの支援 (3)
		授業内容	1. 全人的苦痛のアセスメント
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	7 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの支援 (4)
		授業内容	1. 全人的苦痛を緩和するケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	8 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの支援 (5)
		授業内容	1. がん手術療法の特性 2. 手術療法ががん患者の心身に及ぼす影響とケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	9 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの支援 (6)
		授業内容	1. がん薬物療法と使用される薬剤の特性 2. 薬物療法に伴う有害事象とそれに対するケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	10 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの支援 (7)
		授業内容	1. がん放射線療法と使用される放射線の特性 2. 放射線療法に伴う有害事象とそれに対するケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	11,12 (大串)	学習の主題	化学療法認定看護師の活動
		授業内容	1. 化学療法認定看護師の役割 2. 化学療法認定看護師の行う看護の実際
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	13,14 (渡辺)	学習の主題	がん看護専門看護師の活動
		授業内容	1. がん看護専門看護師の役割 2. がん看護専門看護師の行う看護の実際
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	15 (小島)	学習の主題	がん看護のまとめ
		授業内容	1. 質の高いがん看護を提供するために看護師としてできることを考える
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習

授業科目	クリティカル看護論 Critical Nursing		担当教員	小野 善昭、春名 純平、村中 沙織
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	生命の危機状態（重篤・急変状態）にある患者・家族への看護の基本的な知識・技術を理解するために、患者・家族の特徴や倫理的問題の基本概念を理解し、クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解する。また、クリティカルな場における看護師の果たす役割について理解するとともにクリティカルケアの専門性について考察する。			
到達目標	1. クリティカルケアに関する基本概念について理解できる 2. クリティカルな状態にある患者の病態とその特徴を理解できる 3. クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解できる 4. 呼吸管理、循環管理、代謝管理が必要な患者への看護について理解できる 5. 代表的な疾患に特徴的な看護について理解できる			
テキスト	明石恵子,益田美津美他「新体系看護学全書 経過別成人看護学 1急性期看護：クリティカルケア」（メヂカルフレンド社）			
参考書	道又元裕他「系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学」（医学書院） 佐藤まゆみ,林直子他「成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護・クリティカルケア（改訂第3版）」（南江堂） 池松裕子「クリティカルケア看護Ⅰ－患者理解と基本的看護技術」（メヂカルフレンド社） 池松裕子「クリティカルケア看護Ⅱ－アセスメントと看護ケア」（メヂカルフレンド社） 池松裕子他「クリティカルケア看護論」（ヌーヴェルヒロカワ） 山勢善江「救急・クリティカルケアにおける看取り（Nursing Mook 49）」（学研） 山勢博彰他「救急・重症患者と家族のための心のケア－看護師による精神的援助の理論と実践」（メディカ出版） 黒田裕子他「クリティカルケア看護 完全ガイド」（医歯薬出版）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	60%	目標達成状況を定期試験（60％）、レポート（40％）により総合的に評価する。 講義中に授業内容に応じた危機的状況にある事例に関するレポートなど 2つの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。	
	レポート	40%		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	本科目に関係するこれまでの学習について復習し、事前学習を行って授業に参加してください。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、クリティカル看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に春名先生、村中先生からは CNS としての活動も踏まえて授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容	
	1 （小野）	学習の主題	ガイダンス、基本概念	
		授業内容	1. ガイダンス 2. クリティカルケアの定義 3. クリティカルケア看護の対象と特徴	
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする	
	2 （小野）	学習の主題	クリティカルケア看護師に求められる能力	
		授業内容	1. 予測力と判断力 2. 知識・技術 3. 役割	
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する	
	3 （小野）	学習の主題	患者・家族の心理面の安定を図るための援助	
		授業内容	1. 危機理論 2. ストレスコーピング 3. 家族看護	
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する	

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	4 (小野)	学習の主題	侵襲に伴う生体反応
		授業内容	1. 生体反応の推移 2. 神経・内分泌系反応 3. サイトカインの作用様式 4. 全身性炎症反応症候群（SIRS） 5. 代謝性抗炎症反応症候群（CARS）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	5 (春名)	学習の主題	呼吸不全患者への看護
		授業内容	1. 呼吸不全と人工呼吸器装着の適応 2. 人工呼吸の主な換気様式 3. 全身への影響・合併症 4. 観察とケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	6 (春名)	学習の主題	鎮痛・鎮静、せん妄予防とケア
		授業内容	1. 痛みの評価とマネジメント 2. 鎮静の評価とマネジメント 3. せん妄の評価とマネジメント 4. せん妄患者および家族へのケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	7 (春名)	学習の主題	循環不全患者への看護
		授業内容	1. 循環状態の安定を図るための援助 2. PCPS：経皮的心肺補助装置 3. IABP：大動脈バルーンパンピング
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	8 (春名)	学習の主題	クリティカルケアにおける日常生活援助と早期リハビリテーション
		授業内容	1. 体位管理 2. 清潔援助 3. 栄養管理 4. 活動・睡眠への援助 5. 二次的合併症予防（深部静脈血栓症、褥瘡・皮膚トラブルなど） 6. ICU-AW と廃用症候群の予防
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	9 (小野)	学習の主題	急性腹症患者への看護
		授業内容	1. 急性腹症を起こす疾患 2. 診断と治療 3. 看護ケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	10 (小野)	学習の主題	二次性中枢神経系意識障害のある患者への看護
		授業内容	1. 主な原因となる疾患 2. 意識障害のアセスメント 3. 治療 4. 看護ケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	11 (村中)	学習の主題	外傷患者への看護
		授業内容	外傷患者の特徴と看護ケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	12 (村中)	学習の主題	移植医療、脳死と臓器移植
		授業内容	1. 臓器移植とは 2. 臓器移植の現状 3. 脳死 4. 脳死判定 5. 臓器移植における看護師の役割
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする

学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	13 (村中)	学習の主題	クリティカルケアにおける終末期医療 1
		授業内容	1. クリティカルケアにおける終末期 2. 倫理問題への対応
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	14 (村中)	学習の主題	クリティカルケアにおける終末期医療 2
		授業内容	1. 意思決定支援 2. 緩和ケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	15 (小野)	学習の主題	クリティカルケアと倫理的問題、チーム医療
		授業内容	1. 看護倫理の定義と原則 2. 多職種との協働 3. チーム医療の中の看護師の役割
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

授業科目	慢性看護論 Chronic Care Nursing	担当教員	佐藤 郁恵、加藤 剛寿、渡辺 美和、 長尾 麻由美
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	慢性疾患を持つ人々が病気をセルフマネジメントしていける力を身に付けられるように、看護者は患者一人ひとりの多様な価値観や生き方を理解し、具体的な知識・技術を提供するとともに、さまざまな役割を持った一人の生活者としてコントロール感覚を獲得できるようアプローチしていく必要がある。 本授業では、慢性の病気とともに生活している人の身体的・心理社会的・スピリチュアルなニーズを理解し、慢性の病気とともに自分らしい生活を送るための行動変容を促す看護について考える。 さらには、臨床現場の第一線で活躍する専門・認定看護師からの講義を通して、専門性の高い慢性期看護を発展的に広い視野で捉えることを目的とする。		
到達目標	1. 慢性期及び慢性期看護の特徴を概説できる。 2. 慢性の病気とともに生活している人の身体的・心理社会的・スピリチュアルなニーズを説明できる。 3. 慢性の病気とともに自分らしい生活を送るための行動変容を促す看護について考えることができる。 4. 慢性期看護の専門性について考えることができる。		
テキスト	鈴木久美、他編「成人看護学 慢性期看護 - 病気とともに生活する人を支える 第3 版」(南江堂)		
参考書	1. 岡美智代 編「行動変容をうながす看護」(医学書院) 2. 束めぐみ「進化する慢性病看護」(看護の科学社) 3. 鈴木志津枝・藤田佐和 編「慢性期看護論 第3 版」(ヌーヴェルヒロカワ) 4. 黒江ゆり子 他訳「慢性疾患の病みの軌跡ーコービンとストラウスによる看護モデル」(医学書院) 5. 安酸史子 他「ナースングラフィカ 成人看護学② セルフマネジメント」(メディカ出版) 6. 佐藤栄子 編「事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 第2 版」(日総研) 7. 安酸史子「糖尿病患者のセルフマネジメント教育 エンパワメントと自己効力 改訂2 版」(メディカ出版) 8. P・ディヤング 他「解決のための面接技法 第3 版」「同4 版」(金剛出版) 9. 河口てる子 編「慢性看護の患者教育」(メディカ出版)		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		目標到達状況をレポート・提出物によって評価する。 佐藤 30%：課題レポートのテーマは講義時に説明します。 加藤 70%：プログラムの立案書 30%、発表スライド 30%、事例発表会 10% レポート・提出物の評価基準は、ループリックで提示します。
	レポート	30%	
	小テスト		
	提出物	70%	
	その他		
履修上の 留意事項	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護③～⑥(第4 回、第5 回、第8 回、第13 回)では、それぞれ、看護師役、患者役となり、看護師役は自身の立案した行動変容を促す看護計画を患者役に実践してもらい、実際に1～2 週間後と約1 か月後に、生活習慣の変化が患者役にみられたかの評価までの一連の看護過程を展開していきます。欠席が生じると、看護師役、患者役がペアとなっていることから一連の展開を進めていくにあたり、支障を来すため、全出席できるよう体調管理を十分整えていきましょう。		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (佐藤)	学習の主題	ガイダンス、慢性期看護及び慢性の病気とともに生活している人の特徴
		授業内容	1. 慢性疾患の特徴と看護の役割 2. 慢性の病気とともに生活している人の特徴 3. 症状マネジメントのための統合的アプローチ
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	2 (加藤)	学習の主題	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護①
		授業内容	1. 行動変容を支援するプログラム：EASE (イーゼ) プログラム 2. 行動変容を支援するプログラムで活用する技法
		事前・事後学習	事後学習：第4 回で計画立案の際、活用できるよう講義内容を振り返る
	3 (加藤)	学習の主題	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護②
		授業内容	1. 解決のための面接技法「ソリューション・フォーカストアプローチ」 2. ソリューション・フォーカストアプローチの実践例
		事前・事後学習	事後学習：自身の生活習慣で変えたいと思っているが行動変容が難しいものを記載する(第4 回で患者役時に使用するため)

回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 (加藤)	学習の主題 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護③
		授業内容 1. 患者役からの情報収集 2. 行動変容を支援するプログラムの立案
		事前・事後学習 事後学習：行動変容を支援するプログラムの立案
	5 (加藤)	学習の主題 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護④
		授業内容 1. 行動変容を支援するプログラムの実践
		事前・事後学習 事後学習：実践した際の患者役の言動の記録
	6 (佐藤)	学習の主題 慢性の病気とともに生活している人を理解する (1)
		授業内容 1. 病みの軌跡にもとづく看護のプロセス 2. 慢性の病気とともに生活する人の自己概念への影響
		事前・事後学習 事後学習： テーマにそって課題をまとめる
	7 (佐藤)	学習の主題 慢性の病気とともに生活している人を理解する (2)
		授業内容 1. 慢性の病気とともに生活している人の家族に与える影響 2. 慢性の病気とともに生活している人の社会的役割の変化
		事前・事後学習 事後学習： 課題レポートの提示、詳細は講義時に提示します。
	8 (加藤)	学習の主題 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑤
		授業内容 1. 行動変容を支援するプログラムの実践の中間評価 2. 初期計画の修正 3. 修正後の行動変容を支援するプログラムの実践
		事前・事後学習 事後学習：実践した際の患者役の言動の記録
	9、10 (長尾)	学習の主題 透析看護認定看護師の役割 透析看護認定看護師が行う慢性腎臓病を抱えて生活する人の看護
		授業内容 1. 透析看護認定看護師の役割 2. 透析看護認定看護師の慢性腎臓病の人への看護の実際 3. キャリア形成
		事前・事後学習 事後学習：リアクションペーパー
	11、12 (渡辺)	学習の主題 慢性疾患看護専門看護師の役割 慢性疾患看護専門看護師が行う糖尿病を抱えて生活する人の看護
		授業内容 1. 慢性疾患看護専門看護師の役割 2. 慢性疾患看護専門看護師の糖尿病の人への看護の実際 3. キャリア形成
		事前・事後学習 事後学習：リアクションペーパー
	13 (加藤)	学習の主題 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑥
		授業内容 1. 行動変容を支援するプログラムの実践の最終評価 2. 発表スライド作成 (立案したプログラム全体のまとめ)
		事前・事後学習 事後学習：発表スライド、原稿作成
	14 (加藤)	学習の主題 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑦
		授業内容 1. 事例発表会
		事前・事後学習 事後学習：リアクションペーパー
	15 (加藤)	学習の主題 慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑧
		授業内容 1. 事例発表会 (第 14 回の続き)
		事前・事後学習 事後学習：リアクションペーパー

授業科目	終末期看護論 Terminal Care Nursing		担当教員	小島 悦子、伊藤 円、青田 美穂、 田中 ひとみ
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	生命を脅かす疾患に伴う問題に直面している患者・家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルなニーズを理解し、患者・家族の QOL を最大限に保つための支援について考える。また、多職種チームアプローチにおける看護師の役割を理解する。			
到達目標	1. 緩和ケア、ホスピスケア、ターミナルケア、エンド・オブ・ライフ・ケアの用語を整理できる。 2. 質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアの実践に必要な要素を説明できる。 3. エンド・オブ・ライフにある患者・家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルなニーズを説明できる。 4. エンド・オブ・ライフにある患者・家族のケアについて説明できる。			
テキスト	田村恵子編「終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」（メヂカルフレンド社）			
参考書	授業内に適宜紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		第1回～第6回の講義中・後に、授業で理解したこと、授業内容および事例への看護や臨地実習の学びに関連した意見・考え・感想を所定の用紙にまとめ、提出する。授業での学びや自分の考え等の具体的記述、授業態度を合わせて評価する（100％）。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	100％		
	その他			
履修上の 留意事項	生命を脅かす疾患に伴う問題に直面している患者・家族に対し、看護職として何ができるのかについて一緒に考えましょう。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (伊藤)	学習の主題	ガイダンス エンド・オブ・ライフ・ケアについて	
		授業内容	1. 緩和ケア、ホスピスケア、ターミナルケア、エンド・オブ・ライフケアとは 2. エンド・オブ・ライフ・ケアの特徴と看護師の役割 3. 自分のエンド・オブ・ライフについて	
		事前・事後学習	事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出する	
	2 (伊藤)	学習の主題	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的課題	
		授業内容	1. エンド・オブ・ライフ・ケアで看護師が直面する倫理的課題 2. アドバンス・ケア・プランニング	
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出する	
	3 (伊藤)	学習の主題	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける症状マネジメント	
		授業内容	1. 終末期に起こる主な症状 2. 終末期における症状マネジメント 3. 症状緩和における多職種連携	
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。 事後学習：リアクションペーパー	
	4 (小島)	学習の主題	家族の悲嘆に対するケア	
		授業内容	1. 喪失、悲嘆、死別とは 2. 家族の悲嘆のアセスメントと援助	
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出する	
	5 (伊藤)	学習の主題	高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア	
		授業内容	1. 高齢者を取り巻く社会状況と終末期を迎える場 2. 高齢者ケアにおける倫理 3. 高齢者の病いの特徴と尊厳を守る援助	
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出する	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	6 (小島)	学習の主題	臨終前後のケア
		授業内容	1. 臨終までのケア 2. エンゼルケア
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出する
	7 (青田)	学習の主題	エンド・オブ・ライフ・ケアの実際（1）
		授業内容	1. 臨死期のケアの実際 2. 看取り時のケアの実際
		事前・事後学習	事後学習：リアクションペーパー
	8 (田中)	学習の主題	エンド・オブ・ライフ・ケアの実際（2）
		授業内容	1. 在宅における緩和ケアと多職種連携の実際 2. 在宅における臨死期のケアの実際
		事前・事後学習	事後学習：リアクションペーパー

授業科目	国際看護論 International Nursing		担当教員	大野 夏代、鈴木 幹子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	グローバリゼーションの概念やグローバリゼーションが健康に与える影響について学び、世界の健康問題、特に途上国を中心に世界の健康問題の現状と対策を理解し、各国の協調により問題を解決するための仕組みを学ぶ。また、社会文化を背景とする健康・疾病概念、及び保健行動の多様性を知り、看護の普遍性と多様性を理解し、より広い視野から看護の果たすべき役割を考察する。さらに、保健医療の国際協力における看護の役割、諸外国の社会経済や文化・教育に起因する健康課題と看護の現地における活動、災害等への国際支援活動に関する基礎知識から、看護活動を通じての国際共存の考え方を習得する。			
到達目標	1. グローバル・ナースィングの概念を理解する。 2. 看護における国際協力、国際交流の現状について理解する。 3. グローバル・ヘルスにおいて看護職である自分自身の果たす役割について考察する。			
テキスト	南裕子監修「国際看護学 - グローバル・ナースィングに向けての展開」(中山書店)			
参考書	近藤麻里「知って考えて実践する国際看護」(医学書院)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験		目標の到達状況を提出物、授業参加(出席率)等により総合的に評価する。 1. 授業内レポートの提出状況、内容から目標 1～3 の到達状況を評価する。 2. 提出物の提出状況、内容から目標 3 の到達状況を評価する。	
	レポート	50%		
	小テスト			
	提出物	50%		
	その他			
履修上の 留意事項	授業の順序は、若干変更する可能性があります			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (大野)	学習の主題	グローバル・ナースィングとは	
		授業内容	1. 国際保健からグローバル・ヘルスへという概念を理解する。 2. グローバリゼーションが与える健康への影響を理解する。 3. 持続可能な開発目標 (SDGs) とその取組を理解する。 テキスト第 1 章	
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 1 章を読み、履修上の疑問点を明らかにする。	
	2 (大野)	学習の主題	社会制度や情報と看護	
		授業内容	1. 開発途上国の以下の健康課題について理解する。 1) リプロダクティブヘルスに関する健康課題 2) 貧困と健康格差 テキスト第 3 章	
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 3 章、第 4 章を読み、履修上の疑問点を明らかにする。	
	3 (大野)	学習の主題	異文化・多文化と看護を一緒に考える①	
		授業内容	1. 在日外国人の保健医療 2. 在外日本人の保健医療 テキスト第 2 章	
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 2 章を読み、履修上の疑問点を明らかにする。	
	4 (大野)	学習の主題	異文化・多文化と看護を一緒に考える②	
		授業内容	1. 在日外国人が日本で経験する医療文化の違いを理解する。 2. 保健医療現場における外国人対応について考える (グループワーク含む)。	
		事前・事後学習	事後学習：「食文化のタブー」について別途指示 (授業内レポート A)	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5 (大野)	学習の主題	異文化・多文化と看護を一緒に考える③
		授業内容	在日外国人のゲストスピーカーによる日本での患者体験
		事前・事後学習	事後学習：p182 課題②（授業内レポート B）
	6 (大野)	学習の主題	国際的看護の活動
		授業内容	1. 国際協力における看護の役割 2. 外国人看護師の研修の受け入れ テキスト第 6 章 3. 国際的看護活動の計画（テキスト付録にある課題⑧）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 6 章を読み、履修上の疑問点を明らかにする。
	7 (大野)	学習の主題	国際的な視野を持つ看護師になるというチャレンジ
		授業内容	1. 国際的看護活動で看護専門職に求められる能力について理解する。 テキスト第 7 章
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 7 章を読み、履修上の疑問点を明らかにする。
	8 (鈴木)	学習の主題	国際的看護の活動（海外における災害医療支援）
		授業内容	1. 国際協力における看護の役割 2. 国際的看護活動の実際
		事前・事後学習	事後学習：講義を受けての学びをレポートにして提出する。

授業科目	看護教育論 Nursing Education		担当教員	稲葉 佳江
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	看護専門職としての自律と発展は看護教育の発展と相補的に関わり合っている。本科目では、看護職の発展と教育がどのような社会的影響を受けながら今日に至ったのかを学び、これからの看護・看護教育を考える。我が国の学校教育制度と看護教育制度、その歴史的変遷・社会的課題を理解する。さらに、本学での教育を振り返り、自らの将来を展望し、キャリア・アップのためのさまざまなプログラムを理解と生涯学習の契機とする。			
到達目標	1. 教育の目的・機能について理解する。 2. 我が国の看護教育制度の変遷と特徴を理解する。 3. 看護教育課程の目的・概要と特徴を理解する。 4. 看護教育における臨地実習の意味を理解し、実習教育のあり方を考える。 5. 看護継続教育を理解し、自己のキャリア・アップ、生涯学習のあり方について考える。			
テキスト	なし			
参考書	1. 小山真理子編「看護教育とカリキュラム」(医学書院) 2. 杉森みどり、舟島なをみ編「看護教育学」(医学書院) 3. グレグ美鈴、池西悦子「看護教育学」(南江堂)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験		・レポート：授業内容を踏まえて、看護教育に関する自分なりの考えを記述しているか等を評価する。 ・その他：授業中の意見交換、グループ学習時の討議への参加状況により評価する。 評価の基準・方法の詳細は開講時のガイダンスで行う。	
	レポート	90%		
	小テスト			
	提出物			
	その他	10%		
履修上の 留意事項	講義日程については不定期になる可能性があるため、事前に十分留意する。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	教育の目的・機能	
		授業内容	1. 「人間と教育」についてグループ討議 2. 討議内容の発表 人間の特性と教育の機能について、討議し、その成果を発表する。	
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく。 討議と発表をもとに、「自己の考える人間の特性と教育機能」について所定用紙にまとめる。	
	2	学習の主題	我が国の学校教育制度と看護教育制度①	
		授業内容	1. 日本国憲法と教育基本法・学校教育法 2. 学校教育制度下の看護教育制度	
		事前・事後学習	事後学習：授業の学び、感想・疑問点を所定用紙に記載する。	
	3	学習の主題	我が国の学校教育制度と看護教育制度②	
		授業内容	1. 保健師助産師看護師法（保助看法）と看護教育制度 2. 各種看護教育課程とその目的、社会的機能	
		事前・事後学習	事後学習：授業の学び、感想・疑問点を所定用紙に記載する。	
	4	学習の主題	我が国の学校教育制度と看護教育制度③	
		授業内容	1. 看護教育課程の法的根拠 ・保助看法と指定規則の関係 ・指定規則の変遷と現行規定 2. 現代の看護教育の動き ・社会の動向と看護教育の大学化 ・看護教育から看護学教育への転換	
		事前・事後学習	事後学習：大学で看護学を学ぶ意義について、自己の考えを所定用紙にまとめる。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5	学習の主題	看護教育の歴史と課題①
		授業内容	1. 戦前の社会的特徴と看護職 2. 戦前の看護職と看護教育
		事前・事後学習	事後学習：授業の学び、感想・疑問点を所定用紙に記載する。
	6	学習の主題	看護教育の歴史と課題②
		授業内容	1. 戦後の社会的特徴と看護職 2. 戦後の看護職と看護教育 3. 看護学教育への発展と課題
		事前・事後学習	事後学習：授業の学び、感想・疑問点を所定用紙に記載する。
	7	学習の主題	臨床指導者に役立つ実習指導
		授業内容	1. 看護教育における臨地実習の目的・意義 2. 臨地実習での学習と評価のポイント 3. 臨地実習における臨床指導者の役割
		事前・事後学習	事後学習：看護教育における臨地実習の意義、臨床指導に関する自分なりの見解を所定の用紙にまとめる。
	8	学習の主題	キャリア・アップのための生涯学習と看護継続教育
		授業内容	1. 生涯学習、継続教育とは 2. 看護継続教育の種類と現行体制について理解し、自己の生涯学習のあり方を考える。
		事前・事後学習	事後学習：生涯学習に臨む自らの計画を立案し、所定の用紙にまとめる。

授業科目	在宅看護実習 Home Care Nursing : Practicum		担当教員	針金 佳代子、石村 珠美、他
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	実習		単位数	2単位
ねらい	在宅における実際の看護活動を通して、疾病や障がいを持ちながら療養している人々とその家族の健康状態や生活状況を理解する。そして、本人や家族の思いや望みを実現できるよう生活を支える看護の実践に必要な基礎的能力を養う。在宅看護の手段である訪問看護を通して在宅看護を理解し、看護師の役割を理解する。			
実習目標	1. 在宅療養者の健康状態、生活状況を、ICFの概念を参考に、身体、心理、環境・生活、家族・介護状況の側面をアセスメントできる 2. 在宅療養者が抱える療養上の課題を理解することができる 3. 在宅療養者の思いや望む生活を可能にするため看護計画を根拠に基づき考えることができる 4. 在宅療養者のニーズに応じた支援方法を理解できる 5. 在宅療養者・家族を支援する地域包括ケアシステムについて理解できる			
実習内容	具体的な内容については実習要項を用いて、実習オリエンテーションで説明する			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	100%	・実習時間の3分の2以上の出席が評価対象となる ・実習評価表に基づき、目標到達度を評価する	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	事前学習を行い、実習に臨んでください。 実習オリエンテーションには必ず出席してください。 看護の対象者は地域で療養しながら生活している人々です。本人と家族がどのような思いを持ちながら生活されているのかに関心を持ち、その生活を支える看護の役割をしっかりと考えてください。実習で受けた説明や体験したことの意味を考えながら学びを深めてください。			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、疾病や障がいをもって生活している対象者と家族に対する在宅看護について理解しやすいように実習指導を行います。			
実習方法	グループ（学生2～3名）毎に、いずれかの訪問看護ステーションで以下の方法に従って実習を行う 1. 実習体制 1) 実習は実習施設1週間、学内実習1週間の計2週間で行う 2. 実習内容 1) 受け持ち事例について：実習中に1事例を受け持ち、看護過程を展開する ・可能な限り、2回以上の訪問看護を実施する 2) 受け持ち事例以外の方への訪問看護や訪問リハビリへの同行、デイケア等への参加し、学びを深める 3) 他機関・他職種親の連携活動を学ぶ機会として、可能な限り「サービス調整会議」「退院予定者の退院支援」等への参加する 4) 行動調整および学生カンファレンス ・実習は、毎日訪問看護ステーション内で実習指導者と行動調整を行い、実習に臨む ・実習終了時には1日の振り返りをする。1週目の最後にはカンファレンスを行う 5) 学内実習は、指定された課題に沿って学習する			
実習施設	医療法人東札幌病院訪問看護ステーション東札幌、医療法人東札幌病院訪問看護ステーションみずほ、医療法人社団豊生会東苗穂訪問看護ステーション、社会医療法人康和会訪問看護ステーションしらかば、愛全会訪問看護ステーションみなみ、愛全会訪問看護ステーションまこまない、愛全会訪問看護ステーションとよひら・ちゅうおう、医療法人徳洲会札幌ひがし徳洲会訪問看護ステーション、社会医療法人恵和会訪問看護ステーション水源池すずらん、株式会社はる日訪問看護ステーション晴日、医療法人札幌山の上病院札幌山の上リハビリ訪問看護ステーション、勤医協さくすい訪問看護ステーション、勤医協つきさむ訪問看護ステーション、勤医協札幌ひがし訪問看護ステーションしのろサブステーション、SOMP ケア株式会社、SOMPO ケア札幌発寒訪問看護、SOMPO ケア株式会社、SOMPO ケア札幌澄川訪問看護、温っとほーむ株式会社訪問看護リハビリテーション温っとほむ、株式会社スマイル訪問看護ステーションピンポンハート、社会福祉法人湊仁会訪問看護ステーションあおば			

授業科目	看護総合実習 Integrative Nursing : Practicum	担当教員	木津 由美子、他
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2単位
ねらい	看護実践能力を培うことをねらいとして、4年間の学習の集大成として既習の学習内容や体験を統合し、複数患者を対象とした看護活動を行うとともに今後の自己課題を明確にすることである。このねらいを達成するために、看護チームの一員として、複数の患者・家族への看護を実践するなかで、看護の優先度ならびに必要性を判断し、今後の基盤となる看護実践能力を身につける。また、保健医療福祉チームが患者・家族を中心にどのように連携・協働しているのかの実際を学ぶ。		
実習目標	1. 対象理解に必要な情報を意図的に収集する。 2. 患者－看護師間のケアの概念に基き、援助的人間関係を形成する。 3. 看護チームの一員として看護実践のなかで生じる多様な状況を判断し実践する。 4. 患者の状況に応じて安全に看護を実践する。 5. 保健医療福祉チームにおける看護職者の果たす役割、機能についての実際を理解する。 6. 実習の全プロセスを通して責任ある態度で実習する。 7. 看護職としての今後の自己課題を明確にする。		
実習内容	具体的な内容については、実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	100%	実習評価基準、出席状況、態度に基づき、目標の到達状況を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		
履修上の 留意事項	実習のオリエンテーションは必ず参加すること。その上で、病棟の特性に合わせた事前学習を必ず行っておく。また、これまでの学習内容（講義・実習等）を復習し、複数の対象者を受け持ってタイムリーに看護実践ができるよう準備を整えておく。		
実務経験を 活かした教育内容			
実習方法	1. 複数患者を受け持ち、看護チームスタッフ / 実習指導者とともに看護を実践する。 2. 看護チームスタッフ / 実習指導者とともに、複数患者のケアの優先度を考え、一日の行動計画を立案・実施する。 3. 必要時、病棟カンファレンスに参加（見学）する。 4. 学生同士で情報を共有したり、協働し看護を実践する。 5. 週1回、教員および施設の実習指導者の参加のもとでケースカンファレンスを行う。 ※詳細は実習要項を参照のこと。		
実習施設	札幌東徳洲会病院、クランク病院、札幌北楡病院、柏葉脳神経外科病院、東札幌病院、札幌徳洲会病院、イムス札幌消化器中央総合病院、札幌医科大学附属病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院、北光記念病院、札幌麻生脳神経外科病院、札幌しらかば台病院、札幌禎心会病院、北海道大野記念病院		

授業科目	実践総合演習 Comprehensive Seminar in Nursing Practice		担当教員	木津 由美子、他 全看護教員
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	本科目では、看護実践に関する既習の知識・技術・態度を統合し、課題を解決するための創造的思考力、看護実践力を養うことを目的とする。さらに、この学習を通して、看護実践能力における自己課題を明確にし、自己成長に必要な対策を自ら立案する能力を養う。			
到達目標	1. 看護技術の習得状況を確認し、具体的な行動レベルで準備、実施することができる。 2. 対象者の状況に合わせて、根拠に基づき看護技術を選択し、実施することができる。 3. 上記の学習過程を通じて自己の課題を整理し、改善・向上のための対策を立てることができる。			
テキスト	なし			
参考書	これまでの専門基礎科目・専門科目で使用したテキスト・参考書 ※その他、学習内容に合わせ、随時紹介する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		目標の達成状況を提出物により総合的に評価する。 ①看護技術チェックリスト（40％） ②日常生活の援助計画（30％） ③自己課題レポート（30％）	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	100％		
	その他			
履修上の留意事項	これまでの知識・技術・態度を振り返り、看護職者としての人間力を養うために、主体的に行動・学習してください。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (木津)	学習の主題	1. ガイダンス 2. 看護技術の総復習①	
		授業内容	1. 本科目の目的・目標・授業内容、評価方法、履修上の留意事項の確認、参考文献類の紹介 2. 看護技術の手順書の作成①	
		事前・事後学習	事前学習：事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。 事後学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。	
	2 (木津)	学習の主題	看護技術の総復習②	
		授業内容	看護技術の手順書の作成②	
		事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する。	
	3 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習③	
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養 ・一時的導尿 ・鼻腔・口腔内吸引 ・酸素療法 ・点滴静脈内注射 ・輸液ポンプ ・採血	
		事前・事後学習	事前学習：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する。	
	4 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習④	
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養 ・一時的導尿 ・鼻腔・口腔内吸引 ・酸素療法 ・点滴静脈内注射 ・輸液ポンプ ・採血	
		事前・事後学習	事前学習：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する。	

回数 (担当)	項目	内容
5 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑤
	授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養 ・一時的導尿 ・鼻腔・口腔内吸引 ・酸素療法 ・点滴静脈内注射 ・輸液ポンプ ・採血
	事前・事後学習	事前学習：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する。
6 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑥
	授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養 ・一時的導尿 ・鼻腔・口腔内吸引 ・酸素療法 ・点滴静脈内注射 ・輸液ポンプ ・採血
	事前・事後学習	事前学習：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する。
7 (木津)	学習の主題	看護技術の総復習⑦
	授業内容	看護技術の手順書の作成③
	事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
8 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑧
	授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養 ・一時的導尿 ・鼻腔・口腔内吸引 ・酸素療法 ・点滴静脈内注射 ・輸液ポンプ ・採血
	事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
9 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑨
	授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養 ・一時的導尿 ・鼻腔・口腔内吸引 ・酸素療法 ・点滴静脈内注射 ・輸液ポンプ ・採血
	事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
10 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑩
	授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養 ・一時的導尿 ・鼻腔・口腔内吸引 ・酸素療法 ・点滴静脈内注射 ・輸液ポンプ ・採血
	事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
11 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑪
	授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養 ・一時的導尿 ・鼻腔・口腔内吸引 ・酸素療法 ・点滴静脈内注射 ・輸液ポンプ ・採血
	事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
12 (木津)	学習の主題	対象者に合わせた日常生活援助の実践①
	授業内容	対象者（紙上事例）に合わせた清潔・衣生活の援助計画の具体的方法の検討・立案、準備
	事前・事後学習	事前学習：事例に合わせた援助計画に必要な看護技術を復習する。 事後学習：事例に合わせた援助の手順書を作成する。

学習の主題・
授業内容

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	13 (全担当教員)	学習の主題	対象者に合わせた日常生活援助の実践②
		授業内容	対象者（紙上事例）に合わせた清潔・衣生活の援助計画の援助の実施、評価
		事前・事後学習	事前学習：事例に合わせた援助計画に必要な看護技術を復習し、演習に臨む。 事後学習：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
	14 (全担当教員)	学習の主題	対象者に合わせた日常生活援助の実践②
		授業内容	対象者（紙上事例）に合わせた清潔・衣生活の援助計画の援助の実施、評価
		事前・事後学習	事前学習：事例に合わせた援助計画に必要な看護技術を復習し、演習に臨む。 事後学習：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
	15 (木津)	学習の主題	看護技術の総復習、対象者に合わせた日常生活援助のまとめ
		授業内容	1. 看護技術、対象者に合わせた日常生活援助の自己課題の明確化 2. 自己課題を改善・向上するための対策の整理 3. レポート作成
		事前・事後学習	事前・事後学習：看護技術の自己の課題と改善・向上のための対策をレポートにまとめる。

授業科目	公衆衛生看護活動論Ⅲ Public Health Nursing Ⅲ		担当教員	小川 克子、安藤 陽子、近藤 明代
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	地域で生活する人々の環境と健康水準及び健康課題に即した公衆衛生看護活動展開の方法を理解する。			
到達目標	1. 地域で生活する人々の健康水準の把握に必要なデータを特定し、収集する方法が理解できる。 2. 地域で生活する人々の健康と生活実態をアセスメントし、健康課題を抽出することができる。 3. 個別の健康課題を構造化し、地域保健対策を考えることができる。			
テキスト	1. 佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド（第2版）」（医歯薬出版）			
参考書	1. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2021/2022」（厚生労働統計協会） 2. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる 2020-2021」（メディックメディア）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		・グループで作成した地域アセスメントレポート内容について、到達目標の観点から評価する。その他、グループ作業の取り組み姿勢、発表やディスカッションにおける参加度をもとに評価する。 ・レポートが未提出の場合は評価の対象としません。	
	レポート	80％		
	小テスト			
	提出物			
	その他	20％		
履修上の留意事項	・事前、事後学習を確実にし、演習に臨むこと。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度担当教員に質問する。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師としての経験から地域の健康課題の捉え方、対策の立案方法について理解しやすいように授業を行います。			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (小川)	学習の主題	コミュニティを対象とした看護過程（1）	
		授業内容	本科目の目的、目標、学習内容の概要と履修上の留意点、評価方法について説明する 1. 人々の健康と生活のアセスメントと健康課題の特定から構造化まで 2. 健康課題の種類、表現の原則、健康課題の構造化 3. 人々の健康と生活のアセスメントと健康課題の優先順位	
		事前・事後学習	保健師の活動計画、地域保健情報年報から地域の状況を把握し、授業に臨むこと。また、授業終了後は授業で使ったプリントや自分で準備した文献を整理し、全体を構造化/体系化して捉えることができる様にする	
	2 (小川) (安藤)	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（1）（サブシステムアセスメント①）	
		授業内容	アセスメント項目を定めてサブシステムをアセスメントする	
		事前・事後学習	事前学習：演習（1）に向けて、各データが示す内容について復習し、各自データ収集を行う	
	3 (小川) (安藤)	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（2）（サブシステムアセスメント②）	
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、サブシステムのアセスメントレポートを作成する	
		事前・事後学習	事後学習：サブシステムアセスメントの再確認・修正を行う	
	4 (小川) (安藤)	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（3）（健康水準アセスメント①）	
		授業内容	アセスメント項目を定めて人々の健康水準をアセスメントする	
		事前・事後学習	事前学習：演習（3）に向けて、各データが示す内容について復習し、各自データ収集を行う	
	5 (小川) (安藤)	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（4）（健康水準アセスメント②）	
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、健康水準のアセスメントレポートを作成する	
		事前・事後学習	事後学習：健康水準のアセスメントの再確認、修正を行う	
	6 (小川) (安藤)	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（5）（健康課題の抽出）	
		授業内容	グループメンバーのアセスメントから、健康課題を抽出する	
		事前・事後学習	事後学習：アセスメントレポートを完成させる。発表とディスカッションの準備を行う	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7 (小川) (安藤) (近藤)	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（6）（発表とディスカッション）
		授業内容	サブシステムと人々の健康水準のアセスメント、抽出した健康課題を発表し、ディスカッションを行う
		事前・事後学習	事後学習：ディスカッションでの学びを整理し、アセスメントを修正する
	8 (小川)	学習の主題	コミュニティを対象とする看護過程（2）
		授業内容	健康課題解決の方法（対策立案と評価方法）
		事前・事後学習	コミュニティ看護アセスメント演習発表から課題意識をもって授業に臨むこと。また、授業終了後は授業で使用したプリントや自分で準備した文献を整理し、全体を構造化・体系化して捉えることができる様にする

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅰ Public Health Nursing：PracticumⅠ		担当教員	近藤 明代、安藤 陽子、小川 克子
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	実習		単位数	2単位
ねらい	地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境・社会環境と関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題・課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。			
実習目標	1. 地域社会で生活する個人・家族を公衆衛生看護の対象としてとらえ、家庭訪問の看護過程を通して個人・家族への支援方法・技術を理解できる。 2. 共通の健康課題をもつ人々の集団を公衆衛生看護の対象としてとらえ、健康教育の看護過程を通して集団への支援方法・技術を理解できる。 3. 地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題解決のために展開される公衆衛生看護活動は、ハイリスク・アプローチやポピュレーション・アプローチ等様々な理論や方法・技術を組み合わせて展開されることを理解できる。 4. 住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。			
実習内容				
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	100%	目標到達度を実習の評価基準において評価します。 ＊実習要項を参照	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	・事前に提示された学修内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるよう努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者及び住民との交流を大切にし、地域の人々の生活の理解に努める。			
実務経験を活かした教育内容				
実習方法	1. 保健師の同行のもと家庭訪問を行う。 2. 集団を対象にして、健康教育の企画・実践・評価の一連のプロセスを体験する。 3. 実習地域（施設）で行われる保健活動に参加し、保健師の支援方法について理解する。 4. 関係機関、関係職種との会議等に参加し、他職種との連携・調整の実際を体験する。 5. 実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。			
実習施設	倶知安保健所、岩内保健所、帯広保健所および3保健所管内の町村			

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅱ Public Health Nursing：PracticumⅡ		担当教員	近藤 明代、安藤 陽子、小川 克子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	実習		単位数	2単位
ねらい	地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境・社会環境と関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題・課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。			
実習目標	1. 地域社会で生活する人々および地域社会を公衆衛生看護の対象として理解し、地域で生活する人々および地域社会の健康課題を明らかにすることができる。 2. 地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題を解決するための計画や対策が理解できる。 3. 地域社会で生活する人々に対する公衆衛生看護活動は、保健・医療・福祉など様々な分野の人々との連携と協働および様々な制度や公的・私的資源を活用し、住民主体の展開が重視されていることを理解できる。 4. 健康危機管理における、組織的な管理体制やシステム構築の必要性について理解できる。 5. 住民の健康と生活を守る公衆衛生看護の役割を理解できる。			
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	100％	目標到達度を実習の評価基準において評価します。 ＊実習要項を参照	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	・事前に提示された学習内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるよう努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者および住民との交流を大切にし、地域の人々の生活の理解に努める。			
実務経験を 活かした教育内容				
実習方法	1. 実習地域のアセスメントを行い、地域の課題を抽出し、実際に取り組まれている健康課題との整合性、解決するための計画や対策を検討する。 2. 実習地域の環境を査定しながら、地域にあった保健活動の方法について検討する。 3. 地域における健康危機管理施策・体制がどのように整備され、予防策が講じられているかを知り、予防活動と保健師の役割について考える。 4. 地域ケアシステムの果たす役割と地域における保健師のコーディネート機能について考える。 5. 公衆衛生看護活動の評価の意義、評価の視点、方法などについて検討する。 6. 実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。			
実習施設	俱知安保健所、帯広保健所、岩内保健所および3保健所管内の町村			

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅲ Public Health Nursing：PracticumⅢ		担当教員	近藤 明代、安藤 陽子、小川 克子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	実習		単位数	1単位
ねらい	産業保健分野における労働者の健康の保持・増進活動がどのような組織体系の中で行われているかを理解し、産業保健における保健師の役割を理解する。			
実習目標	1. 労働者集団における健康課題の特徴を理解できる。 2. 労働者の健康の保持・増進活動が、どのように組織体系の中で行われているかを理解する。 3. 産業医、衛生管理者等との連携、協働の必要性を理解できる。 4. 事業場に所属する保健師の役割を理解できる。 5. 外部労働衛生機関における保健師の役割を理解できる。			
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験	100％	目標到達度を実習の評価基準において評価し、60点以上を合格とする。 ＊実習要項を参照	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の 留意事項	・事前に提示された学習内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるように努めること。 ・実習施設では実習指導者をはじめとする関係者および働く人々との交流を大切にし、産業に従事する人々の理解に努める。			
実務経験を 活かした教育内容				
実習方法	1. 産業保健分野における健康支援活動の実際を見学する。 2. 健康相談、生活習慣予防検診、健康測定、医療機関との連携、健康教室、健康診断・個人情報の管理など実習施設で実際の場面があれば見学する。参加できなかった内容については、学習課題として取り組み、主体的に指導者の説明を受ける。 3. 健康診査の事後措置、事業者・衛生管理者への指導など労働保健管理協会の活動をまとめる。 4. 実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。			
実習施設	北海道労働保健管理協会			

IV 規 程

(学則・教務に関する諸規程)

札幌保健医療大学学則

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 札幌保健医療大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に則り、専門の学術の理論及び応用を深く研究・教授し、保健医療における有為な人材を養成、社会の発展に貢献することを目的とする。

(自己点検・評価等)

第2条 本学は、その教育研究の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況等について自ら点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果について公表する。

2 自己点検・評価に関し必要な事項は別に定める。

3 第1項の自己点検・評価に加え教育研究等の総合的な評価について、学校教育法施行令第40条に定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価を受ける。

(教育内容等の改善のための組織的改善)

第3条 本学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修を行うものとする。

2 前項の教育内容等の改善に関し必要な事項は、別に定める。

(情報公開)

第4条 本学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法により、積極的に情報公開する。

2 前項の情報公開に関し必要な事項は別に定める。

第2節 組織

(学部及び学科)

第5条 本学に、次の学部及び学科を置く。

保健医療学部 看護学科

栄養学科

2 学科の入学定員及び収容定員は、次の通りとする。

学部名	学科名	入学定員	収容定員
保健医療学部	看護学科	100名	400名
	栄養学科	80名	320名

3 大学及び学科の教育上の目的

(1) 大学

本学の教育理念である「人間力教育」を根幹に、「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」を培い、「他者との共存」ができる人間力を有し、多様化する保健医療の進展と地域のニーズに対応できる実践力を備えるとともに、将来にわたり保健医療の専門性を追求し続ける保健医療専門職者を育成する。

(2) 看護学科

看護学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、看護学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、看護を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する看護専門職者を育成する。

(3) 栄養学科

栄養学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、栄養学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、栄養の管理・指導を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する栄養専門職者を育成する。

(図書館)

第6条 本学に、図書館を置く。

2 図書館に関し必要な事項は、別に定める。

第3節 職員組織

(職員)

第7条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、及びその他必要な職員を置く。

(事務局)

第8条 本学に、事務局を置く。

2 事務局の事務を統括し職員を指揮監督するため、事務局長を置く。

3 事務局に関し必要な事項は、別に定める。

第4節 評議会及び教授会

(評議会)

第9条 本学に、評議会を置く。

2 評議会の組織等については、別に定める。

3 評議会は、次の各号に掲げる事項について、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 大学の管理運営の重要事項に関すること

(2) 大学の将来構想に関すること

(3) 学則その他重要な規程の制定及び改廃に関すること

(4) 教員の人事計画に関すること

(5) 教員の採用、退職及び昇任等に関すること

(6) 学生の入学に関すること

(7) 学生の奨学金に関すること

4 評議会に関し必要な事項は、別に定める。

(教授会)

第10条 学部に教授会を置く。

2 教授会の組織等については別に定める。

3 教授会は、次の各号に掲げる事項について、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業に関すること

(2) 学位の授与に関すること

4 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下「学長等」という。）がつかさどる次の各号に掲げる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(1) 教育・研究の基本方針に関すること

(2) 教育課程の編成に関すること

(3) 学則その他学部運営に関する規程等の制定及び改廃に関すること

(4) 学生の指導及び賞罰に関すること

(5) 学生の除籍に関すること

(6) 学生の奨学金に関すること

(7) 入学試験要項に関すること

(8) 教員の教育研究業績の審査に関すること

第5節 学年、学期及び休業日

(学年)

第11条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第12条 学年を次の2期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第13条 休業日は、次の通りとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める日

(3) 本学の創立記念日

(4) 夏期休業

(5) 冬期休業

(6) 春期休業

2 学長は、必要があると認める場合は、前項の休業日を変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

3 学長は、必要があると認める場合は、休業日においても臨時の授業日を設けることができる。

第2章 学部通則

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第14条 学部の修業年限は、4年とする。

(最長在学年限)

第15条 学生は8年を超えて在学することができない。

第2節 入 学

(入学の時期)

第16条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第17条 本学に入学することの出来る者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(7) 専修学校の高等課程（修業年限3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

(8) 本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

(入学の出願)

第 18 条 本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願出しなければならない。

(入学者の選考)

第 19 条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第 20 条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに所定の書類を提出するとともに、所定の入学料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

第 3 節 教育課程及び履修方法等

(教育課程の編成)

第 21 条 本学は、学部・学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

(授業科目)

第 22 条 授業科目は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目及び教職に関する科目とする。

2 各授業科目を必修科目、選択必修科目、選択科目に分け、各年次に配当する。

(授業の方法)

第 22 条の 2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらを併用して行うものとする。

2 授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で行うことができる。

(履修の要件)

第 23 条 学部・学科における履修の要件については、別表 1、別表 2、別表 3 及び別表 4 のとおりとする。

2 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1 年間または 1 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、別に定める。

(単位計算方法)

第 24 条 授業科目の単位計算方法は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ次の基準によるものとする。

(1) 講義・演習については、15 時間から 30 時間の範囲内で定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験・実習及び実技については、45 時間の実験・実習又は実技をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

(単位の授与)

第 25 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(他大学等における授業科目の履修等)

第 26 条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学等との協議に基づき、学生に当該他大学又は短期大学等の授業科目を履修させることができる。

2 学長は、前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については、60 単位を限度として卒業要件単位として認めることができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 27 条 教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 28 条 教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修により修得した単位を含む。）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて 60 単位を超えないものとする。

(本学以外での履修の許可)

第 29 条 本学学生にして、前 2 条に定める大学等で授業科目の履修を希望する者は、学長の許可を得なければならない。

(本学以外で履修した科目及び単位の取り扱い)

第 30 条 本学以外で修得した科目及び単位の取り扱いに関する詳細は、別に定める。

(成績)

第 31 条 授業科目の成績評価は、秀（100 点～90 点以上）・優（90 点未満～80 点以上）・良（80 点未満～70 点以上）・可（70 点未満～60 点以上）・不可（60 点未満）の 5 種をもって表わし、可以上を合格とする。

(その他)

第 32 条 この節に定めるもののほか、授業科目の種類・単位数及び履修方法等については、別に定める。

第 4 節 休学・転学・留学・退学・除籍・再入学及び復籍

(休学)

第 33 条 疾病その他特別の理由により 2 カ月以上修学することができない者は、学部長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められるものについては、学部長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第 34 条 休学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1 年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して 4 年を超えることができない。

3 休学期間は、第 15 条の在学期間に参入しない。

4 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学部長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第 35 条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第 36 条 外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学部長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第 41 条に定める在学期間に含めることができる。

3 第 26 条の規定は、外国の大学又は短期大学へ留学する場合に準用する。

(退学)

第 37 条 病気その他やむを得ない理由で退学しようとする者は、保証人連署の上、退学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第 38 条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

- (1) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
 - (2) 第 15 条に定める在学年限を超えた者
 - (3) 第 34 条第 2 項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
 - (4) 死亡又は長期間にわたり行方不明の者
- (編入学及び再入学)

第 39 条 本学に他大学等から編入学を志願する者又は、やむを得ない理由で本学を退学した者で、その後 2 年以内に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長が相当年次に入学を許可することがある。

2 前項により、入学を許可された者の既に履修した科目及び単位数の取り扱い並びに修業年限は、学長が決定する。

3 第 46 条に規定する懲戒処分により退学した者は、再入学することはできない。

4 編入学及び再入学に関する規程は別に定める。

(転学科)

第 40 条 所属する学科から他学科へ変更することを志願する者があるときは、その学科に欠員がある場合に限り、選考の上、学長が相当年次に転学科を許可することがある。

2 転学科に関する規程は、別に定める。

(復籍)

第 41 条 第 38 条第 1 号に該当する事由により除籍された者で、未納の授業料等に相当する金額を納付して復籍を願い出た者に対しては、学長が許可することがある。

2 前項により復籍を許可された者に対し必要な事項は、学長が決定する。

第 5 節 卒業及び学位等

(卒業)

第 42 条 本学に 4 年以上在学し、別表 1 及び別表 3 に定める授業科目及び単位数を修得した者については、学長が卒業を認定する。

(学位の授与)

第 43 条 前条により卒業を認定された者には、次の学位を授与する。

保健医療学部	看護学科	学士（看護学）
	栄養学科	学士（栄養学）

(免許及び資格の取得)

第 44 条 看護学科の学生で第 42 条に定める卒業要件を満たした者は、保健師助産師看護師法に基づき、看護師国家試験受験資格を取得する。

2 看護学科の学生で保健師国家試験受験資格を希望する者は、第 1 項の規定を満たし、かつ別表 1 に定める保健師に関する科目を履修し、必要な単位を修得しなければならない。

3 栄養学科の学生で第 42 条に定める卒業要件を満たした者は、栄養士法並びに同法施行規則に基づき、栄養士免許証が交付され、また管理栄養士国家試験受験資格を取得する。

4 栄養学科の学生で第 3 項の規定を満たし、かつ別表 4 に定める栄養教諭養成課程を履修し、免許状授与に必要な単位数を修得した者は、教育職員免許法並びに同法施行規則の規定に基づき、栄養教諭一種免許状が授与される。

第 6 節 賞 罰

(表彰)

第 45 条 学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第 46 条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがない者

(2) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第7節 科目等履修生等

(科目等履修生)

第47条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、各学科等の教育研究に支障がない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として学長が受入を許可することができる。

2 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

第8節 入学検定料、入学金及び授業料並びに教職課程履修費等

(納付金)

第48条 入学検定料、入学金及び授業料並びに教職課程履修費及び栄養教育実習費の金額は、別表5及び別表6のとおりとする。

(授業料の納付)

第49条 授業料は、年額の二分の一ずつを次の2期に分けて納付することができる。

区 分	納 期
前期（4月から9月まで）	4月中
後期（10月から翌年3月まで）	10月中

(復学の場合の授業料)

第50条 前期又は後期中途において、復学した者は、復学した月から当該期末までの授業料を復学した月に納付しなければならない。

(前期で卒業する場合の授業料)

第51条 前期で卒業する者の授業料は年額の二分の一を納付するものとする。

(退学及び停学の場合の授業料)

第52条 学期の途中で退学した者、又は停学を命じられた者の該当期分の授業料は徴収する。

(休学の場合の授業料)

第53条 前期又は後期中途で休学を許可され、又は命ぜられた者についての休学期間の授業料は徴収しない。

(納付した授業料等)

第54条 納付した入学検定料、入学金、及び授業料は、特別の事情がある場合を除き返戻しない。

第3章 改正及び細則

(改正)

第55条 本学則の改正は、教授会及び評議会を経て理事長が行う。

(その他)

第56条 学部規程のほか、本学則施行についての細則その他必要な事項は、別に定める。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成26年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 30 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

1 この学則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

2 2019 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 23 条第 1 項に規定する別表 4 の保健医療学部栄養学科教職に関する履修要件は、なお従前の例による。

附 則

この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

2 2021 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 23 条第 1 項に規定する別表第 3 については、なお従前の例による。

別表 1 保健医療学部看護学科教育課程

科目区分		授業科目の名称	卒業要件	単位数			授業形態	備考		
				必修	選択	自由				
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	必修科目 14 単位及び選択科目 10 単位以上、計 24 単位以上履修	1			講義			
		生物学			1		講義			
		化学			1		講義			
		論理的思考		2			講義			
		情報処理		1			演習			
		統計分析法		1			演習			
	小計（6 科目）				5	2	0			
	言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）		1			演習			
		英語Ⅱ（会話）		1			演習			
		英語Ⅲ（読解）			1		演習			
		英語Ⅳ（総合）			1		演習			
		表現技法Ⅰ（読解・分析）		1			演習			
		表現技法Ⅱ（討議・発表）		1			演習			
	小計（6 科目）				4	2	0			
人間と社会	心理学	2				講義				
	倫理学	1				講義				
	現代社会論	2				講義				
	生態学			1		講義				
	生活環境論			2		講義				
	教育学			1		講義				
	文学と人間			1		講義				
	スポーツ科学と運動			1		演習				
	法と人権			2		講義				
	地域社会文化論			2		講義				
	国際社会論			1		講義				
	社会貢献と活動			1		演習				
小計（12 科目）				5	12	0				
基礎教育 計				14	16	0				
専門基礎科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	必修科目 23 単位及び選択科目 4 単位以上、計 27 単位以上履修	2			講義			
		形態機能学Ⅱ		2			講義			
		感染免疫学		2			講義			
		病態学		2			講義			
		薬理学		2			講義			
		栄養代謝学		2			講義			
		生涯発達論		1			講義			
		臨床心理学		1			講義			
		疾病治療論Ⅰ		2			講義			
		疾病治療論Ⅱ		2			講義			
		小計（10 科目）		18	0	0				
	社会と健康	環境保健論		1			講義	※ ※ ※		
		社会福祉論		2			講義			
		疫学			2		講義			
		保健医療福祉行政論Ⅰ		1			講義			
		保健医療福祉行政論Ⅱ			2		講義			
		保健統計学Ⅰ		1			演習			
保健統計学Ⅱ		1		演習						
生命倫理		1		講義						
小計（8 科目）		5	6	0						
専門基礎科目 計			23	6	0					
専門科目	看護の基本	看護学概論		2			講義			
		看護技術総論		1			演習			
		援助関係論		1			演習			
		看護技術論Ⅰ		2			演習			
		看護技術論Ⅱ		2			演習			
		看護技術論Ⅲ		1			演習			
		健康教育論		2			講義			
		地域保健医療看護論		1			演習			
		看護倫理		1			講義			
		看護理論		1			講義			
		看護基礎実習Ⅰ		1			実習			
		看護基礎実習Ⅱ		2			実習			
		小計（12 科目）		17	0	0				

専門科目	人間の発達段階と看護活動	成人看護学概論	必修科目 67 単位及び選択科目 6 単位以上、計 73 単位以上履修	1			講義	
		成人看護活動論Ⅰ		2			講義	
		成人看護活動論Ⅱ		1			演習	
		成人看護活動論Ⅲ		1			講義	
		成人看護実習Ⅰ		3			実習	
		成人看護実習Ⅱ		3			実習	
		小計（6 科目）		11	0	0		
		高齢者看護学概論		1			講義	
		高齢者看護活動論Ⅰ		1			演習	
		高齢者看護活動論Ⅱ		1			講義	
		高齢者看護実習		4			実習	
		小計（4 科目）		7	0	0		
		小児看護学概論		2			講義	
		小児看護活動論Ⅰ		1			演習	
		小児看護活動論Ⅱ		1			講義	
		小児看護実習		2			実習	
		小計（4 科目）		6	0	0		
	母性看護学概論	2				講義		
	母性看護活動論Ⅰ	1				演習		
	母性看護活動論Ⅱ	1				講義		
	母性看護実習	2				実習		
	小計（4 科目）	6		0	0			
	精神看護学概論	2				講義		
	精神看護活動論Ⅰ	1				演習		
	精神看護活動論Ⅱ	1				講義		
	精神看護実習	2				実習		
	小計（4 科目）	6		0	0			
	看護の統合と探究	在宅看護論Ⅰ		2			講義	※※

※印は保健師国家試験受験資格取得希望者のうち選抜された履修許可者のみ必修

別表2 保健医療学部看護学科養護教諭二種免許取得に必要な科目

授業科目の名称	単位数			授業形態	備考
	必修	選択	自由		
情報管理論		1		講義	
スポーツ理論		1		講義	

別表3 保健医療学部栄養学科教育課程

科目区分		授業科目の名称	卒業要件	単位数			授業形態	備考
				必修	選択	自由		
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解 論理的思考 情報処理 統計分析法 情報リテラシー 生物学 基礎化学	必修科目 17 単位及び選択科目 9 単位以上、計 26 単位以上修得	1 2 1 1 1 2	1		講義 講義 演習 演習 演習 講義 講義	※
		小計(7科目)		8	1	0	—	
	言語と表現力	英語Ⅰ(基礎) 英語Ⅱ(会話) 英語Ⅲ(読解) 英語Ⅳ(総合) 表現技法Ⅰ(読解・分析) 表現技法Ⅱ(討議・発表)		1 1 1 1 1	1 1		演習 演習 演習 演習 演習	
		小計(6科目)		4	2	0	—	
		心理学 倫理学 生態学 スポーツ科学と運動 スポーツ理論 地域社会文化論 社会貢献と活動 生活環境論 現代社会論 国際社会論 法と人権 教育学 文学と人間		2 1 1 1 1 2 2 2 2 1 2 1 1 1	1 1 1 2 1 1 1 1 1		講義 講義 講義 演習 講義 講義 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	※ ※ ※
	人間と社会	小計(13科目)		5	13	0	—	
		基礎教育科目 計		17	16	0	—	
専門基礎科目	社会・環境と健康	生涯発達論 人間関係論 生命倫理 医療概論 健康管理概論 公衆衛生学 公衆衛生学実習 保健医療福祉行政論 特別総合科目	必修科目 40 単位及び選択科目 4 単位以上、計 44 単位以上修得	1 1 1 2 2 1 1	1 1 2		講義 講義 講義 講義 講義 講義 実習 講義 演習	
		小計(9科目)		7	5	0	—	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅱ 形態機能学実習Ⅰ 形態機能学実習Ⅱ 有機化学 病理学 微生物学 微生物学実験 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実験 病態診療学Ⅰ 病態診療学Ⅱ		2 2 1 1 2 2 1 2 2 1 2 2 2	2		講義 講義 実習 実習 講義 講義 講義 実験 講義 講義 実験 講義 講義	
		小計(13科目)		20	2	0	—	
	食べ物と健康	食品科学Ⅰ 食品科学Ⅱ 食品科学Ⅲ 食品科学実験Ⅰ 食品科学実験Ⅱ 食品機能学		2 2 1 1	2		講義 講義 講義 実験 実験 講義	

専門基礎科目	食べ物と健康	食品衛生学		2			講義	
		食品衛生学実験		1			実験	
		調理学		2			講義	
		調理学実習Ⅰ		1			実習	
		調理学実習Ⅱ		1			実習	
		小計(11科目)		13	4	0	—	
専門基礎教育科目 計				40	11	0	—	
専門科目	管理栄養士論	管理栄養士論	必修科目 49 単位及び選択必修科目「給食経営管理論実習Ⅲ」又は「公衆栄養学実習Ⅱ」のうち1単位並びに選択科目6単位以上、計56単位以上修得	1			講義	
		管理栄養士総合演習		1			演習	
		小計(2科目)		2	0	0	—	
	基礎栄養学	基礎栄養学		2			講義	
		基礎栄養学実験		1			実験	
		小計(2科目)		3	0	0	—	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ		2			講義	
		応用栄養学Ⅱ		2			講義	
		応用栄養学Ⅲ		2			講義	
		応用栄養学実習		1			実習	
		免疫と栄養			1		講義	
		スポーツ栄養学総論			1		講義	
		スポーツ栄養学(基礎)			1		講義	
		スポーツ栄養学(応用)			1		講義	
	スポーツ栄養学演習			1		演習		
	小計(9科目)	7		5	0	—		
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ		2			講義	※※
		栄養教育論Ⅱ		2			講義	
		栄養教育論Ⅲ		2			講義	
		栄養教育論実習		1			実習	
		栄養カウンセリング演習			1		演習	
		食生活論			2		講義	
		食育指導論			2		講義	
		食育農場演習			1		演習	
	食育実践演習			1		演習		
	小計(9科目)	7		7	0	—		
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ		2			講義	
		臨床栄養学Ⅱ		2			講義	
		臨床栄養学Ⅲ		2			講義	
		臨床栄養学Ⅳ		2			講義	
臨床栄養学実習Ⅰ		1			実習			
臨床栄養学実習Ⅱ		1			実習			
臨床栄養学実習Ⅲ		1			実習			
栄養サポートチーム論			1		演習			
小計(8科目)	11	1	0	—				
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2			講義			
	公衆栄養学Ⅱ	2			講義			
	公衆栄養学実習Ⅰ	1			実習			
	地域栄養活動演習		1		演習			
小計(4科目)	5	1	0	—				
給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2			講義			
	給食経営管理論Ⅱ	2			講義			
	給食経営管理論実習Ⅰ	1			実習			
	小計(3科目)	5	0	0	—			
総合演習	総合演習Ⅰ	1			演習			
	総合演習Ⅱ	1			演習			
	小計(2科目)	2	0	0	—			
科目統合	英語文献講読演習		1		演習			
	卒業研究		2		演習			
	地域連携ケア論Ⅰ	1			講義			
	地域連携ケア論Ⅱ	1			講義			
	地域連携ケア論Ⅲ	1			講義			
	地域連携ケア論Ⅳ	1			講義			
小計(6科目)	4	3	0	—				
臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ	1			実習			
	給食経営管理論実習Ⅲ		1		実習			
	公衆栄養学実習Ⅱ		1		実習			
	臨床栄養学実習Ⅳ	2			実習			
	臨床栄養学実習Ⅴ		2		実習			
	小計(5科目)	3	4	0	—			
専門科目 計				49	21	0	—	
合計(109科目)				106	48		—	

※印は栄養教諭一種免許状授与に必要な科目

別表 4 保健医療学部栄養学科教職に関する科目

授業科目の名称	単位数			授業形態	備考
	必修	選択	自由		
教職概論			2	講義	
教育原理			1	講義	
教育制度論			1	講義	
教育心理学			2	講義	
特別支援教育概論			1	講義	
教育課程論			1	講義	
道德教育論			1	講義	
特別活動・総合的学習指導論			1	講義	
教育方法論			1	講義	
生徒指導論			1	講義	
教育相談論			2	講義	
栄養教育実習事前・事後指導			1	実習	
栄養教育実習			1	実習	
教職実践演習			2	演習	

別表 5 保健医療学部看護学科及び栄養学科入学検定料、入学金及び授業料

① 入学検定料 (単位：円)

試 験 区 分	金 額
学校推薦型選抜入学・一般選抜入学・総合型選抜入学・編入学	30,000
社会人入学	30,000
大学入試センター利用入学	10,000

② 入学金及び授業料 (単位：円)

項 目	学 科	金 額	備 考
入学金	両学科共通	300,000	入学時のみ
授業料	看護学科	1,500,000	2期分納可
	栄養学科	1,050,000	

別表 6 保健医療学部栄養学科教職課程履修費及び栄養教育実習費

(単位：円)

項 目	金 額	納入区分	納入時期
教職課程履修費	20,000	1年次以降	前期授業料納入時
栄養教育実習費	10,000	4年次	同 上

札幌保健医療大学保健医療学部履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、札幌保健医療大学学則（以下「学則」という。）第32条の規定に基づき、授業科目（以下「科目」という。）の履修方法などに関して必要な事項を定めるものとする。

(科目及び単位数)

第2条 保健医療学部（以下「本学部」という。）における科目は、学則第22条に規定する「基礎教育科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」とする。それぞれの科目の単位数、必修・選択科目については、学則別表1及び別表3のとおりとする。

(卒業に必要な単位数)

第3条 本学部において卒業に必要な単位数は、次表のとおりとする。（計124単位以上）

(1) 看護学科

科目区分	必修単位	選択単位
基礎教育科目	14 単位	10 単位以上
専門基礎科目	23 単位	4 単位以上
専門科目	67 単位	6 単位以上
卒業に必要な単位数	104 単位	20 単位以上

(2) 栄養学科

科目区分	必修単位	選択単位
基礎教育科目	17 単位	9 単位以上
専門基礎科目	40 単位	4 単位以上
専門科目	49 単位	7 単位以上 ※選択必修1単位含む
卒業に必要な単位数	106 単位	20 単位以上

2 看護教諭二種免許取得申請に必要な学則別表2に掲げる科目の単位数は、卒業に必要な単位数には含まないものとする。

3 栄養教諭一種免許取得に必要な学則別表4に掲げる科目の単位数は、卒業に必要な単位数には含まないものとする。

(授業期間)

第4条 毎学年の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週以上とする。

(授業方法)

第5条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらを併用して行うものとする。

2 授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で行うことができる。

(履修登録の方法及び登録時期)

第6条 履修する科目は、指定された期間に所定の様式にて履修登録をしなければならない。

2 後期のみの授業科目についても、原則として、学年初めの指定された期間に登録するものとする。

3 前項に関わらず、次の者については、後期の指定された期間に履修登録することができる。

(1) 前期に休学し、後期に復学する者

(2) 学則第 36 条により留学した者で、後期に本学における履修を再開する者

(3) 前期末で卒業を目指した者が、学則第 42 条の規定を満たすことができずに、後期に履修する者

4 履修登録の訂正は、各期確認訂正期間に限り認めるものとする。

(休学及び退学による履修登録の取扱い)

第 7 条 履修登録後の各学期途中で休学又は退学した場合は、その開講学期に履修登録したすべての科目を評定不能の取扱いとする。

(科目の履修制限)

第 8 条 次に該当する場合、その科目の履修を認めない。

(1) 既に単位を修得した科目

(2) 授業時間が重複する科目

(3) 休学中の場合

(4) 在籍する学年より上級学年に配当されている科目

(5) 学費未納の場合

(履修登録単位数の上限)

第 9 条 学則第 23 条第 2 項の規定に基づく卒業の要件として修得すべき単位数について、1 年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を看護学科は 40 単位、栄養学科は 48 単位とする。ただし、編入学をした者については、この限りではない。

2 看護教諭二種免許取得申請に必要となる学則別表 2 に掲げる科目の単位数は、前項の履修登録単位数の上限、看護学科の 40 単位には含まないものとする。

3 栄養教諭一種免許取得に必要となる学則別表 4 に掲げる科目の単位数は、第 1 項の履修登録単位数の上限、栄養学科の 48 単位には含まないものとする。

4 再履修する科目の単位数は、第 1 項の履修登録単位数の上限、看護学科の 40 単位、栄養学科の 48 単位には含まないものとする。

(大学が認める特段の理由による欠席の取扱い)

第 10 条 大学が認める特段の理由による欠席とは、次表の欠席事由に該当し、かつ必要な手続きを行った者について、補講等の配慮を受けることができる欠席のことをいい、欠席を許可する日数は、次表のとおりとする。

欠席事由	提出期限	必要添付書類等	許可日数
災害、公共交通機関の障害	授業の場合は、原則 5 日以内、試験の場合は、指定された日時までに、欠席届を提出	・被災（罹災）証明書 ・事故証明書 ・遅延証明書	当該日のみ
忌引き		・会葬礼状のはがき等 ・保証人による証明書（要押印）	・配偶者 7 日以内 ・一親等（父母、子）7 日以内 ・二親等（祖父母、兄弟姉妹） 3 日以内

感染症等による出席停止（感染症とその出席停止期間は、別に定める。）		・医師の診断書 ・登校許可証明書（感染症用）等	医師の診断書により出席停止を必要とされた期間に限る。
その他教務委員会が認めた事由		欠席事由を証明できる書類等	欠席事由を証明できる書類等から判断できる期間にかぎる

（天候による休講措置）

第 11 条 天候による非常事態に伴う学生の休講措置の条件については、別に定める。

（先修条件）

第 12 条 履修に必要な条件として、あらかじめ単位を修得しておかなければならない科目を別に定める。

（試験）

第 13 条 履修した科目については、試験を行う。試験の詳細は、札幌保健医療大学試験規程に定める。

2 次の各号の一つに該当する者は、受験資格を有しないため、「失格」の取扱いとする。

（1）授業料その他納付金が未納の者

（2）授業出席時間数が、その授業実施時間数の 3 分の 2 未満の者

（成績評語）

第 14 条 単位は、学則第 25 条に基づいて授与され、その成績評語は「秀（S）・優（A）・良（B）・可（C）・不可（D）」の 5 種をもって表示するものとする。

2 失格科目は「失格（P）」、単位認定科目は「認定（N）」、評定不能科目は「評定不能（W）」と表示するものとする。

（進級要件）

第 15 条 進級要件は、別に定める。

（看護師国家試験受験資格の取得）

第 16 条 看護師の国家試験受験資格を取得しようとする者は、看護学科の課程を履修し、卒業に必要な単位（124 単位）を修得しなければならない。

（保健師国家試験受験資格の取得）

第 17 条 保健師の国家試験受験資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位数の他に、公衆衛生看護学科目の全て（12 単位）を修得すること。なお、専門基礎科目及び専門科目の選択科目のうち、「疫学」「保健医療福祉行政論Ⅱ」「保健統計学Ⅱ」「慢性看護論」「家族看護論」「国際看護論」の単位は必ず修得することとし、合計 137 単位以上を修得しなければならない。

2 保健師国家試験受験資格取得のための履修希望者は、公衆衛生看護学履修生審査会で審査し、教授会にて学長が決定する。履修希望者は、次の各号の基準をすべて満たしていなければ申請することができない。

（1）保健師への興味・関心及び学習意欲が認められること。

（2）2 年次までの必修科目の全ての単位を修得していること。

（3）2 年次までの専門科目（必修）の全科目成績評価において GPA が原則として 2.5 以上であること。

(4) 学業生活が全般に安定し、成業の見込みがあること。

(養護教諭二種免許の取得)

第 18 条 養護教諭二種免許を取得しようとする者は、保健師国家試験に合格し、保健師免許を取得していなければならない。

2 保健師国家試験受験資格に必要な科目のほかに養護教諭免許取得の申請に必要な科目のすべて

(「法と人権」「スポーツ科学と運動」「スポーツ理論」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「情報処理」「情報管理理論」)を修得していなければならない。

(栄養士の取得)

第 19 条 栄養士の資格を取得しようとする者は、本学が別表 1 に定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

(管理栄養士国家試験受験資格の取得)

第 20 条 管理栄養士の国家試験受験資格を取得しようとする者は、本学が別表 2 に定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

(栄養教諭一種免許状の取得)

第 21 条 栄養教諭一種免許状の取得に関する規程は別に定める。

(食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格の取得)

第 22 条 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を取得しようとする者は、学則の定める栄養学科の卒業に必要な科目の単位を修得しなければならない。

2 前項に定める単位の中には「有機化学」の 2 単位を含まなければならない。

(単位認定の時期)

第 23 条 単位認定の時期は各開講学期末とする。したがって、単位認定の時期に在学していない者の単位認定は行わない。

2 各学期途中で休学又は退学した場合は、その開講学期に履修登録したすべての科目を評定不能の取扱いとする。

(卒業の認定)

第 24 条 学則第 42 条の規定に基づき、大学に 4 年以上在学し、所定の科目を履修し、看護学科においては 124 単位以上、栄養学科においては 126 単位以上を修得した者については、教授会を経て、学長が卒業を認定する。

2 学生の卒業時期は、学期末あるいは学年末とする。

(補則)

第 25 条 この規程に定めるほか、履修に関して必要な事項は、教授会を経て学長が別に定める。

(改廃)

第 26 条 この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 9 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、2019 年 6 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 2021 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 3 条第 1 項第 2 号、第 9 条第 1 項、同条第 3 項、同条第 4 項、第 19 条、第 20 条及び第 24 条については、なお従前の例による。

授業科目及び単位数

(保健医療学部栄養学科)

教育内容	授業科目の名称	単位数		授業形態	備 考
		講義・演習	実験・実習		
社会生活と健康	人間関係論	1		講義	
	公衆衛生学	2		講義	
	保健医療福祉行政論	1		講義	
	小計(3科目)	4	0		
人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	2		講義	
	形態機能学Ⅱ	2		講義	
	形態機能学実習Ⅰ		1	実習	
	形態機能学実習Ⅱ		1	実習	
	病理学	2		講義	
	生化学Ⅰ	2		講義	
	生化学Ⅱ	2		講義	
	生化学実験		1	実習	
	病態診療学Ⅰ	2		講義	
	病態診療学Ⅱ	2		講義	
	小計(10科目)	14	3		
食品と衛生	食品科学Ⅰ	2		講義	
	食品科学Ⅱ	2		講義	
	食品科学実験Ⅰ		1	実験	
	食品科学実験Ⅱ		1	実験	
	食品衛生学	2		講義	
	食品衛生学実験		1	実験	
	小計(6科目)	6	3		
栄養と健康	基礎栄養学	2		講義	
	基礎栄養学実験		1	実験	
	応用栄養学Ⅰ	2		講義	
	応用栄養学Ⅱ	2		講義	
	応用栄養学Ⅲ	2		講義	
	応用栄養学実習		1	実習	
	臨床栄養学Ⅰ	2		講義	
	臨床栄養学Ⅱ	2		講義	
	臨床栄養学実習Ⅰ		1	実習	
	臨床栄養学実習Ⅱ		1	実習	
	小計(10科目)	12	4		
栄養の指導	栄養教育論Ⅰ	2		講義	
	栄養教育論実習		1	実習	
	公衆栄養学Ⅰ	2		講義	
	公衆栄養学Ⅱ	2		講義	
	公衆栄養学実習Ⅰ		1	実習	
	小計(5科目)	6	2		

授業科目及び単位数

(保健医療学部栄養学科)

教育内容	授業科目の名称	単位数		授業形態	備 考
		講義・演習	実験・実習		
給食の運営	調理学	2		講義	
	調理学実習Ⅰ		1	実習	
	調理学実習Ⅱ		1	実習	
	給食経営管理論Ⅰ	2		講義	
	給食経営管理論Ⅱ	2		講義	
	給食経営管理論実習Ⅰ		1	実習	
	給食経営管理論実習Ⅱ		1	実習	
	小計(7科目)	6	4		
合計(41科目)		48	16		

授業科目及び単位数

(保健医療学部栄養学科)

教育内容		授業科目の名称	単位数			授業形態	備 考
			講義・演習	実験・実習	自由		
専門基礎分野	社会・環境と健康	人間関係論	1			講義	
		健康管理概論	2			講義	
		公衆衛生学	2			講義	
		公衆衛生学実習		1		実習	
		保健医療福祉行政論	1			講義	
		小計(5科目)	6	1	0		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	形態機能学Ⅰ	2			講義	
		形態機能学Ⅱ	2			講義	
		形態機能学実習Ⅰ		1		実習	
		形態機能学実習Ⅱ		1		実習	
		病理学	2			講義	
		微生物学	2			講義	
		微生物学実験		1		実習	
		生化学Ⅰ	2			講義	
		生化学Ⅱ	2			講義	
		生化学実験		1		実習	
		病態診療学Ⅰ	2			講義	
		病態診療学Ⅱ	2			講義	
		小計(12科目)	16	4	0		
	食べ物と健康	食品科学Ⅰ	2			講義	
		食品科学Ⅱ	2			講義	
		食品科学実験Ⅰ		1		実験	
		食品科学実験Ⅱ		1		実験	
		食品衛生学	2			講義	
		食品衛生学実験		1		実験	
		調理学	2			講義	
		調理学実習Ⅰ		1		実習	
		調理学実習Ⅱ		1		実習	
	小計(9科目)	8	5	0			
専門基礎分野 合計(26科目)		30	10	0			
専門分野	基礎栄養学	基礎栄養学	2			講義	
		基礎栄養学実験		1		実験	
		小計(2科目)	2	1	0		
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2			講義	
		応用栄養学Ⅱ	2			講義	
		応用栄養学Ⅲ	2			講義	
		応用栄養学実習		1		実習	
		小計(4科目)	6	1	0		

授業科目及び単位数

(保健医療学部栄養学科)

教育内容		授業科目の名称	単位数			授業形態	備 考
			講義・演習	実験・実習	自由		
専門分野	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2			講義	
		栄養教育論Ⅱ	2			講義	
		栄養教育論Ⅲ	2			講義	
		栄養教育論実習		1		実習	
		小計(4科目)	6	1	0		
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2			講義	
		臨床栄養学Ⅱ	2			講義	
		臨床栄養学Ⅲ	2			講義	
		臨床栄養学Ⅳ	2			講義	
		臨床栄養学実習Ⅰ		1		実習	
		臨床栄養学実習Ⅱ		1		実習	
		臨床栄養学実習Ⅲ		1		実習	
	小計(7科目)	8	3	0			
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2			講義	
		公衆栄養学Ⅱ	2			講義	
		公衆栄養学実習Ⅰ		1		実習	
		小計(3科目)	4	1	0		
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2			講義	
		給食経営管理論Ⅱ	2			講義	
		給食経営管理論実習Ⅰ		1		実習	
		小計(3科目)	4	1	0		
	総合演習	総合演習Ⅰ	1			演習	
		総合演習Ⅱ	1			演習	
		小計(2科目)	2	0	0		
	臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ◆		1		実習	
		給食経営管理論実習Ⅲ※		1		実習	
		公衆栄養学実習Ⅱ※			実習		
		臨床栄養学実習Ⅳ		2		実習	
		小計(4科目)	0	4	0		
専門分野 合計(29科目)			32	12			
合計(55科目)			62	22			

◆給食の運営に係る校外実習

※は選択必修科目である。

札幌保健医療大学保健医療学部履修に関する細則

(趣旨)

第1条 この細則は、札幌保健医療大学学則（以下「学則」という。）第32条及び札幌保健医療大学保健医療学部履修規程（以下「履修規程」という。）第12条に基づき、授業科目（以下「科目」という。）の履修などに関して必要な事項を定めるものとする。

(先修条件)

第2条 各臨地実習に係る科目についての履修に必要な条件は、次のとおりとする。

(1) 看護学科

① 平成25年度及び平成26年度入学生については、次表のとおりとする。

科 目	先修条件
看護基礎実習Ⅱ	看護基礎実習Ⅰ及び看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している成人看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅱ	
高齢者看護実習	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している高齢者看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
小児看護実習	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している小児看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している母性看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
精神看護実習	4年次前期までに開講している精神看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
在宅看護実習	4年次前期までに開講している在宅看護論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	成人看護実習、高齢者看護実習、小児看護実習、母性看護実習の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ	精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び4年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅱ	
公衆衛生看護実習Ⅲ	

② 平成27年度以降入学生については、次表のとおりとする。

科 目	先修条件
看護基礎実習Ⅱ	2年次前期までに開講している専門基礎科目の必修科目すべての単位を修得していること。看護基礎実習Ⅰ及び看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、援助関係論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。3年次前期に開講している成人看護活動論Ⅲの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅱ	

高齢者看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。3年次前期に開講している高齢者看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
小児看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。3年次前期に開講している小児看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。3年次前期に開講している母性看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
精神看護実習	4年次前期までに開講している精神看護学の科目（精神看護学概論、精神看護活動論Ⅰ、精神看護活動論Ⅱ）すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
在宅看護実習	3年次の臨地実習すべての単位を修得見込みであること。4年次前期までに開講している在宅看護論の科目（在宅看護論Ⅰ、在宅看護論Ⅱ）すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	成人看護実習、高齢者看護実習、小児看護実習、母性看護実習の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ	精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び4年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目（公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、公衆衛生看護管理論）すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅱ	
公衆衛生看護実習Ⅲ	

（２）栄養学科

各臨地実習に係る科目の履修については、次表の先修条件となっている科目の単位を修得していなければならない。

科 目	先修条件（単位を修得していなければならない科目）
給食経営管理論実習Ⅱ	給食経営管理論Ⅰ
	給食経営管理論Ⅱ
	給食経営管理論実習Ⅰ
公衆栄養学実習Ⅱ	公衆栄養学Ⅰ
	公衆栄養学Ⅱ
	公衆栄養学実習Ⅰ
給食経営管理論実習Ⅲ	給食経営管理論実習Ⅱ
臨床栄養学実習Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅴ	臨床栄養学Ⅰ
	臨床栄養学Ⅱ
	臨床栄養学実習Ⅰ
	臨床栄養学Ⅲ
	臨床栄養学実習Ⅱ
	給食経営管理論実習Ⅱ

2 前項の科目以外で履修に必要な条件がある科目は、次のとおりとする。

(1) 看護学科の「実践総合演習」の履修は、看護総合実習が不合格又は未履修の場合、履修することができない。

(2) 看護学科のうち、平成 25 年度及び平成 26 年度入学生の「看護課題研究」の履修は、3 年次の領域別実習を 7 単位以上不合格になった場合、当該実習科目の単位修得後でなければ履修することができない。

(3) 看護学科のうち、平成 25 年度及び平成 26 年度入学生の「看護総合実習」の履修は、3 年次の領域別実習を 7 単位以上不合格になった場合、次年度以降履修となる。

(4) 看護学科のうち、平成 27 年度入学生の「看護総合実習」の履修は、3 年次の領域別実習不合格科目と追実習科目を合算して 7 単位以上になった場合、次年度以降となる。

(5) 看護学科のうち、平成 27 年度以降入学生において、下表の科目の履修は、先修条件となっている科目を修得していなければならない。

科 目	先修条件（単位を修得していなければならない科目）
成人看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅱ	成人看護学概論
成人看護活動論Ⅲ	成人看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅱ
高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護学概論
高齢者看護活動論Ⅱ	高齢者看護活動論Ⅰ
小児看護活動論Ⅰ	小児看護学概論
小児看護活動論Ⅱ	小児看護活動論Ⅰ
母性看護活動論Ⅰ	母性看護学概論
母性看護活動論Ⅱ	母性看護活動論Ⅰ
精神看護活動論Ⅰ	精神看護学概論
精神看護活動論Ⅱ	精神看護活動論Ⅰ
公衆衛生看護活動論Ⅰ 公衆衛生看護活動論Ⅱ 公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護活動論Ⅲ	公衆衛生看護活動論Ⅰ
	公衆衛生看護活動論Ⅱ
	公衆衛生看護管理論
看護課題研究	看護学研究法

（追実習）

第 3 条 臨地実習における追実習とは、「大学が認める特段の理由による欠席」等により、やむを得ず実習を欠席した場合、当該科目を修得するために行う実習をいう。

2 追実習を受けようとする学生は、「授業欠席届」と「欠席理由を明らかにする証明書類」を当該科目の実習終了後 5 日以内に学務課に提出する。

3 前項の所定の手続きにより教務委員会で認められた場合、各科目 1 回限り実習することができる。

- 4 追実習は原則として履修登録した年度内の全実習終了後、実習施設との調整可能な期間に実施する。但し、調整が不可能な場合は次年度に実施する。
- 5 追実習の期間及び日程、内容は当該科目欠席日数および学習状況により決定する。
- 6 単位認定のためには、原則 3 分の 2 以上の出席が必要である。
- 7 評価は、通常の単位認定評価と同様とする。

(再実習)

第 4 条 臨地実習における再実習とは、不合格（60 点未満）となった実習科目について当該科目を修得するために行う実習をいう。

- 2 再実習は、履修登録した当該年度内に行うことはできない。
- 3 当該年度内に単位が修得できなかった実習科目は、次年度に再履修登録を行い実習に臨まなければならない。
- 4 単位認定のためには、原則 3 分の 2 以上の出席が必要である。
- 5 評価は、通常の単位認定評価と同様とする。

(進級要件)

第 5 条 進級要件は、次のとおりとする。ただし、看護学科については、平成 28 年度入学生から適用する。

(1) 看護学科

- ① 2 年次に進級するためには、1 年以上在学し、1 年次に配当されている専門基礎科目及び専門科目の必修科目のすべてを修得しなければならない。
- ② 3 年次に進級するためには、2 年以上在学し、基礎教育科目の必修科目と選択科目 7 単位以上、2 年次に配当されている専門基礎科目及び専門科目の必修科目のすべてを修得しなければならない。
- ③ 4 年次に進級するためには、3 年以上在学し、3 年次に配当されている必修科目を 22 単位以上修得していなければならない。

(2) 栄養学科

- ① 2 年次に進級するためには、1 年以上在学していなければならない。
- ② 3 年次に進級するためには、2 年以上在学し、基礎教育科目の必修科目 17 単位以上、選択科目 6 単位以上、専門基礎科目及び専門科目の必修科目 54 単位以上を修得していなければならない。
- ③ 4 年次に進級するためには、3 年以上在学し、専門基礎教育科目及び専門科目 77 単位以上を修得していなければならない。ただし、編入学をした者については、この限りではない。

(細則の改廃)

第 6 条 この細則の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附 則

この細則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 29 年 10 月 25 日に一部改正のうえ、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 5 条第 1 項第 2 号②に定めた条文の適用は、平成 29 年度入学生からとする。

附 則

この細則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この細則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 2021 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 5 条第 2 号②及び③については、なお従前の例による。

札幌保健医療大学試験規程

(趣旨)

第1条 この規程は、札幌保健医療大学保健医療学部履修規程第13条の規定に基づき実施する試験に関し必要な事項を定めるものとする。

(受験資格)

第2条 学生は、各学期に履修登録した授業科目（以下「科目」という。）についてのみ、受験することができる。

2 次の各号の一つに該当する者は、受験資格を有しない。

(1) 授業料その他納付金が未納の者

(2) 授業出席時間数が、その授業実施時間数の3分の2未満の者

(受験資格の喪失)

第3条 次の各号のいずれかに該当する者は、当該科目の受験資格を失う。

(1) 学生証を携帯していない者

(2) 試験開始後20分を超えて遅刻した者

(3) 試験監督者の指示に従わない者

(4) 試験において不正行為を行った者

(5) 追試験・再試験についての必要な手続きを終了していない者

2 前項第1号の規定にかかわらず、同号に該当する者に対しては、当該科目の試験のみに有効とする仮学生証による受験を認める。仮学生証の交付を受けようとする者は、速やかに学務課において手続きを行うこととする。

(試験の種類)

第4条 試験の種類は、「定期試験」、「追試験」及び「再試験」とする。

2 「定期試験」は、指定された期間の学期末に行う。ただし、科目責任者が必要と認める場合には、適宜行うことができる。なお、手続き及び実施は、科目責任者の責任下で行う。

3 「追試験」は、定期試験を大学が認める特段の理由又は、やむを得ない事由により試験を受験できなかった者で、かつ必要な手続きを行った者に対して行う。追試験は、原則として有料とし、各科目1回限りとする。なお、追試験の受験許可は、教務委員会で審議のうえ、認められる。

4 「再試験」は、定期試験等又は追試験において不合格となり、必要な手続きを行った者に対して行う。再試験は、有料とし、原則として各科目1回限りとする。ただし、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）又は、追試験を受験しなかった者は、再試験の手続きを行うことができない。

(試験方法)

第5条 試験は、筆記、口述、レポート、実技等の方法により行う。

(試験時間)

第6条 試験時間は、原則として60分とする。

(試験監督)

第7条 試験監督は、複数体制とする。原則として、当該科目の担当教員が試験監督主任となる。

2 試験監督者は、試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

(成績評価)

第8条 学則第31条に基づき、次のとおり成績評価を行う。成績評価は、秀（100点～90点以上・優（90点未満～80点以上）・良（80点未満～70点以上）・可（70点未満～60点以上）・不可（60点未満）の5種類をもって表わし、可以上を合格とする。

2 追試験の成績評価は、定期試験と同様の取扱いとする。ただし、再試験の場合は成績評価の上限を可（60点）とする。

（成績通知）

第9条 成績は、各期末に本人・保護者（保証人）等に通知する。

（受験者の義務）

第10条 受験者は、次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

- （1）試験場においては、試験監督者の指示に従うこと。
- （2）試験開始後20分以内の遅刻者は、試験監督者の入室許可を得ること。
- （3）学生証を机上に提示すること。
- （4）解答に先立って、学籍番号及び氏名を記入すること。
- （5）試験開始後、30分経過するまでは、退出を認めない。
- （6）配付された答案用紙は、必ず提出すること。
- （7）試験場においては、物品の貸借をしないこと。

（不正行為者の取り扱い）

第11条 受験中に不正行為をした者及び試験監督者の指示に従わなかった者は、当該学期の履修科目のすべてを不合格とし、かつ学則第46条の定めるところにより懲戒を行う。

（改廃）

第12条 この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年10月1日から施行する。

札幌保健医療大学における成績評価の異議申し立てに関する規程

（目的）

第1条 この規程は、札幌保健医療大学保健医療学部の学生が履修した授業科目に係る成績評価（以下、「評価」という）に対して、異議申し立てを行う場合に必要な事項を定めることを目的とする。

（異議申し立て事由）

第2条 学生は、当該学期に履修した授業科目の評価について疑義のある場合は、具体的理由を付して異議を申し立てることができる。ただし、評価の基準に関する申し立ては認めない。

（評価に関する問い合わせ）

第3条 学生は、評価に対する異議申し立てを行う前に、当該科目の科目責任者に問い合わせを行う。問い合わせの方法は、別紙様式1により学務課を通して行う。

（問い合わせの期限）

第4条 前条に規定する問い合わせは、評価が提示されてから7日以内に行う。

（科目責任者の責務）

第5条 第3条の規定により問い合わせを受けた科目責任者は、原則5日以内に、評価について別紙様式1に必要事項を記入し学務課に提出する。学務課は受領した当該書類を速やかに学生に提示する。

（評価に関する異議申し立て）

第6条 前条に規定する科目責任者からの説明又は回答に対し異議がある場合は、回答を受けてから速やかに別紙様式1により、教務部長に異議申し立てを行う。

2 学生から異議申し立てを受領した場合は、科目責任者に異議申し立て内容の審議を行うことを報告する。

（異議申し立て内容の審議）

第7条 教務部長は、前条に規定する異議申し立てを受けた場合、教務委員会にて評価に関する審議を行う。

2 教務委員会は必要に応じて、科目責任者と当該学生から意見を聞く。

3 教務委員会は評価に関する審議を行い、その結果を教授会に報告する。

（調査結果の通知）

第8条 調査の結果は、異議申し立てを行った学生と科目責任者に次の様式により通知する。

（1）異議申し立てを行った学生 別紙様式2

（2）科目責任者 別紙様式3

（改廃）

第9条 この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附則

この規程は2019年4月1日から施行する。

成績評価に関する異議申立書

提出日	年 月 日	
学部学科		
学籍番号・氏名		
学生連絡先	(電話番号)	(メールアドレス)

科目名	
科目責任者（科目担当教員）	※科目責任者以外の教員に確認したい場合は、教員名も記載してください
問い合わせ内容	

科目責任者受理日	年 月 日
回答	
評価訂正の有無	☐ 評価の訂正を行う（学務課にて訂正の手続きを取ってください） ☐ 評価の訂正は行わない
科目責任者回答日	年 月 日
科目責任者氏名	

上記回答に異議がある場合は、以下記入し、速やかに学務課に提出してください。

上記回答に対して、 異議申立いたします。	
提出日	年 月 日
学籍番号	学生氏名

年 月 日

所 属
学生氏名 様

札幌保健医療大学
教務部長 ○○ ○○

成績評価に関する異議申し立てに対する判断結果について（通知）

○○年○○月○○月付けでなされた成績評価に関する異議申し立てについて、下記の通り判断しましたので通知します。

記

1. 担当教員名、科目名

- ・科目責任者名
- ・科目名

2. 判断結果・理由

- ☐ 判断結果・成績評価に関する科目担当教員の説明を妥当であると判断します。
- ☐ 成績評価に関する貴殿の申し立てを妥当であると判断します。つきましては科目責任者に成績評価の再考を求め、評価を訂正します。

（理由）

年 月 日

所 属
教員氏名 様

札幌保健医療大学
教務部長 ○○ ○○

成績評価に関する異議申し立てに対する判断結果について（通知）

○○年○○月○○月付けでなされた成績評価に関する異議申し立てについて、下記の通り判断しましたので通知します。

記

1. 担当教員名、科目名

- ・科目責任者名
- ・科目名

2. 判断結果・理由

- ☐ 判断結果・成績評価に関する科目責任者の説明を妥当であると判断します。
- ☐ 成績評価に関する貴殿の申し立てを妥当であると判断します。つきましては科目責任者に評価の再考を求め、成績を訂正します。

（理由）

札幌保健医療大学既修得単位認定規程

(目的)

第1条 この規程は、札幌保健医療大学（以下「本学」という。）学則第28条の規定に基づき、本学に入学した学生の既修得単位の認定の取扱いについて必要な事項を定めることを目的とする。

(申請手続)

第2条 本学に入学した学生で既修得単位の認定を希望する学生は、入学時に次の書類を学務課へ提出しなければならない。

(1) 既修得単位認定申請書

(2) 学業成績証明書（修得単位の単位数、授業時間数、単位修得・成績を証明できるもの）又は単位修得証明書

(3) 在学時のシラバス（認定を受けようとする授業科目の内容を確認できるもの）

(4) その他既修得単位認定に必要な書類

(申請の時期)

第3条 申請の時期は、本学に入学した年の4月に限るものとする。

(既修得単位の認定基準等)

第4条 認定を受けようとする授業科目及び単位数は、本学における授業科目及び単位数と同等以上と認められるものでなければならない。

2 既修得単位として認定できる授業科目は、原則として本学の基礎教育科目・専門基礎科目に限るものとし、当該科目の単位数の範囲内で行う。

3 認定できる授業科目は、単位を取得後10年以内のものとする。

(認定方法)

第5条 既修得単位の認定は、教授会を経て、学長が決定する。

2 既修得単位の認定の審査は、教務委員会において行なう。その際、必要に応じて授業科目担当教員の意見を求めることができる。

(申請者への通知)

第6条 教務委員長は、既修得単位の認定結果について、既修得単位認定通知書により申請者へ通知する。

(認定申請科目の履修)

第7条 既修得単位の認定を受けようとする学生は、第2条により申請した授業科目の単位が認定されるまでは、その授業科目を履修しなければならない。

2 申請した学生が希望した場合、担当教員が許可すれば認定後も聴講することができる。

(履修科目の登録上限)

第8条 認定した授業科目の単位数は、履修科目の登録上限に算入しない。

(成績の表記)

第9条 認定した授業科目の成績の表記は、「認定」とする。

2 認定した授業科目はGPA算出の対象科目としない。

(修業年限)

第10条 第4条第1項の規定により既修得単位の認定を行った場合においても、修業年限の短縮は、行わない。

(改廃)

第 11 条 この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 10 月 1 日から施行する。



札幌保健医療大学

〒007-0894 札幌市東区中沼西4条2丁目1番15号

TEL(011)792-3350 FAX(011)792-3358

<http://www.sapporo-hokeniryou-u.ac.jp>